



SUBARU **BRZ**

取扱説明書

ご使用になる前に必ずお読みください。

取扱説明書（本書）について

本書はSUBARU車の取り扱い方について必要事項・重要事項をご説明しています。SUBARU車を安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

本書の内容は、予告なく改訂されることがあります。
SUBARU オフィシャルWEBサイトより最新版の取扱説明書をご確認ください。

取扱説明書は、パソコンやスマートフォンで以下のURLを直接入力いただくか、QRコードを読み取って掲載サイトへアクセスできます。

「QRコード」は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

SUBARU取扱説明書掲載サイト

<https://www.subaru.jp/afterservice/tnst/brz/zd-type-d>



右のQRコードから取扱説明書の掲載サイトにアクセスできます。 →



車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- SUBARU販売店で取り付けられた装備（ディーラーオプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

オーナーズガイド（車載している冊子）について

- オーナーズガイドは、基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要な情報を取扱説明書から抜粋した冊子です。
- オーナーズガイドは「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。

お車をゆずるときは・・・

保証の有無にかかわらずオーナーズガイド、メンテナンスノート、キーナンバープレートをお車につけておゆずりください。

SUBARU取扱説明アプリもございます。

取扱説明書がスマートフォンでご覧いただけるアプリです。
ビジュアルから各部の使い方がわかるなど、便利な機能を搭載しています。

アプリのダウンロード
はこちらから→



交通ルール・マナーを守って運転しましょう。
自然環境保護にも気をくばりましょう。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、お車が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

 警告	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害につながるおそれがあります。
 注意	指示に従わないと、傷害につながるおそれがあります。 また、お車が損傷する可能性があります。

禁止行為は禁止マークが入っています。

	禁止事項を示しています。
---	--------------

その他の表示

 知識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	グレードやオプションなどにより異なる装備についてはよつばマークがついています。

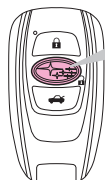
お車のラベルについて

お車には、安全のためにお守りいただきたい注意事項を示すラベルがついています。注意事項をお守りいただき、本書の関連項目をお読みください。

	助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。 ☞ P.54、66参照
---	--

1 鍵を開ける

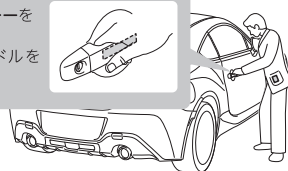
◆各種システムの作動には、走行環境や速度などの条件があります。詳しくは取扱説明書(web)をご覧ください。
◆イラストは、実際の車両と一部異なることがあります。



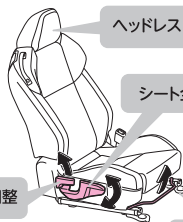
を押す。

または、

アクセスキーを
携帯し、
ドアハンドルを
握る。



2 シートを調整する



ヘッドレスト調整(高さの調整)

シート全体の上下調整(運転席のみ)

リクライニング調整

スライド調整

リヤシートへの乗り降り

リクライニング調整レバーが
ウォークインレバーを操作します。

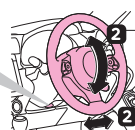
ウォークインレバー



リクライニング調整レバー



3 ハンドルの位置を調整する



- 1 ハンドルを持ちレバーを下げる。
- 2 ハンドルを上下・前後に動かす。
- 3 レバーを上げる。

※ハンドルが固定されたことを確かめてください。

4 ミラーの向きを調整する

※プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに調整できます。

ドアミラー



格納スイッチ

スイッチを押してドアミラーを格納する。
もう一度押すと、もとの位置に戻る。

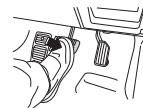


電動リモコンドアミラー

調整するミラーを選ぶ：「L」または「R」に回して
左右を切り替える。
向きを調整する：スイッチを上下左右に動かす。



5 エンジンをつける



オートマチック車：
ブレーキペダルをしっかりと踏む。

マニュアル車：
ブレーキペダルとクラッチペダル
をしっかりと踏む。



プッシュエンジン
スイッチを押す。



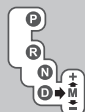
エンジンが始動

6 セレクトレバー・チェンジレバーを操作する

オートマチック車



マニュアルモード：セレクトレバーを“D”から“M”に動かす。



シフトダウン シフトアップ



変速のしかた：セレクトレバーまたはバドルシフトで変速する。

マニュアル車

変速するとき：クラッチペダルをしっかりと踏み込んで確実に操作する。

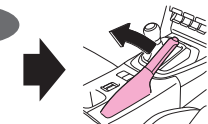


“R”に入れるとき：ブルカラーを引き上げながら、チェンジレバーを操作する。

7 エンジンを止める



車を完全に停止する。



パーキングブレーキをかける。



オートマチック車：
セレクトレバーを“P”の位置にする。

マニュアル車：
チェンジレバーをニュートラルにする。



プッシュエンジン
スイッチを押す。

確認してください!

車から離れるときは、プッシュエンジンスイッチが OFF になっていることを確かめてください。

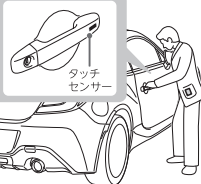
・セレクトレバーが “P” 以外でプッシュエンジンスイッチを押すとエンジンは停止しますが、スイッチの状態は ACC になり “P” にするまでブザーが鳴ります。(オートマチック車)

8 鍵を閉める



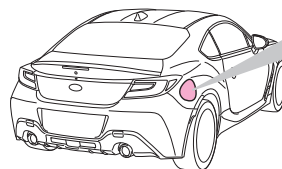
を押し。
または、

アクセスキーを携帯し、ドアハンドル表面のタッチセンサーに触れる。



9 給油する

フューエルリッドを開ける



ドアが解錠された状態で、フューエルリッドの後端を押す。



使用燃料	タンク容量
無鉛プレミアムガソリン (無鉛/ハイオク)	約 50L

燃料が少なくなると...



燃料残量警告灯

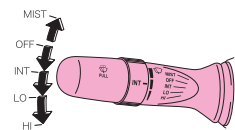
燃料残量が約 7L 以下になると点灯します。

※プッシュエンジンスイッチがONのときに使用できます。



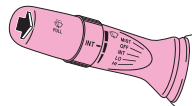
雨や雪のとき

ワイパーを使う



ウオッシャーを使う

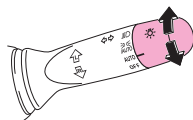
レバーを手前に引く。
(ワイパーと連動してウオッシャーが作動します。)



夜や周りが暗いとき

ランプを使う

周囲の明るさに応じてランプ類が自動的に点灯または消灯します。
ヘッドランプ、ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯しているときは **DOQ** (ライティングスイッチ表示灯) が点灯します。



周囲の明るさにかかわらず点灯させたい場合は、手動でライティングスイッチを操作してください。

☞ : ヘッドランプ、ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯

☞ : ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯、走行中にヘッドランプが自動的に点灯、消灯

AUTO : 自動的に点灯、消灯

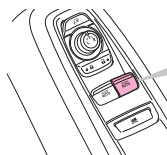
OFF : 消灯

- ・ライティングスイッチが **[AUTO]** で、日中での走行時は、デイトタイムランニングランプが点灯します。(デイトタイムランニングランプ装着車のみ)
- ・走行中 (夜間・周囲が暗いとき) は手動での操作[※]はできません。(※スイッチを操作してもランプ類は消灯しません。)
- ・スイッチは **[OFF]** 位置に回して手を離すと **[AUTO]** の位置に戻ります。



暑いとき・寒いとき

窓を開ける、閉める



パワーウィンドウスイッチ

開けるとき

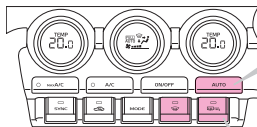


閉めるとき



強く操作すると自動で全開 (全閉) します。

エアコンを使う



AUTO スイッチ

フルオートで使用するときに押します。
設定温度に応じて、吹き出し口や風量、冷房・除湿、内外気切り替えなどを自動的に制御します。

ウインドウやミラーが曇ったら...

デフロスタースイッチ



フロントガラス、フロントドアガラスの霜や曇りを取るときに使用します。

リヤウインドウデフォグガー / ヒーテッドドアミラースイッチ



スイッチを押すと2つの機能が連動します。作動して15分後に自動的にOFFになります。

- ・ドアミラーについた雨滴や霜を取るのに使用します。
- ・リヤウインドウガラスの曇りを取り除きます。

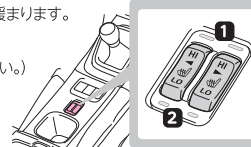
シートを暖める

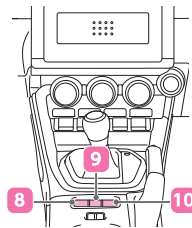
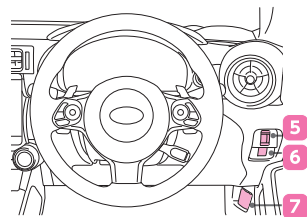
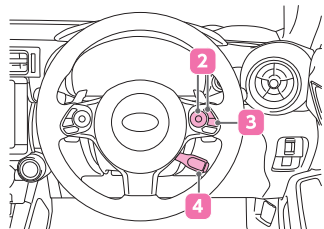
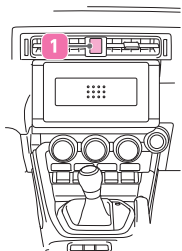
シートヒーターのスイッチを押すとフロントシートが暖まります。
作動中はインジケーターが点灯します。

早く暖めたいとき: **1** (暖まったら **2** にしてください)

保温するとき: **2**

停止するとき: スイッチを水平にする。





※イラストは実際の車両と一部異なることがあります。

1 ハザードランプ(非常点滅表示灯)スイッチ



スイッチを押すとウインカーが点滅します。

2 メーター操作スイッチ



マルチインフォメーションディスプレイの表示を切替えたり、時計や車両機能の設定に使用します。

【詳細は「便利な機能」をご覧ください。

5 イルミネーションコントロールダイヤル

明るくなる



暗くなる

メーターやエアコンパネル照明などの明るさを調整できます。

6 トランクオープナースイッチ



長押しするとトランクが開きます。

3 車間設定スイッチ



全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）を使用時に先行車との車間距離を4段階で設定できます。車間設定スイッチを押すごとに先行車との車間距離が切り替わります。

7 ボンネットオープナーレバー



手前に引くとボンネットが開きます。

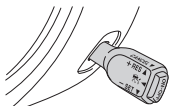
8 VSC (VDC) OFFスイッチ



VSC(VDC)・TRCをOFFにしたいとき、ヒルスタートアシストをOFFにしたいときに押します。

【詳細は「便利な機能」をご覧ください。

4 クルーズコントロールスイッチ

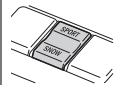


全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）、定速クルーズコントロールを設定するときに使用します。

【詳細は「運転を支援する機能」をご覧ください。

※イラストは実際の車両と一部異なることがあります。

9 スポーツ/スノーモードスイッチ、スポーツモードスイッチ



スイッチを押すと、ノーマルモード、スポーツモード、スノーモードが切りかわります。

【詳細は「便利な機能」をご覧ください。

10 TRACKスイッチ



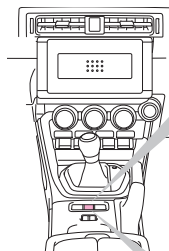
1秒以上長押しすると、TRACKモードに切りかわります。

【詳細は「便利な機能」をご覧ください。

ドライブモードセレクト

スイッチでドライブモードを変更できます。走行・使用状況に合わせてモードを選択できます。エンジン始動時は、**ノーマルモード**で走行します。

スポーツモードスイッチ



➡ **スポーツモードで走行します。**
メーター内の **SPORT** (スポーツモード表示灯) が点灯します。

スポーツモード
スポーティな走行、カーブの多い山間地などの走行に適したモードです。

スノーモードスイッチ (オートマチック車)



➡ **スノーモードで走行します。**
メーター内の **SNOW** (スノーモード表示灯) が点灯します。

スノーモード
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適したモードです。

スポーツモード・スノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。

ヒルスタートアシスト

上り坂での前進時および下り坂での後退時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助するシステムです。



設定するとヒルスタートアシスト作動表示灯が点灯(緑色)します。



ヒルスタートアシストの機能はVSC (VDC) OFFスイッチでOFF設定ができます。
詳細は、取扱説明書 (web) をご覧ください。

◆各種システムの作動には、走行環境や速度などの条件があります。詳しくは取扱説明書(web)をご覧ください。◆

VSC (VDC) OFFスイッチ/ TRACKスイッチ

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて運転を補助する装置が自動で作動します。TRC (ブレーキ LSD 機能含む)・VSC(VDC) が作動しているときは、VSC(VDC) 作動表示灯が点滅します。装置は補助的なもので、過信せずに運転には十分に注意してください。

VSC(VDC)

(ビークルスタビリティコントロール / ビークルダイナミクスコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で横すべりを抑え、車間の姿勢を維持する機能

TRC

(トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保する機能



ぬかるみ、砂地、雪道などから脱出する、というような特殊な状況下で、アクセルペダルを踏み込んでも脱出が困難な場合があります。

このようなときはVSC (VDC) OFFスイッチを押すことで、脱出しやすくなる場合があります。

VSC(VDC) OFFスイッチ

スイッチを押す。

➡ **TRC が OFF になります。**

TRC が OFF になると **TRC OFF** (TRC OFF 表示灯) が点灯します。(TRC が OFF でも、ブレーキ LSD 機能は作動します。)

.....
停車時にTRCを停止した状態または、TRACKモードに切りかえた状態でスイッチを**3秒以上押す**。

➡ **VSC (VDC) とTRCがOFFになります。**

VSC (VDC) とTRCをOFFにすると **TRC OFF** (TRC OFF表示灯)と **VSC (VDC) OFF** (VSC (VDC) OFF表示灯) が点灯します。(TRCとVSC (VDC) がOFFでも、ブレーキLSD機能は作動します。(オートマチック車のみ))

TRACKスイッチ

スイッチを**1秒以上長押し**する。

➡ **TRACKモードで走行します。**

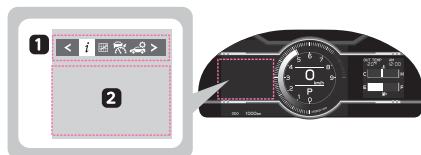
TRACK モードになると、メーターが TRACK モード専用表示に切りかわり、**TRACK** (TRACK 表示灯) と **VSC (VDC) OFF** (VSC (VDC) OFF 表示灯) が点灯します。

TRACKモードとは・・・

VSC(VDC) や TRC などの制御特性を調整することで、運転者のイメージにより近い運動性能で走行できるモードです。

マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。



1 メニューアイコン

メニューアイコンを選択すると、走行に関するさまざまな情報をコンテンツ表示エリア(2)に表示したり、車両の設定を変更できます。



●表示の切り替えかた●

メーター操作スイッチで表示を切り替えます。



- 表示項目の切り替え・ページ送り・カーソル移動
- メニューの切り替え
- 短押し：決定
- 長押し：リセット / BRZ専用コンテンツ(Gモニター)Gの表示範囲の切り替え
- ひとつ前の画面にもどる

2 コンテンツ表示エリア

メーター操作スイッチで選択したメニューのコンテンツを表示したり、車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。



※イラストは表示の一部です。

EyeSight



EyeSightは自動運転／自動衝突回避システムではありません。EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。周囲の状況、運転環境に注意して安全にご使用ください。ご使用前には取扱説明書(web)をお読みください。

EyeSightはさまざまな機能によって運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。

EyeSightの機能

⚠ 作動には条件があります。詳細は、取扱説明書(web)をご覧ください。



危険を予測し衝突を回避、または被害を軽減します

プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物に衝突する可能性があるとき、システムが作動して急ブレーキをかけます。ブザーと割り込み画面でお知らせします。

RAB(後退時ブレーキアシスト)

後退時に後方の障害物を検知すると、割り込み画面を警告音でお知らせします。衝突の可能性があるとシステムが判断するとブレーキが作動します。

クリアランスソナー



誤操作による急発進を防ぎます

AT 誤発進抑制制御(オートマチック車)、AT 誤後進抑制制御(オートマチック車)

セレクトレバーの位置の入れ間違いや、ペダルの踏み間違いなどによる誤った前進およびアクセルペダルの踏み込みなどによる急な後退を抑制します。ブザーと割り込み画面でお知らせします。



先行車に対して追従走行、または一定の速度で走行します

全車速追従機能付クルーズコントロール(オートマチック車)、追従機能付クルーズコントロール(マニュアル車)

高速道路や自動車専用道路で、運転者が設定した車速を上限に、同一車線内にいる先行車に対して追従走行をします。

定速クルーズコントロール

運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行します。(この機能は全車速追従機能付クルーズコントロール(オートマチック車)、追従機能付クルーズコントロール(マニュアル車)から切り替えて使用します)



ブザーと表示でお知らせします

ふらつき警告

走行中にふらつきを認識したとき

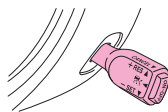
車線逸脱警告

走行中に走行車線からはみ出そうになったとき

先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しないとき

EyeSight (全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車)、追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車)、定速クルーズコントロール) は、クルーズコントロールスイッチで設定できます。詳細設定については取扱説明書 (web) をご覧ください。



クルーズコントロールスイッチ

全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車)

●全車速追従機能付クルーズコントロールの使いかた●

セットする

1 ON-OFF スイッチを押す。



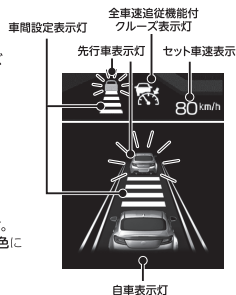
メーター内の全車速追従機能付クルーズ表示灯が白色に点灯します。

メーター内に **READY** (READY表示灯) が点灯したら・・・

2 - SET 側または + RES 側に操作する。



メーター内にセット車速が表示されます。全車速追従機能付クルーズ表示灯が緑色に点灯します。



全車速追従機能付クルーズコントロールの制御を開始します。

先行車を認識すると：ブザー (ピッ) が鳴って先行車表示灯が点灯します。セット車速を上限として追従走行します。

先行車を認識していないとき：セット車速で定速走行します。

先行車を認識しなくなったとき：ブザー (ピッ) が鳴って先行車表示灯が消灯します。セット車速までゆっくり加速し定速走行します。

解除する 次のいずれかの操作をします。

- ・ブレーキペダルを踏む。
- ・クルーズコントロールスイッチを CANCEL 側に操作する。

➡ 解除されると・・・ メーター内の全車速追従機能付クルーズ表示灯が白色になります。

OFFにする

1 ON-OFF スイッチを押す。

➡ OFFになると・・・ メーター内の全車速追従機能付クルーズ表示灯が消灯します。

追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車)

●追従機能付クルーズコントロールの使いかた●

セットする

1 ON-OFF スイッチを押す。



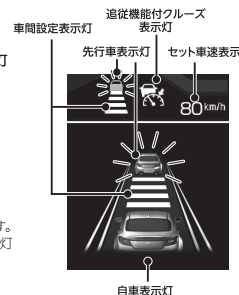
メーター内の追従機能付クルーズ表示灯が白色に点灯します。

メーター内に **READY** (READY表示灯) が点灯したら・・・

2 - SET 側または + RES 側に操作する。



メーター内にセット車速が表示されます。追従機能付クルーズ表示灯が緑色に点灯します。



追従機能付クルーズコントロールの制御を開始します。

先行車を認識すると：ブザー (ピッ) が鳴って先行車表示灯が点灯します。セット車速を上限として追従走行します。

先行車を認識していないとき：セット車速で定速走行します。

先行車を認識しなくなったとき：ブザー (ピッ) が鳴って先行車表示灯が消灯します。セット車速までゆっくり加速し定速走行します。

解除する 次のいずれかの操作をします。

- ・ブレーキペダルを踏む。
- ・クルーズコントロールスイッチをCANCEL側に操作する。

➡ **解除されると・・・** メーター内の追従機能付クルーズ表示灯が白色になります。

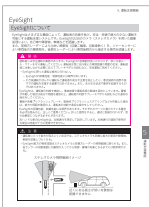
OFFにする

1 ON-OFF スイッチを押す。

➡ **OFFになると・・・** メーター内の追従機能付クルーズ表示灯が消灯します。

CHECK! EyeSightの機能はON/OFF設定ができます。

プリクラッシュブレーキ、AT 誤発進抑制制御（オートマチック車）、AT 誤後進抑制制御（オートマチック車）、車線逸脱警報、ふらつき警報、先行車発進お知らせ、RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）、クリアランスソナーは、メーター操作スイッチで設定のON/OFFができます。詳細は、取扱説明書(web)をご覧ください。



ご使用前にお読みください

EyeSight やその他の運転支援機能の作動には様々な条件があります。
オーナーズガイド「5. 運転支援機能」の注意・警告文をお読みください。

その他の運転支援機能

SRVD(後側方警戒支援システム)

隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を検知して、車線変更時や後退時に運転者の後側方確認をアシストするシステムです。

SRVD の支援機能

死角検知

運転席から見えにくい死角にある車両を検知

車線変更支援

隣接車線の後方から高速で接近する車両を検知

後退時支援

後退するときに後方の左右から接近する車両を検知

車両を検知すると・・・

ドアミラーのSRVD接近表示灯が点灯または点滅します。

(後退時支援は同時に警報音が鳴ります。)



SRVDの機能はメーター操作スイッチで設定をOFFにできます。
詳細は、取扱説明書(web)をご覧ください。

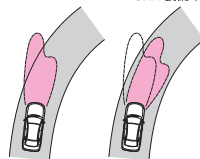


SRH(ステアリング連動ヘッドランプ)

ハンドル操作や車速に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして、視認性を高める機能です。

車速が約 8km/h 以上のときに作動します。

SRH 非装備車 SRH 装備車



SRHの機能はメーター操作スイッチで設定をOFFにできます。
詳細は、取扱説明書(web)をご覧ください。

ハイビームアシスト

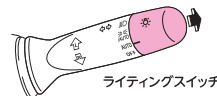
対向車や先行車のライトや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替える機能です。

●ハイビームアシストの使いかた●

1 ライティングスイッチをAUTOの位置にする。

2 ライティングスイッチのレバーを前方へ押して、ハイビームにする。

➡ ハイビームアシストがONのときは (ハイビームアシスト表示灯) が点灯します。



詳細は、オーナーズガイド・取扱説明書をご覧ください。グレードにより装備されていない機能もあります。
エンジン始動直後は自己診断のため数秒間点灯・点滅するものがあります。

点灯 / 点滅したら・・・

直ちに安全な場所に停車し、SUBARU 販売店へご連絡ください。



ブレーキ警告灯 (赤色・点灯)



ブレーキ負圧系警告灯 (黄色・点灯)



エンジン警告灯 (黄色・点灯・点滅)



水温警告灯 (赤色・点灯・点滅)



チャージ警告灯 (赤色・点灯)



SRSエアバッグ警告灯 (赤色・点灯)



点灯 / 点滅したら・・・

取扱説明書を確認の上、SUBARU 販売店へご連絡ください。



ABS警告灯



(黄色・点灯)

AT油温警告灯



(赤色・点灯・点滅)

マスターウォーニング



(黄色・点灯・点滅)

VSC(VDC)警告灯



(黄色・点灯)

オイルプレッシャー警告灯



(赤色・点灯)

オートヘッドランプ
レベル警告灯



(黄色・点灯)

LEDヘッドランプ
警告灯



(黄色・点灯)

ステアリング制御
警告灯



(赤色・点灯)

Eyesight警告
表示灯



(黄色・点灯・点滅)

RAB・クリアランス
ソーナ警告灯



(黄色・点灯)

SRVD警告灯

SRH警告灯



(黄色・点灯)



取扱説明書記載の正しい対応方法に従ってください。

シートベルト警告灯



半ドア警告灯



燃料残量警告灯



各装置の状態を示しています。

ウインカー表示灯



水温表示灯 (青色)



VSC(VDC) OFF
表示灯



スポーツモード
表示灯



全車速追従機能付
クルーズ表示灯 /
追従機能付クルーズ
表示灯



先行車表示灯



ライティング
スイッチ表示灯



低温表示灯



VSC(VDC)
作動表示灯
(黄色・点滅)



スノーモード
表示灯
(オートマチック車)



定速クルーズ
表示灯



自転車表示灯



ハイビーム/
パッシング表示灯



セキュリティ
表示灯



SRH OFF表示灯



RAB OFF表示灯
／一時停止表示灯
(オートマチック車)



EyeSight一時停止
表示灯



プリクラッシュ
ブレーキOFF
表示灯



ハイビーム
アシスト表示灯



シフトアップ/
ダウン可能表示灯
(オートマチック車)



TRC OFF表示灯



クリアランス
ソーナOFF表示灯
／一時停止表示灯



セット車速表示



車線逸脱警報OFF
表示灯



ヒルスタート
アシスト
作動表示灯



シフトアップ
可能表示灯
(マニュアル車)



TRACK表示灯



SRVD OFF表示灯



車間設定表示灯



READY表示灯

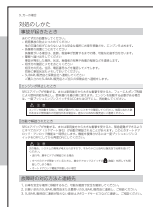


メーターに表示される警告灯・表示灯の他に
マルチインフォメーションディスプレイなどに
表示されるものもあります。
割り込み画面表示に従って対処してください。



困ったときは・・・

オーナーズガイドの「万一の場合」を参照してください。
記載の方法で対処しても作動しない、改善しないときは、
SUBARU 販売店にご連絡ください。



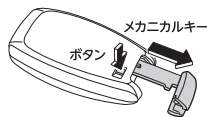
キーについているプレートは？

キーナンバープレートです。
キーナンバープレートは車両修理やスペアキーを作るときに必要になりますので
大切に保管してください。
盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。
キーを作るときは、SUBARU 販売店にご相談ください。



アクセスキーが作動せず、ドアの施錠・解錠ができない！

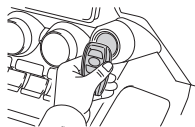
アクセスキーが作動しない。
電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。
作動しない場合は、メカニカルキーでの操作も可能です。



メカニカルキーを使用して施錠・解錠する。
ボタンを奥まで押し、メカニカルキーを取り出します。
メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。

アクセスキーが作動しないとき、エンジン始動はどうしたらいい？

- ①セレクトレバーが「P」（オートマチック車）もしくはチェンジレバーがニュートラル（マニュアル車）であることを確認します。
- ②オートマチック車はブレーキペダルを、マニュアル車はクラッチペダルを踏みます。
- ③アクセスキーのボタン側を手前に向けて、プッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。（ブザーが鳴り、プッシュエンジンスイッチが ON または ACC になります。）
- ④オートマチック車はブレーキペダルを踏んだまま、マニュアル車はクラッチペダルを踏んだままブレーキペダルを踏んでプッシュエンジンスイッチを押します。



エンジンが始動しない！

次のようなことが考えられます。

- ・**ブレーキペダルの踏み込みが弱い。**
ブレーキペダル（オートマチック車）、ブレーキペダルとクラッチペダル（マニュアル車）を強く踏み込み、プッシュエンジンスイッチを押してください。（メータ内にメッセージが表示されます。）
- ・**ハンドルがロックされている。**
ハンドルを軽く左右に回しながらブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。

車の警報が鳴ってしまった！

次のいずれかの操作で、警報は止まります。

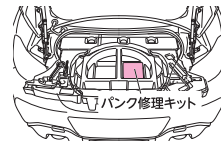
- ・キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使ってドアを解錠する。
- ・プッシュエンジンスイッチを ACC または ON にする。
- ・エンジンを始動する。

盗難警報装置について

ドアまたはトランクが、キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使わずに解錠されたり、開けられたときに音と光で警報する機能です。

タイヤがパンクしてしまった！

この車両には、応急用スペアタイヤが搭載されていません。
パンク修理キットを使用してください。
パンク修理キットは、トランク床下に収納されています。



警告

タイヤを交換する場合は、4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。4輪とも同じタイヤを使用しないと、駆動システムを損傷したり、最悪の場合火災に至る可能性があります。

[illegible]

目次

イラスト目次

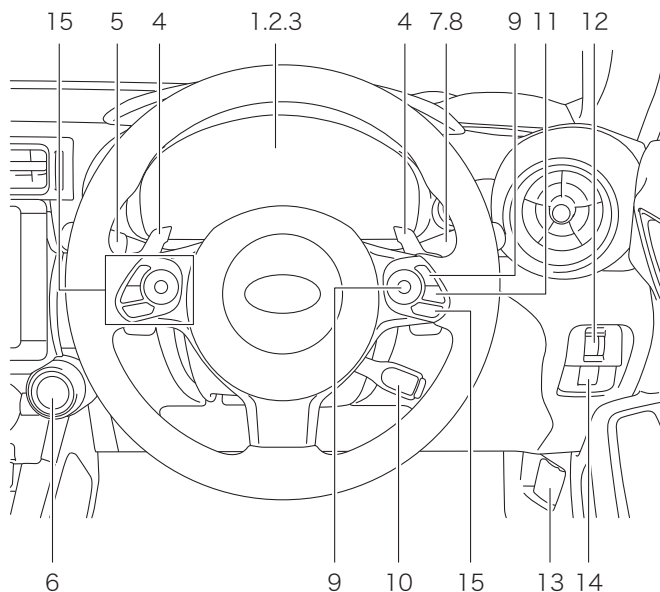
必読！安全で快適な運転のポイント

1. 安全ドライブ	● シートベルト…44	● SRSエアバッグシステム…52	● お子さまの安全…66
2. メーター・ディスプレイ	● メーター…78	● 警告灯・表示灯…91	
3. 運転の前に	● 解錠・施錠…104 ● ドア・ウインドウの開閉…121	● セキュリティシステム…132 ● 運転前の調整…136	● 運転前の点検…148
4. 運転するとき	● エンジンの始動と停止…150	● 運転のしかた…157	● ランプ類・ワイパーの使いかた…182
5. 運転支援機能	● EyeSight…190	● その他の運転支援機能…295	
6. 装備品の使いかた	● エアコン…308	● 室内装備…319	
7. メンテナンス	● お車の手入れ…334 ● 車載工具…342	● エンジンルーム内の点検…343 ● タイヤ・ホイール…347	● 部品の交換…359
8. 万一の場合	● 対処のしかた…370 ● バックしたとき…377	● 故障したとき…387 ● けん引のとき…397	● オーバーヒートしたとき…404
9. 仕様一覧	● 仕様一覧…408	● カスタマイズ機能…416	

こんなときは、さくいん

イラスト目次

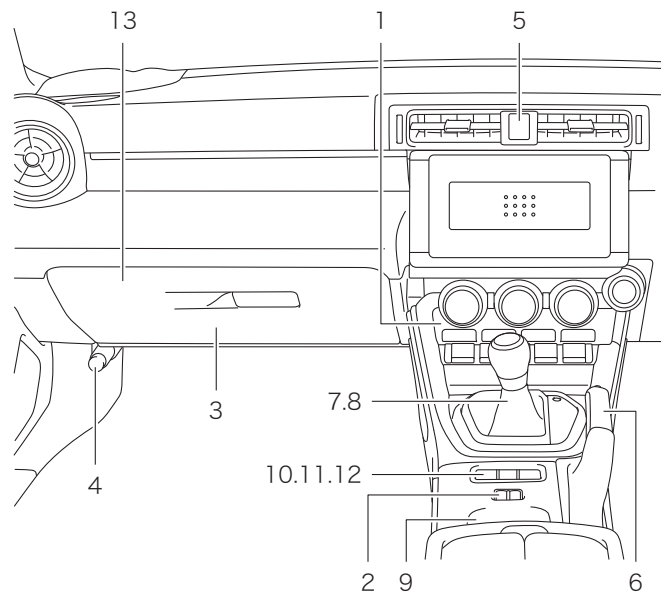
ハンドル周辺



1. メーター …78
2. 表示灯…96
3. 警告灯…91
4. パドルシフトレバー …169
5. ワイパー &ウォッシャースイッチ…187
6. プッシュエンジンスイッチ…150
7. ウィンカー（方向指示器）レバー …167
8. ライティングスイッチ…182
9. メーター操作スイッチ…82
10. クルーズコントロールスイッチ…199、212、232、268
11. 車間設定スイッチ…199
12. イルミネーションコントロールダイヤル…187
13. ボンネットオープナーレバー …343
14. トランクオープナースイッチ…128
15. ステアリングスイッチ…330

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

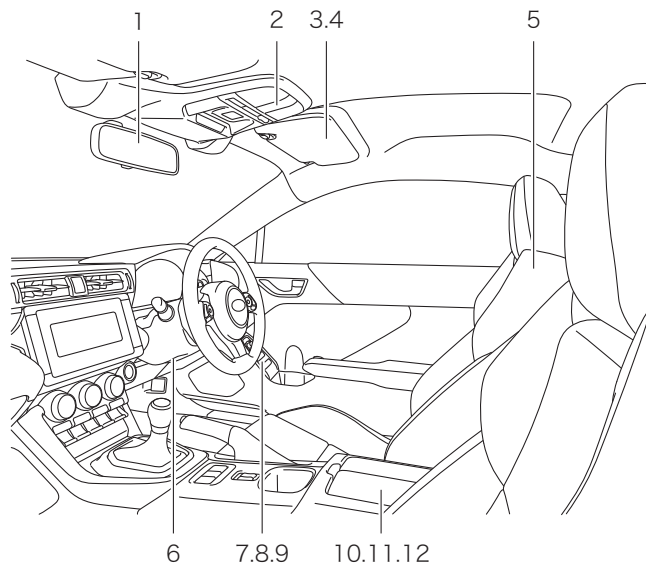
インストルメントパネル周辺



1. エアコン…308
2. シートヒーター …141
3. グローブボックス…320
4. 発炎筒…375
5. ハザードランプ（非常点滅表示灯）スイッチ…376
6. パーキングブレーキレバー …166
7. セレクトレバー（オートマチック車）…157
8. チェンジレバー（マニュアル車）…161
9. カップホルダー・小物入れ（オートマチック車）…320
10. VSC（VDC）OFFスイッチ…179、180
11. スポーツ／スノーモードスイッチ（オートマチック車）、
スポーツモードスイッチ（マニュアル車）…171
12. TRACKスイッチ…179
13. 電源ソケット…325

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

室内・前側

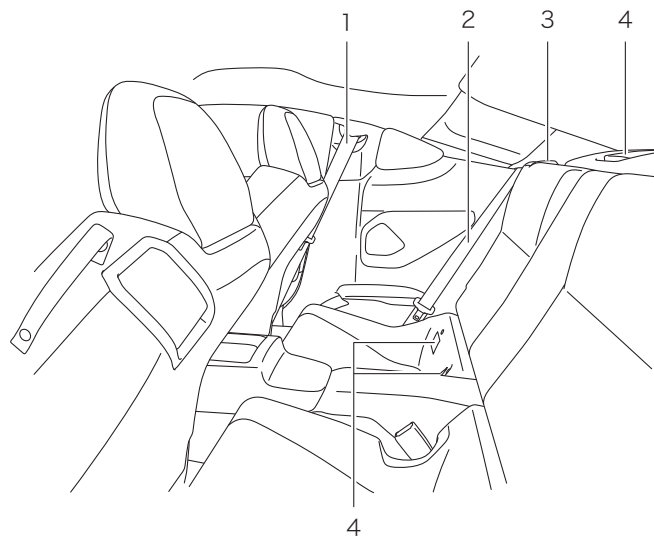


1. ルームミラー …145
2. スポットマップランプ…328
3. サンバイザー …323
4. バニティミラー …323
5. フロントシート…137
6. ステアリング…144
7. 電動リモコンドアミラースイッチ…146
8. 集中ドアロックスイッチ…117
9. パワーウインドウスイッチ…122
10. コンソールボックス…322
11. カップホルダー・小物入れ…320
12. USB電源…326

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

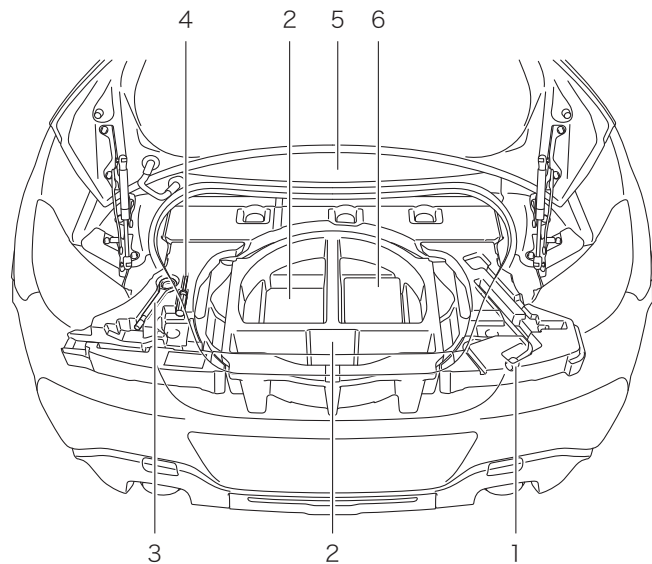
室内・後側

1. フロントシートベルト…46
2. リヤシートベルト…48
3. ロック解除ボタン…142
4. チャイルドシートの取り付け…66



※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

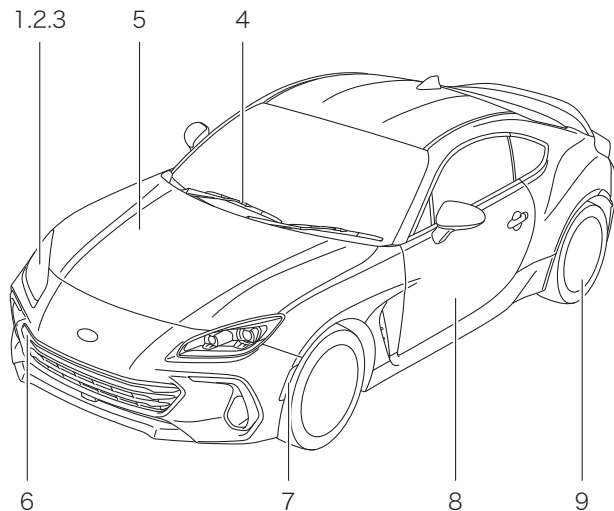
荷室



1. ホイールナットレンチ…342
2. サブトランク…324
3. けん引フック…397
4. ドライバー …342
5. トランクルームランプ…363、413
6. パンク修理キット…377

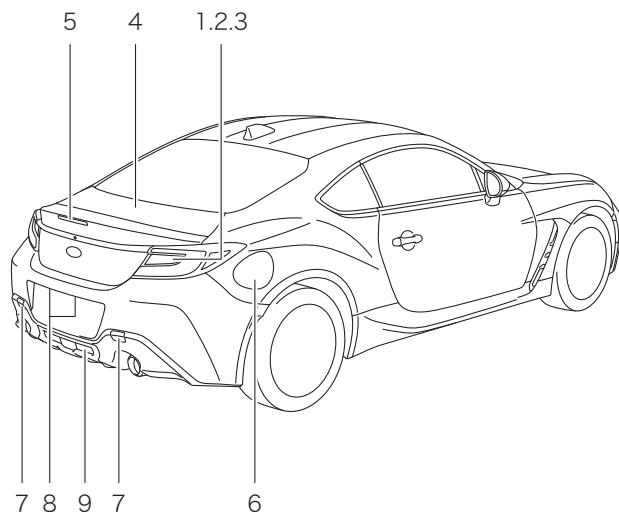
※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

外観



1. ヘッドランプ（前照灯）…**182、363**
2. ポジションランプ／デイトタイムランニングランプ（車幅灯／
昼間走行灯）…**182、363**
3. フロントウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点
滅表示灯）…**167、363、376**
4. ワイパー…**187**
5. ボンネット…**343**
6. けん引フック…**397**
7. サイドウインカー／ハザードランプ（補助方向指示器／非常
点滅表示灯）…**167、363、376**
8. ドア…**121**
9. タイヤ…**347、377**

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。



1. リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）…**167、363、376**
2. テールランプ（尾灯）…**363**
3. ブレーキランプ（制動灯）…**363**
4. トランク／トランクリッド…**128**
5. ハイマウントストップランプ（補助制動灯）…**363**
6. フューエルリッド（燃料給油口）…**125**
7. けん引フック…**397**
8. ライセンスランプ（番号灯）…**363**
9. バックランプ（後退灯）…**363**

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

警告灯

	ブレーキ警告灯（赤色）※2...91
	ブレーキ負圧系警告灯（黄色）※2...91
	シートベルト警告灯…91
	半ドア警告灯…91
SRH	SRH警告灯※1...92
	チャージ警告灯※2...92
	エンジン警告灯※2...92
	燃料残量警告灯※2...92

	ABS警告灯※2...92
	SRSエアバッグ警告灯※2...92
	オイルプレッシャー警告灯※2...92
A/T OIL TEMP	AT油温警告灯…93
	水温警告灯（赤色）※2...93
	LEDヘッドランプ警告灯…93
	VSC（VDC）警告灯※2...93
	SRVD警告灯※1...93
	オートヘッドランプレベラー警告灯…93

	ステアリング制御警告灯※2...93
	RAB・クリアランスソナー警告灯...94
	マスターウォーニング※2...94
	EyeSight警告表示灯（黄色）...94

※1: 警告灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

※2: 作動確認のためにプッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。SUBARU販売店で点検を受けてください。

表示灯

	ウインカー表示灯...96
	ライティングスイッチ表示灯...96
	ハイビーム／パッシング表示灯...96
	ハイビームアシスト表示灯...96
	セキュリティ表示灯...96
	VSC (VDC) 作動表示灯...96
	VSC (VDC) OFF表示灯※2...96
	SRVD OFF表示灯※1...97

	シフトアップ／ダウン可能表示灯（オートマチック車）…100
	シフトアップ可能表示灯（マニュアル車）…100
SRH OFF	SRH OFF表示灯※1…97
	全車速追従機能付クルーズ表示灯（オートマチック車）／追従機能付クルーズ表示灯（マニュアル車）…97
	定速クルーズ表示灯…97
READY	READY表示灯…97
	先行車表示灯…97
	先行車表示灯（アイコン表示）…98
	自車表示灯…98

	車間設定表示灯…98
	車間設定表示灯（アイコン表示）…98
80	セット車速表示…98
	EyeSight一時停止表示灯（白色）…99
	車線逸脱警報OFF表示灯…99
	ブリクラッシュブレーキOFF表示灯…99
	低温表示灯…99
	ヒルスタートアシスト作動表示灯…99
TRC OFF	TRC OFF表示灯※2…100

	水温表示灯（青色）…100
	RAB OFF表示灯／一時停止表示灯※1, 2…100
	クリアランスソナー OFF表示灯／一時停止表示灯…100
	スノーモード表示灯（ノーマルモード時）※1…100
	スノーモード表示灯（TRACKモード時）※1…101
	スポーツモード表示灯（ノーマルモード時）…101
	スポーツモード表示灯（TRACKモード時）…101
	TRACK表示灯…101

※1: 表示灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

※2: 作動確認のためにプッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。SUBARU販売店で点検を受けてください。

必読！安全で快適な運転のポイント

お車をお使いいただく上で

キーナンバープレートの保管

- キーナンバーは車両修理やスペアキーを作るときに必要となります。これらのナンバーが打刻してあるプレートを紛失すると、スペアキーを作ることができません。盗難防止のため車の中には置かず、大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお願いいたします。登録の消去は、SUBARU販売店でのみ行えます。SUBARU販売店にご相談ください。

☞ P.104参照

不正改造は絶対にしないで

- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバルが国土交通省に届け出をした部品以外のものを取り付けると、不正改造になることがあります。SUBARU販売店にご相談ください（タイヤ、ホイール、マフラーなど）。

故障診断コネクタに機器を取り付けしないで

車の故障診断コネクタには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響を及ぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

純正部品をお奨めします

マフラー、エアクリーナーエレメント、エンジンオイル、オイルフィルター、冷却水、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

お出かけ前には

点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。

☞「メンテナンスノート」参照

正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☞P.136参照

シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用し、走行中はシートベルトを外さないでください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

☞P.44参照

運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバル純正のフロアカーペットをご用意しています。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

室内に荷物を積むとき

荷物はできるだけ低くし、背もたれの高さ以上に積まないでください。ブレーキペダルを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルーフに荷物を積まないで

ルーフに荷物を積んだり、不用意にロープかけをしないでください。荷くずれを起こしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセサリーや物を置くとき

次のような場所にアクセサリーを取り付けたり、物を置いたりしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

- インストルメントパネルの上にアクセサリーを取り付けたり、物を置いたまま走行したりすると、運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いたりして危険です。また、SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬけがをすることがあります。
- スイッチの近くにアクセサリーを取り付けたり、物を置いたりすると、走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動するなど、場合によっては故障や過熱・車両火災の原因になります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っ掛けたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こすおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

☞ P.55、144参照

- レンズの働きをするようなアクセサリーをガラスに取り付けしないでください。車両火災の原因になります。

危険物の持ち込みはやめて

燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、車両火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。

排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を十分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により車両火災になるおそれがあります。

こんなとき、SUBARU販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響を及ぼしたり、事故につながるおそれがありますのでSUBARU販売店で点検を受けてください。

- いつもと違うにおいや音、振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキフルードが不足しているとき
- 地面に油の漏れた跡が残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき
- リヤバンパーに強い衝撃を受けたとき（SRVD装着車、RAB装着車およびクリアランスソナー装着車）

お子さまを乗せるときの注意

お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席に座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用してください。また、チャイルドシートは後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☞ P.54、66参照

チャイルドシートを使用して

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したロアアンカレッジを標準装備しています。

- ECE R44※の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

※ ECE R44は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていると、衝突したとき十分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままでのシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。

ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。
- ドア開閉時、ドアハンドルに指・爪などを挟まないように注意してください。

窓から顔や手を出させないで

走行中、車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。

パワーウィンドウに気をつけて

- パワーウィンドウが開閉するときには大きな力が働きます。挟まれたり巻き込まれたりすると危険ですので、操作をする前にお子さまが窓から顔や手を出したり窓に触ったりしていないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので、小さなお子さまにはスイッチ操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときには、パワーウィンドウのロックスイッチをロック状態にしておいてください。
お子さまがいたずらをして、手や首を挟むことを防止します。

☞P.123参照

車から離れるときは一緒に

- お子さまのいたずらによる思わぬ事故を防ぐため、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまを連れてお車を離れてください。
- 特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり、熱中症などにつながるおそれがあります。
エアコンを作動させていても途中で止まることもあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車の特徴と運転上の注意

強い加速を必要とするときキックダウンがで きます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- セレクトレバーを“M”にしているときは、キックダウンはできません。キックダウンを行う必要のあるときは、“D”に戻してください。

ブレーキペダルは右足で

- エンジンがかかる前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れることがあり危険です。

セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。

- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないで“P”から動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかに“R”から“P”または“N”にする習慣をつけてください。

セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときは“P”、前進するときは“D”、後退するとき“R”の位置にあることを目で確認してください。

発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

走行中はセレクトレバーを“N”にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

セレクトレバーは正しい位置で

セレクトレバーを“D”や“M”に入れたまま惰性で後退したり、“R”に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ハンドルが重くなるなどして思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

駐車するときはパーキングブレーキを確実にかけ、“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにします

お車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを“P”にして、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

☞P.36、166参照

お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- セレクトレバーを“P”にしてパーキングブレーキを確実にかけ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- クリープ現象※でお車がひとりでに動き出したり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが“P”または“N”以外でアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象。

走行するときには

携帯電話などを使わないで

走行中に携帯電話などを手に持って通話や操作をすることや、画面を注視することは法律により禁止されています。

走行中はスマートフォンや車両のディスプレイなどを操作したり注視したりしないでください。

タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながるおそれがあります。タイヤの交換を行う場合は、次の事項をお守りください。

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- 4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

☞P.351、414参照

走行中異常があったら

- 警告灯が点灯・点滅したら、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店にご連絡ください。そのまま走行するとおそれがあります。
- ☞ P.91 参照
- ボンネットを開けて点検するときは、高温部に触れないでください。ボンネット内部は高温のため、やけどをするおそれがあります。
- エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害につながるおそれがあります。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキフルードや燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、SUBARU販売店にご連絡ください。
- 走行中にタイヤがパンクしたときは、急ブレーキをかけないでください。ハンドルを確実に握り、徐々にスピードを落としながら、そのまままっすぐ運転し、ゆっくりと安全な場所に停車してください。

☞ P.377 参照

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
ぬれた路面や滑りやすい路面の走行は、通常より注意して安全運転を心がけて慎重に行ってください。特に雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転数が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です（ハイドロプレーニング現象）。スピードを落として走行してください。特に摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが回復するまで先行車、後続車に十分注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。
- ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

冠水した道路を走行しないで

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジン損傷などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

- 万一、水中に浸かってしまったときは、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 水位によっては水圧でドアが開かなくなり、車両から脱出できなくなるおそれがあります。

下り坂ではエンジンプレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンプレーキを併用してください。
- オートマチック車：シフトダウンとは、パドルシフトの⊖レバーを手前に引くことで低速ギヤへ変更することをいいます。
マニュアル車：シフトダウンとは、4→3のように低速ギヤへ変速することをいいます。
- エンジンプレーキとは、走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。
- シフトダウンによるエンジンプレーキは、道路状況や車間距離に注意して使用してください。

横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風で車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。

燃えやすいものに注意して

- 路上に燃えやすいもの（枯葉など）があると排気管や排気ガスの熱により発火するおそれがあります。燃えやすいものの上や付近で停車または走行するときは、注意してください。

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により車両火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、車両火災につながるおそれがあります。

こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は十分にとってください。
- ぬかるみなどでタイヤがスタック（立ち往生）したときはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。エンジン始動時に、ファンやベルトに小動物が巻き込まれ、車体に損傷を与えることがあります。

適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

バッテリーの充電

- バッテリーは消耗品です。こまめな点検と早めの交換を心がけてください。
- バッテリーは走行中に充電されます。
短時間（約10分以下）の走行を繰り返していたり、長期間（約10日間以上）お車を使用しなかったりしたときは、約30分以上を目安に走行し、バッテリーを充電してください。
ー 充電できない状態が続くと、バッテリーの性能が維持できず、故障の原因となります。
ー 日々の車両使用でバッテリーの性能が維持できない場合、バッテリーの点検や充電について、SUBARU販売店にご相談ください。

ブレーキパッドの摩耗警報

- パッドが摩耗して交換時期になると、ブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。
その場合はすみやかにSUBARU販売店で交換してください。
- ブレーキパッドやブレーキディスクなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。
摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

雪道走行するときには

4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。
一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

控えめな運転を心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、お車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
ー オートマチック車：ドライブモードをスノーモードにしてください。
☞ P.171 参照
ー マニュアル車：チェンジレバーを“2”にします。

タイヤチェーンは後輪に

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、後輪に装着してください。
- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。

駐・停車するときには

坂道に駐車するとき

坂道に駐車する場合には、無人で車が動き出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。次の処置をしてください。

1. パーキングブレーキを確実にかけ、車が動き出さないことを確認します。

☞P.166参照

2. オートマチック車：セレクトレバーを“P”に入れます。
マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。
下り坂：“R”
上り坂：“1”

3. 輪止め（タイヤストッパー）をします。

なお、急な坂道での駐車は避けてください。

車の移動はエンジンをかけて

坂道などで、エンジンをかけなくても車を動かせる場合でも、必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンがかかっていないときにブレーキペダルを踏むと固く感じられることがあり、ハンドル操作が重くなるため、そのまま移動すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

駐車するときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- 仮眠するときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

ハンドルをいっぱいに回した状態を続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱいに回した状態を続けないでください。

☞P.176参照

冷却ファンに注意

ボンネットを開ける場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。やむを得ず、プッシュエンジンスイッチがONでボンネットを開ける際は、冷却ファンに注意してください。エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもプッシュエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムとは

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

すべてのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRSニーエアバッグは運転席SRSエアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。

SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRSカーテンエアバッグは車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

シートベルトは必ず着用して

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が十分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☞P.44、136参照

お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するとき、必ずチャイルドシートを使用してください。
チャイルドシートの使用法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☞P.54、66参照

燃料を給油するときには

給油前に必ず指定燃料をご確認ください

- 指定燃料は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）です。
無鉛プレミアムガソリンが入手できないときなどは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジンの性能を十分に発揮できないおそれがあります。また、ノッキングが起りやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
- 日本産業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。
- ガソリン添加剤を使用する場合は、スバル純正品のご使用をお奨めします。SUBARU販売店にご相談ください。
- 上記以外の燃料などを使用すると、エンジンの出力が低下したり、部品が損傷したりするおそれがあります。

給油時には必ず次のことをお守りください

- プッシュエンジンスイッチを必ずOFFにしてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- 給油時は火気厳禁です。
タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して車両火災にいたるおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱い屋外で行ってください。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項をお守りください。

- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分や、静電気除去パッドに触れて身体の静電気を除去してください。
静電気による火花が燃料に引火して車両火災にいたるおそれがあります。
- フューエルキャップを開けるときは、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると給油口から燃料の噴き返しが発生し、車両火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。燃料給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは燃料給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。
- 給油は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。気温などの変化により燃料があふれ、車両火災になるおそれがあります。
- 給油後は、フューエルキャップを“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れて車両火災につながるおそれがあります。

- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと車両火災などを引き起こし、その結果重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

給油時に気化した燃料を吸い込まないように注意してください

燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸い込まないように、注意してください。

こんなことにも注意を

クラッチ・スタートシステムについて(マニュアル車)

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装備されています。
クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとエンジンが始動しません。

車内にガスマイター、スプレー缶などを放置しないで

炎天下で駐車するときは車内にガスマイターやスプレー缶などを放置しないでください。車内が高温になるためガスマイターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。

排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒や、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

ラジエーターやリザーバタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が噴き出すおそれがあり危険です。

電装品を取り付けるときには

電装品を取り付けるときは、SUBARU販売店にご相談ください。種類や取り付け場所により、一部の機能に影響が出ることがあります。また、スバル純正品以外の部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ったりすると車両火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

RF送信機の取り付けについて

RF送信機は、お車に搭載されるすべての電子・電装システムに悪影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

車止めなどに注意して

次のような場合には、バンパーやマフラーなど車体下部を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過

点検整備をするときは

SUBARU販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識のすべてを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗りいただくためにも、点検整備はお近くのSUBARU販売店にご用命ください。

車両状態の記録

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録する機能が装備されています。

走行状況に応じて、次のようなデータを記録することがあります。

- 車速
- エンジン回転数
- エンジン制御情報
- シフト情報
- 走行情報など

なお、本機能は会話などの音声や映像は記録しません。

車両データの情報開示

次の場合を除き、スバルは記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社SUBARUを意味しています。

EDR（イベントデータレコーダー）

お車には、EDR（イベントデータレコーダー）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速
- SRSエアバッグ作動に関する情報

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

知 識

- EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。
- 通常走行時にはデータは記録されません。
- 個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されませんが、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。
- EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。



知 識

- － スバルにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社SUBARUを意味しています。

1. 安全ドライブ

シートベルト

シートベルトの正しい着用	44
フロントシートベルト	46
リヤシートベルト	48
シートベルト警報	48
プリテンショナー付シートベルト	50

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムについて	52
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき	59
SRSエアバッグ警告灯	65

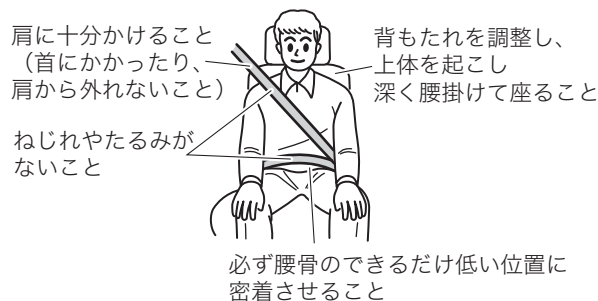
お子さまの安全

チャイルドシート	66
チャイルドシートの取り付けかた	73

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法に従って走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。走行中はシートベルトを外さないでください。



警告

シートベルトの着用は、次のことを必ずお守りください。守らないと正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

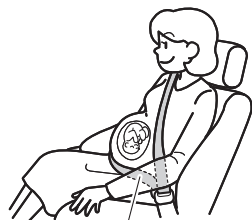
- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用する。
- 二人以上で一本のシートベルトを使用しない。
 - － シートベルトは一人用です。
- タングプレートを正しいバックルに確実に装着する。

警告

- シートベルトはねじれたり、裏返しの状態で使用しない。
 - － ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用する。
 - － 柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかける。
 - － 肩に十分にかかっていないと上半身が拘束されず十分な効果を発揮しません。
- 正しい運転（乗車）姿勢でシートベルトを正しく着用する。
☞ P.136 参照
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しない。
 - － 衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しない。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるませない。
- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用する。
 - － 局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。

⚠ 警告

- 妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置



- シートベルトのバックルや巻き取り部に異物が入らないようにする。
 - タングプレートが完全に固定されず、走行中に外れるおそれがあります。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させる。
 - 膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなど十分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるとお子さまはチャイルドシートを使用する。
 - シートベルトは大人用に設計されています。

⚠ 警告

- 万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。
チャイルドシートの使用方法是チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- お子さまは、後席に乗せてください。
- お子さまをシートベルトで遊ばせない。
 - シートベルトを身体に巻きつけて遊んだりすると、窒息するなどの重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 万一、シートベルトが身体に巻きついて外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換する。
 - 装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずSUBARU販売店で交換してください。
そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- シートベルトを交換するときは、交換するシートベルト位置用として認可された、スバル純正品を使用する。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしない。
 - － 衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- 炎天下などで室内が高温になっている場合、樹脂部分を持って着用する。
 - － シートベルトの金属部分が熱くなり、やけどをするおそれがあります。

フロントシートベルト

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトおよびタングが自動的にロックされます。また、衝突した際は、一定以上の負荷がかからないようになっています。

3点式シートベルト

着用のしかた

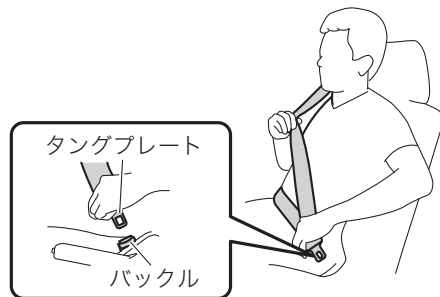
1. タングプレートを手で持って、ゆっくり引き出します。

ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。

それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



2. ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



3. 正しい姿勢で腰かけ、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



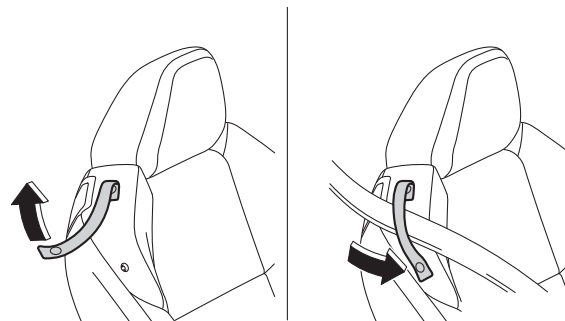
外すとき

外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押し、タングプレートを手で持ってゆっくり巻き取ります。ベルトが自動的に収納されますので、引っかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

シートベルトガイド

フロントシートのシートベルトをガイドに通しておくと、シートベルトが引き出しやすくなります。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトを外します。



⚠ 注意

- ベルトがねじれたり、引っかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っばったりしないでください。

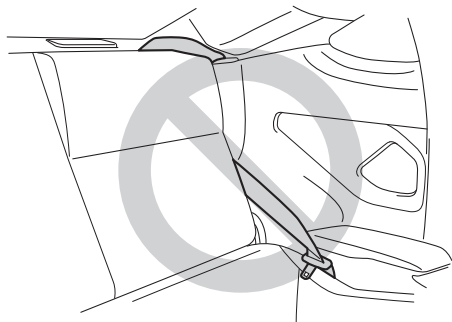
リヤシートベルト

3点式シートベルトが2名分装備されています。

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとしたときは、ベルトが自動的にロックされます。

⚠ 警告

- リヤシートベルトを使用する前に、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいないか必ず確認する。
- ー シートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



リヤシートベルト

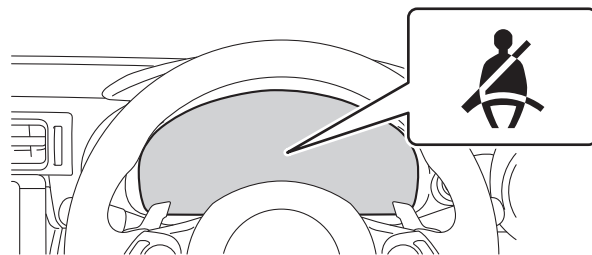
フロントシートベルトと同じ方法で着用および外します。

📖 P.46参照

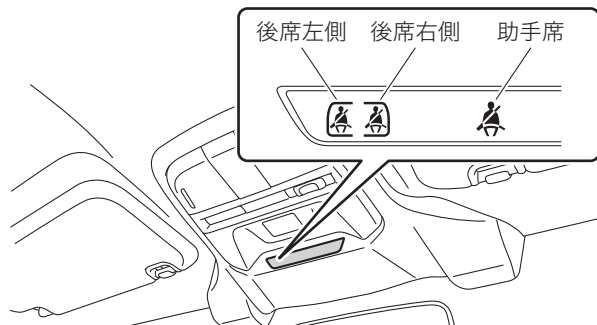
シートベルト警報

プッシュエンジンスイッチがONでシートベルトが未着用の場合、警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると警告灯は消灯します。シートベルトを着用せずに走行する、または走行中にシートベルトを外すと警告灯が点滅または点灯し、ブザーが鳴ります。

<運転席>



<助手席、後席>



運転席・助手席

プッシュエンジンスイッチがONで運転席、助手席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用の場合、メーターまたはオーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま車速約20 km/h以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。このとき車速が約20 km/h以下になっても、警告灯の点滅とブザーは、シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

約2分間経過してもシートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警告

- 助手席に水やその他の液体をこぼさない。
ー 液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。

⚠ 警告

- 助手席を取り外したり、分解しない。
- 助手席の座面と背もたれの間の後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしない。
- 助手席の下に靴や傘などの物を置かない。
- 助手席に強い衝撃を与えない。
- お車から離れるときに助手席に物を置きっぱなしにしたり、シートベルトのタングをバックルにはめたままにしたりしない。
- シートに尖ったものを置いたり、シート表面を刺したりしない。
- シートベルトのバックルや巻き取り部の近くに磁石を置かない。

🏠 知 識

- 助手席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 助手席に小柄な方が乗ったり、座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

後席

プッシュエンジンスイッチがONで後席（乗員がいるとき）いずれかのシートベルトが未着用のとき、オーバーヘッドコンソール内の警告灯が点灯します。シートベルトを着用すると消灯します。

シートベルト未着用のまま走行した場合、または走行中にシートベルトを外した場合、警告灯が点灯します。さらに、車速約20 km/h以上の場合はブザーが鳴り、シートベルトを着用するまで、または約30秒間継続します。

停車中または車速約20 km/h以下で走行しているときは、シートベルトを外してもブザーは鳴りませんが、警告灯は点灯します。警告灯はシートベルトを着用するまで点灯します。

⚠ 警告

- 後席に強い衝撃を与えない。
- 後席に水やその他の液体をこぼさない。
ー 水やその他の液体をこぼした場合は、直ちに拭き取ってください。
- 後席を取り外したり、分解しない。
- 後席の座面に物を置いたまま背もたれを倒さない。
ー センサーの誤作動や破損のおそれがあります。

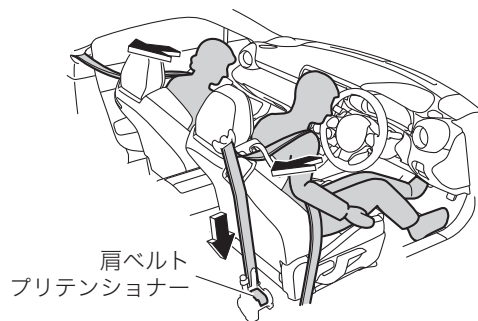
🏠 知識

- 警告灯が点灯したときは、次の操作を行うと警告灯は消灯します。
ー 後席シートベルトを着用する（シートベルトのタングブレードをバックルに挿入する）
- 後席に乗員がいない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告灯が点灯することがあります。
- 後席にお子さまや小柄な大人の方が乗ったり、チャイルドシートや座布団などを使用したりすると、センサーが感知せず正常に作動しないことがあります。

プリテンショナー付シートベルト

プリテンショナー付シートベルトは、前方向および側面からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで乗員をシートにしっかりと固定してシートベルトの効果をいっそう高めます。

運転席と助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装備されています。



⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ずお守りください。

- シートを正しい位置に調整する。
☞ P.136参照
- シートベルトを正しく着用する。
☞ P.44参照

 注 意

次のような作業をするときは、必ずSUBARU販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

 知 識

- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していない場合でも作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席および助手席とも同時にSUBARU販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムについて

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

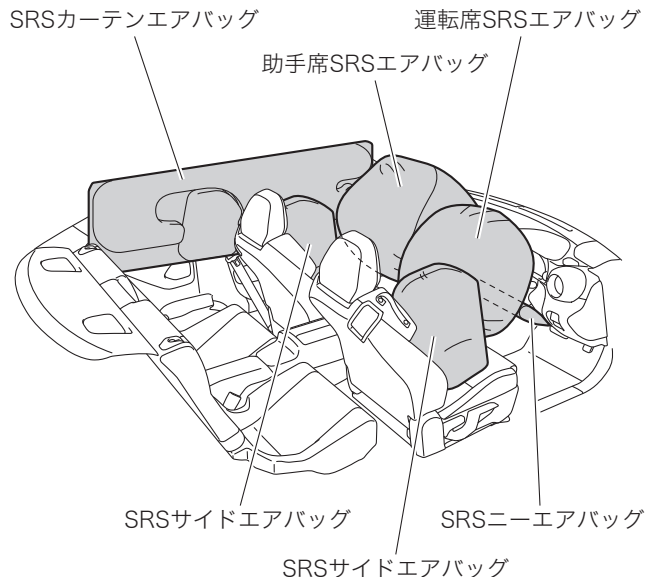
すべてのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRSニーエアバッグは運転席SRSエアバッグと同時に作動し、前方に移動する運転者の下肢への衝撃をやわらげる装置です。また、下肢の動きを受けとめることで姿勢の変化をおさえ、身体全体の保護効果を高めます。

SRSサイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRSカーテンエアバッグは車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。



⚠ 警告

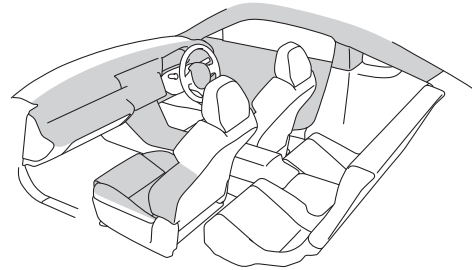
SRSエアバッグシステムに関して次のことを必ずお守りください。

守らないと、システムが正常に作動しなかったり、衝突などのとき効果が十分に発揮されず、命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- シートベルトを正しく着用し、シート位置・ハンドル位置を調整して正しい運転（乗車）姿勢をとる。
 - － SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- 膝の上に物を抱えるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しない。
 - － SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げるおそれがあります。
- シートカバーを前席シートに取り付けたり、敷いたりしない。

⚠ 警告

- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしない。



お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
 - お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠ 警告

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。



- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
 - 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
 - チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

- チャイルドシートは、必ず後席に取り付ける。

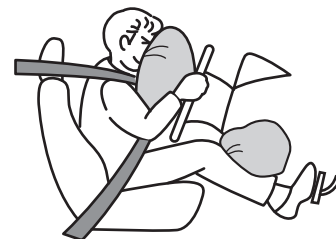


- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けない。
— 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグおよびハンドル下のパネ
ル部に格納されたSRSニーエアバッグが瞬時に膨らみ、その後し
ぼみます。



⚠ 警告

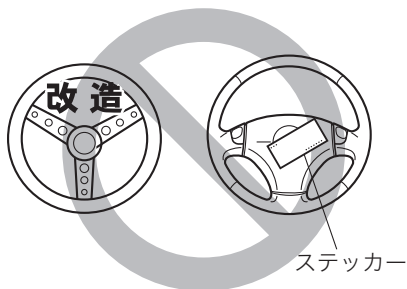
運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグに関して次のこ
とを必ずお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかか
わる重大な事故につながるおそれがあります。

- ハンドルを交換したり、センターパッド部にステッカーなど
を貼らない。

⚠ 警告

－ SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。



- 運転席SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ格納部に身体（手、顔、胸など）を近づけない。

助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。

助手席SRSエアバッグは、助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



⚠ 警告

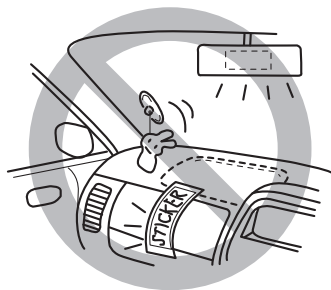
助手席SRSエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

- 助手席SRSエアバッグ格納部に身体（手、顔、胸など）を近づけたり、もたれかからない。
- インストルメントパネルの上面またはその周辺にステッカー類を貼ったり、アクセサリ、ナビゲーションシステムや芳香剤など、硬い物や鋭利な物を置かない。
 - － SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントガラスにアクセサリなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。

⚠ 警告

- SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグおよび左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、その後しぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。

SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



⚠ 警告

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグに関しては、次の事項をお守りください。

守らないと、システムが正常に作動せず衝撃を受け、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- フロントシート背もたれのSRSサイドエアバッグ格納部に身体（手、足、顔）を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らない。



- お子さまなどに後席からフロントシートの背もたれを抱え込むような姿勢はさせない。



⚠ 警告

- SRSサイドエアバッグ格納部周辺に物を置いたり、カップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けない。
 - ー SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかない。
 - ー SRSカーテンエアバッグが作動したときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。特にお子さまを乗せるときには注意してください。

⚠ 警告

- フロントガラス、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリやハンズフリーマイクなどを取り付けない。
 - SRSカーテンエアバッグが作動したときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えない。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

SRSエアバッグに関して次のことを必ずお守りください。

⚠ 警告

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れない。
 - 構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。
 - SRSエアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます（SRSカーテンエアバッグ、SRSニーエアバッグを除く）。
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをするおそれがあります。
- 大きな衝撃を受けた場合、SRSエアバッグの作動の有無にかかわらず、必ずSUBARU販売店で点検を受ける。
 - SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- SRSエアバッグは効果を発揮するために瞬時に膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

⚠ 注意

- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白煙が発生しますが、車両火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物が付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。まれに皮ふに刺激を感じる場合があります。

🏠 知識

- SRSエアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません（SRSカーテンエアバッグを除く）。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
SUBARU販売店で交換してください。

運転席、助手席SRSエアバッグおよび運転席SRSニーエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグおよび運転席SRSニーエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部、下肢などへの衝撃をやわらげる装置です。

車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

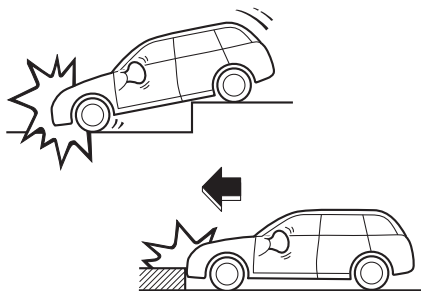
したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

作動するとき

- 次のようなときに作動します。
 - ー 約20 km/h～約30 km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、またはこれと同等以上の衝撃を受けたとき

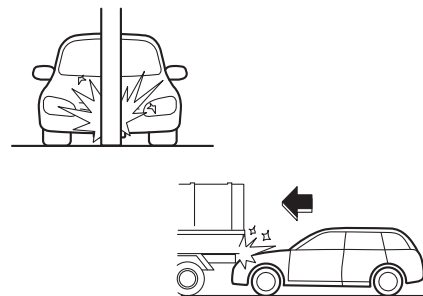


- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。
- 深い穴や溝に落ちたり、縁石に衝突したときや、ジャンプしたり、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

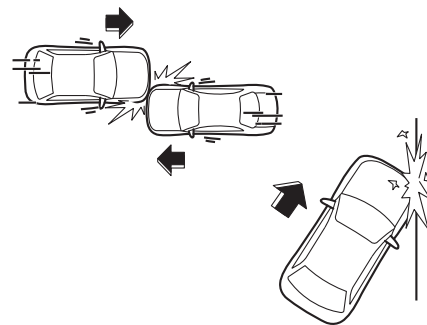


作動しにくいとき

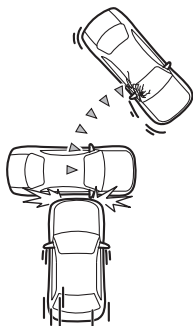
- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったときは作動しにくくなります。
- 電柱などに衝突したり、トラックの荷台にもぐり込んだとき



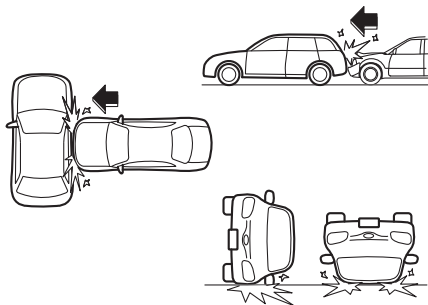
— 片側衝突（オフセット衝突）したり、斜め前方へ衝突したとき



ー 駐車している車両など、衝突の衝撃により移動または変形するものに衝突したとき

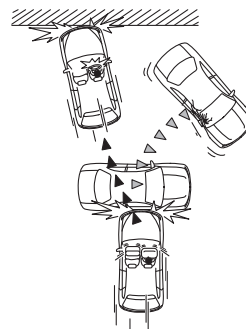


- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮されません。
 - ー 後ろから衝突されたり、横方向から衝突されたり、横転や転覆したとき



作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
 - ー 一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



SRS サイドエアバッグ・SRS カーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRSサイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRSサイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

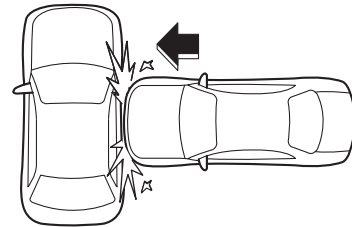
SRSカーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

SRSカーテンエアバッグは、車両側方、または車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

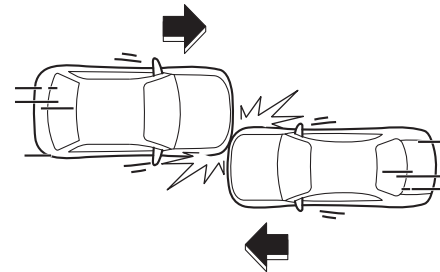
SRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。
 ー 側面に真横から衝突されたとき



- 次のような場合も、衝突の部位、衝撃の大きさによっては作動することがあります。
 ー 片側衝突（オフセット衝突）のとき

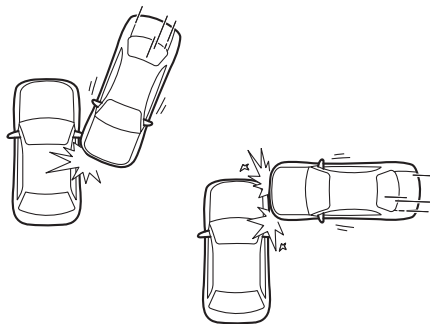


作動しにくいとき

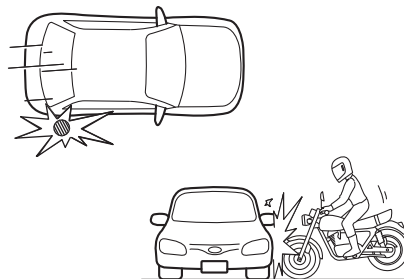
- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。

衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

- ー 車両両側に斜めから衝突されたり、客室以外に側面から衝突されたとき

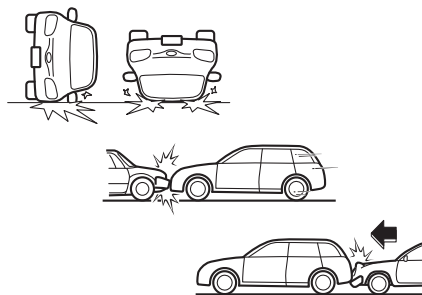


- ー 電柱などに衝突したり、側面にバイクが真横から衝突したとき



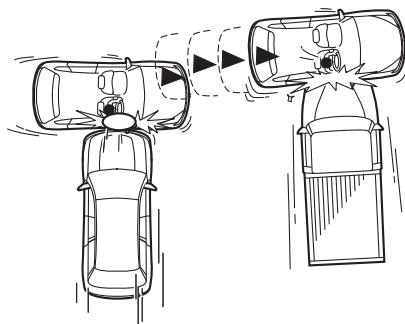
- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

- ー 横転や転覆したり、停車中や走行中の車に正面から衝突したり、後ろから衝突されたとき



作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。
 一度SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突

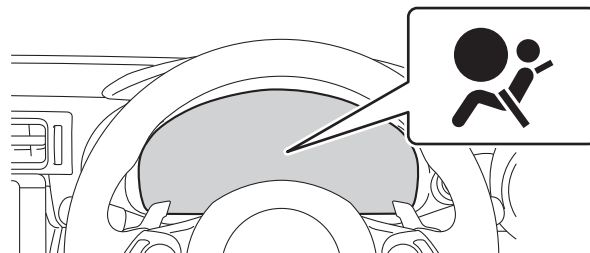


SRSエアバッグ警告灯

SRSエアバッグ警告灯は、SRSエアバッグシステム（プリテンショナー付シートベルト含む）で兼用しています。システムの異常を検知すると警告灯が点灯し、割り込み画面を表示します。

☞P.95参照

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。



⚠ 警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- プッシュエンジンスイッチをONにして6秒以上経過しても、点灯しているとき
- 走行中に点灯したとき

お子さまの安全

チャイルドシート

お子さまが乗車するときは、チャイルドシートを正しく使用し安全を確保してください。

知 識

チャイルドシートについて、ここでは、ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートの総称として、「チャイルドシート」と呼んでいます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートを購入するときは、お車に適合するか確認してください。チャイルドシートの大きさによってはお車に取り付けできないことがあります。
- 認可表示を確認し、お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、購入したチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したロアアンカレッジを標準装備しています。
- ECE R44※に適合したチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

チャイルドシートの種類

ECE R44に適合するチャイルドシート

ECE R44の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
0	10 kg以下
0+	13 kg以下
I	9 kg～18 kg
II	15 kg～25 kg
III	22 kg～36 kg

■シートベルト固定

車両のシートベルトを使用して座席に固定する、ユニバーサルチャイルドシートを使用することができます。
質量グループに一致した商品をお選びください。

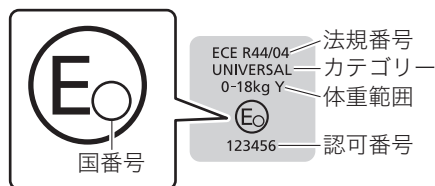
知 識

- ECE R44に適合したチャイルドシートには認可マークが表示されています。認可マークに記載された体重の範囲を確認し、お子さまに合ったチャイルドシートをお選びください。



知識

<表示例>



- 取り付けが可能な座席位置は「適合性一覧」で説明しています。

☞ P.68参照

■ロアアンカレッジ固定

後席に装備された、専用のロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するISOFIXチャイルドシートを使用することができます。

ISOFIXチャイルドシートには次の固定具の商品があります。「適合性一覧」を確認し、取り付けが可能な固定具の商品をお選びください。

☞ P.68参照

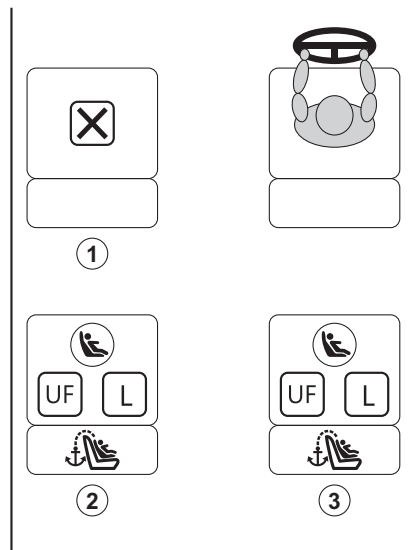
固定具	お子さまの 大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式

固定具	お子さまの 大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2X	幼児	後ろ	小型
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高
ISO/B2	児童	前	狭幅
ISO/B3	児童	前	全幅

適合性一覧

それぞれのシートには、次のようなチャイルドシートを取り付けることができます。

	チャイルドシートの取り付けに適していない。
	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きユニバーサルチャイルドシートに適している。
	BRZへの取り付けに対応しているチャイルドシート（チャイルドシートに付属の対応車種リストをご確認ください）。
	ISOFIXチャイルドシートに適している。
	トップテザーアンカレッジを装備している座席。



座席位置の番号		①	②	③
座席位置		前席	後席※ ¹	
		助手席	左側席	右側席
シートベルトで固定するタイプ	汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適する座席位置	×	UF※ ²	UF
ロアアンカレッジで固定するタイプ	i-Sizeチャイルドシートに適する座席位置	—	×	×
	横向き固定具（L1/L2）に適する座席位置	—	×	×
	搭載できる最大の後ろ向き固定具（R1/R2X/R2/R3）	—	R1※ ²	×
	搭載できる最大の前向き固定具（F2X/F2/F3）	—	F2X	F2X
	搭載できる最大のブースター固定具（B2/B3）	—	×	×

記号の説明

UF：前向きチャイルドシートのみ取り付けられます。

×：取り付けられません。

—：ロアアンカレッジがありません。

※1：前席とチャイルドシートまたはサポートレグが接触する場合にはチャイルドシートは使用できません。

※2：助手席と接触しない場合に限り、後ろ向きチャイルドシートを取り付けることができます。取り付ける際には助手席のシート位置を一番前、背もたれを直立の位置に調整して助手席には座らないでください。

推奨チャイルドシート

推奨チャイルドシートとは、市販のチャイルドシートのことです。

チャイルドシート	お子さまの身長 あるいは体重	取り付け向き	固定方法	取り付け可能な座席位置		
				①	②	③
				助手席	後席左側	後席右側
BRITAX BABY SAFE3 i-SIZE	40～83cm ～13 kg	後ろ向き	シートベルト	×	○※ ¹	×
BRITAX BABY SAFE3 i-SIZE with BRITAX FLEX BASE iSENSE			ISOFIX	×	○※ ¹	×
BRITAX ADVANSAFIX i-SIZE	76～102cm ～21 kg	前向き	ISOFIX	×	○	○
	100～150cm		シートベルト	×	○※ ²	○※ ²
			ISOFIX	×	○※ ²	○※ ²
BRITAX KIDFIX i-SIZE	100～150cm 15～36kg	前向き	シートベルト	×	○※ ²	○※ ²
			ISOFIX	×	○※ ²	○※ ²
Graco Junior Plus NEXT	100～150cm	前向き	シートベルト	×	○※ ²	○※ ²

記号の説明

○：取り付けられます。

×

※¹: 取り付ける際には助手席のシート位置を一番前、背もたれを直立の位置に調整して助手席には座らないでください。

※²: チャイルドシートのヘッドレストあるいはお子さまの頭がリヤピラーやガラスと接触する場合は使用できません。

お子さまを乗せるとき

お子さまを乗せるときは次のことをお守りください。守らないと、命にかかわる重大な事故につながるおそれがあります。

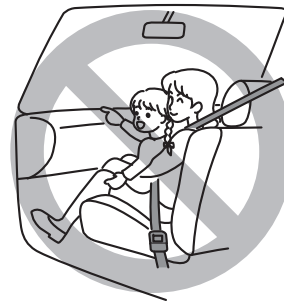
⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させる。
- ー お子さまを助手席に乗せると、SRSエアバッグが膨らんだときに、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



⚠ 警告

- お子さまをSRSエアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しない。



- 12歳以下、または身長150 cm以下のお子さまが乗車するときは、必ずチャイルドシートを使用する。
- ー 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられています。
- ー チャイルドシートの使用方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

- チャイルドシートは、必ず後席に取り付ける。

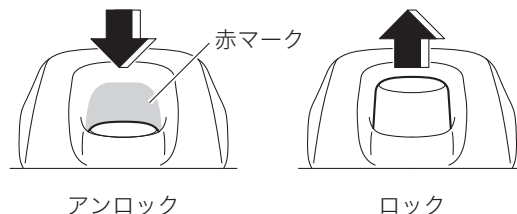


- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けない。
 - 事故などで助手席SRSエアバッグが膨らんだとき、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⚠ 警告

- 背もたれが確実にロックされているか、ロック解除ボタンの奥の赤マークが見えないことを確認する。
- 背もたれを前後に動かして確実に固定されていることを確認する。
 - 固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。



- チャイルドシートは確実に固定する。
 - 確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシート取り付け後は、チャイルドシートを取り付けたシートは動かさない。
 - 衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- チャイルドシートは、お子さまの年齢や体格に合ったものを使用する。
- お子さまを車の中に残したままにしない。特に乳児など小さなお子さまや身体の不自由な方は、絶対に車内に残さない。
 - － 炎天下の車内は高温となり、熱中症など短時間のうちに重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートを使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定する。
 - － ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - － 固定しないと、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付けかた

取り付け、取り外し方法については、お客様が購入したチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
後席の外側席には、ISOFIXチャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。

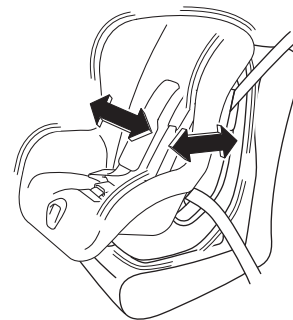
シートベルトでの固定のしかた

1. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けます。

⚠ 警告

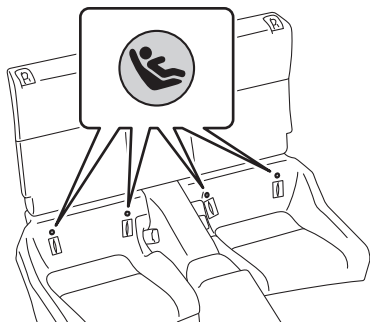
シートベルトはねじれがないようにしてください。

2. チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合はやり直してください。



ロアアンカレッジの使いかた

ロアアンカレッジは、背もたれの下側にあります。ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートについています。



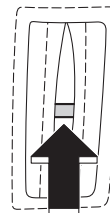
⚠ 警告

- ISOFIXチャイルドシートを取り付ける際は、次の部分に異物やシートベルトのかみ込みがないことを確認する。

- ー ロアアンカレッジ
- ー ベースシートのシート取り付け部
- ー テザーベルトのフック

シートベルトや異物がかみ込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

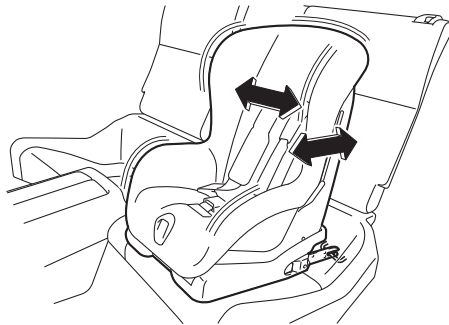
7. チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って取り付けます。



⚠ 注意

- ロアアンカレッジに差し込むときは、確実に押し込む。
 - ー 正常に組み付けられずに走行すると、思わぬけがにつながるおそれがあります。

2. チャイルドシートがしっかりと取り付けられていることを前後左右に動かして確認します。ぐらつきがある場合は再度取り付け状態を確認してください。



⚠ 注意

可動部分に指や物を挟まないよう十分注意する。

📖 知識

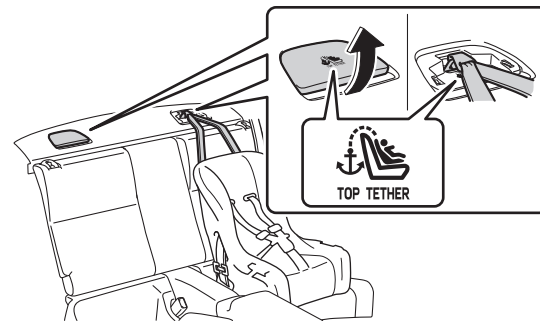
長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

トップテザーアンカレッジの使いかた

後席上部の後ろ側にあるカバーを取り外し、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従って使用してください。

カバーにはトップテザーアンカレッジを示すマークがあります。

テザーベルトのフックを、図のようにトップテザーアンカレッジに引っかけます。



This image shows a full page of blank, lined paper. It features approximately 20 evenly spaced horizontal grey lines across its entire width, providing a template for writing or drawing. The margins are consistent on all sides.

2. メーター・ディスプレイ

メーター

計器類	78
マルチインフォメーションディスプレイ	82

警告灯・表示灯

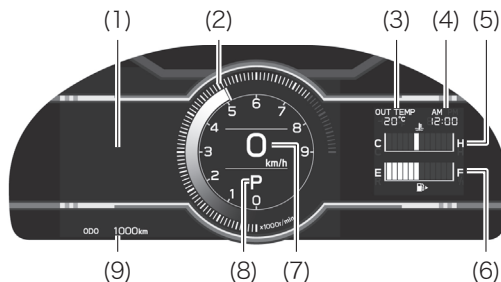
警告灯がついたときは	91
割り込み画面が表示されたときは	95
表示灯	96

メーター

計器類

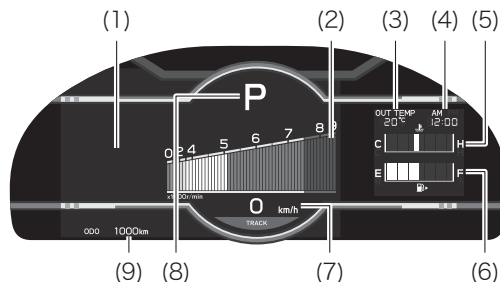
メーターの表示にはノーマルモードと、TRACKモードの2種類の表示があります。

<ノーマルモード時>



- (1) マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示します。
車両に異常が発生したときは割り込み画面を表示します。
- (2) タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低く表示されます。
- (3) 外気温度計
外気温度を-40 °C～50 °Cのあいだで表示します。
- (4) 時計
- (5) 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
- (6) 燃料計
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
 - 少量給油（約5 L以下）を行ったとき
 - 坂道など傾いた場所に停車したとき
 - 坂道やカーブを走行したとき
- (7) スピードメーター
- (8) シフトポジション・シフトレンジ表示
- (9) オドメーター／トリップメーターディスプレイ

<TRACKモード時>



TRACKモードにすると、メーター表示がTRACKモード専用表示に切りかわります。

☞P.179参照

- (1) マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関するさまざまな情報を表示します。
車両に異常が発生したときは割り込み画面を表示します。
- (2) タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低く表示されます。
- (3) 外気温度計
外気温度を-40 °C～50 °Cのあいだで表示します。
- (4) 時計
- (5) 水温計
エンジン冷却水の温度を示します。
- (6) 燃料計
燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。
 - 少量給油（約5 L以下）を行ったとき
 - 坂道など傾いた場所に停車したとき
 - 坂道やカーブを走行したとき
- (7) スピードメーター
- (8) シフトポジション・シフトレンジ表示
- (9) オドメーター／トリップメーターディスプレイ

REVインジケーター

設定したエンジン回転数に到達すると、シフトポジション・シフトレンジ表示部が橙色に点灯し、ブザーが鳴ります。

また、レッドゾーンに入るとシフトポジション・シフトレンジ表示部が赤色に点灯します。

初期設定は非表示になっています。表示／非表示を切りかえることができます。

☞ P.89、418参照



REVインジケーターの表示を開始するエンジン回転数は、マルチインフォメーションディスプレイの  で設定することができます。

⚠ 警告

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。
例えば変速段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐに変速段の表示が切りかわらないことで運転者がシフトダウンしなかったと誤解し、再度シフトダウンすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- エンジンが冷えているときは、レッドゾーンが低くなるためエンジン回転数に注意してください。
- 水温計の表示が点滅したときは、オーバーヒートのおそれがあるので、直ちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。

☞ P.404参照

知識

- 外気温度計は外気温度センサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
 - ー 停車中や低速走行時、またはしばらく駐車した後にエンジンを再始動したときは、周囲の熱の影響を受けるため正しい温度が表示されないことがあります。
- 温度差のある場所に入ったりしたときなど、外気温度計の表示の更新が遅れることがあります。
- 外気温度として“--”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。SUBARU販売店で点検を受けてください。
- マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更することができます。

☞P.89参照

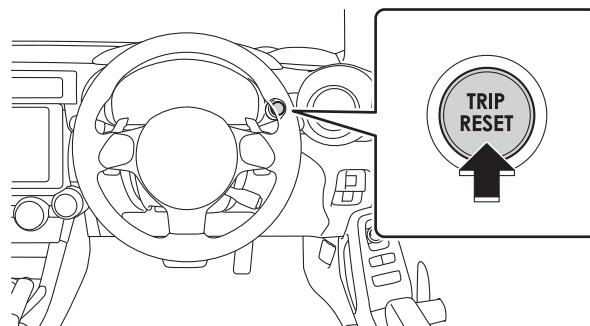
オドメーター／トリップメーターディスプレイ

表示項目

- オドメーター
走行した総距離を表示します。
- トリップメーター A／トリップメーター B
リセットしてからの走行距離を表示します。トリップA・トリップBの2種類で使い分けることができます。
リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を0にすることができます。



時計の調整をするには

マルチインフォメーションディスプレイの  から、時計の設定を変更することができます。

☞P.83、84参照

分を00にする

1. メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
2. メーター操作スイッチの  または  を押して“時計”を選択する

3. メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して“:00”を選択する

“はい”を選択すると分を00に合わせることができます。

- 0～29分は切り下げられます。(例えば、1:00～1:29は1:00になります。)
- 30～59分は切り上げられます。(例えば、1:30～1:59は2:00になります。)

詳細設定

1. メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して  を選択する
2. メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して“時計”を選択する
3. メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して“時刻合わせ”を選択する
4. メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して変更したい項目を選択する
5. メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して表示内容を変更する

次の内容を変更することができます。

- AM/PM※
- 時
- 分

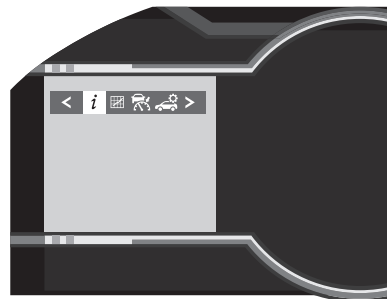
※ 表示形式が“12H”に設定されている場合のみ変更することができます。

🔧 P.418参照

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示 / メニューアイコン一覧

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。



メニューアイコン

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押すとメニューアイコンが表示されます。

	ドライブインフォメーション 🔗 P.84参照
	SUBARU BRZ専用コンテンツ 🔗 P.86参照
	運転支援機能情報 🔗 P.89参照
	運転支援機能設定 🔗 P.89参照
	設定 🔗 P.89参照
	警告メッセージ 🔗 P.95参照

⚠ 警告

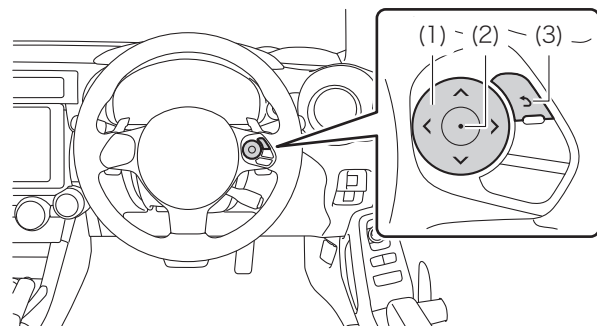
- 運転中にマルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- 運転中にマルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

🏠 知識

液晶ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。
各コンテンツ特有の操作方法については、それぞれのコンテンツの説明を参照してください。



- (1) < / > : メニューの切りかえ
 ^ / v : 表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動
 (2) 短押し: 決定
 長押し: リセット / Gの表示範囲切りかえ
 (3) ひとつ前の画面にもどる

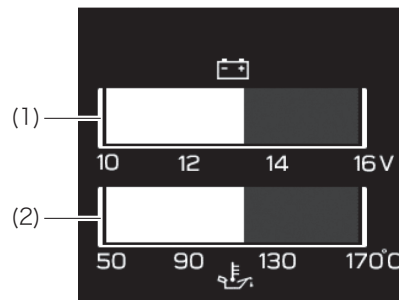
ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの < または > を押して **i** を選択し、^ または v を押すことで次の項目を表示することができます。

- ドライブインフォメーション1
- ドライブインフォメーション2
- ドライブインフォメーション3

ドライブインフォメーション1

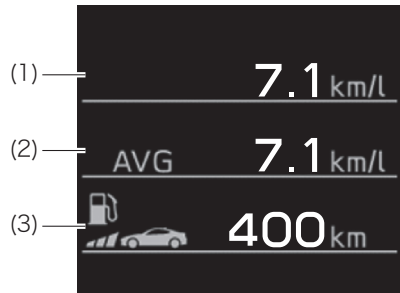
表示される数値は参考として利用してください。



- (1) 電圧計
 電圧の状態を表示します。
 電圧計は実際のバッテリー電圧とは異なります。
- (2) 油温計
 エンジンオイルの温度を表示します。

ドライブインフォメーション2

表示される数値は参考として利用してください。



(1) 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

(2) 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

⊙ を長押しすると、平均燃費はリセットされます。

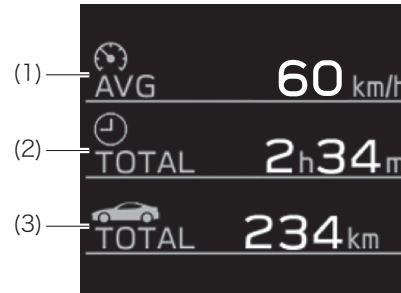
(3) 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。
表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、
表示される距離を実際に走行できない場合があります。

燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
給油の際はプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
万一、プッシュエンジンスイッチをOFFにせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

ドライブインフォメーション3

表示される数値は参考として利用してください。



(1) 平均车速

リセットしてからの平均车速を表示します。

(2) 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

(3) 走行距離

リセットしてからの走行距離を表示します。

⊙ を長押しすると、平均车速・走行時間・走行距離はリセットされ、0に戻ります。

SUBARU BRZ専用コンテンツ

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して **⌂** を選択し、**▲** または **▼** を押すことで次の項目を表示することができます。

- Gモニター

車両にかかるGの動きを確認するのに適しています。

- Gモニター（ピークホールド表示）

車両にかかった最大Gの大きさや方向を確認するのに適しています。

- パワー・トルクカーブ

- ストップウォッチ

Gモニター

車両にかかる前後左右のG（加速度）を表示します。また、Gモニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



(1) 現在のG値（前後左右に分解した値）

(2) アクセル開度量

(3) ブレーキ液圧

(4) ステアリング操作量

⊙ を長押しすると、Gの表示範囲を切りかえることができます。

Gモニター（ピークホールド表示）

車両にかかる前後左右のG（加速度）を表示します。また、Gモニターの周囲にはステアリング操作量・アクセル開度量・ブレーキ液圧が表示されます。

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は参考として利用してください。



(1) 最大Gの軌跡

⊙ を長押しすると、軌跡をリセットすることができます。

(2) 現在のG値（前後左右に分解した値）

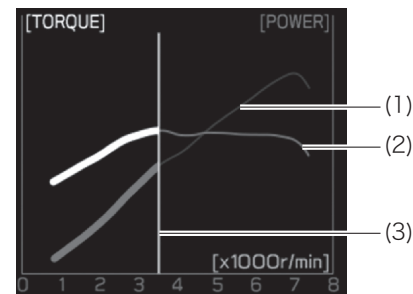
(3) アクセル開度量

(4) ブレーキ液圧

(5) ステアリング操作量

パワー・トルクカーブ

表示される曲線図は実際に発生するトルク・出力をあらわすものではありません。表示画面は参考として利用してください。



(1) 出力曲線

(2) トルク曲線

(3) 現在のエンジン回転数

実際のエンジン回転数に応じて、左右にスライドします。

ストップウォッチ

ラップタイムを計測することができます。

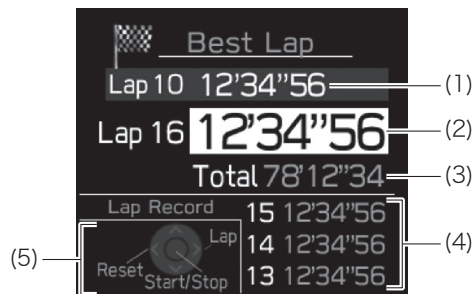
<トップ画面>



(1) 最速ラップタイム

計測タイムをリセットすると、表示が「--'--''--」に戻ります。

<計測画面>



- (1) 最速ラップタイム
- (2) 現在のラップタイム
- (3) 計測開始からの合計タイム
- (4) 過去のラップタイム
- 最大50ラップまで記録します。
- (5) メーター操作スイッチの操作ガイド

• 表示画面の切りかえかた

トップ画面から計測画面への切りかえ

: を押してください。

計測画面からトップ画面への切りかえ

: を押してください。

• 計測画面の操作方法

: 計測開始/停止

: ラップ

: 計測タイムのリセット

/ : 過去のラップタイムのページ送り

• 計測タイムのリセット

計測停止後、 を押してください。

• 他のコンテンツへの切りかえかた

を押してトップ画面に戻ること、他のコンテンツへ切りかえることができます。

他のコンテンツを表示しているときでも、タイムの計測は継続されます。ただし、計測開始/停止やラップなどの計測操作を行うことができなくなります。

知識

- Gモニターの表示について
 - ー 車両や使用環境によって、ブレーキペダルを一杯に踏み込んでもブレーキ液圧の表示が最大にならない場合があります。
 - ー バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。
- ストップウォッチのタイム計測について
 - ー タイム計測中にエンジンを停止すると、タイム計測は停止し、計測停止時点までのタイムが記憶されます。

運転支援機能情報

クルーズコントロール※の作動状況を表示します。

※ 全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）および定速

☞ P.212、232、268参照



運転支援機能設定

次のシステムの設定を変更することができます。

☞ P.417参照

- LDW（車線逸脱警報）
- PCB（プリクラッシュブレーキ）
- SRVD（後側方警戒支援システム）※¹
- RAB（後退時ブレーキアシスト）※¹
- **P**（クリアランスソナー）※²
- SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）※¹

※¹: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※²: クリアランスソナー割り込み画面と連動。

設定

次の項目の設定を変更することができます。

☞ P.418参照

- EyeSight
 - ー 先行車捕捉音
 - 先行車捕捉音の作動・非作動を切りかえることができます。
 - ー 先行車発進
 - 先行車発進お知らせの作動・非作動を切りかえることができます。
 - ー 加速レベル
 - クルーズコントロール加速レベルを変更することができます。
 - ー 後退速度リミッター ※
 - 後退速度リミッターの制限速度を変更することができます。
- 警報音量
 - 警報音量を変更することができます。

- 時計
- ☞ **P.81** 参照
- 画面設定
 - ー 初期演出

プッシュエンジンスイッチをONにしたときのオープニング演出の表示・非表示を変更することができます。
 - ー GSI (シフトポジション表示) ※

シフトポジションとシフトアップ/ダウン可能表示灯の表示・非表示を変更することができます。
 - ー REV. (REVインジケーター)
 - ：REVインジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。
 - ：ブザーの作動・非作動を切りかえることができます。
 - ：REVインジケーター（橙色）が表示されるエンジン回転数を変更することができます。
- 車両設定
 - ー キーレスエントリー
 - ：ブザーの作動・非作動を変更することができます。
 - ：非常点滅灯の作動・非作動を変更することができます。
 - ：自動施錠を作動なし。または、作動までの時間を変更することができます。
 - ー リヤデフォグガー

リヤウインドウデフォグガーとヒートッドアミラーの作動時間を変更することができます。
 - ー 室内灯消灯時間

プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときに、自動消灯するまでの時間を変更することができます。
 - ー 方向指示器ワンタッチ

方向指示器ワンタッチ機能の作動・非作動を変更することができます。

- 言語

表示される言語を変更することができます。
- 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

ディスプレイの設定を変更するときは、バッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

知識

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 割り込み画面が表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告灯・表示灯

警告灯がついたときは

警報や異常を検知すると、警告灯や割り込み画面を表示します。

☞P.95参照

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯、点滅しても消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生する場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	警告内容	対処方法
	ブレーキ警告灯 (赤色)	• ブレーキフルードの不足 • ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。 ☞P.166参照	直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	ブレーキ負圧系警告灯 (黄色)	システムに異常があると点灯します。	直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	シートベルト 警告灯 (赤色)	運転席・助手席・リヤ席シートベルトの未着用 ☞P.48参照	シートベルトを着用する助手席・リヤ席乗員がいるときは、助手席・リヤ席乗員もシートベルトを着用ください。
	半ドア警告灯 (赤色)	いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉めてください。

警告灯	名称	警告内容	対処方法
	SRH警告灯（黄色）※	SRHの異常 ☞ P.302参照	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	チャージ警告灯（赤色）	充電システムの異常	直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店へ連絡してください。
	エンジン警告灯（黄色）	- エンジン電子制御システムの異常 - 電子制御スロットルの異常 - オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常	直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店へ連絡してください。
	燃料残量警告灯（黄色）	燃料の残量が約7 L以下になった	燃料を補給してください。
	ABS警告灯（黄色）	- ABSの異常 - ブレーキアシストの異常	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	SRSエアバッグ警告灯（赤色）	- SRSエアバッグシステムの異常 - プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 ☞ P.65参照	直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店へ連絡してください。
	オイルプレッシャー警告灯（赤色）	エンジンオイル圧力の異常	直ちにSUBARU販売店へ連絡してください。

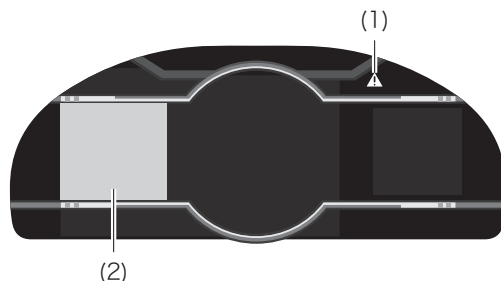
警告灯	名称	警告内容	対処方法
	AT油温警告灯(赤色)※	トランスミッションフルードの温度異常	トランスミッションフルードを冷却するために、安全な場所に停車し、セレクトレバーを“P”に入れてエンジンをかけたままにする。 しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、SUBARU販売店にご連絡ください。
	水温警告灯 (赤色)	エンジン冷却水の高温異常	直ちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 ☞P.404参照
	VSC (VDC) 警告灯(黄色)	次のシステムに異常があるとき点灯します。 • VSC (VDC) システムの異常 • TRCシステムの異常 • ヒルスタートアシストシステムの異常	状況によっては異常がなくても点灯する場合がありますが、しばらくして消灯すれば異常ではありません。消灯しない場合は、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	SRVD警告灯(黄色)※	SRVDシステムの異常 ☞P.300参照	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	オートヘッドランプレベラー警告灯(黄色)	オートヘッドランプレベラーの異常 ☞P.186参照	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	LEDヘッドランプ警告灯(黄色)	LEDヘッドランプの異常	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	ステアリング制御警告灯(赤色)	電動パワーステアリングの異常	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	警告内容	対処方法
	RAB・クリアランスソナー警告灯（黄色）	RAB/クリアランスソナーの異常 ☞P.283、287参照	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
	マスターウォーニング（黄色）	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に割り込み画面を表示します。	割り込み画面の内容に従って対処してください。 ☞P.95参照
	EyeSight 警告表示灯（黄色）	EyeSightシステムの故障 ☞P.291参照	直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

※ 警告灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

割り込み画面が表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、状況に応じて注意喚起やアドバイス、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせする割り込み画面が表示されます。割り込み画面が表示されたときは、画面の内容に従って対処してください。



(1) マスターウォーニング

システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に割り込み画面を表示します。

(2) マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイに表示された画面の指示に従ってください。

知識

- 割り込み画面の内容によってブザーが鳴る場合があります。
状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。
- 販売店への連絡または点検をうながす内容の割り込み画面が表示されたときは名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

表示灯

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
	ウインカー表示灯（緑色）	ウインカーの点滅を示します。 ☞P.167参照
	ライティングスイッチ表示灯（緑色）	- ヘッドランプ、ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯しているときに点灯します。 ☞P.182参照 - ウェルカムライティング作動時にも点灯します。
	ハイビーム／パッシング表示灯（青色）	ヘッドランプが上向きするとき点灯します。また、パッシング時も点灯します。 ☞P.185参照
	ハイビームアシスト表示灯（緑色）	ヘッドランプが点灯し、ハイビームアシストが作動しているとき点灯します。 ☞P.303参照
	セキュリティ表示灯（赤色）	イモビライザー機能および盗難警報装置の作動状態に応じて点滅します。 ☞P.132、133参照
	VSC（VDC）作動表示灯（黄色）	TRC（ブレーキLSD機能）・VSC（VDC）が作動しているときに点滅します。 ☞P.178参照
	VSC（VDC）OFF表示灯（黄色）	- VSC（VDC）を作動停止状態にしたときに点灯します。 - TRACKモードのときにも点灯します。 ☞P.179、180参照

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
	SRVD OFF表示灯（黄色）※ ¹	SRVDを解除したときおよびSRVDが一時停止状態のときに点灯します。 ☞ P.299参照
	SRH OFF表示灯（黄色）	SRHを作動停止状態にしたときに点灯します。 ☞ P.302参照
	オートマチック車：全車速追従機能付クルーズ表示灯（白色）／（緑色） マニュアル車：追従機能付クルーズ表示灯（白色）／（緑色）	- ON-OFFスイッチを押すと点灯します。 ☞ P.218、237参照 - クルーズコントロール※²がセットされると白色から緑色に変わります。クルーズコントロール※²作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、白色に戻ります。 ☞ P.218、237参照
	定速クルーズ表示灯（白色）／（緑色）	- 定速クルーズコントロールがONになると点灯します。 ☞ P.269参照 - 定速クルーズコントロールがセットされると白色から緑色に変わります。 ☞ P.269参照
	READY表示灯（白色）	クルーズコントロール※ ³ がセット可能になるときに点灯します。 ☞ P.218、237、269参照
	先行車表示灯	- クルーズコントロール※²をセット中、先行車を認識している場合に点灯します。 ☞ P.218、237参照 - マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
	先行車表示灯（アイコン表示）（灰色）	- クルーズコントロール※²をセット中、先行車を認識している場合に点灯します。 ☞P.218、237参照 - マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。
	自車表示灯	ブレーキペダルを踏むか、ブレーキ制御が作動したとき、表示内のブレーキランプが赤く点灯します。
	車間設定表示灯（白色）	（車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。 ☞P.225、244参照 - マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。
	車間設定表示灯（アイコン表示）（白色）	（車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。 ☞P.225、244参照 - マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。
	セット車速表示（白色）／（緑色）	セット車速を表示します。 ☞P.218、237、269参照

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
	EyeSight一時停止表示灯（白色）	- エンジンを開始して約7秒経過するまでに ON-OFF スイッチを押すと点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。 - EyeSightシステムが一時停止しているときに点灯します。 - 点灯しているときは、定速クルーズコントロールを除く EyeSightシステムのすべての機能が使用できません。 ☞ P.292参照
	車線逸脱警報OFF表示灯（黄色）	- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態に応じて消灯または点灯します。 - 車線逸脱警報およびふらつき警報が OFF のときに点灯します。 ☞ P.263、265参照
	ブリクラッシュブレーキOFF表示灯（黄色）	- プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。 - オートマチック車：ブリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFのときに点灯します。 ☞ P.210、255、260参照 - マニュアル車：ブリクラッシュブレーキが OFF のときに点灯します。 ☞ P.210参照
	低温表示灯（白色）	外気温度が3℃以下になると点灯し、路面が凍結している可能性があることをお知らせします。
	ヒルスタートアシスト作動表示灯（緑色）	ヒルスタートアシストを設定すると点灯します。 ☞ P.173参照

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
TRC OFF	TRC OFF表示灯（黄色）	TRCをOFFにしたときに点灯します。 ☞P.179参照
	水温表示灯（青色）	エンジン冷却水温が低いときに点灯します。
RAB OFF	RAB OFF表示灯／一時停止表示灯（黄色）※1	RABの作動後、セレクトレバーを“R”以外にするまで点灯します。 また、RABが一時停止したとき、またはRABをOFFにしたときに点灯します。 ☞P.282参照
	クリアランスソナーOFF表示灯／一時停止表示灯（黄色）	クリアランスソナーが一時停止したとき、またはクリアランスソナーをOFFにしたときに点灯します。 ☞P.287参照
	シフトアップ／ダウン可能表示灯（オートマチック車）（白色）	マニュアルモード時に、シフトアップ/ダウン可能表示灯が点灯または点滅しているあいだ、セレクトレバーまたはパドルシフトレバーでギヤ段を選択し、運転することができます。 ☞P.169参照
	シフトアップ可能表示灯（マニュアル車）（白色）	シフトアップ可能表示灯が点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。 ☞P.165参照
	スノーモード表示灯（ノーマルモード時）（黄色）※1	スノーモードを選択したときに点灯します。 ☞P.171参照

表示灯	名称	点灯・点滅するとき
SNOW	スノーモード表示灯（TRACKモード時）（黄色）※1	スノーモードを選択したときに点灯します。 ☞ P.171 参照
	スポーツモード表示灯（ノーマルモード時）（白色）	スポーツモードを選択したときに点灯します。 ☞ P.171 参照
SPORT	スポーツモード表示灯（TRACKモード時）（白色）	スポーツモードを選択したときに点灯します。 ☞ P.171 参照
	TRACK表示灯（白色）	TRACKモードを選択したときに点灯します。 ☞ P.179 参照

※1: 表示灯の有無はグレードやオプションにより異なります。

※2: 全車速追従機能付（オートマチック車）および追従機能付（マニュアル車）

※3: 全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）および定速

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

3. 運転の前に

解錠・施錠

キー	104
解錠と施錠のしかた	106
キーレスアクセスについて	109
車内から施錠・解錠する	117
その他の施錠・解錠	118

ドア・ウィンドウの開閉

ドア	121
パワーウィンドウ	122
フューエルリッド（燃料給油口）	125
トランク	128

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム） ..	132
盗難警報装置	133

運転前の調整

正しい運転（乗車）姿勢	136
フロントシート	137
リヤシート	142
ステアリング	144
ルームミラー	145
ドアミラー	146

運転前の点検

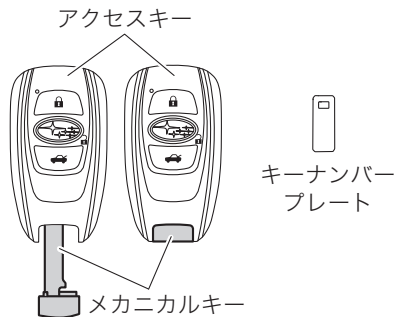
冬がくる前に	148
雪や霜の除去	148

解錠・施錠

キー

ご購入時には、アクセスキーが2個とキーナンバープレートが付属しています。

キーはドアの解錠、施錠、エンジンの始動、停止などに使用します。



メカニカルキーはアクセスキーが作動しないときに使います。

☞P.389参照

キーナンバープレートは、車両修理やスペアキーを作る際に必要となりますので、大切に保管してください。

⚠ 注意

アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- バソコンや家電製品の近くに放置しないでください。
 - ー キーが誤作動し、電池切れの原因となります。

⚠ 注意

- 水にぬらさないでください。
 - ー 水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。
 - 強い衝撃を与えないでください。
 - 磁気を帯びた物に近づけないでください。
 - ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。
 - ー 電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
 - 湿気やホコリが多い場所に放置しないでください。
- 航空機内では無線機器の使用が禁止されています。キーのボタンを押さないでください。

🏠 知識

- 追加のスペアキーが必要な場合は、SUBARU販売店にご相談ください。キーは最大7つまで登録することができます。
- アクセスキーにはそれぞれ個別の識別コードがあります。
 - ☞P.132参照
- 盗難防止のため、キーナンバープレートは車内に置かないでください。また、万一に備えてキーナンバーをメモしておいてください。

知識

- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお願いします。登録の消去は、SUBARU販売店でのみ行えます。SUBARU販売店にご相談ください。
 - アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年です。
- ☞P.361参照

作動エリア

キーのボタン操作

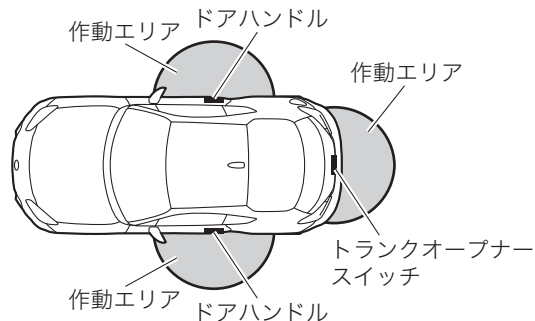
お車の周囲約1 m以内で作動します。

知識

- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。アクセスキーの電池は1年～2年を目安に交換してください。
- ☞P.361参照
- 周囲の電波やノイズ状態によって作動距離が変わることがあります。

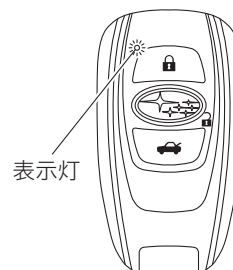
キーレスアクセス

ドアハンドルとトランクオープナースイッチを中心に約40 cm～約80 cmが目安となります。



ドアが施錠している状態でドアハンドルの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。キーレスアクセス機能を停止させている場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。

☞P.111参照



知 識

- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方でもキーレスアクセス機能を使用することができます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのドア（トランク含む）のみです。
- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合は、アクセスキーが作動しないときの操作を行ってください。
☞P.389参照
- アクセスキーが作動エリア内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかったときは、ドアが解錠または施錠することがあります。解錠された場合は、施錠してください。ただしドアの開閉操作がない場合は、約30秒後に自動施錠されます。

解錠と施錠のしかた

次の操作で、すべてのドアとフューエルリッドが解錠・施錠します。解錠するとハザードランプが2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。

施錠するとハザードランプが1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

知 識

- プッシュエンジンスイッチがOFF以外では、キーレスアクセス機能またはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 操作が早すぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。
- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。ただし、アクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際は、アクセスキーを持っていることを確認してください。
- 手袋をつけてドアハンドルを握ったり、ドアハンドルのタッチセンサーに触れた場合、施錠・解錠が遅れたり、施錠・解錠ができないことがあります。
- 半ドアで施錠操作を行った場合はブザーが5秒間鳴り、いずれかのドアが開いていることをお知らせします。
- 解錠時や施錠時のブザーおよびハザードランプの点滅を作動なしに設定することができます。
☞P.418参照
- SUBARU販売店で、ブザーの音量を設定することができます。

☞P.420参照

知識

- 施錠中にドアやトランクが開けられたとき、警報音が鳴るよう盗難警報装置を設定することができます。

📖 P.133参照

キーのボタンで解錠・施錠する

お車のまわりからアクセスキーのボタンを押します。



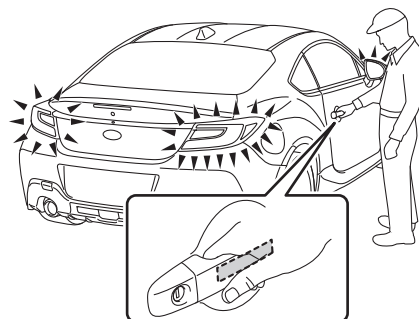
キーレスアクセス機能で解錠・施錠する

知識

誤作動防止のため、施錠操作を行った後約3秒間はキーレスアクセス機能での解錠ができません。

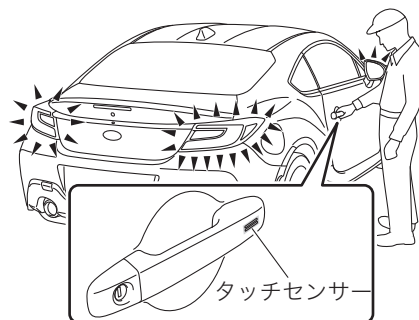
ドアハンドルで解錠する

アクセスキーを携帯し、ドアハンドルを握ります。



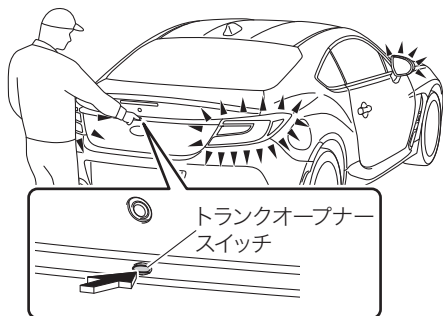
ドアハンドルで施錠する

アクセスキーを携帯し、すべてのドアとフューエルリッドを閉めてからドアハンドルのタッチセンサーに触れます。



トランクを解錠する

アクセスキーを携帯し、車外のトランクオープナースイッチを押します。



自動施錠

解錠してから30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。



知 識

自動施錠を作動なしに設定することができます。また、作動までの時間を30秒／60秒／120秒に設定できます。

🔧 P.418参照



知 識

- すべてのドアが解錠されている場合は、アクセスキーを携帯していなくても開くことができます。ただし、走行中（車速が5 km/h以上）はロック状態となるため、次にドアを開くまではトランクを開けることはできません。
- SUBARU販売店で、アクセスキーがなくてもトランクを開けられる機能のON/OFFの設定を変更することができます。

🔧 P.420参照

キーレスアクセスについて

アクセスキーは電波法の認証に適合しています。

電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

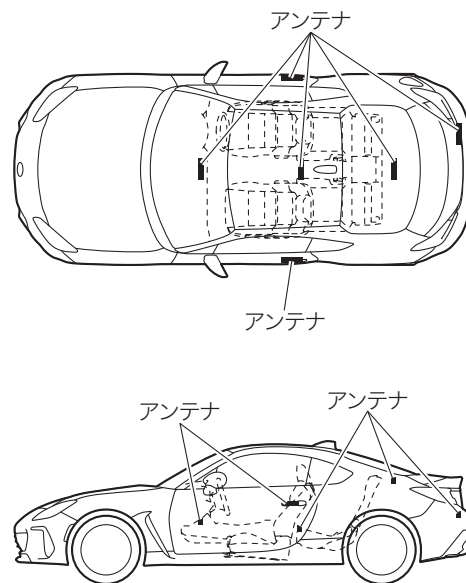
必ず日本国内でご使用ください。

キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、134 kHzの電波を車両側発信アンテナから周期的に出力しています。

⚠ 警告

- キーレスアクセス&プッシュスタートシステムにおいて、植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけないでください。
 - ー 車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 医療用電気機器を装着されている方は医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。
- 医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告



⚠ 注意

キーレスアクセス&プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のような状況ではアクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

⚠ 注意

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備があるとき
- 他の車両のアクセスキーやリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機があるとき
- アクセスキーの近くに空気清浄機があるとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- アクセスキーを次のような製品と同時に携帯しているとき
 - ー 他の車両のアクセスキーやリモコンキーなど
 - ー パソコンや携帯情報端末
 - ー デジタルオーディオプレーヤー
 - ー ポータブルゲーム機器
- アクセスキーが次のような金属製の物に接していたり、覆われたりしているとき
 - ー アクセサリー
 - ー アルミ箔などの金属が貼られたカード
 - ー アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ー 金属製の財布やカバン
 - ー 小銭
 - ー カイロ
 - ー CDやDVDなどのメディア
- 充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 純正用品以外の部品を取り付けたとき

⚠ 注意

- アクセスキーは、次の場所に絶対に放置または保管しないでください。
- 車室内（インストルメントパネルの上、物入れ、シートの上など）または荷室内
 - ー アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によってはプッシュエンジンスイッチが切り替わらないことがあります。
 - 車両周辺2 m以内（車庫での保管など）
 - ー アクセスキーと車両との通信が頻繁に繰り返され、アクセスキーの電池が急激に消耗するおそれがあります。また、車両のバッテリー上がりにつながるおそれがあります。

🏠 知識

- アクセスキーを次の場所に置かないでください。アクセスキーを車内に閉じ込めたり、誤って警告を通知したり、通知できないことがあります。
 - ー インストルメントパネル上
 - ー フロア上
 - ー グローブボックス内
 - ー ドアトリムのポケット
 - ー リヤシート上
 - ー リヤシェルフ上

キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止

次の場合、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止することができます。

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方がお車に乗車するとき
- 長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき
- やむを得ずアクセスキーを車室内やお車の周辺に保管したいとき
- アクセスキーが車両と通信できる距離（車両周辺2m）に頻繁に入るとき

キーレスアクセス&プッシュスタート機能停止中は、アクセスキーのボタンで解錠・施錠してください。

エンジンを始動するときには、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れてから操作する必要があります。

☞P.390参照

知 識

設定変更はSUBARU販売店でもできます。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

機能を停止させるとき

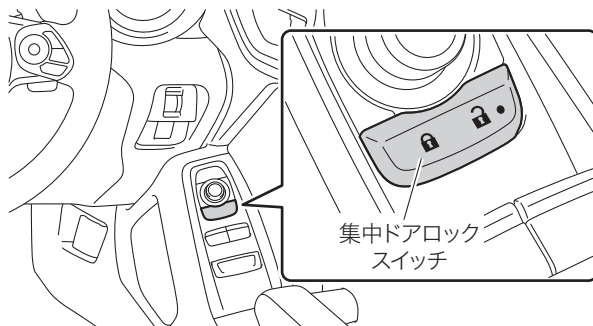
機能を停止するには、ドア開閉による方法とアクセスキーによる方法があります。

注 意

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、必ずドア開閉による方法で機能停止または復帰させてください。
ー アクセスキーによる方法は誤操作により機能が復帰する可能性があります。

■ ドア開閉による方法

1. 運転席に座りドアを閉めます
2. 集中ドアロックスイッチの（解錠）を押す
3. 手順2.の操作後、5秒以内に運転席ドアを開ける
4. 手順3.の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの（解錠）を2回押す
5. 手順4.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を2回行う
6. 手順5.の操作後、10秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの（解錠）を2回押す
7. 手順6.の操作後、10秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を1回行う
8. 手順7.の操作後、5秒以内にドアを閉める
ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

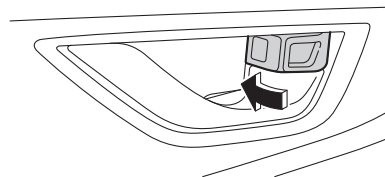


知識

手順4.および6.では、集中ドアロックスイッチを確実に押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しない場合があります。

■アクセスキーによる方法

1. 運転席のドアを開け、ドアロックノブを前側に押す



2. アクセスキーの  ボタンおよび  ボタンを同時に5秒以上押す

ブザー（ピー）が約2秒間鳴り、機能が停止します。

知識

アクセスキーによる方法は、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号を登録すると使用することができます。

🔑 P.118参照

機能を復帰させるとき

選択した機能停止手順をもう一度行くと、機能を復帰させることができます。

このときブザー（ピッ）が鳴ります。



知 識

- どちらの機能停止方法を行ったか分からなくなった場合、プッシュエンジンスイッチを押してください。
 - ー アクセスキーによる方法で機能を停止した場合、室内ブザー（ポーン）が鳴ります。
 - ー ドア開閉による方法の場合、ブザーは鳴りません。

節電機能

自動節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の場合自動的に節電機能が働きます。

- すべてのドアを施錠した状態で2週間以上キーレスアクセス機能およびアクセスキーのボタンを使用しない場合
- すべてのドアを施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

■復帰方法

次のいずれかの操作で復帰します。

- 運転席のドアハンドルを握って解錠する。
- 運転席のドアハンドルのタッチセンサーに触れて施錠する。
- 車外のトランクオープナースイッチを押して解錠する。
- アクセスキーのボタンで解錠または施錠する。
- メカニカルキーで解錠し、施錠する。

手動節電機能

アクセスキーの電池の消耗を抑えるため、アクセスキーによる電波の受信待機を停止します。

■設定方法

アクセスキーの  ボタンを押しながら  ボタンを2回押します。その際、アクセスキーのLED表示灯が4回点灯することを確認します。

■復帰方法

アクセスキーのいずれかのボタンを押します。

警告音および警告表示

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、割り込み画面を表示します。

🔊 **P.95**参照

この場合は適切な処置を行ってください。

警告一覧表

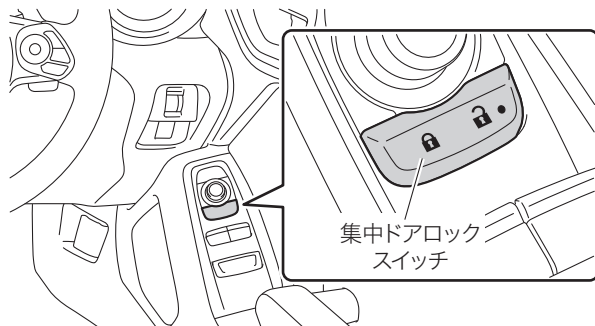
室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン、ポーン … (断続)	—	プッシュエンジンスイッチが ACC のとき、運転席ドアを開けた (オートマチック車はセレクトレバーが“P”のとき)。	運転席ドアを閉めてからプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 一車両から離れるときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
		運転席ドアが開いているとき、プッシュエンジンスイッチをOFFにした。	運転席ドアを閉めてください。
ポーン	ピー (2秒間)	閉じ込み防止警告 集中ドアロックスイッチの  (施錠) またはアクセスキーの  ボタンを押し、アクセスキーを車内に置いたままドアロックノブでドアを施錠しようとした。 ☞ P.120 参照	アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 一室内にアクセスキーがある状態では施錠できません。 一警報音とともにすべてのドアとフューエルリッドが解錠されます。
—	ピー (2秒間)	トランク閉じ込み警告 すべてのドアが施錠されている状態 (もしくは自動施錠のカウント中) で、トランクにアクセスキーを放置したままトランクを閉めた。	トランクからアクセスキーを取り出した上でトランクを閉めてください。 一警報音の後、車外のトランクオープナースイッチを押せばトランクを開けることができます。
		キー置き忘れ警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、アクセスキーが車内にある状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた。	アクセスキーを車外に持ち出した上で施錠操作を行ってください。 一室内にアクセスキーがある状態では施錠できません。
—	ピー (5秒間)	半ドア警告 プッシュエンジンスイッチがOFFのとき、いずれかのドアが開いている状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた、またはアクセスキーの  ボタンを押した。	ドアを確実に閉めて施錠操作を行ってください。 一いずれかのドアが開いている状態では施錠できません。

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン	ピーーー (最長60秒間)	<u>プッシュエンジンスイッチ切り忘れ警告</u> プッシュエンジンスイッチがOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態でドアハンドルのタッチセンサーに触れた（オートマチック車はセレクトレバーが“P”のとき）。	- アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。 - ープッシュエンジンスイッチをOFFにしないと施錠できません。
ポーン	ピッ ピッ ピッ (3回)	<u>キー持ち出し警告</u> プッシュエンジンスイッチがOFF以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席ドアを閉めた（オートマチック車はセレクトレバーが“P”のとき）。	プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。
		<u>同乗者のキー持ち出し警告</u> プッシュエンジンスイッチがOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた。	アクセスキーを車内に戻すか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
ピーーー（連続）	—	<u>セレクトレバー位置警告（オートマチック車）</u> - プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、運転席ドアを開けた。 - プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“P”以外のとき、プッシュエンジンスイッチを押してACCにした。	- セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。 - ープッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ピーーー（連続）	ピーーー（連続）	<u>セレクトレバー位置警告（オートマチック車）</u> プッシュエンジンスイッチがOFF以外でセレクトレバーが“P”以外のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て運転席のドアを閉めた。	- セレクトレバーを“P”にし、プッシュエンジンスイッチをOFFにした上で車外に出てください。 - ープッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーが“R”のときは、“R”のブザーが優先されます。
ポーン、ポーン …（約7秒間）	—	<u>キーなし警告</u> 車内にアクセスキーがない状態で走行した。	アクセスキーを携帯して走行してください。

車内から施錠・解錠する

すべてのドアを施錠・解錠する

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの (施錠) を押すとすべてのドアとフューエルリッドが施錠されます。 (解錠) を押すとすべてのドアとフューエルリッドが解錠されます。

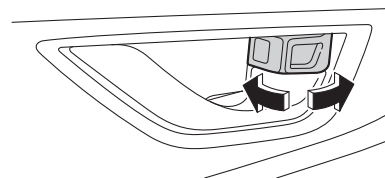


⚠ 注意

- 集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。
ー ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは、集中ドアロックは作動しません。

各ドアを施錠・解錠する

ドアロックノブを後ろ側に引くと解錠され、前側に押すと施錠します。

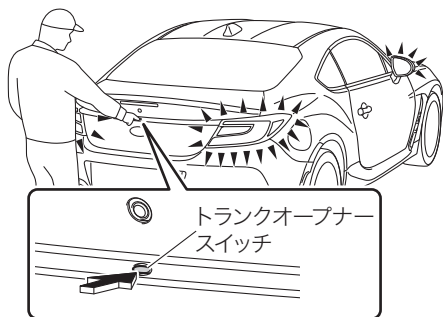


その他の施錠・解錠

暗証コード式キーレスエントリーで解錠する

5ケタの暗証番号を登録しておくと、トランクオープナースイッチを押すことによりアクセスキーを使わず、すべてのドアとフューエルリッドを解錠することができます。

☞P.119参照



暗証番号の登録方法

1. プッシュエンジンスイッチをOFFにする
2. すべてのドア（トランク含む）を閉める
3. アクセスキーの  ボタンを押し続ける

このときすべてのドアとフューエルリッドが施錠されます。

4. 操作3.の状態のまま5秒以内に車外のトランクオープナースイッチを押し続ける

5秒以上経つとブザーが鳴り始めます。

5.  ボタンと車外のトランクオープナースイッチから手を離す
6. ブザーが鳴ってから30秒以内にアクセスキーの  ボタンを押す

このときブザーが止まります。

7. 暗証番号を登録する

トランクオープナースイッチを、1ケタ目に設定したい数字の回数分押します（「32468」の場合：3回）。

知 識

- 盗難防止のため、5ケタとも同じ数字や12345の登録はできません。また、お車の登録番号や簡単なものは避けてください。
- 0を登録するときは10回トランクオープナースイッチを押してください。

8. ブザーが1回鳴るのを待ち、次の数字の回数分押す（「32468」の場合：2回）

9. 手順8.を繰り返し、5ケタの数字を入力する

10. ブザーが断続的に鳴り始めてから約30秒以内に番号の再確認のため、手順7.から9.までの操作を行う

登録が完了すると、すべてのドアとフューエルリッドが解錠から施錠となります。

知識

- 登録操作を間違えた場合は、一度ドアまたはトランクをアクセスキーのボタンで解錠し、登録をキャンセルしてください。
- その後手順1.から登録操作を始めてください。ただし、手順11.で押し間違えた場合は、再度ブザーが鳴ってから、手順11.をもう一度やり直すことができます。
- 暗証番号を消去するときは、同じ手順で22222を登録します。
- 新しい暗証番号を登録したら必ず解錠することを確認してください。
- アクセスキーによる方法でキーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止している場合、暗証コード式キーレスエントリーの暗証番号は、消去できません。
☞P.112参照
- 次の場合は、同じ手順で暗証番号を登録しなおしてください。
 - 暗証番号を忘れてしまった
 - 暗証番号を変更したい
- 暗証番号は定期的に変更してください。
- 他人にお車を貸したときは、暗証番号が変更または消去されていないか確認してください。変更または消去されているときは、新しい暗証番号を登録しなおしてください。

解錠方法

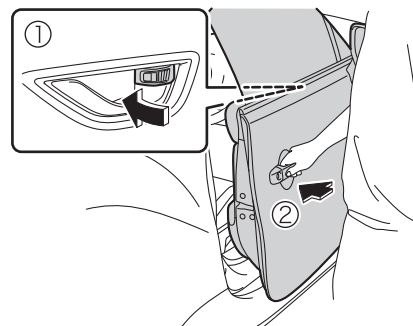
手順7.~10.と同じ手順でトランクオープナースイッチを押してください。

知識

- アクセスキーが作動エリア内にあるときはキーレスアクセスの動作が優先されます。
- 解錠中に操作を間違えた場合は、5秒以上待って最初からやり直してください。
- 連続5回操作ミスをするるとブザー（ピー）が約2秒間鳴り、5分間操作を受け付けません。

ドアロックノブで車外から施錠する

1. ドアロックノブを前側に押す
2. ドアハンドルを引いたままドアを閉める





知 識

操作したドアのみ施錠されます。

キーを差し込んで施錠・解錠する

アクセスキーが作動しないときは、メカニカルキーを使って運転席を解錠することができます。

☞P.389参照



知 識

- 盗難警報装置を作動させた状態でメカニカルキーを差し込んで解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。ドアを開けた場合、警報が作動します。
- メカニカルキーを差し込んで施錠したときは、盗難警報装置は作動しません。

☞P.133参照

トランクのみ開ける

☞P.128参照

キー閉じ込み防止機能

アクセスキーが車内に残された状態で、ドアが施錠されないようにする機能です。



知 識

SUBARU販売店で、キー閉じ込み防止機能を作動なしに設定することができます。

キー閉じ込み防止機能が作動するとき

- 運転席のドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの  (施錠) を押したとき (プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき)
- アクセスキーを車内に置いたまま、ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき (キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止していないとき)



知 識

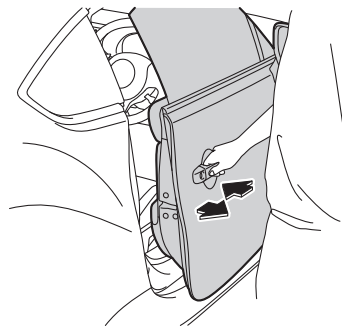
- キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止したときは、ドアロックノブで施錠しても作動しません。
- スペアキーを使って施錠したときは作動しません。
- 車外に出るときには、必ずアクセスキーを持っていることを確認して施錠してください。

ドア・ウィンドウの開閉

ドア

ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。
ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



⚠ 注意

- ドアを開閉するときは傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアガラスの上端を持ってドアを閉めないでください。ドアガラスで指などを挟むおそれがあります。



知 識

ドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

パワーウインドウ

パワーウインドウは、ブッシュエンジンスイッチがONのとき使用することができます。

⚠ 警告

乗員の操作を含め、ウインドウの開閉操作の責任は運転者にあります。

パワーウインドウを開閉するときは次のことをお守りください。思わぬ事故やけがにつながるおそれがあります。

- 開閉する前に窓から顔や手を出したり、窓に触ったりしていないことを確認する。
- 小さなお子さまにはスイッチを操作させない。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロック状態にしておく。

🔧 P.123参照

- 必ずブッシュエンジンスイッチをOFFにしてキーを携帯し、お子さまも連れて車から離れる。

⚠ 注意

- ウインドウの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。
ー パワーウインドウの故障の原因になります。

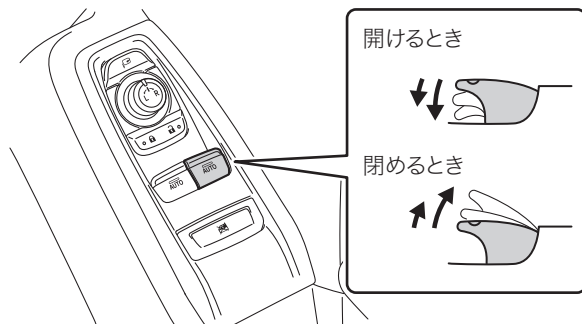


知識

エンジンが始動していないときに複数のウインドウを同時に開閉した場合、バッテリー電圧が低下していると自動全開（全閉）作動が停止することがあります。その場合、エンジンを始動してからもう一度操作をしてください。

開閉のしかた

スイッチを軽く押すと、押している間は開きます。
強く押すと、自動で開きます。途中で止めるには、スイッチを引きます。
スイッチを軽く引くと、引いている間は閉まります。
強く引くと、自動で閉まります。途中で止めるには、スイッチを押します。



リモート開閉機能

SUBARU販売店で、アクセスキーのボタンを長押しするとパワーウインドウの開閉ができるよう設定することができます。

 ボタン：長押し約3秒後に開作動

 ボタン：長押し約3秒後に閉作動

オフディレイ機能

エンジンを止めた後でも約40秒間は開閉することができます。

知 識

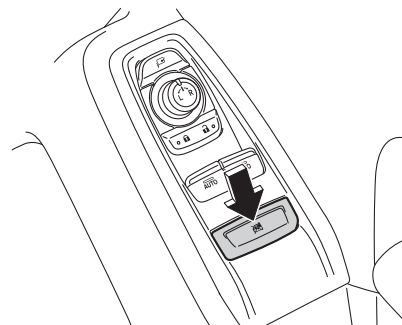
- 開閉ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。
- スwitchの照明が点灯している間にドアを開けると、ウインドウの開閉はできなくなります。

ウインドウロック機能

お子さまなどの誤操作によるパワーウインドウの開閉を防止したいときに使用します。

運転席のロックスイッチを押して運転席以外のスイッチをロックできます。

ロック状態のときは、運転席で、照明が点灯しているスイッチのみ操作できます。



ウインドウ反転機能

ウインドウを閉めているときに窓枠とウインドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

⚠ 注意

ウインドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない部分があります。指などを挟まないようにしてください。

🏠 知識

- 環境や走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドウに加わるとウインドウ反転機能が作動することがあります。
- ウインドウ反転機能が作動した後、数秒間はウインドウを閉めることができません。
- 異物を挟み込んでいないのにウインドウを全閉にできないときは、スイッチを強く引き続けて反転機能を2回以上作動させ、一度スイッチを戻してから再度強く引き続け、全閉にしてください。それでも全閉にならない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

ウインドウ巻き込み防止機能

ウインドウを開けているとき、異物を巻き込むと作動が停止します。



知識

異物を巻き込んでいないのにウインドウ巻き込み防止機能が作動してウインドウを全開にできないときは、ウインドウ巻き込み防止機能が作動してから約4秒以内に一度スイッチを離してもう一度軽く押し続け、全開にしてください。それでも全開にならない場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

パワーウインドウの初期設定

パワーウインドウの機能が正常に作動しなくなったときは、初期設定をしてください。

パワーウインドウの初期設定をしないと、次の機能は作動しません。

- ウインドウの自動全開（全開）
- ウインドウ反転機能
- 運転席からの助手席ウインドウのリモート操作

初期設定のしかた

運転席、助手席それぞれのスイッチで行います。

1. すべてのドアが閉まっていることを確認する
2. プッシュエンジンスイッチをONにする
3. スwitchを下に押し続けてウインドウを全開にし、全開後、約1秒間スイッチを下に押し続ける
4. スwitchを上を引き続けてウインドウを全閉にし、全閉後、約1秒間スイッチを上を引き続ける

ウインドウが動かないなど初期設定ができない、または初期設定をしてもパワーウインドウが正しく作動しない場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。

フューエルリッド (燃料給油口)

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボディなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。
また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- フューエルキャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、フューエルキャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでフューエルキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。

⚠ 警告

- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠ 注意

- 燃料は、無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。
ー 無鉛プレミアムガソリンが入手できないときなどは、無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジンの性能を十分に発揮できないおそれがあります。また、ノッキングが起りやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。
- ー 日本産業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。
- 上記以外の燃料などを使用しないでください。エンジンの出力が低下したり、部品が損傷したりするおそれがあります。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

🏠 知識

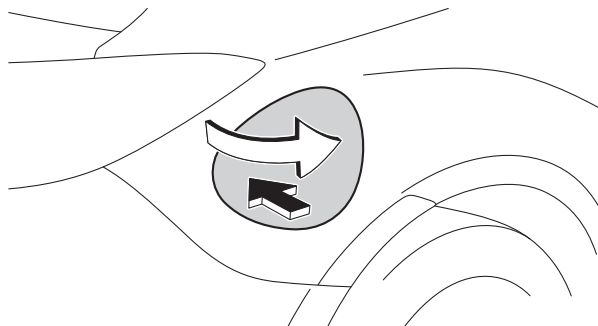
燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤のご使用をおすすめします。

給油口を開けるには

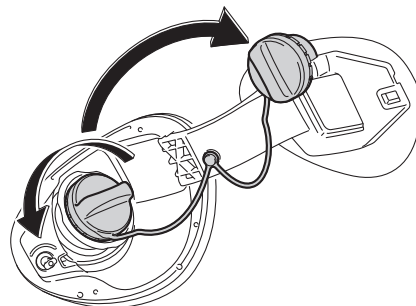
1. 次のいずれかの操作を行い、フューエルリッドを解錠する
 - キーレスアクセス機能、アクセスキーのボタンで解錠操作をする。
 - 集中ドアロックスイッチの  (解錠) を押す。

2. フューエルリッドの後端を押す

“カチッ”と音がするまで押し、手を離すとフューエルリッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



3. フューエルキャップをゆっくりまわして開け、ハンガーに付ける

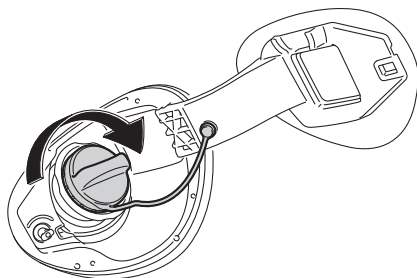


知 識

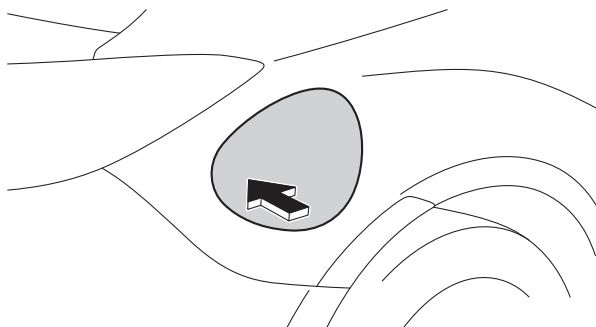
- ドアが解錠されている状態でフューエルリッドの後端を押してもフューエルリッドが開かないとき
☞P.388参照
- ドアロックノブで解錠した場合、フューエルリッドは解錠されません。

給油口の閉めかた

1. フューエルキャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める
手を離すと、フューエルキャップが逆方向に少しもどります。



2. フューエルリッドを閉め、フューエルリッドの車両後端の中央部分を“カチッ”と音がするまで押す
ドアを施錠するとフューエルリッドも施錠されます。



⚠ 警告

フューエルキャップが正常に閉まらないときは必ずSUBARU販売店へご連絡ください。正常に閉まらないフューエルキャップをそのまま使用したり、純正品以外のフューエルキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

🏠 知識

- フューエルリッドを閉める前にドアを施錠すると、フューエルリッドを閉めても施錠されません。フューエルリッドを閉めた状態でドアを施錠してください。
- ドアロックノブで施錠したとき、ドアが施錠されてもフューエルリッドは施錠されません。

トランク

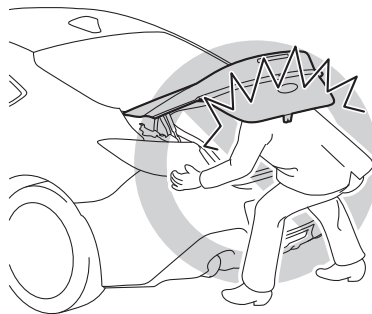
トランクオープナースイッチやキーレスアクセス&プッシュスタートシステム、アクセスキーのボタンを使って開けることができます。

⚠ 警告

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- － 走行前にトランクが閉まっていることを必ず確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- － トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- － お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- 走行中にトランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トランクの使用にあたって次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

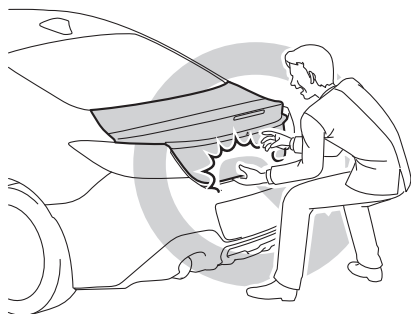
⚠ 警告

- － トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- － トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- － 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- － 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- － 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



⚠ 警告

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。



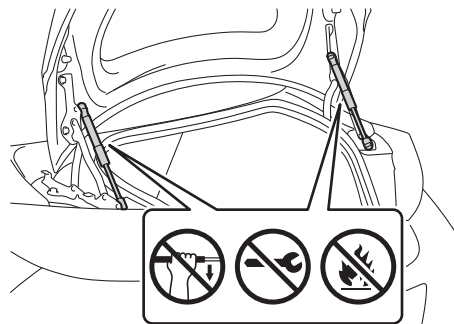
- トランクダンパーステーを持ってトランクを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、トランクダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- トランクリッドにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

⚠ 注意

- トランクを閉めるときにはトランクを上から強く押しつけないでください。トランクがへこむことがあります。
- トランクを開閉するときは排気ガスに触れないようにしてください。エンジンをかけたままのときは、排気ガスの熱でやけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

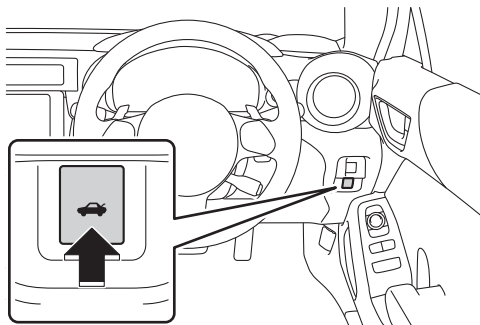
- トランクにはトランクリッドを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。
ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ロッド部を軍手などでふれない
 - トランクリッドにスバル純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ガスステーについて次のことをお守りください。
 - ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない
 - ステーを分解しない
 - ステーを火の中に入れない



トランクを開閉するには

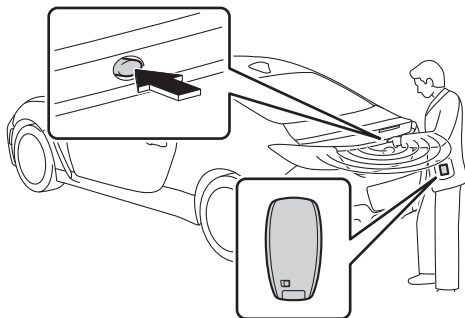
トランクオープナースイッチを使用して開く

スイッチを長押しする



キーレスアクセス機能を使用して開く

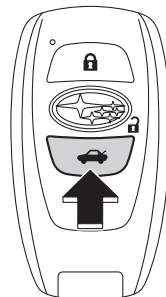
アクセスキーを携帯し、トランクオープナースイッチを押す



アクセスキーのボタンを使用して開く

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。



知 識

- トランクを開けたとき、トランクルームランプ（装備車のみ）が点灯します。トランクを使用しないときは、トランクを閉めてください。バッテリー上がりの原因になります。
- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内にアクセスキーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合は車外のトランクオープナースイッチを押すと、トランクを開けることができます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のアクセスキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべてのアクセスキーを携帯してください。



知 識

- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内にアクセスキーを置いて、アクセスキーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内のアクセスキーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ずアクセスキーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。
- キーレスアクセス&プッシュスタートシステムやアクセスキーが作動しないときにアクセスキーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。

☞ **P.361** 参照

- 次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、アクセスキーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。
 - － キーレスアクセス&プッシュスタートシステム
 - － アクセスキーのボタン
 - － 集中ドアロックスイッチ
- カスタマイズ機能で機能の一部は、設定を変更することができます。

☞ **P.420** 参照

セキュリティシステム

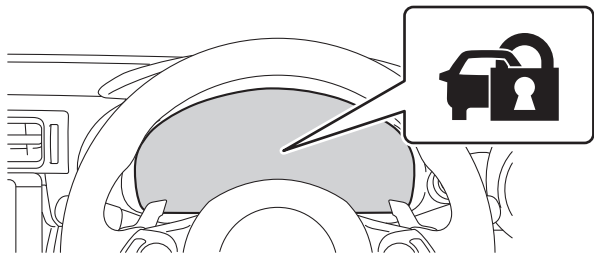
イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

アクセスキーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたアクセスキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にアクセスキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたアクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

⚠ 注意

イモビライザーを正常に作動させるためにシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

🏠 知識

- エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。
- 次の場合、システムが正常に作動しないときがあります。
 - アクセスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
 - アクセスキーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

盗難警報装置

盗難警報装置とは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

施錠されたドアまたはトランクが、キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使わずに解錠されたり開けられると、盗難警報装置が作動します。

盗難警報装置を設定／解除／停止する

ドアを施錠する前の確認

盗難警報装置の思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

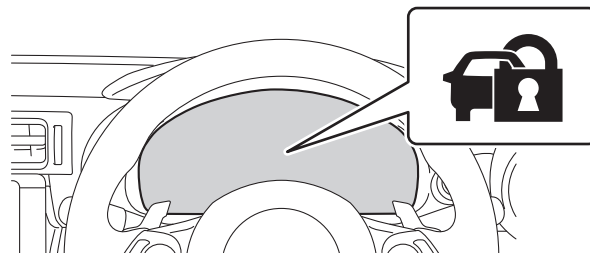
盗難警報装置を設定するには

ドア・トランクを閉め、キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使って施錠します。

30秒以上経過すると、自動的に設定されます。

盗難警報装置がセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

インジケーター点灯中にドアの解錠操作やプッシュエンジンスイッチをACCにすると、盗難警報装置は設定されません。



盗難警報装置を解除／停止するには

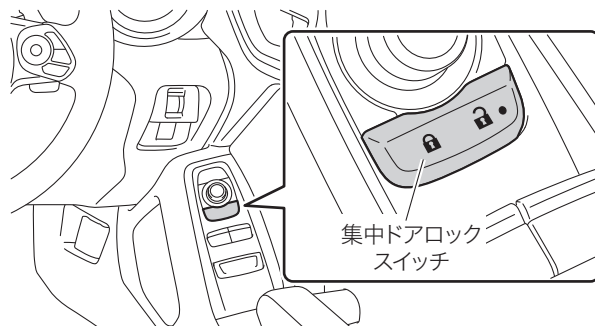
次のいずれかを行ってください。

- キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使ってドアを解錠する
- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにするか、エンジンを始動する

盗難警報装置作動／非作動の切りかえ

1. すべてのドアが閉まっていることを確認する
2. プッシュエンジンスイッチをONにする
3. 集中ドアロックスイッチの  を押すと同時に運転席ドアを開け、約10秒間保持する

次のように作動／非作動が切りかわります。

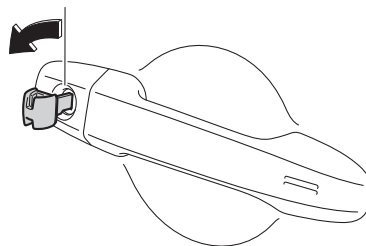


盗難警報装置の状態	ホーン	メーター表示
非作動	2回吹鳴	“AL OFF”
作動	1回吹鳴	“AL ON”

知識

- トランクを開けたままで設定操作をした場合、盗難警報装置は設定されません。トランクを閉め、30秒以上経過すると設定されます。
- 盗難警報装置設定時、キーレスアクセス&プッシュスタートシステム・アクセスキーを使ってトランクを解錠すると、盗難警報装置が待機状態になります。トランクを閉めて30秒以上経過すると、再度盗難警報装置が設定されます。
- 次のような場合、盗難警報装置が作動することがあります。盗難警報装置を解除・作動を停止する操作を行ってください。

ー メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



知識

- 盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。
- 盗難警報装置のメンテナンスは不要です。

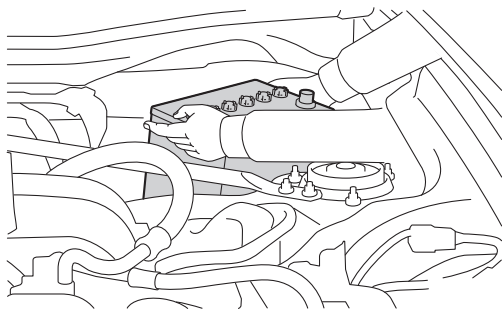
 知識

- ー 車内に残った人が、ドア・トランクを開けたり、ドアロックノブで解錠したとき



- ー 施錠後、バッテリー上がりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

 **P.391**参照

 **注意**

盗難警報装置を正常に作動させるためにシステムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

運転前の調整

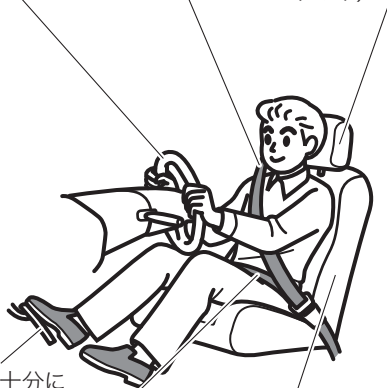
正しい運転（乗車）姿勢

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

ハンドル操作が
楽にできること
(運転席)

ねじれ、たるみがなく
肩に十分かかること

ヘッドレストの中央が
耳の後方にくること
(フロントヘッドレス
トのみ)



ペダルが十分に
踏み込めること
(運転席)

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること

背もたれは立て過ぎず寝かし過ぎず、
適正な角度とし、背中を離さず深く
腰掛けること
(ハンドルに近づき過ぎないこと)

警告

安全な運転のために次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席やハンドル等の調整をしないでください。
 - ー 運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
 - ー 正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
 - ー ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

⚠ 警告

- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
 - ー また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。

☞ P.44 参照

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。

☞ P.66 参照

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、ルームミラー・ドアミラーを正しく調整してください。

☞ P.145、146 参照

フロントシート

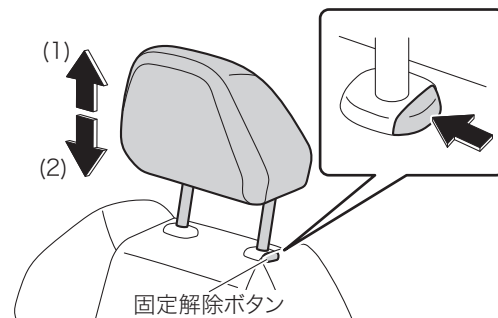
ヘッドレスト

⚠ 警告

ヘッドレストについて、次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する。
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する。
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する。
- ヘッドレストを外したまま走行しない。

上下調整するには



(1) 上げる

(2) 下げる

下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作します。



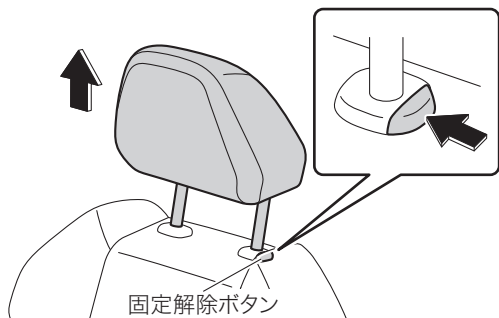
知 識

ヘッドレストの高さについて、必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

ヘッドレストを取り外すには

固定解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げる

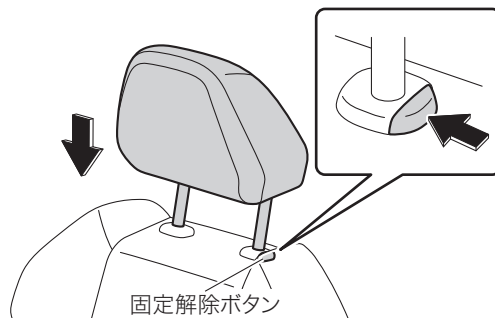
ヘッドレストが天井にあたって取り外しにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。



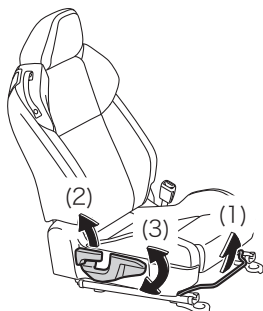
ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げる

さらに下げるときは、固定解除ボタンを押しながら操作してください。



調整のしかた



- (1) スライド調整
- (2) リクライニング調整
- (3) シート全体の上下調整（運転席のみ）

リヤシートへの乗り降り

リヤシートへ乗り降りするには、ウォークインレバーかリクライニング調整レバーを操作します。

乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトを外してください。

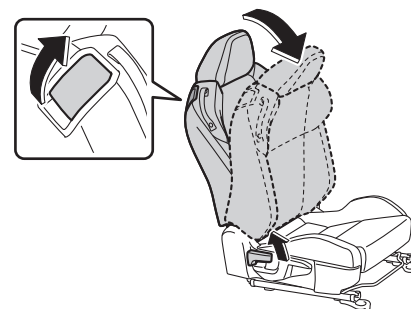
☞P.47参照

乗り降りするとき

■運転席側

ウォークインレバーまたは、リクライニング調整レバーを引く背もたれが前倒しされます。

リヤシートへ乗り降りしにくい場合は、シートを前に移動させてください。

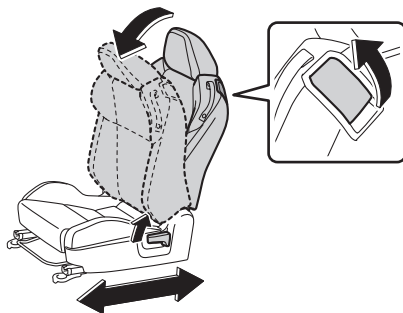


■助手席側

ウォークインレバーまたは、リクライニング調整レバーを引く

背もたれが前倒しされます。

シートを前後に移動させることができます。



乗り降りしたあとは

背もたれを起こし、シートを固定させてください。

助手席のみ：背もたれを起こした位置でシートの前後位置が固定されます。

⚠ 警告

- シートを調整するときは、シートの下や動いている部分に手を近付けしないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- シートを調整するときは、背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部分のベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中は絶対にスライド調整やウォークインレバーまたはリクライニング調整レバーを操作しないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- シートを調整するときは、同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。とくにシートをうしろに下げるときは、リヤシートの乗員の足を挟んだりしないように注意してください。
- シートを調整するときは、足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。
- フロントシートへ乗り降りするときは、身体が座部のサイドサポート部にあたらないようにしてください。シートに擦り傷がつくことがあります。
- リヤシートへ乗り降りするときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意

- リヤシートへ乗り降りするときは、シートレールにつまづいて転倒しないよう注意してください。
- リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。
- フロントシートに乗員がいるときはリヤシートからフロントシートの操作をしないでください。
- シートを調整するときは、ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

🏠 知識

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

シートヒーター❧

フロントシートの表面を暖めることができます。

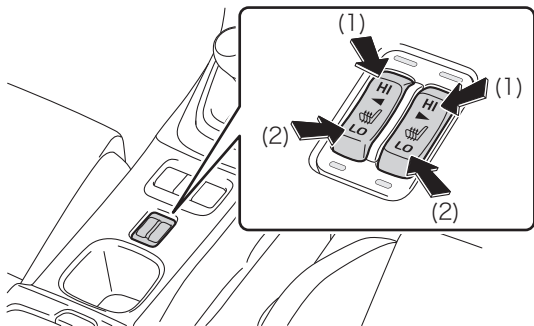
⚠ 注意

- 低温やけどについて、次の方がシートヒーターにふれないようご注意ください。
 - － 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
 - － 皮膚の弱い方
 - － 疲労の激しい方
 - － 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方
- シートヒーターの損傷を防ぐために、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- バッテリー上がりを防ぐために、エンジンが停止した状態で使用しないでください。
- 異常加熱や低温やけどを防ぐために、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - － 長時間連続使用しない
 - － 毛布・クッションなどを使用しない

操作スイッチについて

スイッチを押してフロントシートを暖める

作動するとインジケーターが点灯します。



(1) 早く暖めたいときに使います。暖まったら2の位置にします。

(2) 保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

プッシュエンジンスイッチがONのとき作動します。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

1. フロントシートを前方に移動する

☞ P.139参照

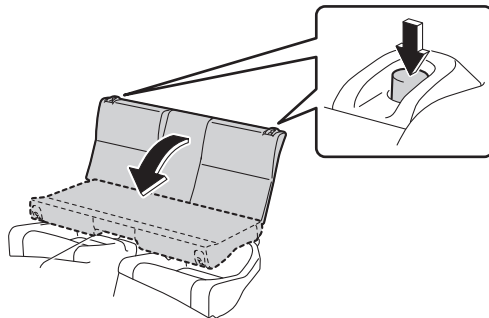
2. 背もたれを倒す

ロック解除ボタン

ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

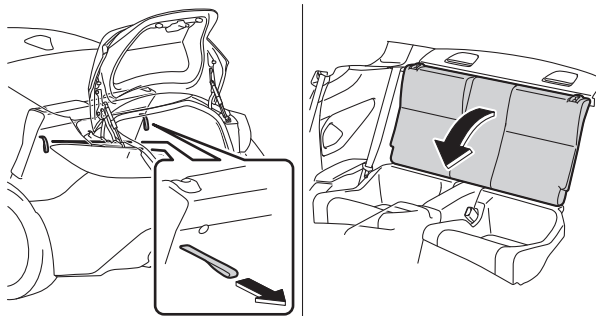
ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

もどすときは、背もたれを起こして固定します。



ロック解除ストラップ

トランク内のストラップを引き、背もたれを前方に倒す
もどすときは、背もたれを起こして固定します。

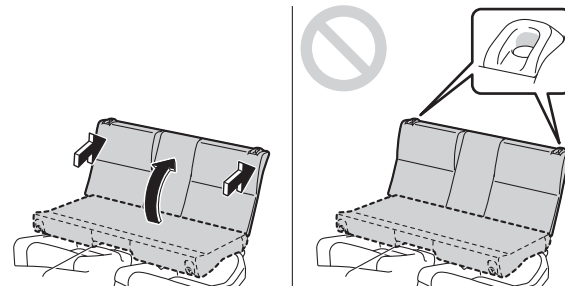


⚠ 警告

- 背もたれを前倒しするときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ー 走行中にリヤシートを操作しない
 - ー 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではセレクトレバーを“P”に、マニュアル車ではチェンジレバーをニュートラルにする
 - ー 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
 - ー お子さまがトランクに入らないよう注意する
- 背もたれをもとにもどしたあとは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

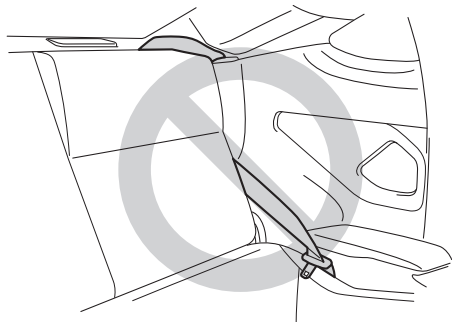
- ー シートを押して固定し、前後に軽くゆさぶりで確実に固定されていることを確認する。シートが確実に固定されていないときは、ボタンの奥に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



- ー シートベルトを挟み込まないように背もたれをもとにもどす

⚠ 警告

- リヤシートベルトを使用する前に、シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいますとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。



🏠 知識

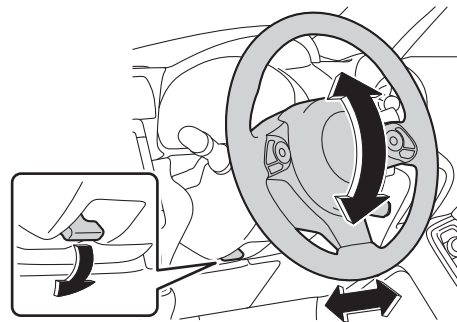
納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

ステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下または前後に調整することができます。

ハンドルの位置を調整する

1. ハンドルを持ち、レバーを下げる
2. ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

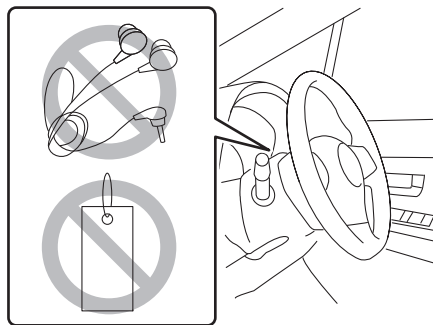


⚠ 警告

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ハンドル位置を調整したあとはハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。
 - ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っ掛けたりしない。
- ー スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

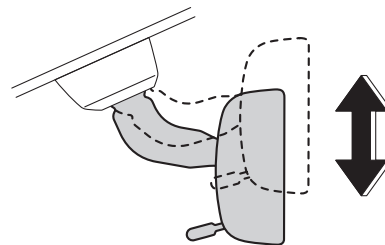
**ルームミラー**

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてルームミラーの高さを調整することができます。

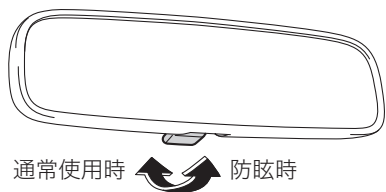
ルームミラー本体を持って、上下方向に調整する

**⚠ 警告**

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



警告

思わぬ事故につながるおそれがありますので、防眩への切り替えは必要なおきのみ行ってください。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

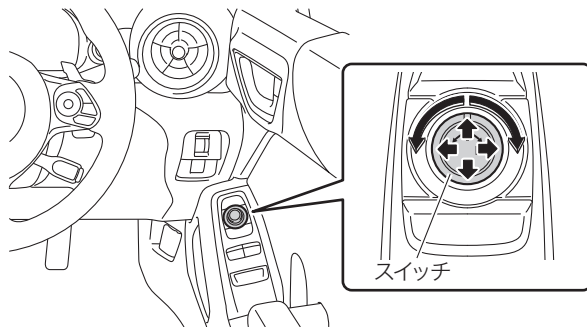
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない。
- ドアミラーを格納したまま走行しない。
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する。

調整するには

1. スイッチをL側（助手席側）またはR側（運転席側）にまわす
2. スイッチを上下左右に動かして調整する



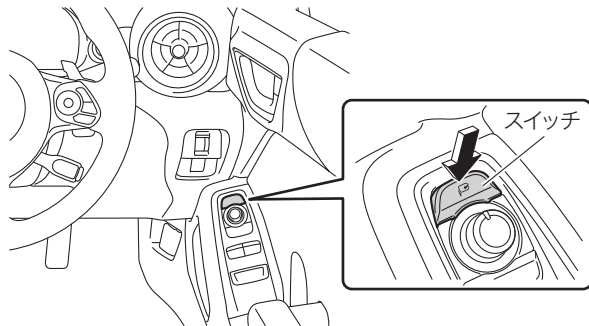
知識

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに鏡面調整ができます。

ドアミラーを格納・復帰するには

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置に戻ります。



警告

- ミラーが動いているときは手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。
- ヒーテッドドアミラーが作動中は、ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

知識

- ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。
- ミラーが曇ったとき、リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ヒーテッドドアミラーが同時に作動し、曇りを取ることができます。
🔗P.315参照
- 手でドアミラーを動かした場合、格納スイッチを操作しても正しく動かないことがあります。この場合は、再度格納スイッチを操作して格納・復帰を繰り返してください。
- 格納スイッチを連続して操作すると、正常に作動しないことがあります。異常ではありませんので、しばらく待ってから操作してください。

運転前の点検

冬がくる前に

冬がくる前に準備や点検をしてください。

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ー エンジンオイル
 - ー ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

🔧 P.357、358参照

知 識

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。SUBARU販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 寒冷地用ワイパーブレードは高速走行時、通常のワイパーブレードよりガラスをふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

雪や霜の除去

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。
- ブレーキシステムに雪や氷が付着したまま凍結するとブレーキの効きが悪くなることがあります。
- 走行前に付着している雪や氷を取り除いてください。
- 走行を開始するとき、お車や道路の状況に十分注意してブレーキの効きを確認してください。効が悪い場合には、回復するまで走行中にブレーキペダルを軽く踏み続けてください。
- 繰り返しペダルを踏み続けてもブレーキの効きが回復しないときは、ブレーキの異常が考えられますので、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

注 意

ガラスに付いた氷を除去するときは、氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

4. 運転するとき

エンジンの始動と停止

エンジンをかける前に	150
エンジンの始動	152
エンジンの停止	154
警告音および警告表示	155

運転のしかた

セレクトレバーの操作方法（オートマチック車）	157
チェンジレバーの操作方法（マニュアル車）	161
ブレーキパッド（Bremboブレーキ装着車）	166
パーキングブレーキ	166
ウインカー（方向指示器）	167
ホーン	168
マニュアルモード（オートマチック車）	169
ドライブモードセレクト	171
アクティブサウンドコントロール	173
ヒルスタートアシスト	173
運転を補助する装置	176

ランプ類・ワイパーの使いかた

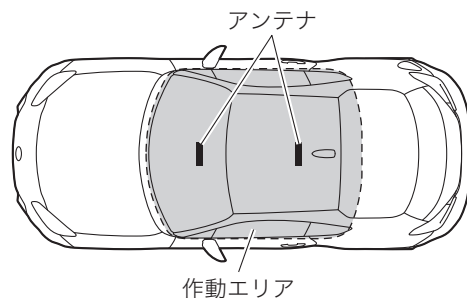
ランプ類	182
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）	186
画面やスイッチ類の明るさ調整	187
ワイパー & ウォッシャー	187

エンジンの始動と停止

エンジンをかける前に

エンジン始動の作動エリア

図の作動エリア内にアクセスキーがあるときにエンジンをかけることができます。



知 識

- ー グローブボックス内
 - ー ドアトリムのポケット内
 - ー リヤシート上
 - ー リヤシェルフ上
 - アクセスキーの電池が切れたときは、アクセスキーが作動しないときの操作を行ってください。その後すみやかに電池を交換するか、SUBARU販売店にご相談ください。
- ☞ P.361、389参照

知 識

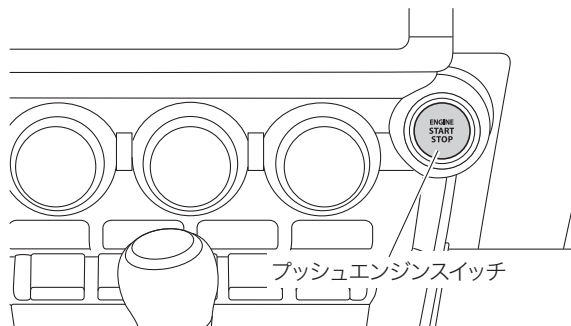
- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づきすぎたときはエンジンを始動できることがあります。
- アクセスキーを次の場所に置かないでください。正常に作動しなかったり、キーを車内に閉じ込んでしまったりするおそれがあります。
 - ー インストルメントパネル上
 - ー フロア上

プッシュエンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにプッシュエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

スイッチの状態	メーター表示	使用できる電装品
OFF※	—	ハザードランプが使用できる
ACC	“アクセサリー”	オーディオや電源ソケットなどが使用できる
ON	“イグニッション ON”	すべての電装品が使用できる

※ オートマチック車：セレクトレバーが“P”以外のときはACCになり、OFFになりません。



注意

- バッテリー上がりを防止するために次のことをお守りください。
 - ー エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。
 - ー エンジンがかかっていないときに、メーターの“アクセサリー”または“イグニッションON”の表示が消灯していない場合、プッシュエンジンスイッチがOFFになっていません。プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから車両を離れてください。

知識

オートマチック車：セレクトレバーが“P”にあるとき、20分以上ACCか30分以上ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、プッシュエンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリー上がりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車：20分以上ACCか30分以上ON（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、プッシュエンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリー上がりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、プッシュエンジンスイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

ステアリングロック機能

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。プッシュエンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。セレクトレバーが“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーがニュートラル（マニュアル車）にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらプッシュエンジンスイッチを短く確実に押してください。
- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10秒程度でもとの状態にもどりま

エンジンの始動

警告

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジンをかけるには

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. セレクトレバーが“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーがニュートラル（マニュアル車）の位置にあることを確認する
3. ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダルとブレーキペダル（マニュアル車）をしっかり踏む
マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
表示されないと、エンジンはかかりません。
4. プッシュエンジンスイッチを短く確実に押す
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。
エンジンが始動するまで最大10秒間スターターが回転します。
オートマチック車：完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
マニュアル車：完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルとブレーキペダルを踏み続けてください。
プッシュエンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動することができます。

 注意

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- エンジン始動時、10秒以上ブッシュエンジンスイッチを押し続けしないでください。
ー 故障の原因になります。
- エンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。
- オートマチック車：エンジン始動時、スターターがまわっている間はセレクトレバーを操作しないでください。
- ブッシュエンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにSUBARU販売店にご連絡ください。

 知識

- エンジンが始動しないときは、ブレーキペダル（オートマチック車）またはクラッチペダル（マニュアル車）から足を離し、ブッシュエンジンスイッチを一度OFFにしてください。10秒放置してからもう一度ブレーキペダル（オートマチック車）またはクラッチペダル（マニュアル車）を強く踏みながらエンジンを始動してください。
- エンジンが始動しないとき、始動操作に関する割り込み画面がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。
- バッテリーが上がったときは、キーレスアクセス&ブッシュスタートでエンジンを始動することができません。

 **P.391** 参照

 知識

- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。その場合はブッシュエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してから始動してください。始動直後はアイドリングが不安定になることがあります。異常ではありません。
- エンジンが始動しないときは、エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
SUBARU販売店へご連絡ください。
- エンジンの始動時に警告灯が点灯する場合があります。
点灯した場合は、走行前にいったんブッシュエンジンスイッチをOFFにして、10秒程度経過してからエンジンを再始動してください。
- 再始動後は、警告灯が消灯したこと、車からいつもと違うにおいや音、振動がないことを確認してください。

エンジンの停止

エンジンを停止するには

1. 車両を完全に停止させる
2. パーキングブレーキをかける
3. セレクトレバーを“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）の位置にする
4. プッシュエンジンスイッチを押す
エンジンが停止し、メーター表示が消えます。
5. ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“イグニッションON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 警告

- 走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、プッシュエンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。
ただし、緊急時以外は走行中にプッシュエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にプッシュエンジンスイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示され、警告ブザーが鳴ります。
- オートマチック車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、セレクトレバーを“N”にし、プッシュエンジンスイッチを押してください。

⚠ 警告

- マニュアル車：走行中にエンジンを緊急停止したあと、走行中にエンジンを再始動させる場合は、クラッチペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。

警告音および警告表示

キーレスアクセス&プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため、異常などを検知すると警告音が鳴り、割り込み画面を表示します。

🔊 **P.95**参照

この場合は適切な処置を行ってください。

警告一覧表

室内ブザー警報	室外ブザー警報	状況	対処方法
ポーン	—	<u>キーなし警告</u> 車内にアクセスキーがない状態でプッシュエンジンスイッチを押した。	アクセスキーを携帯してプッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	<u>キーバッテリー残量警告</u> プッシュエンジンスイッチをOFFにした。	アクセスキーの電池残量が低下しているので、電池を交換してください。
ポーン	—	<u>ステアリングロック未解除</u> エンジン始動操作をしたが、ハンドルのロックが解除されていない。	ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。
ポーン	—	<u>キーレスアクセス&プッシュスタート異常警告</u> 電源システムやステアリングロックの異常が検出された。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
ポーン	—	<u>車速信号異常警告</u> ※ プッシュエンジンスイッチをOFFにしたときに車速信号の異常が検出された。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
ポーン	—	<u>通信ライン故障警告</u> プッシュエンジンスイッチまたは通信ラインが故障した。	直ちにSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

※ 車速信号異常警告は、キーレスアクセス&プッシュスタート警告として表示されます。

運転のしかた

セレクトレバーの操作方法（オートマチック車）

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

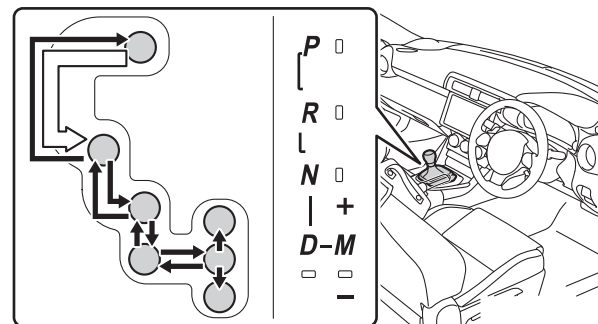
シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※1
	一時的なマニュアルモード走行 ☞ P.169参照
M	マニュアルモード走行※2 ☞ P.169参照

※1: 燃費向上や騒音の低減のために、通常はDポジションを使用してください。

※2: マニュアルモードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

セレクトレバーの動かししかた



プッシュエンジンスイッチがONの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。“P”と“D”のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

⚠ 警告

- セレクトレバーを操作する際は、次のことをお守りください。
- セレクトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、“R”に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
 - エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

⚠ 警告

- 車両が動いているあいだは、セレクトレバーを“P”に入れないでください。
 - ー トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、セレクトレバーを“R”に入れないでください。
 - ー トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、セレクトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
 - ー トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にセレクトレバーを“N”にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
 - ー セレクトレバーが“P”または“N”以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- すべりやすい路面を走行するときは、急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。
- 掃除等により、セレクトレバーのブーツを引き出した際は、もとに戻してください。ブーツが引き出されたままだと、セレクトレバーが操作しにくくなるおそれがあります。



知識

- セレクトレバーを“R”に入れるとリバース警告ブザーが鳴り、“R”にあることを運転者に知らせます。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使って走行しているときは、定速走行中であってもシフトダウンすることができます。シフトダウン後も設定した速度を保持します。
☞ P.169 参照
- 暖機中のアイドリング回転数が高いとき、かつ路面がすべりやすい状態のときは、自動的に2速での停止・2速からの発進となる場合があります。
- シフトロックシステムは、発進時のセレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。
プッシュエンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、セレクトレバーを“P”からシフトできません。
- セレクトレバーを“P”からシフトするとき、ブレーキペダルを踏む前にセレクトレバーを動かすと、レバーが操作できないことがあります。
- セレクトレバーを“P”からシフトできないとき
☞ P.387 参照

発進する

1. ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを“D”にする
2. パーキングブレーキを解除する
3. ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

⚠ 警告

- エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。
 - エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が高くなるため、クリーブ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

🏠 知識

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- カーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを強めに踏んだとき

上り坂で発進する

1. パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“D”にする
2. アクセルペダルをゆっくり踏む
3. 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

停車する

1. セレクトレバーは“D”のまま、ブレーキペダルを踏む
 2. 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
- 長時間停車する場合は、セレクトレバーを“P”にします。

⚠ 警告

- 空ぶかしをしないでください。
 - ー セレクトレバーが“P”または“N”以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
 - ー 排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

駐車する

1. セレクトレバーは“D”のまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
2. パーキングブレーキをかけて、セレクトレバーを“P”にする
3. プッシュエンジンスイッチを押してエンジンを停止する
4. ブレーキペダルからゆっくり足を離す
5. アクセスキーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。
※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

⚠ 警告

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ー ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ー プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ー 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
 - ー 吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
 - ー 直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“P”に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
 - ー パーキングブレーキをかけずにセレクトレバーを“P”にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
 - ー やけどをするおそれがあります。

寒い場所に駐車するとき

パーキングブレーキをかけておくと、パーキングブレーキが凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。

- セレクトレバーを“P”に入れます。
- セレクトレバーを“P”に入れた状態でセレクトレバーが動かないこと※1を確認します。
- 輪止め※2 (タイヤストッパー) をします。

※1: ブレーキペダルを踏まないで“P”からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

※2: 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

走行中の制御

セレクトレバーが“D”で走行中、スムーズな走りを実現するための制御を行います。

登降坂制御

走行中の路面勾配による駆動力とエンジブレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

アダプティブ制御

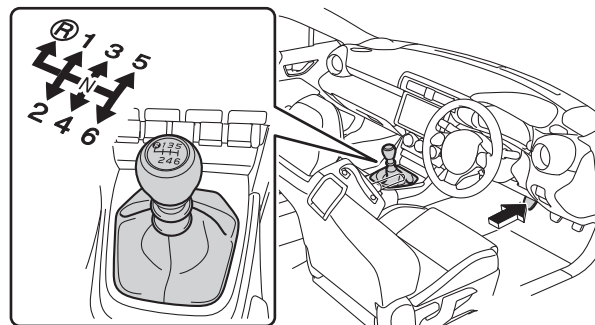
コーナリングの強さや連続性、アクセル操作などからスポーツ走行と判定した場合は、エンジンを高い回転数に保つことでエンジブレーキの効きを高め、アクセルペダルを踏んだときのレスポンスを向上させます。

チェンジレバーの操作方法 (マニュアル車)

操作のしかた

シフト操作のしかた

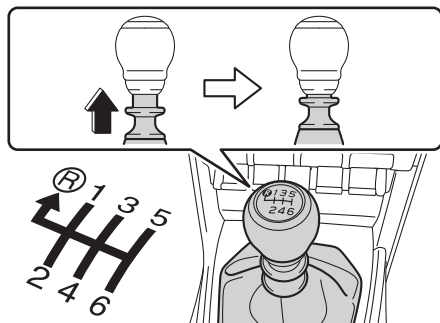
1. クラッチペダルをしっかり踏む
2. チェンジレバーを希望のシフト位置に入れる
シフト操作は一段ずつ行ってください。
3. クラッチペダルから徐々に足を離す



“R”へのシフト操作

プルカラーを引き上げながら、“R”に入れます。

チェンジレバーが“R”に入りにくいときは、チェンジレバーをニュートラルに入れ、クラッチペダルを踏み直してから、再度シフト操作してください。



⚠ 警告

チェンジレバーを操作する際は、次のことをお守りください。

- 車両が前進しているあいだは、チェンジレバーを“R”に入れないでください。
 - － トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、チェンジレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
 - － トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中にチェンジレバーをニュートラルにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
 - － チェンジレバーがニュートラル以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 掃除等により、チェンジレバーのブーツを引き出した際は、もとに戻してください。ブーツが引き出されたままだと、チェンジレバーが操作しにくくなるおそれがあります。

⚠ 注意

- シフト操作時は次のことを必ずお守りください。
 - お守りいただかないと、エンジン、トランスミッションやクラッチを損傷させるおそれがあります。
 - － クラッチペダルを踏まずにチェンジレバーを操作しないでください。
 - － “R”へシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。
 - － “R”へシフトするときは、車が停止した状態で行ってください。
 - － シフト操作時以外は、チェンジレバーから手を離してください。
 - － エンジンを過回転させないように、シフト操作は一段ずつ行ってください。
 - － クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。

⚠ 注意

- クラッチの摩耗・損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
クラッチが摩耗・損傷すると、アクセルを踏んでも車両が加速しにくくなったり、最悪の場合車両が発進できなくなったりします。
- ー シフト操作時以外は、クラッチペダルから足を離して運転する
- ー 1速以外での発進は避ける（雪道での発進以外）
- ー クラッチペダルで車速を調整しない
- ー チェンジレバーをニュートラル以外に入れたまま停止するときは、クラッチペダルを踏み込んでブレーキを使用する
- ー 坂道発進時など、必要以上に半クラッチのまま走行しない

🏠 知識

チェンジレバーを“R”に入れるとリバース警告ブザーが鳴り、“R”にあることを運転者に知らせます。

発進する

1. クラッチペダルを踏んだまま、チェンジレバーを“1”にする
2. パーキングブレーキを解除する
3. クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

上り坂で発進する

1. パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを“1”にする

2. アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す
3. 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

停車する

1. クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
2. 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、チェンジレバーをニュートラルにします。

⚠ 警告

- 空ぶかしをしないでください。
ー チェンジレバーがニュートラル以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
ー 排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

駐車する

1. クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
2. パーキングブレーキをかける
3. チェンジレバーをニュートラルにする
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてチェンジレバーを“1”または“R”にし、**輪止め※**を使用してください。
4. プッシュエンジンスイッチを押してエンジンを停止する
5. ブレーキペダルからゆっくり足を離す
6. アクセスキーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

警告

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ー ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ー プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ー 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

警告

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
 - ー 吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
 - ー 直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
 - ー やけどをするおそれがあります。

寒い場所に駐車するとき

パーキングブレーキをかけておくと、パーキングブレーキが凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。

- チェンジレバーを以下の位置に入れます。
 - 平地、下り坂：“R”
 - 上り坂：“1”
- 輪止め※ (タイヤストッパー) をします。

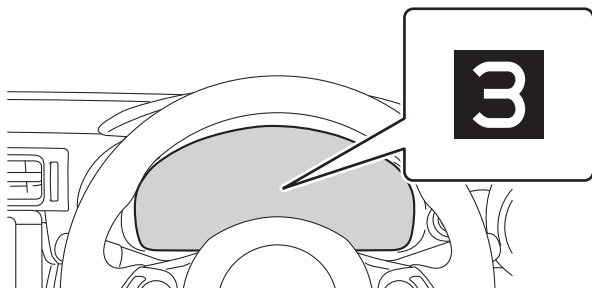
※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

シフトポジション表示

選択したシフトポジションをメーター内に表示します。

表示／非表示を切りかえることができます。

☞P.89、418参照

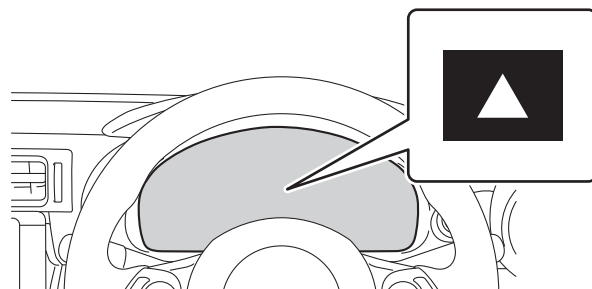


シフトアップ可能表示灯

燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップ可能表示灯が点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。

表示／非表示を切りかえることができます。

☞P.89、418参照



知識

次の場合、メーターにシフトポジションが表示されません

- チェンジレバーがニュートラルの位置にあるとき
- 車速が約10 km/h以下のとき（チェンジレバーが“R”の位置以外）
- クラッチペダルを踏んだとき（チェンジレバーが“R”の位置以外）

ブレーキパッド (Bremboブレーキ装着車)

Bremboブレーキは高性能なブレーキキャリパーとパッドを採用し、ブレーキ性能を高めたためブレーキ作動中※は、ブレーキの鳴きやダストが出やすい傾向にあります。異常ではありません。また、Bremboブレーキ非装着車と比べて、管理方法や使用環境により異音や振動が出やすい傾向にあります。

※ お客様ご自身でのブレーキ操作によるものに加えて、EyeSightによるブレーキ制御時も含みます。

ただし、パッドが摩耗して交換時期になると、ブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。

その場合はすみやかにSUBARU販売店で交換してください。

使用条件によっては、キャリパーの塗装のはがれや色味の変化が発生する可能性があります。

知識

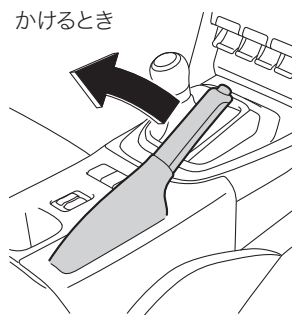
- 悪路、山道、登降坂路などブレーキパッドへの負荷が高い走行を繰り返すと、ブレーキディスク表面が高温になり変色する場合がありますが、ブレーキ性能に影響ありません。
- 極低温時に長時間駐車すると、ブレーキパッドとブレーキディスクが凍結し、発進しにくくなる場合があります。

パーキングブレーキ

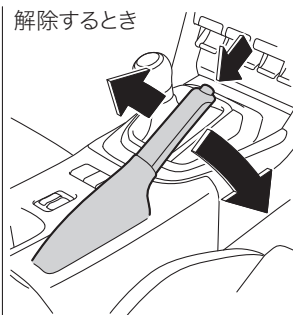
操作のしかた

1. パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
2. パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

かけるとき



解除するとき



注意

- 車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にし、車が動かないことを確認してください。

☞ P.160、164参照

⚠ 注意

- 走行前は、パーキングブレーキを完全に解除してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

📖 知識

- 駐車するとき
👉 P.160、164 参照
- ブレーキ警告灯が点灯したとき
👉 P.91 参照

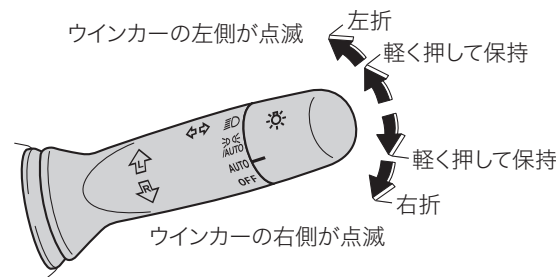
ウィンカー（方向指示器）

操作のしかた

レバーを動かすとウィンカーとメーター内の表示灯 ◀▶ が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すとレバーが自動的に戻り消灯します。レバーが戻らないときは手で戻してください。

車線変更するときなどは、レバーを軽く押して保持します。



ウィンカー（方向指示器）の点滅が異常に速くなったとき

ウィンカーのLEDが切れていないか確認してください。

知 識

プッシュエンジンスイッチがONのとき作動します。

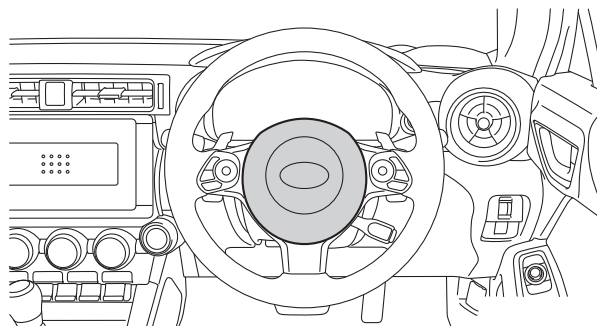
方向指示器ワンタッチ機能

レバーを軽く押して離すとウインカーとメーター内の表示灯が3回点滅するように設定できます。

🔊P.418参照

ホーン

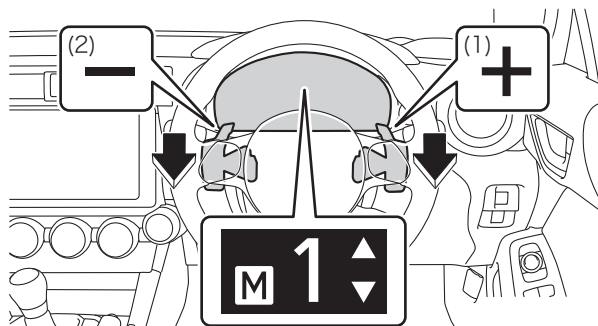
ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



マニュアルモード（オートマチック車）

一時的なマニュアルモード走行について

セレクトレバーを“D”の位置で走行中、パドルシフトレバーを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、メーターに“M”と変速段が表示されます。（エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したときは、自動的にシフトアップします。）



(1) シフトアップ

(2) シフトダウン

“M1”から“M6”レンジのあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

⚠ 警告

誤操作を防ぐために、パドルシフトレバーにアクセサリなどをかけないでください。

パドルシフトレバーが不意に動くおそれがあります。

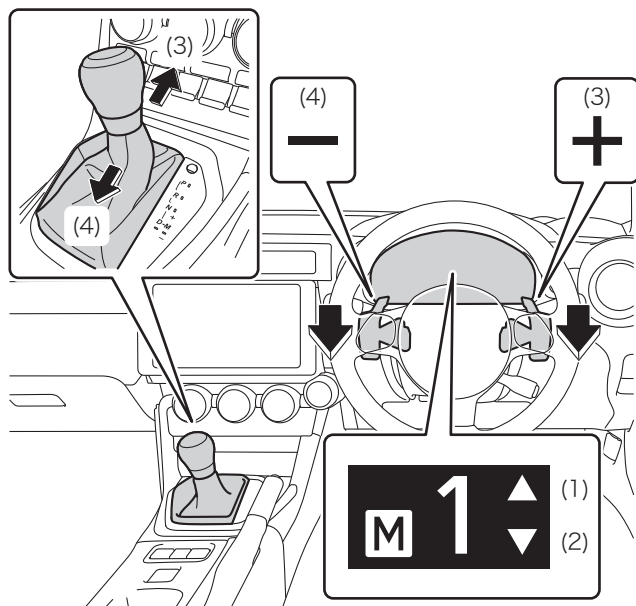
🏠 知識

- 次のとき、自動的に“D”ポジションでの一時的なマニュアルモード走行が解除されます。
 - － 車速が低いとき
 - － アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
 - － アクセルペダルを大きく踏みこんだとき
 - － セレクトレバーを“D”以外にしたとき
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジン回転数がレッドゾーンに入る場合）でシフトダウン操作をした場合、シフトダウン制限警告ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。

マニュアルモードでギヤ段選択するには

セレクトレバーを“M”ポジションにすると、マニュアルモードに切りかわります。

シフトアップ／ダウン可能表示灯が点灯または点滅しているあいだ、セレクトレバーまたはパドルシフトレバーの一侧または+側の操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。



- (1) シフトアップ可能表示灯
- (2) シフトダウン可能表示灯
- (3) シフトアップ
- (4) シフトダウン

セレクトレバーまたはパドルシフトレバーを操作することにより1速ずつ変速します。

“M1”から“M6”の中で選択した変速段がメーターに表示されます。

“M”ポジションでは、次の場合を除いてセレクトレバーまたはパドルシフトレバーを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジンオイルが高温で、エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇した場合

また、車速が低い場合はシフトアップ操作をしても変速しません。

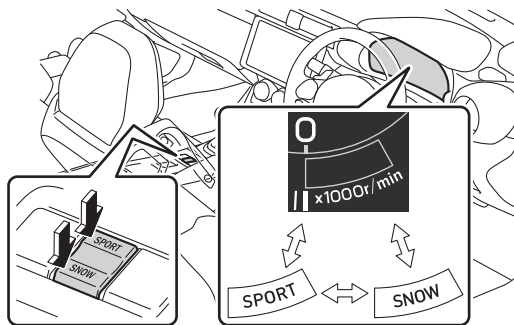
 知識

シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジン回転数がレッドゾーンに入る場合）でシフトダウン操作をした場合、シフトダウン制限警告ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。

ドライブモードセレクト

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択することができます。

ドライブモードを選択するには



※ イラストはノーマルモード時の表示になります。TRACKモード時は表示が異なります。

☞ P.78、96参照

スポーツモードにする：

“SPORT”を押す。

メーター内のスポーツモード表示灯が点灯します。

オートマチック車は、シフトレバーが“D”の位置で走行中、スポーツモードに切り替えた場合、“D1”から“D6”のあいだで選択されている変速段がメーターに表示されます。

スノーモードにする（オートマチック車）：

“SNOW”を押す。

メーター内のスノーモード表示灯が点灯します。

スポーツモードまたはスノーモードを解除してノーマルモードにするときは、もう一度同じスイッチを押します。



知 識

- スポーツモードでは、低ギヤ段を使用し、より高いエンジン回転数で変速します。（オートマチック車）
- スノーモードでは、すべり防止のため、1速に入りません。（オートマチック車）
- エンジン制御システムまたは、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常が発生したときは、スノーモードに切りかわらない場合があります。（オートマチック車）
- スポーツモードでは、アクセルペダルを踏んだときのレスポンスと加速性能が向上します。（マニュアル車）
- スポーツモードへの切り替えは、停車時、もしくはアクセルペダルを踏んでいない状態で行なってください。加速中に切り替えた場合、振動が発生することがあります。（マニュアル車）
- 次の場合、スポーツモードに切りかわらないことがあります。スポーツモードに切りかわらないときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
 - ー 全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）または、定速クルーズコントロールを使用しているとき
 - ー エンジンが冷えているとき

知 識

- － エンジン電子制御システムまたは、オートマチックトランスミッション電子制御システム（オートマチック車）に異常が発生したとき
- 次の場合、自動的にノーマルモードに切りかわります。
 - － スポーツモードまたは、スノーモード（オートマチック車）を選択して走行後、エンジンを切る
 - － スポーツモードで走行中に全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）または、定速クルーズコントロールを使用したとき
 - － スポーツモードまたは、スノーモードを選択中にエンジン電子制御システムまたは、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常が発生したとき（オートマチック車）
 - － スポーツモードで走行中に滑りやすい路面などでタイヤがスリップしたとき（オートマチック車）
 - － スポーツモードで暖機中にアイドリング回転数が高いとき、かつ路面が滑りやすい状態のとき自動的に2速での停止・2速からの発進となったとき（オートマチック車）
 - － スポーツモードを選択中にエンジン電子制御システムに異常が発生したとき（マニュアル車）

各モードの特性

ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

スポーツモード

スポーティな走行、カーブの多い山間地などの走行に適しています。

スノーモード（オートマチック車）

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適しています。

アクティブサウンドコントロール✕

アクティブサウンドコントロールは、ダイナミックなエンジンサウンドを実現します。特にスポーツモードで走行するときは、よりエンジンサウンドが大きくなります。

知識

- 走行モードを切りかえたときに約1秒間、アクティブサウンドコントロールの音が止まりますが故障ではありません。
- 機能の一部は、設定を変更することができます。

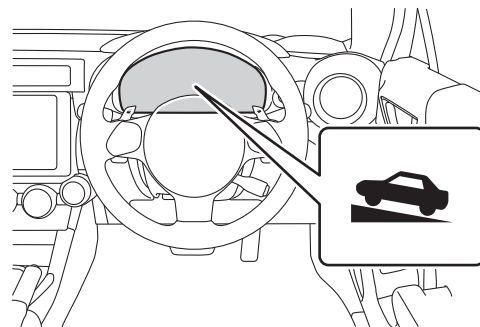
☞P.420参照

ヒルスタートアシスト

上り坂での前進時および下り坂での後退時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

ヒルスタートアシストについて

ヒルスタートアシストを設定するとヒルスタートアシスト作動表示灯が点灯します。

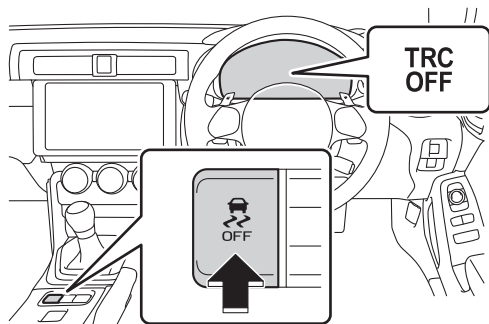


ヒルスタートアシストの機能をOFFにするとき

1. 車両を安全で平坦な場所に停車させる
パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認する。
2. プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエンジンを停止する
3. エンジンを始動し、ABS&ブレーキアシスト警告灯とVSC (VDC) 作動表示灯が消灯していることを確認する

4. VSC (VDC) OFFスイッチを長押しする (約30秒)

TRC OFF表示灯が点灯し、その後消灯することを確認する。



5. 消灯後、5秒以内にVSC (VDC) OFFスイッチを離し、2秒以内に再度VSC (VDC) OFFスイッチを押す

ヒルスタートアシスト作動表示灯が消灯し、その後点灯する。

6. プッシュエンジンスイッチをOFFにする

7. 再度エンジンを始動し、ヒルスタートアシスト作動表示灯が消灯していることを確認する

ヒルスタートアシスト機能がOFFになります。

ヒルスタートアシスト機能をONする場合は、手順1.から7.を行ってください。

ヒルスタートアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- オートマチック車：上り坂での前進時にセレクトレバーの位置が“D”または“M”のとき、または下り坂での後退時にセレクトレバーの位置が“R”のとき
- マニュアル車：上り坂での前進時にチェンジレバーの位置が“R”以外のとき、または下り坂での後退時にチェンジレバーの位置が“R”のとき
- 車両停止状態のとき
- アクセルペダルを踏んでいないとき
- パーキングブレーキがかかっていないとき

ヒルスタートアシストが作動しないとき

次のときシステムは作動しません。

- オートマチック車：上り坂での前進時にセレクトレバーの位置が“D”または“M”以外のとき、または下り坂での後退時にセレクトレバーの位置が“R”以外のとき
- マニュアル車：上り坂での前進時にチェンジレバーの位置が“R”のとき、または下り坂での後退時にチェンジレバーの位置が“R”以外のとき
- オートマチック車：アクセルペダルを踏んだとき
- マニュアル車：クラッチがつながったとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- ブレーキペダルから足を離して約2秒経過したとき
- ヒルスタートアシスト作動表示灯が消えているとき
- プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにしたとき

⚠ 警告

- ヒルスタートアシストを過信しないでください。
 - ー 急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ヒルスタートアシスト作動中に、エンジンを停止しないでください。ヒルスタートアシストが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

🏠 知識

- ヒルスタートアシスト設定時の留意事項
 - ー ヒルスタートアシスト作動表示灯が点灯しない場合や途中で操作を間違えた時は、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにして、手順4.からやり直してください。
 - ー VSC (VDC) OFFスイッチもしくはTRACKスイッチを30秒以上押し続けるとTRC OFF表示灯とVSC (VDC) OFF表示灯が消灯し、VSC (VDC) OFFスイッチおよびTRACKスイッチの以後の操作を受け付けなくなります。この場合、VSC (VDC) およびTRCはノーマルモードで作動します。
 ➡P.176参照
 一度プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにし、再度エンジンを始動すればVSC (VDC) OFFスイッチの操作が有効になります。
- セレクトレバーを“R”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーを“R”（マニュアル車）に入れて後退した後に前進する場合、わずかに衝撃を感じる場合があります。
- ヒルスタートアシストのブレーキ力が不十分なときは、再度ブレーキペダルを踏んでください。
- 停車中はブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 次の場合はシステムが故障しているおそれがあります。SUBARU販売店で点検を受けてください。
 - ー VSC (VDC) 作動表示灯が点灯したとき
 - ー ヒルスタートアシスト作動表示灯が消灯してブザーが鳴ったとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

ABS (アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

VSC (VDC) (ビークルスタビリティコントロール/ビークルダイナミクスコントロール) ※

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

TRC (トラクションコントロール) ※

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。TRC機能の一部として、ブレーキLSD機能を有しています。

ヒルスタートアシスト

上り坂での前進時および下り坂での後退時に、ブレーキペダルから足を離しても一時的に制動力を保持し、発進操作を補助します。

☞P.173参照

電動パワーステアリング

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制します。

エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時にハザードランプを自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

※ 次の名称はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。当社は使用許諾に基づき使用しております。

- ・ TRC
- ・ VSC

⚠ 警告

- 次のときは、ABSの効果が発揮できません。
 - ー タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
 - ー 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき
- ABSは制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。
 - ー 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
 - ー タイヤチェーンを装着しているとき
 - ー 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

⚠ 警告

- ー 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき
 - すべりやすい路面では、TRC・VSC（VDC）が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。
 - タイヤまたはホイールを交換するときは、4輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
- 🔧 **P.414**参照
- 異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC（VDC）など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、SUBARU販売店に相談してください。
- 問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

🏠 知識

- ハンドル操作を行ったとき、電動パワーステアリングモーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがあります。が、異常ではありません。

🏠 知識

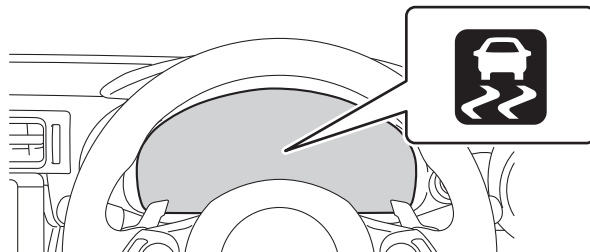
- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、電動パワーステアリングのオーバーヒートを避けるため、電動パワーステアリングの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。しばらくすると元の状態に戻ります。
- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC（VDC）が作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ー 車体やハンドルに振動を感じる
 - ー 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ー ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ー ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る
- 次のときエマージェンシーストップシグナルが作動します。
 - ー ハザードランプが点滅していないこと
 - ー 車速60 km/h以上
 - ー ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された
- 次のいずれかのときエマージェンシーストップシグナルが解除されます。
 - ー ハザードランプを点滅させた
 - ー ブレーキペダルを離れた

知 識

- ー 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された
 - エマージェンシーストップシグナルの作動／非作動を変更することができます。
- 🔑 P.420参照

TRC・VSC（VDC）が作動しているとき

TRC（ブレーキLSD機能含む）・VSC（VDC）が作動しているときは、VSC（VDC）作動表示灯が点滅します。



TRCを停止するには

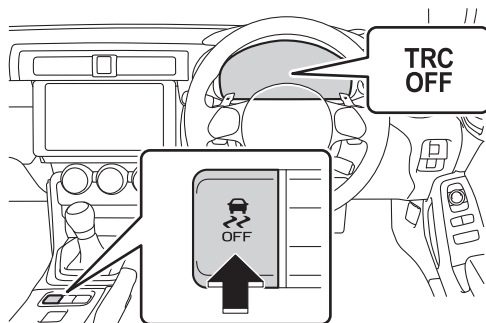
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRCが作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難場合があります。このようなときにVSC (VDC) OFFスイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

この場合でも、ブレーキLSD機能は作動します。

TRCを停止するにはVSC (VDC) OFFスイッチを押します。

TRC OFF表示灯が表示されます。

もう一度VSC (VDC) OFFスイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



TRACKモード

運転者が望むさまざまな運転を可能にするため2種類の制御モードを搭載し、TRACKスイッチによって制御モードを選択することができます。通常はノーマルモードで安心してスムーズに走ることができます。

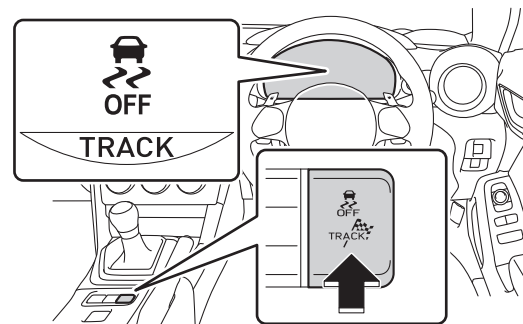
TRACKモードはTRC・VSC (VDC) などの制御特性を調整することで、運転者のイメージにより近い運動性能を可能としながら、安心感を高いレベルで得ることができます。

TRACKモード・ノーマルモードの切りかえ

スイッチを1秒以上長押しすると、TRACKモードに切りかわります。

TRACKモードにすると、メーター表示がTRACKモード専用表示に切りかわり、TRACK表示灯とVSC (VDC) OFF表示灯が点灯します。

TRACKモード中に、VSC (VDC) OFFスイッチまたはTRACKスイッチを押すとノーマルモードに戻ります。



知識

TRACKモードを選択して走行後プッシュエンジンスイッチをOFFにすると、自動でノーマルモードにもどります。

TRCとVSC (VDC) を停止するには

TRCとVSC (VDC) を停止するには、停車時にTRCを停止した状態または、TRACKモードに切りかえた状態でVSC (VDC) OFFスイッチを3秒以上長押しする

TRC OFF表示灯とVSC (VDC) OFF表示灯が点灯します。
この場合でも、ブレーキLSD機能は作動します。(オートマチック車のみ)

もう一度VSC (VDC) OFFスイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

TRACKモードからTRCとVSC (VDC) を停止させる場合、VSC (VDC) OFFスイッチを押すとメーター表示がノーマルモードに戻りますがそのままVSC (VDC) OFFスイッチを押し続けてください。

VSC (VDC) モードの切りかえ

VSC (VDC) OFFスイッチとTRACKスイッチの組み合わせによって、以下のようにモードが切りかわります。

走行状態	TRC	VSC (VDC)	ブレーキLSD機能	表示灯
通常走行	ノーマルモード	ノーマルモード	ノーマルモード	—
悪路走行	OFF	ノーマルモード	ノーマルモード	TRC OFF
スポーツ走行	TRACKモード	TRACKモード	TRACKモード	 OFF 
	OFF	OFF	TRACKモード※1 OFF※2	TRC OFF  OFF

※1: オートマチック車

※2: マニュアル車

警告

- VSC (VDC) 作動表示灯が点滅しているときはTRC・VSC (VDC)・およびブレーキLSD機能が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。
- TRC・VSC (VDC) は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外はTRC・VSC (VDC) を作動停止状態にしないでください。TRC・VSC (VDC) を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

知識

TRCやVSC (VDC) を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき
- TRCのみを作動停止にしている場合：車速が50 km/hをこえたとき
 - ー ただし、TRCとVSC (VDC) の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

ランプ類・ワイパーの使いかた

ランプ類

自動または手でヘッドランプなどを点灯・消灯することができます。

操作のしかた

点灯のしかた

ライティングスイッチがAUTOのとき、プッシュエンジンスイッチをONにすると周囲の明るさに応じてランプ類が自動的に点灯または消灯します。

日中での走行時は、デイトタイムランニングランプ※が点灯します。

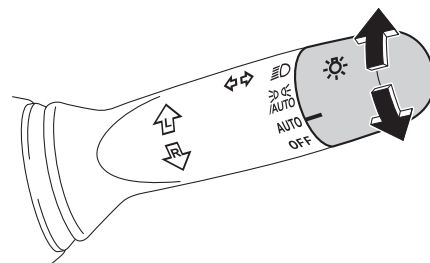
☞P.185参照

ライティングスイッチが  のときは周囲の明るさにかかわらずポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、周囲の明るさに応じて、走行中はヘッドランプが点灯します。

周囲の明るさにかかわらずヘッドランプを点灯させたいときは、スイッチを  にします。

ヘッドランプ、ポジションランプ、テールランプ、ライセンスランプが点灯しているときは、ライティングスイッチ表示灯が点灯します。

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



消灯のしかた

停車中にライティングスイッチをOFFにして離すとランプ類が消灯します。

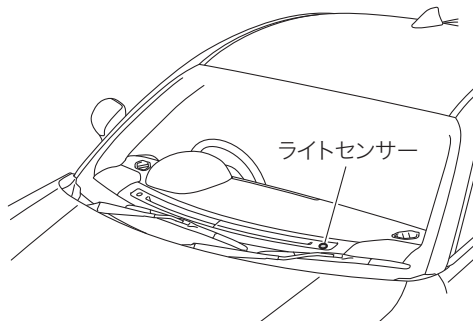
手を離すとスイッチはAUTOに戻ります。もう一度同じ操作をしたときまたは車を発進すると、ランプ類が自動的に点灯します。

注意

バッテリー上がりを防止するために、エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



知識

- 自然光以外では正常に働かない可能性があります。
- 機能の一部は、設定を変更することができます。

☞P.420参照

ワイパー連動ヘッドランプ機能

日中での走行時、ライティングスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

知識

- 周囲の明るさによっては、ワイパー連動ヘッドランプ機能が作動しないことがあります。
- 機能の一部は、設定を変更することができます。

☞P.420参照

ウェルカムライティング

乗車時

プッシュエンジンスイッチがOFFでライティングスイッチがAUTOのとき、次の操作を行うとポジションランプ、テールランプなどが約30秒間点灯します。

- アクセスキーを携帯して車両に近づいたとき
- アクセスキーの  ボタンを押して解錠したとき

次の場合、約30秒経過する前に消灯します。

- 運転席ドアを開けたとき
- プッシュエンジンスイッチをONにしたとき
周囲の明るさにより、消灯しないことがあります。
- キーレスアクセス機能またはアクセスキーの施錠したとき
- ライティングスイッチをAUTO以外にしたとき

知識

機能の一部は、設定を変更することができます。

☞ P.420参照

降車時

次の場合にポジションランプ、テールランプなどが約3分間点灯します。

- ライティングスイッチがAUTOでポジションランプなどが点灯しているときにプッシュエンジンスイッチをOFFにしたとき
- ライティングスイッチがAUTOで、パッシングしたとき

次の場合、約3分経過する前に消灯します。

- 運転席ドアを開→閉してから約30秒間経過したとき
- ドアを施錠したあと、再度キーレスアクセス機能またはアクセスキーの  ボタンを操作して施錠したとき
- プッシュエンジンスイッチをONにしたとき
- 周囲の明るさにより、消灯しないことがあります。
- ライティングスイッチをAUTO以外にしたとき
- パッシングしたとき

知識

機能の一部は、設定を変更することができます。

☞ P.420参照

ランプ消し忘れ防止機能

プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。再びランプを点灯する場合は、プッシュエンジンスイッチをONにするか、一度ライティングスイッチをAUTOにするかOFFの位置にしてから  または  の位置にします。

知識

ライティングスイッチが  でプッシュエンジンスイッチをACCにしたときは、ポジションランプが点灯しない場合があります。

点灯させたいときはライティングスイッチを他の位置に操作してください。

節電機能

車両のバッテリー上がりを防止するため、プッシュエンジンスイッチがOFFの状態でもヘッドランプまたはテールランプが点灯している場合、節電機能が働き約20分後にすべてのランプが自動消灯します。ドアを開閉したとき、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約20分後すべてのランプが自動消灯します。

知識

節電機能は、バッテリー上がりを完全に防ぐものではありません。ヘッドランプまたはテールランプが点灯したまま長時間放置しないでください。

ランプ消し忘れ警告ブザー

ブッシュエンジンスイッチがOFFのとき、ヘッドランプ・テールランプが点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

ハイビーム（走行用前照灯）にするには

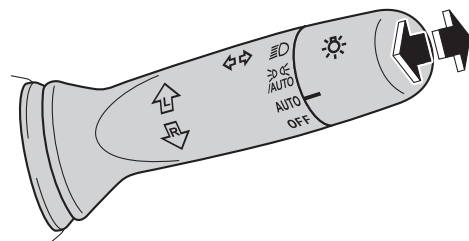
- ハイビームアシスト有効車：ライティングスイッチがAUTOでレバーを前に押して離すとハイビームアシストがONになります。ハイビームアシスト作動中は、状況に合わせて自動でロービーム／ハイビームを切りかえます。再度レバーを前に押して離すとハイビームアシストがOFFになり、ハイビームになります。

☞P.303参照

手動で切りかえたいときは  の位置で、レバーを前に押して離すとハイビームになり、レバーは元の位置に戻ります。

レバーを手前に引いて離すとロービームになります。

- ハイビームアシスト無効車（SUBARU販売店設定）：ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押して離すとハイビームになります。レバーを手前に引いて離すとロービームになります。
- ロービームのときまたはヘッドランプが消灯しているとき、レバーを手前に引くと引いている間ハイビームが点灯します。点灯中はメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。



デイトイムランニングランプ（昼間走行灯）機能

ライティングスイッチがAUTOとき、エンジンを始動してパーキングブレーキを解除すると、自車が他車から見やすくなるようにデイトイムランニングランプが自動点灯します。（ポジションランプより明るく点灯します）

知 識

- ライティングスイッチをAUTO以外にするとデイトイムランニングランプが消灯し、ライティングスイッチの位置に応じてランプ類が点灯します。
- 周囲が暗いところを走行するとデイトイムランニングランプが自動消灯し、周囲の明るさに応じてランプ類が点灯します。
- 機能の一部は、設定を変更することができます。

☞P.420参照

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

オートヘッドランプレベラーがついています。

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

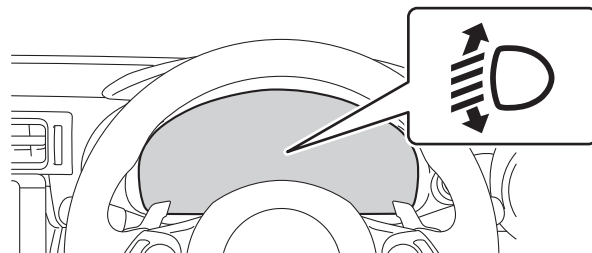
知 識

停車中に車両の姿勢が大きく傾いたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。

照射方向が気になる場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラーの電子制御システムに異常があると点灯します。



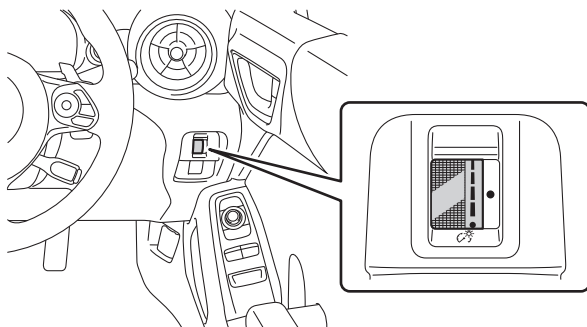
注 意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、光軸の自動調整が行われない場合があります。直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。

画面やスイッチ類の明るさ調整

ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、メーターおよびエアコンパネル照明などが減光します。コントロールダイヤルを回すと明るさを6段階に調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。
- 一番上（●印部分）に回すと、最大の明るさで固定されます。



オートディマーキャンセル機能

昼間やランプを早めに点灯させたときなど周囲が明るいときには、自動で減光をキャンセルします。このとき、コントロールダイヤルを回しても明るさを調整することはできません。

知 識

機能の一部は、設定を変更することができます。

☞ P.420参照

ワイパー & ウォッシャー

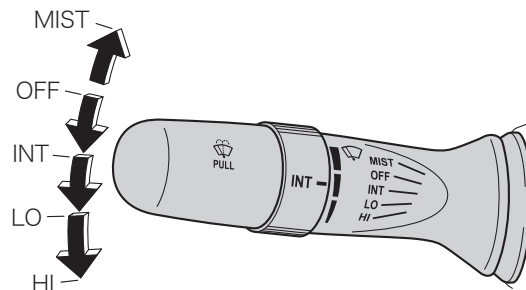
レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

注 意

- フロントウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。
- バッテリー上がりを防止するために、エンジンが停止した状態でワイパーを長時間使用しないでください。

操作のしかた

次のようにレバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。INTを選択したときは、車速に応じてワイパーが自動で作動します。



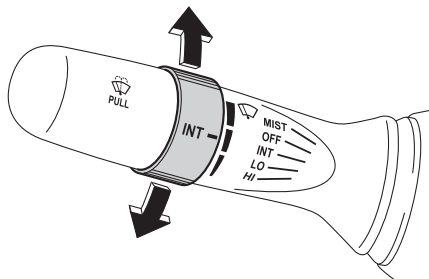
MIST

一時作動

OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速作動
HI	高速作動

間欠作動の間隔調整

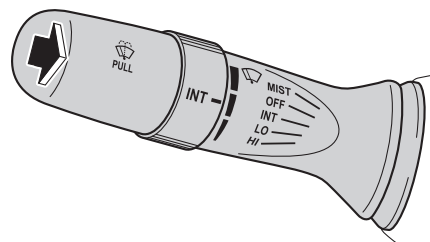
間欠作動を選択しているとき、間欠時間を次のように調整することができます。



リング位置	間欠ワイパーの作動頻度
上側	減
下側	増

ウォッシャー

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

- ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。
- ノズルがつまったときはSUBARU販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

5. 運転支援機能

EyeSight

EyeSightについて	190
ブリクラッシュブレーキ	200
全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）	212
追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）	232
AT誤発進抑制制御（オートマチック車）	251
AT誤後進抑制制御（オートマチック車）	257
車線逸脱警報	261
ふらつき警報	264
先行車発進お知らせ	266
定速クルーズコントロール	268
RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）...	278
クリアランスソナー	284
システム作動音一覧	289
EyeSightシステムの故障および一時停止	291

その他の運転支援機能

SRVD（後側方警戒支援システム）	295
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）	301
ハイビームアシスト	303

EyeSight

EyeSightについて

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSightは2台のカメラ（ステレオカメラ）を用いた画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。また、ソナーセンサーにより車両後方の障害物を認識します。

⚠ 警告

運転者には安全運転の義務があります。EyeSightの各機能特性にかかわらず、常に交通ルール・マナーを守り運転してください。運転時は常に先行車との車間距離や周囲の状況、運転環境に注意しながら必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

- EyeSightに頼った運転は絶対に行わない。
 - － EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。
 - － わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

⚠ 警告

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をしてください。

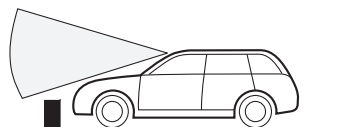
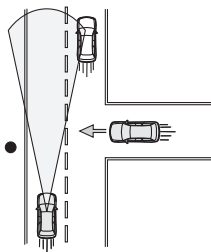
EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。それぞれのページに書かれている警告を必ずお読みの上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が十分に発揮できません。

⚠ 注意

- 運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- EyeSight前方の物体認識はステレオカメラの視野範囲に限られます。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかります。

⚠ 注意



近くにある高さが低い対象物は認識できません

- 次の状況では先行車や前方の二輪車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSightシステムが一時停止状態になる場合があります。状況が改善され、しばらく走行すれば、再び機能は動作します。
 - － 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントガラスに油膜が付着したり、スバル指定以外のガラスコーティング剤を使用したり、性能が悪化したワイパーをお使いになった場合、一時停止しやすくなります）
 - － 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - － フロントウォッシャーを使用しているとき
 - － フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
 - － フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき

⚠ 注意

- － 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
- － 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃などが舞い、視界が十分でないとき
- － トンネルの出入り口を通過するとき
- － 前方の車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- － 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
- － 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- － 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
- － 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
- － 急な上り坂、急な下り坂のとき
- － ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- － 真っ暗で周囲に物がないとき
- － 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）
- － フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- 次の状況では、EyeSightシステムが一時停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は動作します。
 - － 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
 - － エンジンの始動直後

⚠ 注意

- 次の状況では先行車や前方の二輪車、歩行者、路上の障害物、車線などが認識しづらくなります。また、EyeSightシステムが一時停止状態になる場合があります。EyeSightシステムが一時停止状態になることが何回も発生する場合はSUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
 - － ステレオカメラのレンズ部に指紋などの汚れが付着したとき
 - － ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき
 - EyeSightシステムの動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ、車線逸脱警報機能およびRAB（後退時ブレーキアシスト）をOFFにし、クルーズコントロール※を使用せずSUBARU販売店で点検を受けてください。
 ☞P.210、262、283参照
 - VSC（VDC）警告灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ機能をOFFにする。
 - － システムが正しく作動しない場合があります。また、クルーズコントロール※を使用しないでください。
- ※全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）、および定速

🏠 知識

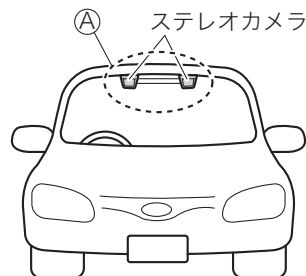
- EyeSightは、プリクラッシュブレーキが作動したときに次のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。
 - － ステレオカメラの画像情報
 - － 先行車との車間距離

🏠 知識

- － 車速
 - － ハンドルの操舵角
 - － 進行方向に対しての横方向の動き
 - － アクセルペダルの操作状況
 - － ブレーキペダルの操作状況
 - － クラッチペダルの操作状況（マニュアル車）
 - － セレクトレバーの位置（オートマチック車）
 - － チェンジレバーの位置（マニュアル車）
 - － オドメーターの値
 - － ABS、VSC（VDC）、TRCの制御に関する情報
 - スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
 - － お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
 - － 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - － 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- ※ ここでいうスバルは、株式会社SUBARUを意味しています。

ステレオカメラの取り扱いについて

ステレオカメラは、天井の前席用スポットマップランプ部分に装着されています。

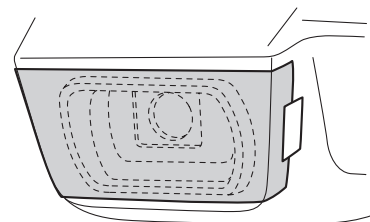


⚠ 注意

- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではありません。状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れ（曇りや油膜なども含みます）を判定できない場合があります。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、システムが正常に作動しない場合があるため、フロントガラス（イラストのステレオカメラ前方①の部分）はいつもきれいにしておいてください。なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除くすべてのEyeSightシステムの機能が作動しません。

⚠ 注意

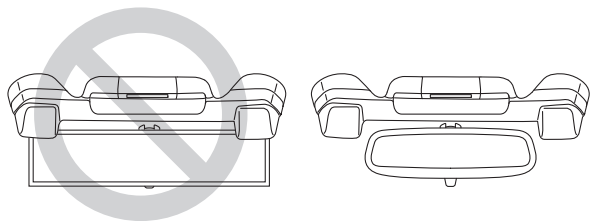
- ステレオカメラは精密部品です。特にレンズ部の取り扱いについては、次の注意事項を守ってください。
 - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずSUBARU販売店にご相談ください。
 - フロントガラスを清掃するときは、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないよう、レンズ部をコピー用紙のように埃の出ない紙で覆い、テープで固定してください。このとき、テープの接着面がフロントガラスおよびレンズ部に付かないようにしてください。清掃後は紙を忘れずに取り外してください。



- ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
- ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
- ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。

⚠ 注意

- スバル純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しない。
- ー ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。

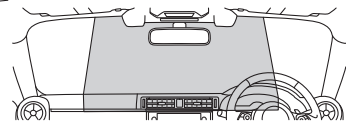
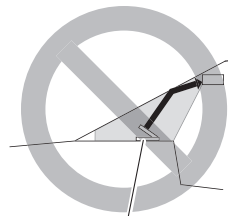


- 下図の禁止エリア（グレー部）にスバルが指定したアクセサリ用品以外の取り付けまたは設置をしない。
- ー 禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映り込みなどによりEyeSightシステムの動作に異常があるときは移動させてください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注意

<側面>

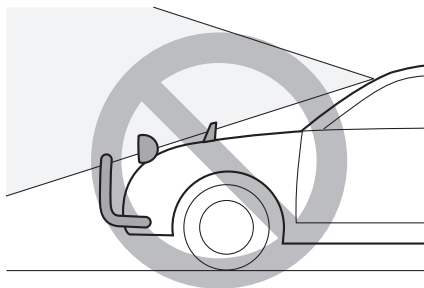
<正面>



外付けモニターなど

- インストルメントパネル上に物を置かない。
 - ー フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせない。
 - ー フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しない。
 - ー ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- ワイパーブレードは早めに交換する。
 - ー 拭き残しによりステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- ボンネットやグリルの上など、車両前側にアクセサリ類を取り付けない。
 - ー ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。

注意



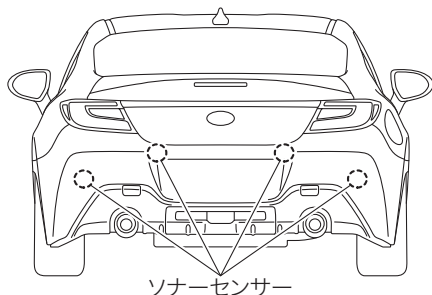
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保つ。
 - ー フロントガラスに曇りや汚れ、油膜などがあるとステレオカメラが安定した認識ができない場合があります。
- 中央のエアコン吹き出し口に芳香剤などを取り付けない。
 - ー カメラ周辺のフロントガラスが冷えて曇る場合があります。
- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けない。
 - ー やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、カメラの前面に重ならないようにしてください。
 - ー ステレオカメラの視野に影響を与えるおそれがあります。
- フロントガラスにスバルが指定したガラスコーティング剤以外は使用しない。
- フロントガラスにフィルムを貼らない。

注意

- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
 - ー スバル純正品以外のフロントガラスを使用するとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

ソナーセンサーの取り扱いについて

リヤバンパーに、4個のソナーセンサーが取り付けられています。



⚠ 注意

- ソナーセンサーおよびリヤバンパーへの強い衝撃を与えない。
 - ー 高圧洗浄機などを使用するときは、ソナーセンサーに直接水をかけないでください。
 - ー 検知範囲に入った障害物を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- ソナーセンサーを分解しない。
- ソナーセンサーの修理、交換、またはリヤバンパーの修理、塗装、交換が必要になった場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

⚠ 注意

RAB/クリアランスソナーの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。
 - ー 詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを改造しない。
- ソナーセンサーおよびリヤバンパーを塗装しない。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の機能があります。

プリクラッシュブレーキ

前方の車両、歩行者や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ衝突被害を軽減、または衝突を回避します。

☞P.200参照

全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）

運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。同一車線内にいる先行車を認識した場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☞P.212参照

追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）

運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。同一車線内にいる先行車を認識した場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☞P.232参照

AT誤発進抑制制御（オートマチック車）

セレクトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。

☞P.251参照

AT誤後進抑制制御（オートマチック車）

後退時、アクセルペダルの急な踏み込みなどによる急な後退を抑制する後退飛び出し抑制制御と、後退時の車速を制限する後退速度リミッターの2つの機能があります。

☞P.257参照

車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。

☞P.261参照

ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。

☞P.264参照

先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。

☞P.266参照

定速クルーズコントロール

先行車の有無にかかわらず、運転者が設定したセット車速を保ちながら走行します。追従走行は行いません。EyeSightシステムが一時停止状態でも使用可能な場合があります（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）から切り替えて使用します）。

☞P.268参照

RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）

後退時に壁や障害物に衝突するおそれがあるときに、必要に応じてシステムがブレーキを作動させることで衝突を回避、または衝突の被害を軽減します。

🔗P.278参照

クリアランスソナー

後退時に壁や障害物に衝突するおそれがあるときに、表示と警報音で知らせます。

🔗P.284参照

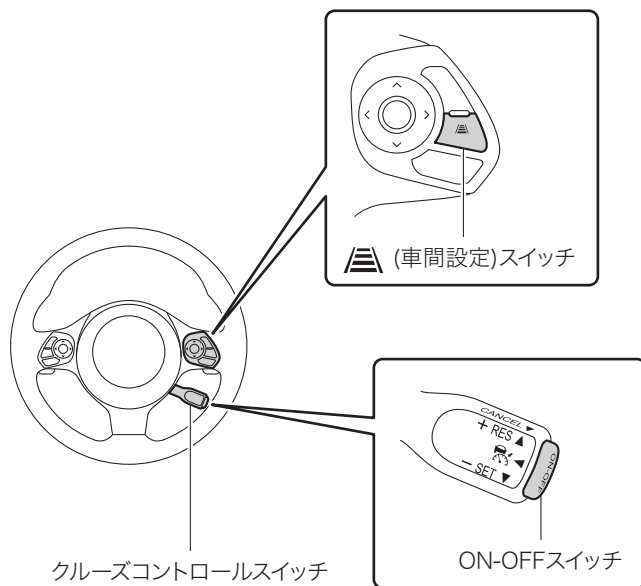


知 識

EyeSightはエンジンがかかっていないときは作動しません。

スイッチ構成

ステアリングスイッチ



■クルーズコントロールスイッチ

●ON-OFFスイッチ

- クルーズコントロール※のON、OFFができます。
- このスイッチを押してメーター内にまたはが点灯している状態を「クルーズメインON」といいます。

☞P.218、237、269参照

※ 全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）、および定速

●－ SET（下に下げる）

- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.218、237、269参照

- セット車速を下げるができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☞P.223、243、273参照

※ 全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）、および定速

●＋ RES（上に上げる）

- クルーズコントロール※のセットができます。

☞P.218、237、269参照

- クルーズコントロール※のセット状態を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。

☞P.228、248、277参照

- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

☞P.222、242、272参照

※ 全車速追従機能付（オートマチック車）、追従機能付（マニュアル車）、および定速

●CANCEL (手前に引く)

- クルーズコントロール※を解除できます。

※ 全車速追従機能付 (オートマチック車)、追従機能付 (マニュアル車)、および定速

☞P.226、245、274参照

■ (車間設定) スイッチ

- 車間距離の設定を4段階に切り替えることができます。(全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車) および追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車) のみ)

☞P.225、244参照

- クルーズメインONのとき、 (車間設定) スイッチ※を押すと全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車) または追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車) と定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。

ブリクラッシュブレーキ

主に前方の車両や歩行者に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前にシステムが急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、運転者の衝突回避操作があった場合はブリクラッシュブレーキアシストにより衝突回避をアシストします。

- オートマチック車：セレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。
- マニュアル車：シフトポジション表示が“R”以外のとき作動します。

また、発進時などに誤ってアクセルペダルを踏み、前方の障害物に衝突する可能性がある場合、システムがブレーキをかけ、衝突を軽減または回避します。(オートマチック車)

警告

- ブリクラッシュブレーキおよびブリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のために利用することは絶対にしない。
- ーブリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をブリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキペダルを踏むなどの適切な操作をする。

⚠ 警告

- EyeSightのプリクラッシュブレーキは、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的としている。また、車両以外にも二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としているが、条件※によっては認識できない場合がある。横向きの車両や、対向車両、後退してくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなる。
- プリクラッシュブレーキは衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定しているので、その効果は様々な条件※により変わる。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではない。
- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセルペダルを操作してもプリクラッシュブレーキを継続する。プリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込む。
 - ー アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、プリクラッシュブレーキを継続することがあります。（オートマチック車）
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、システムによるブレーキが作動しない場合がある。

⚠ 警告

- 前方の車両との速度差が約50 km/h（歩行者の場合は約35 km/h）より大きい場合、EyeSightの性能限界から衝突を回避することはできない。また、速度差が約50 km/h以下（歩行者の場合は約35 km/h以下）であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件※の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともある。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件※の違いにより作動しないことがある。

※条件

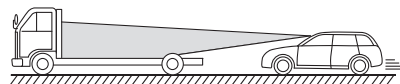
- 前方の車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が車両（自動二輪車、自転車含む）、歩行者以外の場合
 - ー 動物など
 - ー ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 車両などをけん引しているとき

⚠ 警告

- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラの認識状態
特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。
 - － 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
 - － 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
 - － 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
 - － 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
 - － 夜間の二輪車、自転車、歩行者に接近したとき
 - － 夕方、朝方の薄暗いとき
 - － ヘッドランプ照射範囲外に車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
 - － 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
 - － フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき

⚠ 警告

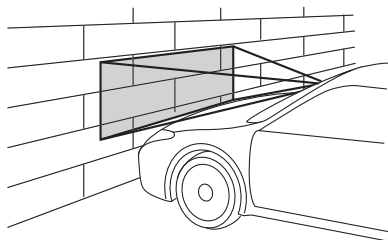
- － フロントウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- － 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- － 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）



- － 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
- － 後端から積荷が飛び出している車両など
- － 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
- － 車高の低い車両など
- － 停車している車両の前に壁などがあるとき
- － 車両の近くに別の物体があるとき
- － 横向きの車両など
- － 対向車両や後退してくる車両など

⚠ 警告

- ー 対象物の大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいまたは低いとき
- ー 小動物や幼児など
- ー しゃがんでいる人や横たわっている人など
- ー 対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき



- ー 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- ー 先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ー 車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が横からすぐ目の前に割り込んだり、すぐ目の前に飛び出してきたとき
- ー 自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
- ー 自車バンパーの近い位置に車両（二輪車、自転車含む）、歩行者が存在するとき
- ー 速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ー 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合

⚠ 警告

- ー 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- ー トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- お客様ご自身でブリクラッシュブレーキの作動テストを絶対に行わない。
 - ー 止まりきれないことや作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 次の状況では、システムが正しく動作しません。ブリクラッシュブレーキをOFFにしてください。
 - ー タイヤの空気圧が適正でないとき※¹
 - ー 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※¹
 - ー 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※¹
 - ー パンク修理キットで応急修理をしたとき
 - ー サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
 - ー ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
 - ー タイヤチェーンを装着しているとき
 - ー ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに冰雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
 - ー ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
 - ー ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
 - ー 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ー ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※²

⚠ 警告

- 重い荷物を積んでいるとき
- 定員を超えているとき
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なる（例：シフトポジション表示が実際と異なっている）など、メーターに何らかの異常があるとき※3

※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。

🔊 P.414参照

※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

🔊 P.91参照

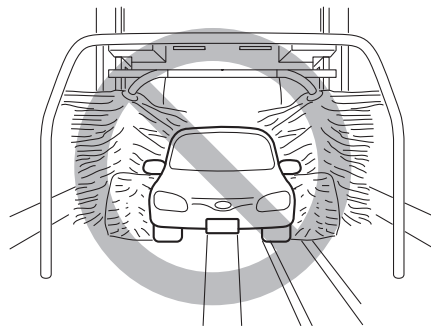
※3: メーターの機能、動作

🔊 P.78参照

⚠ 注意

次のような場合は、ブリクラッシュブレーキが予期しない動作をすることがありますので、必ずブリクラッシュブレーキをOFFにしてください。

- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき
- 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき

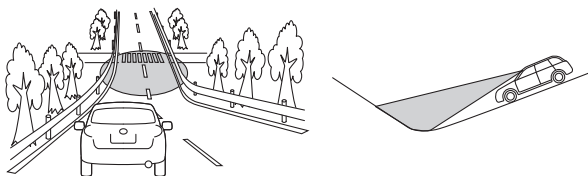


次のような場合は、ブリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。

- ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき

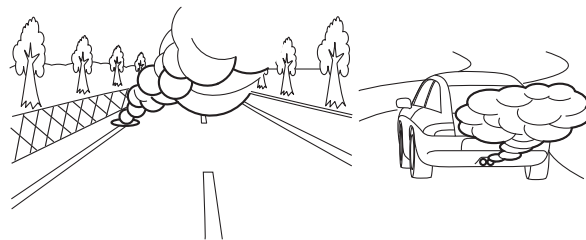
⚠ 注意

- 前車に接近して走行するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

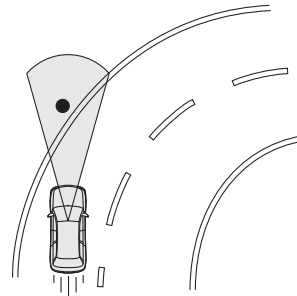


- 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が十分でないとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

⚠ 注意

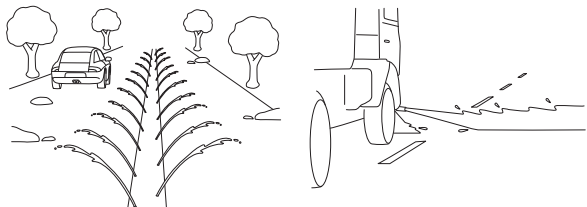


- カーブや交差点に障害物があるとき



- 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき
- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき

⚠ 注意



ブリクラッシュブレーキを解除するためには、アクセルペダルを急激にまたは深く踏み込んでください。

- アクセルペダルを最も奥まで踏み込んだときは、システムがブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いと判断して、ブリクラッシュブレーキを継続することがあります。この場合、アクセルペダルを踏み続けるか、再度踏み込んでください。（オートマチック車）

装着した用品などがフロントバンパー先端より前方に突出した場合、先端が長くなるため衝突を回避できないことがあります。

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります。異常ではなく、さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。



知識

システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

歩行者認識について

EyeSightは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭であるときに認識します。



約1~2m



警告

ブリクラッシュブレーキは、条件によってはシステムが制御対象を認識できない場合があります。特に、次の状況では、歩行者を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 集団で歩いているとき
- 壁際や障害物のそばにいるとき
- 傘などをさしているとき
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいるとき

⚠ 警告

- 大きな荷物を持っているとき
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっているとき
- 暗い場所にいるとき
- 横からすぐ目の前に割り込んできたり、すぐ目の前に飛び出してきたとき

ブリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、次の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中はブレーキランプが点灯します。

(1) 車間距離警報：

衝突の可能性があるとは判断した場合に、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促します。ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

(2) 1次ブレーキおよび警報：

走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、ブザー（ピピピ…）とメーターの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行い、また、エンジン出力を抑制します。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

(3) 2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、ブザー（ピーー）に変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御およびエンジン出力の抑制を継続します。

停止すると“ピッ、ピッ、ピッ、ピーーン”というブザーが鳴り、その後システムによるブレーキが解除されます。

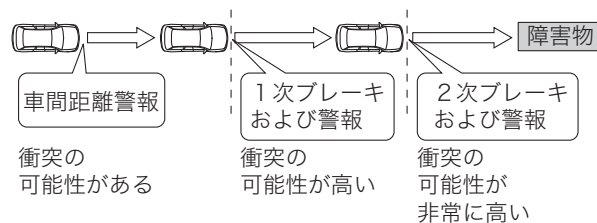
車両が動き出すおそれがありますので、車両停車後は必ずブレーキペダルを踏んでください。

知識

- 次の場合、ブリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
 - － VSC（VDC）が作動しているとき
 - － オートマチック車：自車速が約1 km/h以下（セレクトレバーが“N”のときは約4km/h以下）または約160 km/h以上のとき
 - － マニュアル車：自車速が約1km/h以下（チェンジレバーがニュートラルのとき、チェンジレバーやクラッチペダルを操作しているときは約8km/h以下）または約160 km/h以上のとき
- 先行車のブレーキランプの点灯を認識した場合は、認識しない場合と比べて若干早めに減速を開始します。
- 前方障害物との速度差が大きい場合など、1次ブレーキの継続時間が長いときは、警報効果を高めるため、ブレーキを強めたり弱めたりする場合があります。

ブリクラッシュブレーキが作動すると、メーターに割り込み画面を一定時間表示します。





	システムによる ブレーキの強さ	メーターの表示	警報音
車間距離警報	微弱		ピピピ...
1次ブレーキおよび警報	弱い		ピピピ...
2次ブレーキおよび警報	強い		ピーー

ブリクラッシュブレーキアシストの作動

ブリクラッシュブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

注意

車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、ブリクラッシュブレーキアシストは作動しない。

ー 運転者による通常の制動力で減速します。

知識

ブリクラッシュブレーキアシストは、自車速が約10 km/h以下または約160 km/h以上のときは作動しません。

☞ P.176参照

知識

- ブリクラッシュブレーキのON/OFF設定は、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御と連動します。（オートマチック車）
- ブリクラッシュブレーキをOFFにしても、再度エンジンを始動するとブリクラッシュブレーキはONになります。

ブリクラッシュブレーキをOFFにするとき

メーターの設定項目でブリクラッシュブレーキ（ブリクラッシュブレーキアシストを含む）をOFFすることができます。

「運転支援機能」の「PCB（ブリクラッシュブレーキ）」の項目で「OFF」を選択することでブリクラッシュブレーキがOFFになります。

☞ P.417参照

ブリクラッシュブレーキをOFFにすると、メーター内の （黄色）が点灯します。

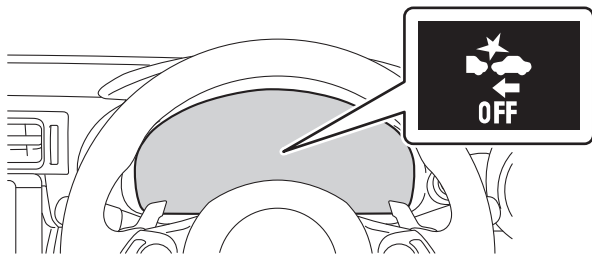
プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

- オートマチック車：プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御がOFFのときに点灯します。
- マニュアル車：プリクラッシュブレーキがOFFのときに点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき
- ☞ P.180参照
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）
- ☞ P.291参照
- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）
- ☞ P.292参照



知識

- オートマチック車：（黄色）が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。
- マニュアル車：（黄色）が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）は作動しません。

全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）

全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。全車速追従機能付クルーズコントロールは、自車速が0 km/h～約120 km/hのときに使用できます。運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

警告

全車速追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
 - 一 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。

警告

- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。

☞「メンテナンスノート」参照

次の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が適正でないとき※1
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※1
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※1
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※1
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※1
- パンク修理キットで応急修理をしたとき
- サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに冰雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグラмпなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※2
- 重い荷物を積んでいるとき

⚠ 警告

- 定員を超えているとき
 - 車両などをけん引しているとき
 - メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3
- ※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
- ☞P.414参照
- ※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ☞P.91参照
- ※3: メーターの機能、動作
- ☞P.78参照

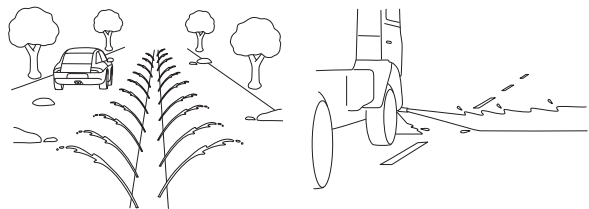
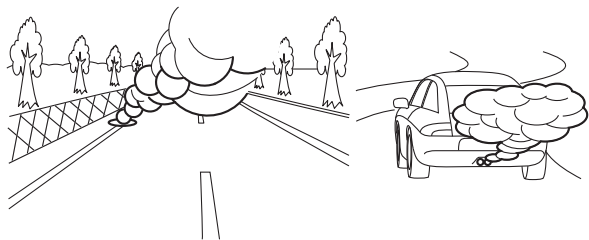
全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- 一般道（自動車専用道路以外）
 - ー 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
- 急カーブがある道
- 凍結路や積雪路など滑り易い路面
 - ー タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ 警告

- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - ー 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂
 - ー セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
 - ー ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
 - ー 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
 - ー 先行車を認識できない場合があります。
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
 - ー 先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。

⚠ 警告



- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
 - ー 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

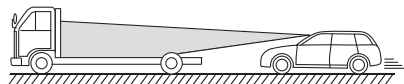
⚠ 警告

- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
 - ー 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

- 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
- 割り込み車両
- 二輪車、自転車、歩行者、動物など
- 夕方、朝方の薄暗いとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）

警告



- － 荷台にあおりがない空荷のトラックなど
- － 後端から積荷が飛び出している車両など
- － 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
- － 車高の低い車両など
- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

警告

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにしてください。

☞ P.229参照

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをONのままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

- 車外からの操作は絶対にしない。

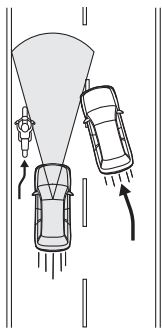
次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。

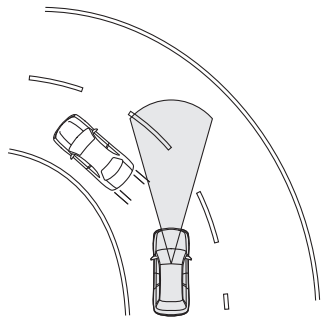
☞ P.218参照

- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき

警告

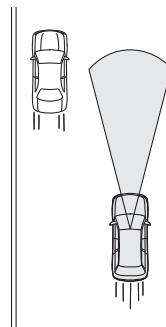


- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき
ー 認識エリアから外れて認識できない場合があります。

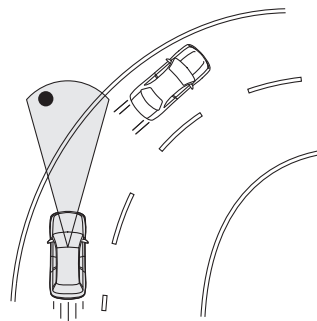


警告

- 先行車との位置が横にずれているとき



- 道路のすぐ脇にもものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき

⚠ 警告

- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

☞P.230参照

⚠ 注意

次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

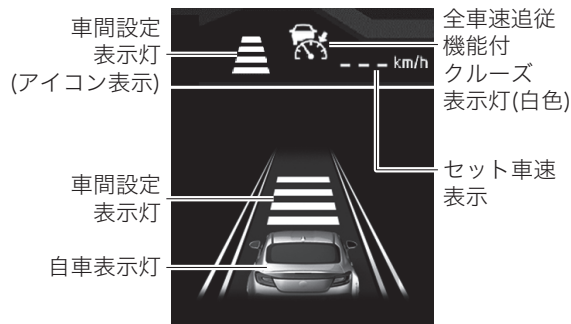
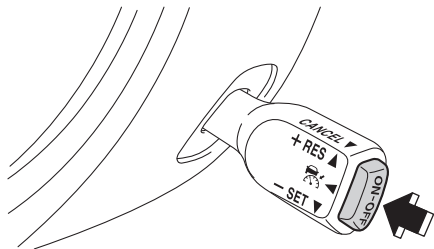
全車速追従機能付クルーズコントロールの使用法

1. 全車速追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

ON-OFFスイッチを押します。

全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、メーター内に （白色）と車間設定表示灯が点灯します。

また、--- km/hを表示します。



全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内にREADY表示灯が点灯します。

- 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- セレクトレバーが“D”または“M”に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- EyeSightシステムが一時停止していない（ が点灯していない）

☞P.292参照

- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が0 km/h～約120 km/hのとき
- パーキングブレーキがかかっていない
- ドライブモードがノーマルモードまたはスポーツモードのとき

☞P.171参照

- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしていない
☞P.179、210参照
- TRCとVSC（VDC）を停止していない
☞P.180参照

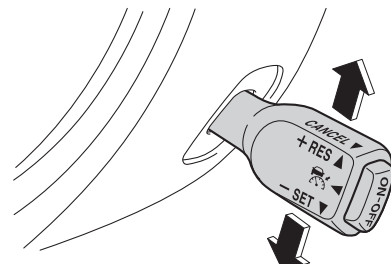


知識

マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。

☞P.82、96参照

2. 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。クルーズコントロールスイッチを－ SET側または＋ RES側に操作します。スイッチを操作したときの車速をセット車速として、全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



セット車速が表示され、が白色から緑色に変わります。また、メーター内のREADY表示灯が消灯します。先行車を認識していないときは定速走行します。



⚠ 警告

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

🏠 知識

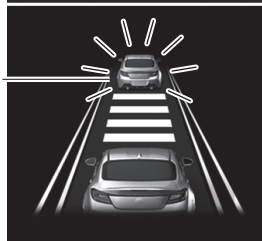
- 自車速が約30 km/h以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に30 km/hに設定されます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- ON-OFFスイッチを押しても、メーター内の🚦が点灯しない場合は、全車速追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- ON-OFFスイッチを押してもメーター内の🚦が点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識しなくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。

先行車表示灯
(アイコン表示)



先行車
表示灯

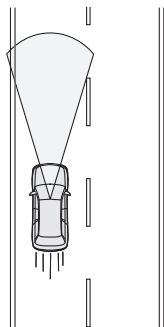


🏠 知識

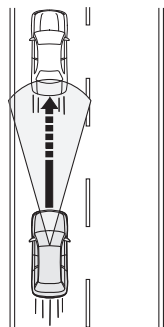
- マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内のアイコン表示になります。
🔧 P.82、96参照
- 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）をOFFに設定できます。
🔧 P.418参照

全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

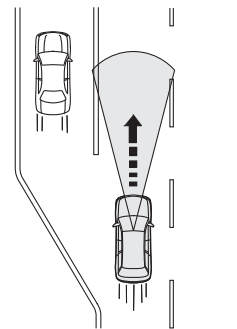
- 先行車を認識していないとき
セット車速に応じた速度で定速走行します。



- 先行車を認識したとき
セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。



- 先行車を認識しなくなったとき
セット車速まで加速し、定速走行を行います。
セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



⚠ 注意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

🏠 知識

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、ブレーキランプが点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。

知識

- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがあります。制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 追従走行には、次の特性があります。
 - 先行車のブレーキランプの点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
 - 車速約60 km/h以上で追い越し車線側に車線変更する場合、ウinkerと連動してセット車速までの加速を早めに開始します。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。

☞ P.418参照

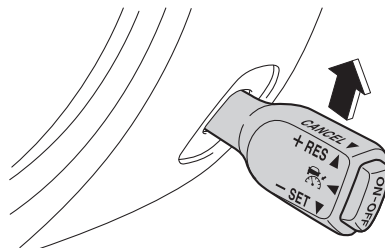
セット車速を上げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

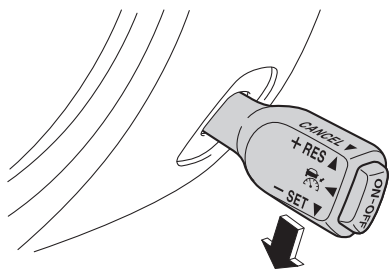
- + RES側に操作します
操作することによりセット車速が5 km/hずつ上がります。
- + RES側に操作して保持します
保持している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



■アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチを- SET側に操作します。
操作したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作して、先行車の速度以上にセット車速を上げて加速しませんが、
 — ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。
 — セット車速はメーター内を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中にアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行いません。
 — ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、ブリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

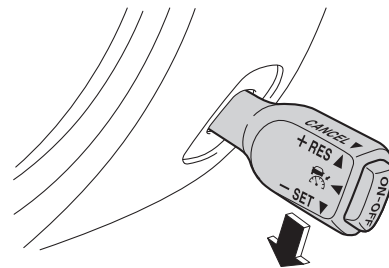
セット車速を下げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

- — SET側に操作します
 操作するごとにセット車速が5 km/hずつ下がります。
- — SET側に操作して保持します
 保持している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

全車速追従機能付クルーズコントロールが解除され、が緑色から白色に戻ります。

2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを－ SET側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

一時的に加速したいとき

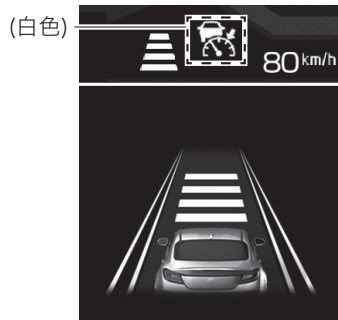
一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

全車速追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、は白色に変わります。加速が終了するとは緑色に戻ります。

一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを＋ RES側に操作します。

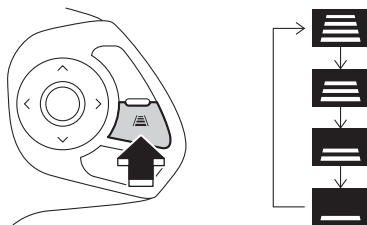
⚠ 注意

通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、システムを過信せずにアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を4段階で設定できます。

（車間設定）スイッチを押すごとに先行車との車間距離が切り替わります。



知識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

<車間距離の目安>

車間距離	自車の走行車速	
	約40km/h	約100km/h
	約30m	約60m
	約25m	約50m
	約20m	約40m
	約15m	約30m

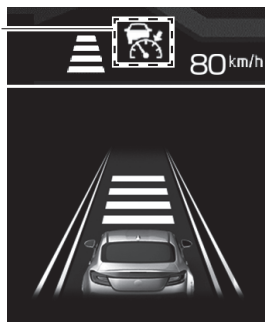
- 全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前に設定した車間距離の状態を保っています。

全車速追従機能付クルーズコントロールの解除方法

運転者の操作による解除

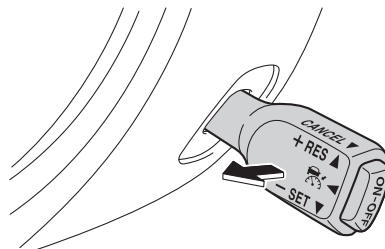
次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

(白色)



- ブレーキペダルを踏む。

- クルーズコントロールスイッチをCANCEL側に操作する。



システムによる自動解除

先行車の停止に伴い自車も停止した場合、“ピッ、ピッ、ピッ、ピピーン”というブザーが鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。

⚠ 注意

停止してからゆっくりとシステムによるブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

次の場合、ブザー（ピピーン）が鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、が緑色から白色に戻り、割り込み画面を表示します。

- 道路の勾配が急なとき
- VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
- セット中に自車速が約145 km/hを超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- セレクトレバーを“D”または“M”以外にしたとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞ P.291 参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

☞ P.292 参照

- ブリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき

- ドライブモードをスノーモードにしたとき

☞ P.171 参照

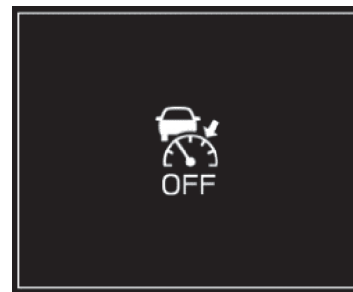
- TRACKモード中、ブリクラッシュブレーキをOFFにしているとき

☞ P.179、210 参照

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

☞ P.180 参照

- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき



⚠ 警告

滑りやすい路面では全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しない。

ー 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしないでください。

⚠ 注意

- セレクトレバーを“N”にすると全車速追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🏠 知識

- EyeSightシステムが故障した場合は、（黄色）が点灯し、割り込み画面を表示します。また、（黄色）および（黄色）が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度ブッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

☞P.291参照

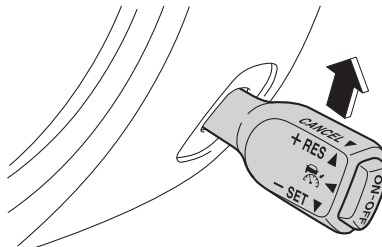
- EyeSightシステムが一時停止した場合は、（黄色）および（黄色）が点灯します。また、（白色）が点灯し、割り込み画面を表示します。

☞P.292参照

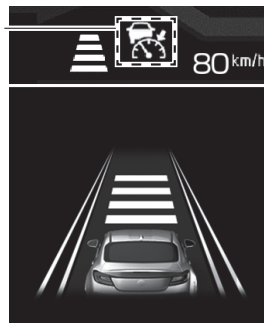
- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

解除からの復帰（セット车速の再セット）

前回のセット车速がメモリーされているとき、その车速に再度セットする場合はクルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作します。（メーター内が再度セット状態の表示になります）



（緑色）



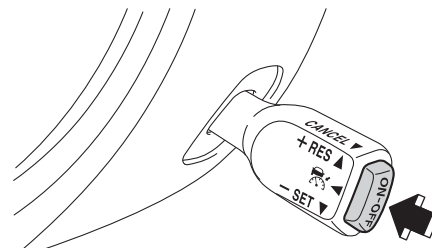
知識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
 - ON-OFFスイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
 - VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
 - 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- 前回のセット車速がメモリーされていない場合、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作すると、現在の自車速がセットされます。

☞P.218参照

全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにするとき

ON-OFFスイッチを押すとと車間設定表示灯が消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。



その他の機能

ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。この機能が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



警告

- ブレーキペダルを踏んでいるとき

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。

- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき
- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
- 自車速より極端に車速が遅い車両

知識

前方約110 m以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

警告

ブザー（ピピーンやピピピ…など）の音が頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

- アクセルペダルを踏んでいるとき

信号認識機能

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に信号認識機能が作動すると、ブザー（ピッ）が鳴り、割り込み画面を表示するとともに加速を緩やかにします。

信号認識機能は次の条件をすべて満たすと作動します。

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしている
- 自車速がセット車速を下回っている
- 先行車を認識していない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない



ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

⚠ 警告

全車速追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 自動車専用道路以外では使用しない。
 - ー 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
 - ー 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。

- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき



知 識

赤信号を認識して減速する機能はありません。

追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）

追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。先行車をステレオカメラで認識し、運転者が設定した車速を上限に、先行車に対して追従走行を行います。

追従機能付クルーズコントロールは、自車速が約30 km/h～約120 km/hのときに使用できます。

⚠ 警告

追従機能付クルーズコントロールについては次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 追従機能付クルーズコントロール機能を過信しない。
 - 一 追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。わき見運転やぼんやり運転、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作の補助など、あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。
- 運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして適切な車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定する。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用する。
☞「メンテナンスノート」参照

⚠ 警告

次の状況では、システムが正しく動作しません。追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

- タイヤの空気圧が適正でないとき※¹
- 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※¹
- 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※¹
- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※¹
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※¹
- パンク修理キットで応急修理をしたとき
- サスペンションを改造したとき（スバル純正品を含む）
- ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- ヘッドランプが汚れていたり、ヘッドランプに冰雪、泥などが付着していたりするとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプの光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
- ヘッドランプ、フォグランプなどのランプ類を改造したとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- ブレーキ警告灯（赤色）が点灯しているとき※²
- 重い荷物を積んでいるとき
- 定員を超えているとき
- 車両などをけん引しているとき

⚠ 警告

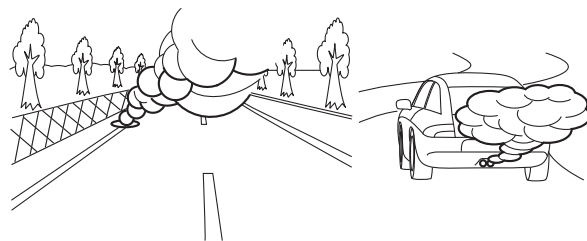
- メーターの表示灯、警告灯が正常に点灯・消灯しない場合や、ブザーが鳴らない、液晶表示が通常時と異なるなど、メーターに何らかの異常があるとき※3
- ※1: ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
- ☞P.414参照
- ※2: ブレーキ警告灯（赤色）が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ☞P.91参照
- ※3: メーターの機能、動作
- ☞P.78参照

追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

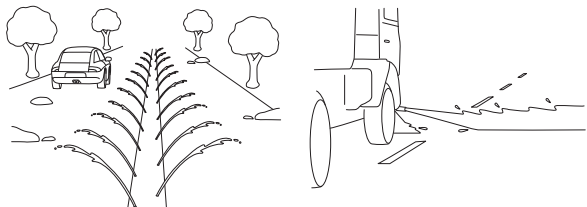
- 一般道（自動車専用道路以外）
 - 道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
- 急カーブがある道
- 凍結路や積雪路など滑り易い路面
 - タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
 - 交通環境に沿った走行ができない場合があります。
- 急な下り坂

⚠ 警告

- セットした車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
 - ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
 - 先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
- インターチェンジ、ジャンクションなどの急カーブや、サービスエリア、パーキングエリア、料金所などに進入するとき
 - 先行車を認識できない場合があります。
- トンネルの出入り口など明るさが変化するとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気、消雪パイプや散水車などの散水が前方にあるとき
 - 先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。



⚠ 警告



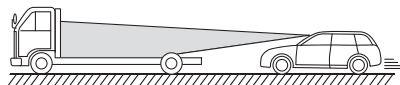
- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
 - ー 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
- フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが十分に拭き取れていないとき
 - ー 先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。

次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。

- 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
- 割り込み車両
- 二輪車、自転車、歩行者、動物など

⚠ 警告

- 夕方、朝方の薄暗いとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
- 前方の車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります。）



- ー 荷台にあおりがいない空荷のトラックなど
- ー 後端から積荷が飛び出している車両など
- ー 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
- ー 車高の低い車両など
- 自車バンパーの近い位置に物体があるとき

⚠ 警告

追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず追従機能付クルーズコントロールをOFFにしてください。

🔧 P.249参照

- 追従機能付クルーズコントロールをONのままにしている場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがある。

追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を十分確認してください。

- 車外からの操作は絶対にしない。

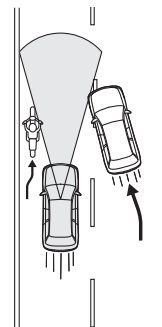
次のような道路形状や、自車の状況によっては、ステレオカメラが先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどしてください。

ステレオカメラによる先行車の認識状態は、先行車表示灯の点灯状態で確認できます。

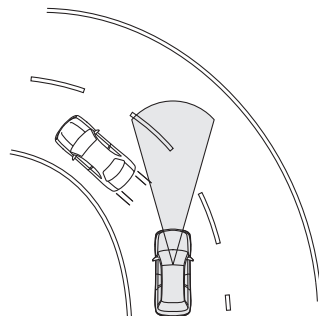
🔧 P.237参照

- 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき

⚠ 警告

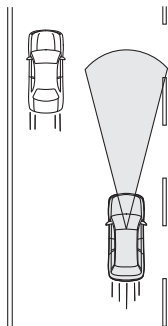


- カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路を走行しているとき
 - ー 認識エリアから外れて認識できない場合があります。

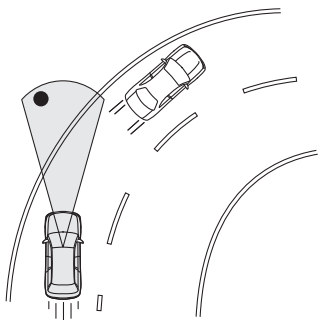


⚠ 警告

- 先行車との位置が横にずれているとき



- 道路のすぐ脇にもものがあるとき



- 先行車との速度差が大きいとき
- 前方に車両が割り込んできたとき
- 極端に車間距離が短いとき
- 自車が車線内で蛇行しているとき

⚠ 警告

- 路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
- 車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

追従機能付クルーズコントロールの状況判断能力には限界があります。次の場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 先行車を認識していても速度差が大きいときや、急減速したとき
- 先行車に追従し緩やかに減速中であっても、その後先行車が急激に減速したとき

ブザー（ポーンやピピピッなど）の音が頻繁に鳴るような状況では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
- 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

☞ P.249参照

⚠ 注意

- 次の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。
 - － 車両の状態（積載量、乗員など）
 - － 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
 - － 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
 - － 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
 - － エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
 - － 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
 - － 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき

追従機能付クルーズコントロールの使用方法

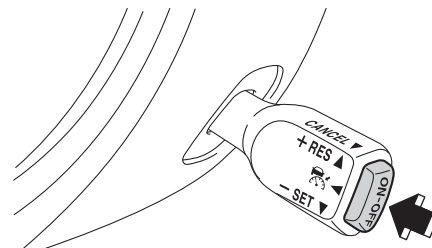
1. 追従機能付クルーズコントロールを作動可能（状態）にします。

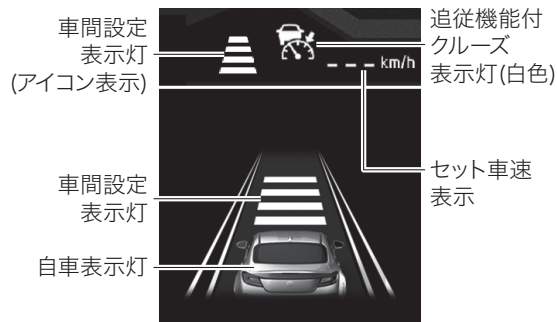
ON-OFFスイッチを押します。

追従機能付クルーズコントロールがONになり、メーター内に

（白色）と車間設定表示灯が点灯します。

また、--- km/hを表示します。





追従機能付クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内にREADY表示灯が点灯します。

- 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- チェンジレバーが“2”～“6”に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- クラッチペダルを踏んでいない
- EyeSightシステムが一時停止していない（ が点灯していない）

☞ P.292参照

- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が約30 km/h～約120 km/hのとき
- パーキングブレーキがかかっていない
- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしていない

☞ P.179、210参照

- TRCとVSC（VDC）を停止していない

☞ P.180参照

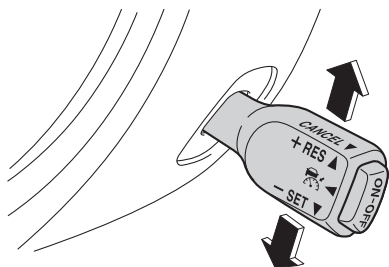


知識

マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、車間設定表示灯はメーター内でのアイコン表示になります。

☞ P.82、96参照

2. 追従機能付クルーズコントロールをセットします。クルーズコントロールスイッチを－ SET側または＋ RES側に操作します。スイッチを操作したときの車速をセット車速として、追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。



セット車速が表示され、が白色から緑色に変わります。また、メーター内のREADY表示灯が消灯します。先行車を認識していないときは定速走行します。



警告

制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

知識

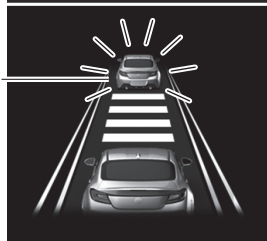
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- ON-OFFスイッチを押しても、メーター内のが点灯しない場合は、追従機能付クルーズコントロールは作動しません。
- ON-OFFスイッチを押してもメーター内のが点灯しないことが何回も発生する場合は、システムの異常が考えられます。SUBARU販売店に連絡し、点検を受けてください。

先行車を認識すると、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が点灯し、所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限になります。また、先行車を認識なくなったときは、ブザー（ピッ）が鳴ると同時に先行車表示灯が消灯します。

先行車表示灯
(アイコン表示)



先行車
表示灯

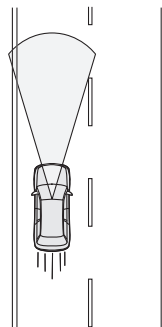


知 識

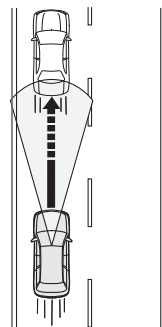
- マルチインフォメーションディスプレイの表示を運転支援機能情報以外のコンテンツにしている場合、先行車表示灯はメーター内のアイコン表示になります。
☞P.82、96参照
- 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）をOFFに設定できます。
☞P.418参照

追従機能付クルーズコントロールの作動

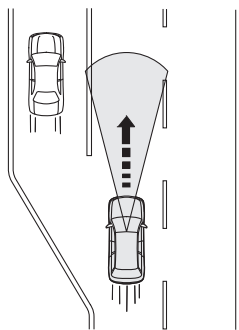
- 先行車を認識していないとき
セット車速に応じた速度で定速走行します。



- 先行車を認識したとき
セット車速を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。



- 先行車を認識しなくなったとき
セット車速まで加速し、定速走行を行います。
セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。



⚠ 注意

システムによるブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

🏠 知識

- 追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、ブレーキランプが点灯します。
- 先行車を認識していないときでも下り坂などではセット車速を保つため、追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。

🏠 知識

- システムによるブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。
- システムによるブレーキ作動中に先行車を認識しなくなったときは、ゆっくりとブレーキが解除されます。必要により、アクセルペダルを踏んで加速してください。
- 追従走行には、次の特性があります。
 - ー 先行車のブレーキランプの点灯を認識した場合、認識しない場合と比べ、早めに減速を開始します。
 - ー 車速約60 km/h以上で追い越し車線側に車線変更する場合、ウインカーと連動してセット車速までの加速を早めに開始します。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。

🔧 P.418参照

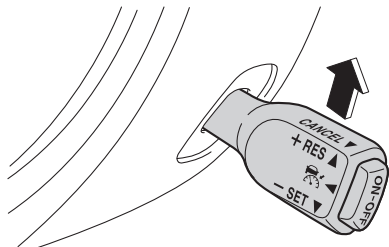
セット車速を上げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

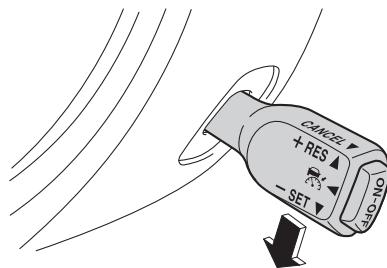
- + RES側に操作します
操作するごとにセット車速が5 km/hずつ上がります。
- + RES側に操作して保持します
保持している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとにメーター内のセット車速が変わります。



■アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチを- SET側に操作します。
操作したときの車速に再セットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。



⚠ 注意

- 追従走行しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作して、先行車の速度以上にセット車速を上げて加速しません。
 - ー ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。
 - ー セット車速はメーター内を確認しながら変更してください。
- 追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中にアクセルペダルを踏んでいるときは、追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御も警報も行いません。
 - ー ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。

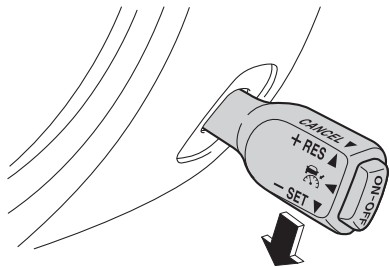
セット車速を下げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

- - SET側に操作します
操作することによりセット車速が5 km/hずつ下がります。
- - SET側に操作して保持します
保持している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



■ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

追従機能付クルーズコントロールが解除され、が緑色から白色に戻ります。

2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを- SET側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

一時的に加速したいとき

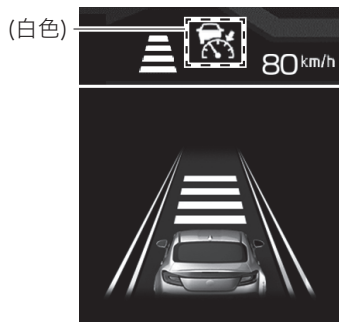
一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

追従機能付クルーズコントロール作動中に運転者がアクセルペダルを踏んで加速している間は、は白色に変わります。加速が終了するとは緑色に戻ります。

一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、追従機能付クルーズコントロールは解除されます。メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



セット車速に再度セットする場合はブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作します。

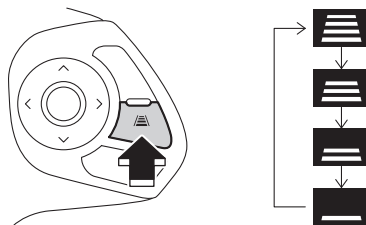
注意

通常、追従走行中は先行車の速度に合わせてシステムが加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しようになったときなどは、システムを過信せずにアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を4段階で設定できます。

（車間設定）スイッチを押すことに先行車との車間距離が切り替わります。





知 識

- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

<車間距離の目安>

車間距離	自車の走行車速	
	約40km/h	約100km/h
	約30m	約60m
	約25m	約50m
	約20m	約40m
	約15m	約30m

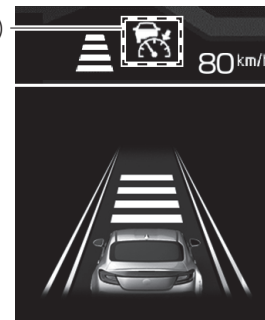
- 追従機能付クルーズコントロールをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前に設定した車間距離の状態を保っています。

追従機能付クルーズコントロールの解除方法

運転者の操作による解除

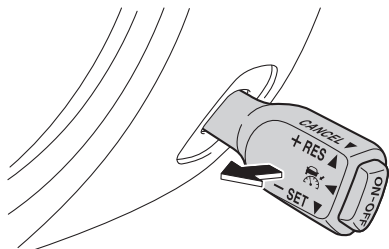
次のいずれかの操作で追従機能付クルーズコントロールが解除されます。メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

(白色)



- ブレーキペダルを踏む。

- クルーズコントロールスイッチをCANCEL側に操作する。



システムによる自動解除

⚠ 警告

追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続けます。先行車の減速に伴い自車速が約25km/hを下回ると、追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

次の場合、ブザー（ビープン）が鳴り、追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除され、が緑色から白色に戻り、割り込み画面を表示します。

- 道路の勾配が急なとき
- VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
- セット中に自車速が約25 km/hを下回ったとき
- セット中に自車速が約145 km/hを超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- チェンジレバーを“1”、“R”にしたとき、またはニュートラルにしたまま約5秒以上経過したとき
- クラッチペダルを踏んだまま約5秒以上経過したとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

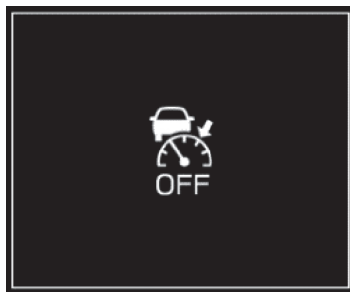
🔊 P.291 参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

🔊 P.292 参照

- プリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき

- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFしているとき
- ☞P.179、210参照
- TRCとVSC（VDC）を停止したとき
- ☞P.180参照
- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき



⚠ 警告

滑りやすい路面では追従機能付クルーズコントロールを使用しない。

- 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- チェンジレバーをニュートラルにしたままにしないでください。

⚠ 注意

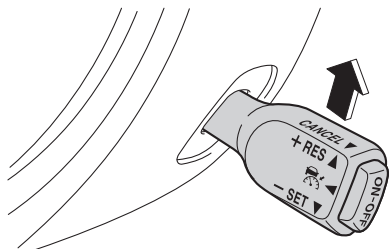
- チェンジレバーをニュートラルにしたまま約5秒以上経過すると追従機能付クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🏠 知識

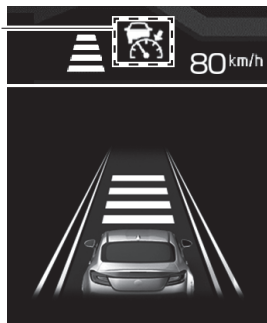
- EyeSightシステムが故障した場合は、（黄色）が点灯し、割り込み画面を表示します。また、（黄色）および（黄色）が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。
☞P.291参照
- EyeSightシステムが一時停止した場合は、（黄色）および（黄色）が点灯します。また、（白色）が点灯し、割り込み画面を表示します。
☞P.292参照
- 追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

解除からの復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再度セットする場合はクルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作します。（メーター内が再度セット状態の表示になります）



（緑色）



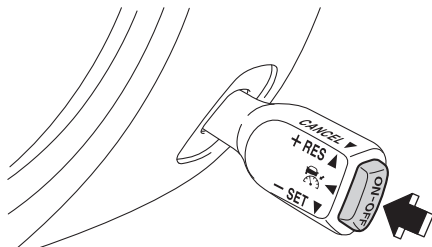
知識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
 - － ON-OFFスイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
 - － VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
 - － 追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき
- 前回のセット車速がメモリーされていない場合、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作すると、現在の自車速がセットされます。

 P.237参照

追従機能付クルーズコントロールをOFFにするとき

ON-OFFスイッチを押すとと車間設定表示灯が消灯し、追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。



その他の機能

ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不十分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。

この機能が作動すると、ブザー（ビビビ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。



警告

ブザー（ピーーンやビビビ…など）の音が頻繁に鳴るような状況では、追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

- アクセルペダルを踏んでいるとき

⚠ 警告

- ブレーキペダルを踏んでいるとき

短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。

- 先行車の車速と自車の車速の差が小さいとき
- 先行車の車速が自車の車速より速いとき
- 他車が至近距離に割り込んできたとき
- 先行車が急減速したとき
- 上り坂、下り坂が繰り返されるとき

次のような先行車に対しては認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両
- 自車速より極端に車速が遅い車両

🏠 知識

前方約110 m以内の同一車線上の先行車を認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。

信号認識機能

追従機能付クルーズコントロールをセット中に信号認識機能が作動すると、ブザー（ピッ）が鳴り、割り込み画面を表示するとともに加速を緩やかにします。

信号認識機能は次の条件をすべて満たすと作動します。

- 追従機能付クルーズコントロールをセットしている
- 自車速がセット車速を下回っている
- 先行車を認識していない
- 赤信号を検知
- 矢印信号を検知していない



ただし、アクセルペダルやブレーキペダルを操作すると割り込み画面は消え、加速抑制制御も解除されます。

⚠ 警告

追従機能付クルーズコントロールを使用する際は次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 自動車専用道路以外では使用しない。
 - － 高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。
- 信号認識機能のみに頼った運転はしない。
 - － 信号認識機能は赤信号を常にお知らせする機能ではありません。また、あらゆる状況で動作するものではありません。

信号認識機能は、天候や道路の状況により検知しにくい場合があります。特に、次の状況では、システムが正しく動作しません。

- 信号と同じくらいの高さに赤い物体があるとき（鉄道用信号、高速道路の案内掲示板など）
- 信号機に雪が付着していたり、凍結しているとき
- 悪天候時（雨天、降雪、濃霧など）
- 合流時など、走行している道路以外の信号が見えるとき
- 自車と信号機との距離が離れているとき
- 自車と信号機との距離が近く、ステレオカメラの視野範囲から外れているとき
- 矢印信号の位置が特殊なとき（信号機の上方や信号機から離れた位置にあるとき）
- 赤信号や矢印信号が暗いとき



知識

赤信号を認識して減速する機能はありません。

AT 誤発進抑制制御（オートマチック車）

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進を緩やかにします。



AT誤発進抑制制御が作動するとブザー（ピピピ…）が鳴り、割り込み画面を表示します。

この機能はセレクトレバーが“D”または“M”のとき作動します。



⚠ 警告

- AT誤発進抑制制御を過信しない。
 - ー AT誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- AT誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まない。

⚠ 警告

- ー アクセルの調節をAT誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT誤発進抑制制御をOFFにする。
- ー 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT誤発進抑制制御が作動することがあります。

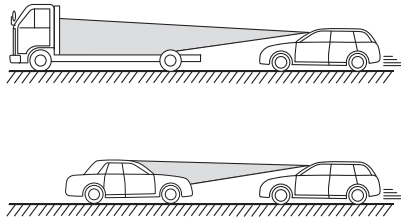
🔧 P.255参照

次の条件の違いにより作動しないことがあります。

- 対象物との距離、速度差、横方向のずれ（オフセット量）
- ステレオカメラの認識状態
 - 特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
 - ー 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
 - ー 砂や煙が舞い、視界が十分でないとき
 - ー 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
 - ー 屋内の駐車場など暗い場所で対象物に接近するとき
 - ー ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
 - ー 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ー フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃の付着や傷などがついて、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
 - ー フロントウォッシャーの使用後または使用中で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき

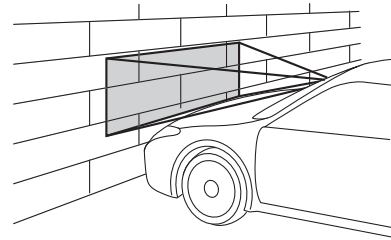
⚠ 警告

- － 雨滴やフロントウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- － 対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
- － 対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
 - － 小動物や幼児など
 - － しゃがんでいる人や横たわっている人など
- － 対象物や前方の車両（トレーラーや対向車両など）の自動車から一番近い面および最後面が小さいときや、接近し過ぎたとき（自動車から一番近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）



⚠ 警告

- － 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき



- － 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- － 車両（二輪車、自転車含む）、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- － 発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき
- － 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
- 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

安全のため、お客様ご自身でAT誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。

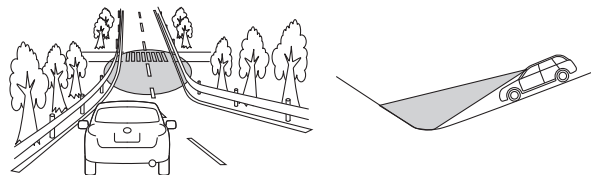
☞P.255参照

- けん引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
- リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- サーキットなどでスポーツ走行するとき

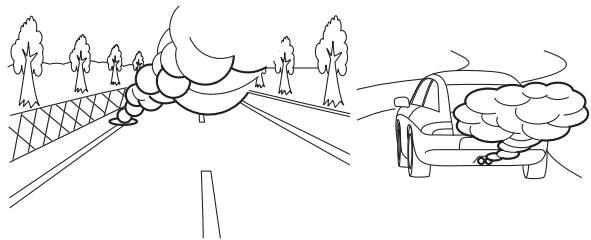
次のような場合は、AT誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。

- 前車に接近して走行するとき
- ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

⚠ 注意

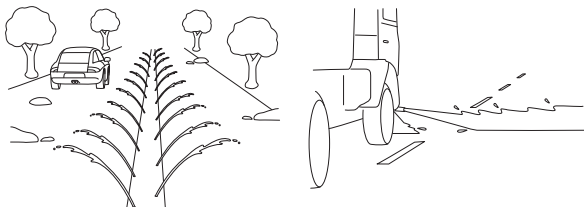


- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

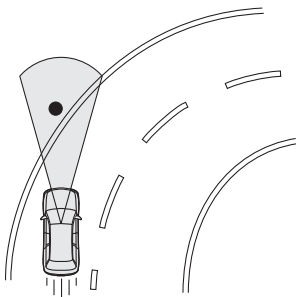


⚠ 注意

- 消雪パイプや散水車などの散水を通過するとき



- 大雪、吹雪など悪天候の中を走行するとき
- カーブや交差点に障害物があるとき



- 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
- 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

🏠 知識

- アクセルペダルを踏み続けたとき（約3秒以上）は、徐々に制御を解除します。
- 🚦 (黄色) が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。
👉 P.256参照

AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

メーターの設定項目でAT誤発進抑制制御をOFFすることができません。

「運転支援機能」の「PCB（プリクラッシュブレーキ）」の項目で「OFF」を選択することでAT誤発進抑制制御がOFFになります。

👉 P.417参照

AT誤発進抑制制御をOFFにすると、メーター内の 🚦 (黄色) が点灯します。

🏠 知識

- AT誤発進抑制制御のON/OFF設定は、プリクラッシュブレーキおよびAT誤後進抑制制御と連動します。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

☞P.180参照

- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞P.291参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

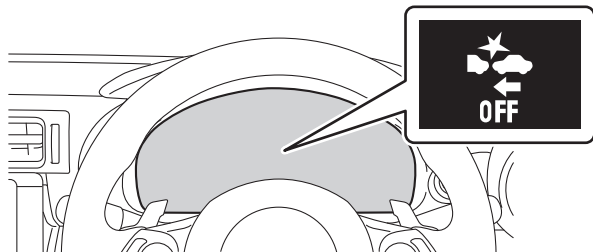
☞P.292参照



知 識



（黄色）が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストを含む）、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。



AT 誤後進抑制制御（オートマチック車）

AT誤後進抑制制御には、後退時の急な飛び出しを防ぐ後退飛び出し抑制と、後退時の速度を一定に保つ後退速度リミッターの機能があります。

これらの機能はセレクトレバーが“R”でブレーキペダルを踏んでいないとき作動します。

AT誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

⚠ 警告

- AT誤後進抑制制御を過信しない。
 - － AT誤後進抑制制御は衝突を回避するものではありません。後進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。AT誤後進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- AT誤後進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT誤後進抑制制御はあらゆる状況で、後退時の速度を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- 安全のため、お客様ご自身でAT誤後進抑制制御の作動テストを行わない。
 - － 作動せず思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ブレーキペダルを踏んでいる最中は制御が作動しません。そのため、下り坂などでは設定された速度を超過する場合があります。お客様自身でブレーキペダルを踏み増すなど速度調整をしてください。
- 万一、退避を要するような危険な状況に遭遇して、後進によって退避を行う必要がある場合なども、AT誤後進抑制制御は作動します。慌てずにアクセルペダルを深く踏み続けるか、AT誤後進抑制制御をOFFにしてください。

☞ P.260参照

⚠ 注意

次の条件や状況によりブレーキの効が悪くなることがあります。必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧など）
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効が悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキがぬれてブレーキの効が悪くなっているとき

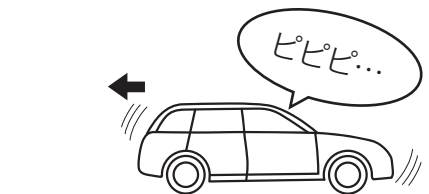
知識

（黄色）が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御は作動しません。

☞ P.260参照

後退飛び出し抑制

後退時、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し急な後退を抑制します。



後退飛び出し抑制が作動すると、ブザー（ピピピ…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。



知識

- アクセルペダルを深く踏み続けたとき（約3秒以上）は割り込み画面が消え、徐々に制御を解除します。
- AT誤後進抑制制御はステレオカメラの物体認識を使用した制御ではありません。後方障害物の有無は制御に関係しません。

後退速度リミッター

後退時、必要以上に加速しないよう車速を制限します。
制限速度は運転者が設定できます。



1. セレクトレバーを“R”にすると制限速度の設定値を表示します。



2. 制限速度を超過しそうになると、後退速度リミッターが作動します。

作動中はセレクトレバーを“R”にしたときよりも早い間隔でブザー（ポーンポーン…）が鳴ります。また、割り込み画面を表示します。



知識

- 後退速度リミッターは機能の設定（高速／中速／低速／OFF）ができます。

設定	速度
高速	約20 km/h
中速	約15 km/h
低速	約10 km/h
OFF	—

☞ P.418 参照

- アクセルペダルを深く踏み込むと制御を解除することができます（“速度制限中”の割り込み画面が消えます）。
 - アクセルペダルから足を離すと、再度後退速度リミッターが作動します。
 - 滑りやすい路面などでタイヤが空転したときは、後退速度リミッターが作動することがあります。
 - システムがアクセルの急踏みと判断した場合、後退飛び出し抑制が作動します。

AT誤後進抑制制御をOFFにするとき

メーターの設定項目でAT誤後進抑制制御をOFFすることができます。

「運転支援機能」の「PCB（プリクラッシュブレーキ）」の項目で「OFF」を選択することでAT誤後進抑制制御がOFFになります。

☞ P.417 参照

AT誤後進抑制制御をOFFにすると、メーター内の （黄色）が点灯します。

知識

- AT誤後進抑制制御のON／OFF設定は、プリクラッシュブレーキおよびAT誤後進抑制制御と連動します。
- AT誤後進抑制制御をOFFにしても、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動するとAT誤後進抑制制御はONになります。

プリクラッシュブレーキOFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

プリクラッシュブレーキ、AT誤後進抑制制御およびAT誤後進抑制制御をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

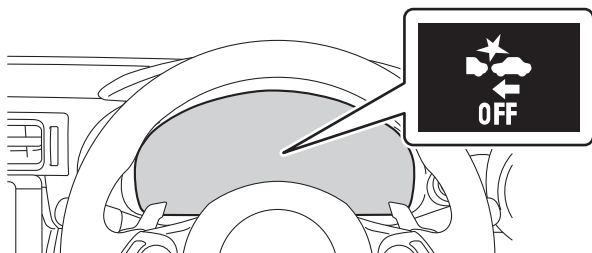
☞ P.180 参照

- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞ P.291 参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき ( (白色) が点灯している)

☞ P.292参照



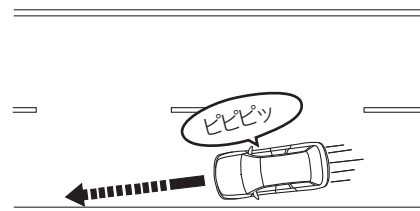
知 識

 (黄色) が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキ (プリクラッシュブレーキアシストを含む)、AT誤発進抑制制御およびAT誤後進抑制制御は作動しません。

車線逸脱警報

自車速が約40 km/h以上のときに車線を逸脱しようになると注意を促します。

車線逸脱警報が作動するとブザー (ピピピッ) が鳴り、割り込み画面を表示します。



⚠ 警告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながることがあります。

車線逸脱警報は区画線を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではありません。

⚠ 注意

次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。

- 自車速が約40 km/h未満のとき
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- 半径300 m以下のカーブを走行しているとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- ウインカー作動中とレバーを戻した後の約4秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
 - ー 区画線がない、または見えかかっている
 - ー 区画線が黄色で描かれている
 - ー 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
 - ー 区画線の幅が細いなど

🏠 知識

- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
 - ー むれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
 - ー 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡などがあるとき
 - ー ガードレールの影などがあるとき
 - ー 区画線が二重に描かれているとき
 - ー 道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
-  (黄色) が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。
🔧 P.263参照

車線逸脱警報をON/OFFにするとき

メーターの設定項目で車線逸脱警報をON/OFFすることができします。

「運転支援機能」の「LDW（車線逸脱警報）」の項目で「ON」を選択することで車線逸脱警報がONになります。また「OFF」を選択することで車線逸脱警報がOFFになります。

🔧 P.417参照

車線逸脱警報をOFFにすると、メーター内の  (黄色) が点灯します。

車線逸脱警報をONにすると、 (黄色) が消灯します。

知識

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エンジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

車線逸脱警報OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態に応じて消灯または点灯します。

車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしているとき

☞ P.179、210参照

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

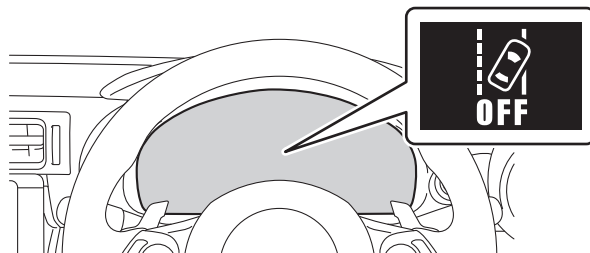
☞ P.180参照

- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞ P.291参照

- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）

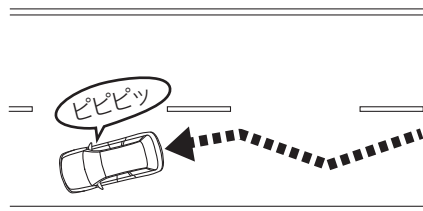
☞ P.292参照



ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザー（ピピピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。

車速が約60 km/hを超えると作動可能になります。車速が約40 km/hを下回ると作動を停止します。その後車速が約60 km/hを超えると、再び作動可能になります。



警告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

次の状況では、作動しない場合があります。

- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
 - － 区画線がない、または消えかかっている
 - － 区画線が黄色で描かれている
 - － 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
 - － 区画線の幅が細いなど



知識

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきがおさまった後もしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報は運転者に注意を促す機能です。疲れたときやよそ見など、運転への集中力が落ちた際は、必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
-  (黄色) が点灯しているときは、ふらつき警報は作動しません。

☞P.265参照

ふらつき警報をON/OFFにするとき

メーターの設定項目でふらつき警報をON/OFFすることができ
ます。

「運転支援機能」の「LDW（車線逸脱警報）」の項目で「ON」を
選択することでふらつき警報がONになります。また「OFF」を
選択することでふらつき警報がOFFになります。

☞P.417参照

ふらつき警報をOFFにすると、メーター内の  (黄色) が点灯
します。

ふらつき警報をONにすると、 (黄色) が消灯します。



知識

- ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFにな
ります。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから、再度エン
ジンを始動しても、プッシュエンジンスイッチをOFFにする
前の状態を保ちます。

車線逸脱警報OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動
後約7秒後、プッシュエンジンスイッチをOFFにする前の状態に
応じて消灯または点灯します。

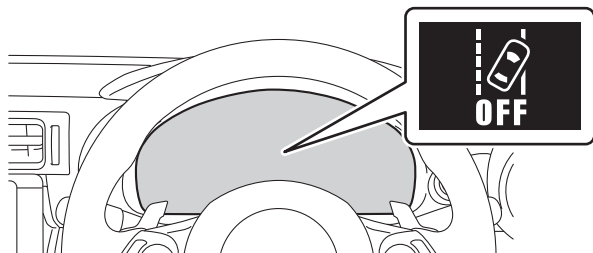
車線逸脱警報およびふらつき警報をOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。

- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしてい
るとき

☞P.179、210参照

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき
 P.180参照
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）
 P.291参照
- EyeSightシステムが一時停止したとき（（白色）が点灯している）
 P.292参照

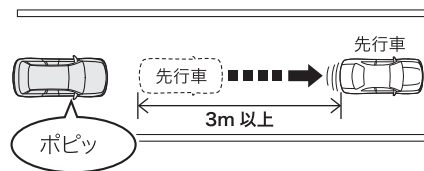


先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約10 m以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約3 m以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

- オートマチック車：この機能はセレクトレバーが“D”、“M”または“N”のとき作動します。
- マニュアル車：この機能はブレーキペダルを踏んでいるときのみ作動します。パーキングブレーキのみによって停車している場合や、チェンジレバーが“R”の場合は作動しません。

この機能が作動するとブザー（ポピッ）が鳴り、割り込み画面を表示します。





⚠ 警告

ブザーと表示でお知らせがあった場合でも、周囲の状況をよく確認してから自車を発進させてください。先行車発進お知らせのみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🏠 知識

- 先行車発進お知らせのON/OFFの設定を変更できます。
👉P.418参照
- 次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
 - ー 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
 - ー 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
 - ー ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき

🏠 知識

- 先行車発進お知らせはインストールした場合にも作動しますが、エンジンを再始動したときにバッテリー電圧の異常などが発生した場合、作動しないことがあります。(マニュアル車)
- 次の場合、先行車発進お知らせは作動しません。
 - ー TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしているとき
👉P.179、210参照
 - ー TRCとVSC (VDC) を停止したとき
👉P.180参照
 - ー EyeSightシステムが故障したとき (👁️ EyeSight (黄色) が点灯している)
👉P.291参照
 - ー EyeSightシステムが一時停止したとき (👁️ EyeSight (白色) が点灯している)
👉P.292参照

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

⚠ 警告

定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。

先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。

次の状況では、システムが正しく動作しません。定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- ホイールバランスが異常なとき（バランスウェイトの脱落、ずれなど）※
- ホイールアライメントが規定値から外れているとき※
※ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。

☞ P.414 参照

次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。

- 交通量の多い道や急カーブのある道を走行しているとき
ー 道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行しているとき

⚠ 警告

- ー タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
- 急な下り坂の道を走行しているとき
ー セット車速を超えてしまう場合があります。
- 急な下り坂が続くとき
ー ブレーキが過熱するおそれがあります。
- 車両などをけん引しているとき
ー セット車速を維持できなくなる場合があります。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定してください。

⚠ 注意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかをメーター内で必ず確認してください。

- 全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）および追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）… 
- 定速クルーズコントロール… 

知識

- クルーズメインOFFの状態からON-OFFスイッチを押すと、全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）がONになります。
 - クルーズメインONのとき、（車間設定）スイッチ※を押すと、全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）と定速クルーズコントロールを切り替えることができます。
- ※ 定速クルーズコントロールに切り替えるときは、約2秒以上押し続けてください。
- EyeSightシステムが一時停止中でも、定速クルーズコントロールは使用できます。

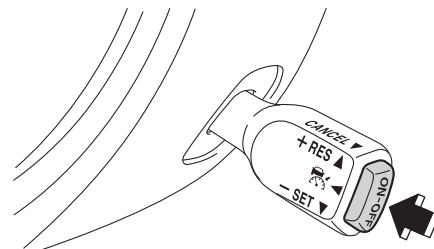
定速クルーズコントロールの使用方法

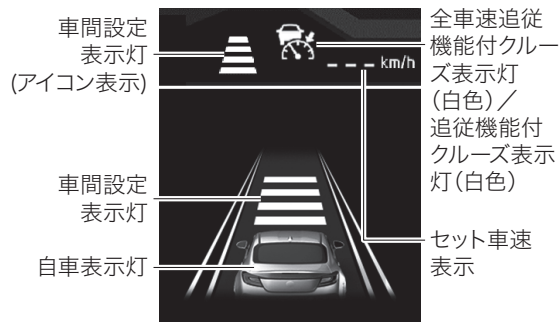
1. 全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）を作動可能（状態）にします。

ON-OFFスイッチを押します。全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）がONになり、メーター内に（白色）と車間設定表示灯が点灯します。

また、--- km/hを表示します。

ON-OFFスイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）として起動します。

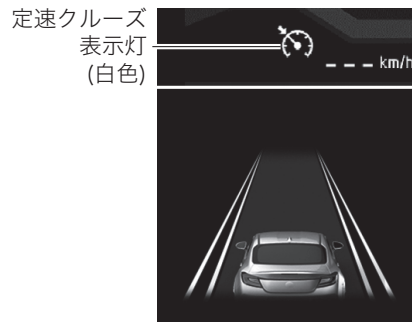




2. 定速クルーズコントロールに切り替えます。

⏏ (車間設定) スイッチを約2秒以上押し続けると、全車速追従機能付クルーズコントロール (オートマチック車) または追従機能付クルーズコントロール (マニュアル車) から定速クルーズコントロールに切り替わり、ブザー (ピップ) が鳴ります。

このときメーター内の車間設定表示灯が消灯し、⌚ (白色) に切り替わります。



定速クルーズコントロールは、次の条件をすべて満たすとセット可能になり、メーター内にREADY表示灯が点灯します。



オートマチック車：

- 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- セレクトレバーが“D”または“M”に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 急な坂道でない

- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が約30 km/h～約120 km/hのとき
- パーキングブレーキがかかっていない
- ドライブモードがノーマルモードまたはスポーツモードのとき

☞ P.171参照

- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしていない

☞ P.179、210参照

- TRCとVSC（VDC）を停止していない

☞ P.180参照

マニュアル車：

- 運転席・助手席のすべてのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- チェンジレバーが“2”～“6”に入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- クラッチペダルを踏んでいない
- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- 自車速が約30 km/h～約120 km/hのとき
- パーキングブレーキがかかっていない
- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしていない

☞ P.179、210参照

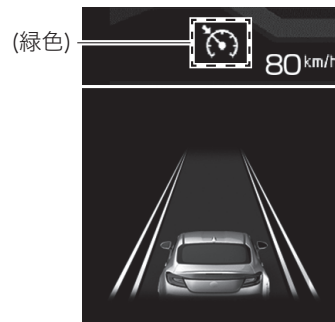
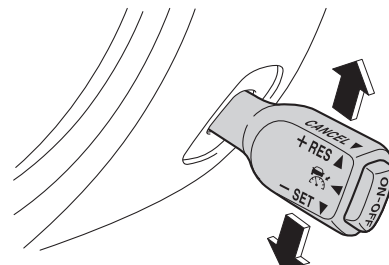
- TRCとVSC（VDC）を停止していない

☞ P.180参照

3. アクセルペダルを加減して希望する速度にします。

4. 希望する速度になったら、クルーズコントロールスイッチを－SET側または＋RES側に操作します。スイッチを操作したときの車速がセット車速となり、定速走行します。

メーター内にセット車速が表示され、が白色から緑色に変わります。また、メーター内のREADY表示灯が消灯します。



⚠ 警告

- 定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
- 制限速度を守り、道路状況、環境にあった適切な车速範囲にセット车速を設定してください。

⚠ 注意

定速クルーズコントロールでは、必要に応じて運転者がアクセル、ブレーキ操作をする。
ーシステムによる先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御は行いません。

🏠 知識

- 下り坂などでは、セット车速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- カーブ走行中はセット车速が自车速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）に戻りたいときは、定速クルーズコントロールを解除して、（車間設定）スイッチを押します。切り替わるとブザー（ピッ）が鳴ります。
- クルーズコントロール加速レベルを4段階に設定できます。
📖 P.418参照

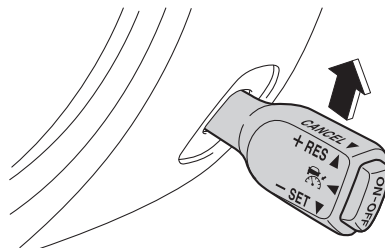
セット车速を上げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

定速クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

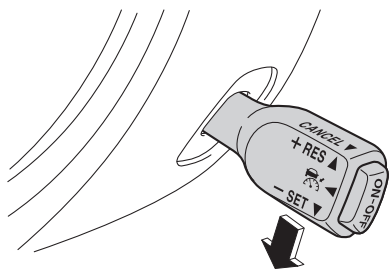
- + RES側に操作します
操作することによりセット车速が5 km/hずつ上がります。
- + RES側に操作して保持します
保持している間、セット车速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット车速が変わります。



■アクセルペダルによる方法

1. アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
2. 希望の速度になったらクルーズコントロールスイッチをー SET側に操作します。
操作したときの车速に再セットされ、メーター内に新しいセット车速を表示します。



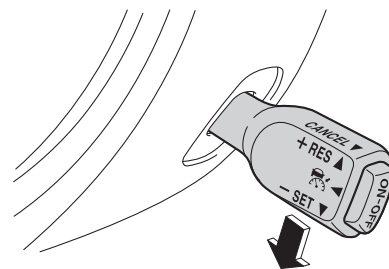
セット車速を下げるとき

■クルーズコントロールスイッチによる方法

定速クルーズコントロールをセットして走行中、クルーズコントロールスイッチを次のように操作します。

- - SET側に操作します
操作することによりセット車速が5 km/hずつ下がります。
- - SET側に操作して保持します
保持している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

スイッチを操作することによりメーター内のセット車速が変わります。



■ブレーキペダルによる方法

1. ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。

定速クルーズコントロールが解除され、が緑色から白色に戻ります。

2. 希望の速度になったらブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを- SET側に操作します。

操作したときの車速にセットされ、メーター内に新しいセット車速を表示します。

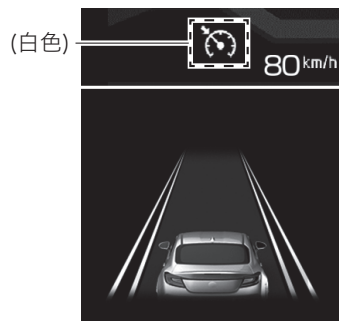
一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。
メーター内にセット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。

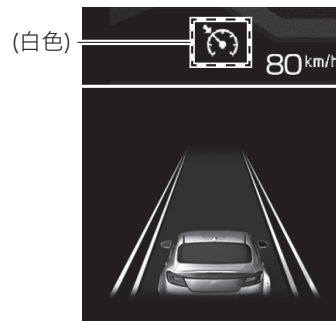
セット車速に再びセットする場合はブレーキペダルから足を離し、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作します。



定速クルーズコントロールの解除方法

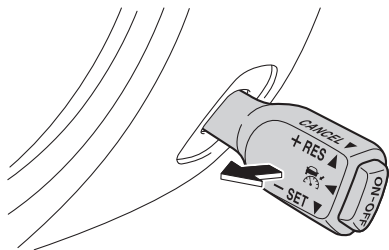
運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で定速クルーズコントロールが解除されます。メーター内は、セット車速を表示したまま、が緑色から白色に戻ります。



- ブレーキペダルを踏む。

- クルーズコントロールスイッチをCANCEL側に操作する。



システムによる自動解除

⚠ 警告

滑りやすい路面では、定速クルーズコントロールを使用しない。

- ー 思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- オートマチック車：緊急時以外はセレクトレバーを“N”にしないでください。
 - ー セレクトレバーを“N”にすると定速クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- マニュアル車：チェンジレバーをニュートラルにしたままにしないでください。

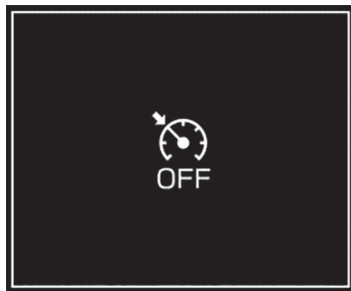
⚠ 注意

- ー チェンジレバーをニュートラルにしたまま約5秒以上経過すると定速クルーズコントロールは自動的に解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。その場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🏠 知識

- EyeSightシステムが故障した場合は **EyeSight** (黄色) が点灯し、割り込み画面を表示します。また **OFF** (黄色) および **OFF** (黄色) が点灯します。その場合は安全な場所に停車して、一度ブッシュエンジンスイッチをOFFにしてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示灯が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。
➡ P.291 参照
- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。

次の場合、ブザー（ピーーン）が鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除され、割り込み画面が表示されます。



オートマチック車：

- セレクトレバーを“D”または“M”以外にしたとき
- 自車速が約25 km/h以下になったとき（急な上り坂など）
- 自車速が約145 km/h以上になったとき
- VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞P.291参照

- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき
- ブリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき
- ドライブモードをスノーモードにしたとき

☞P.171参照

- TRACKモード中、ブリクラッシュブレーキをOFFにしているとき

☞P.179、210参照

- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

☞P.180参照

- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき

マニュアル車：

- チェンジレバーを“1”、“R”にしたとき、またはニュートラルにしたまま約5秒以上経過したとき
- クラッチペダルを踏んだまま約5秒以上経過したとき
- 自車速が約25 km/h以下になったとき（急な上り坂など）
- 自車速が約145 km/h以上になったとき
- VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
- 運転席・助手席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- EyeSightシステムが故障したとき（（黄色）が点灯している）

☞P.291参照

- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき
- ブリクラッシュ 2次ブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したとき
- TRACKモード中、ブリクラッシュブレーキをOFFにしているとき

☞P.179、210参照

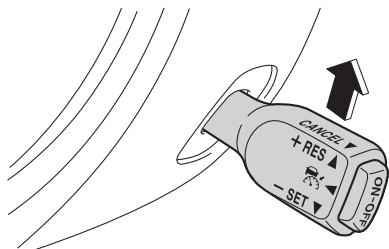
- TRCとVSC（VDC）を停止したとき

☞P.180参照

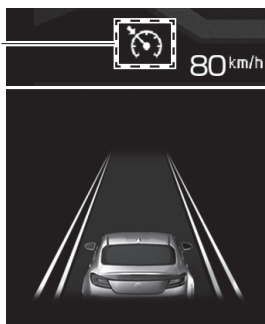
- 滑りやすい路面などで駆動輪が空転したとき

解除からの復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はクルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作します。（メーター内が再びセット状態の表示になります）。前回のセット車速がメモリーされている場合、自車速約30 km/h以上のときにセットできます。



(緑色)



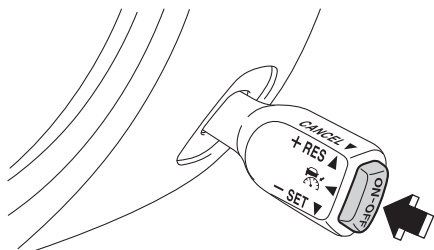
知識

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
 - ON-OFFスイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
 - VSC（VDC）またはTRCが作動したとき
 - 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）に切り替えたとき
- セット車速に応じた車速で定速走行します。
- 前回のセット車速がメモリーされていない場合、クルーズコントロールスイッチを+ RES側に操作すると、現在の自車速がセットされます。

🔗 P.269参照

定速クルーズコントロールをOFFにするとき

ON-OFFスイッチを押すとが消灯し、定速クルーズコントロールがOFFになります。



RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）

RABは、後退時に後方の障害物を検知して表示と警報音で知らせ、衝突の可能性があると判断した場合はブレーキを作動させることで衝突を回避、または被害を軽減するシステムです。

警告

- 安全運転を行う責任は運転者にある。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認する。
 - － RABの検知性能・制御性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音やブレーキ制御の作動が遅れたり、作動しなかったり、衝突が回避できない場合があります。
 - － RABは、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。
- RABだけに頼った後退は、絶対にしない。
 - － システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。
- 車両などをけん引するときは、必ずRABをOFFにする。
 - － RABが予期しない作動をし、事故につながるおそれがあります。
- 踏切から緊急に脱出するときなど、RABを解除する必要があるときは、落ち着いてアクセルペダルを踏み続けるか、RABをOFFにする。

⚠ 警告

- システムが遮断機を障害物として検知し、ブレーキが作動することがあります。
- ☞P.283参照
- シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ずRABをOFFにする。
 - RABが予期しない作動をするおそれがあります。
- 車両後部にアタッチメントパーツ（サイクルキャリア、バンパーガード）を取り付けた場合は、必ずRABをOFFにする。
 - システムの誤作動を引き起こし、思わぬ事故や破損を起こす可能性があります。

🏠 知識

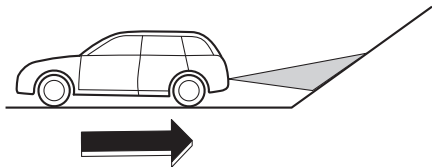
- RABは、システムによるブレーキが作動したときに、次のデータを記録します。個人情報（例：氏名・性別・年齢・作動場所）や、会話その他の音声データは記録しません。
 - 対象物からの距離
 - 車速
 - アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
 - セレクトレバーの位置
 - 外気温
 - ソナーセンサーの感度設定
- RABは自車の真後ろに静止している車両や壁などを障害物として想定しています。次のようなものは、障害物として認識しないことがあります。
 - 歩行者
 - 動いているもの

🏠 知識

- 枝や遮断機など尖ったものや細いもの
- 布や雪など音波を吸収するもの
- 表面の角度が斜めになっているもの
- 車両より小さいもの
- 車両よりも高い位置や、地面近くの低い位置にあるもの
- 自車の中心から左右に外れた位置にあるもの
- 地面に対して垂直でないもの
- 車両の進行方向に対して直角でないもの
- 凹凸のあるものや表面が波打っているもの
- セレクトレバーを“R”にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるものは認識しないことがあります。
- ソナーセンサーの取り扱いをお守りください。
 - ☞P.196参照
- 次のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
 - ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
 - 大雨などでソナーセンサーおよびソナーセンサー付近に大量の水がかかったとき
 - 霧や雪、強風、砂嵐など悪天候のとき
 - 他の車両のホーン、エンジン音、エアブレーキ音などの高周波音が近くで鳴っているとき
 - RABのソナーに近い周波数の音が近くで鳴っているとき
- 車両を改造したり、リヤバンパーに次のような部品を取り付けたりすると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。部品の取り付けなどが必要なときは、SUBARU販売店にご相談ください。

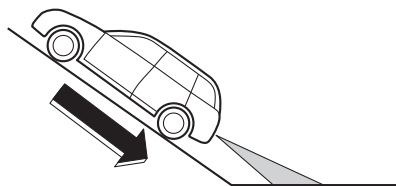
知識

- － フォグランプ、フェンダーポール、ラジオアンテナなどの部品
- － ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
- － 字光式ナンバープレートなど
- 次のような状態のときは、システムが地面や壁などを障害物として検知することがあります。
 - － 積載などにより、車高が極端に変わっているとき
 - － 後退方向に極端な上り坂があるとき

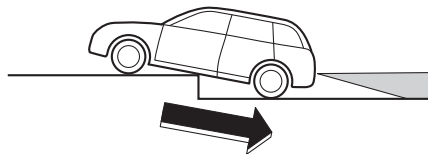


- － 後退方向に縁石があるとき
- － 草や砂利が多い道路や穴やわだちがある地面を後退しているとき
- － 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
- － 極端な上り坂または下り坂を後退しているとき

知識



- － 段差を後退しているとき



- － 路面がぬれているとき
- 次のような状態のときは、システムが正常に作動してもブレーキが効きにくく、衝突を回避できないことがあります。
 - － タイヤを正しく装着していないとき

☞ P.351 参照



知識

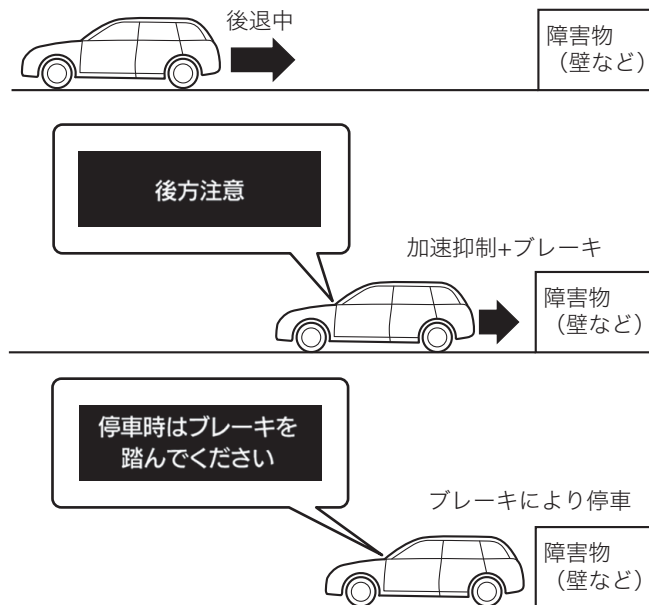
- － 路面が滑りやすいとき
- － 急な坂道を走行しているとき
- － マンホールのフタの上などを走行しているとき
- － パンク修理キットで応急修理をしたとき
- － タイヤチェーンを装着しているとき
- － 車両やブレーキに異常があるとき

RABの作動

セレクトレバーを“R”に（メーターのシフトポジション表示が“R”に変化）し車速約1.5 km/h～15 km/hで後退を続けたとき、衝突の危険があると判断されると、衝突を回避するために自動的にエンジン出力を抑制し、強いブレーキが作動します。

警報音に加え、割り込み画面を表示します。

RABによる停車後はブザーが鳴ります。その後ゆっくりとシステムによるブレーキが解除され、クリープ走行を開始するため、車両停車後は必ずブレーキペダルを踏んでください。このとき、RABが一時停止します。セレクトレバーを“R”以外にすると復帰します。



警告

システムによるブレーキで停車した後はすぐにブレーキペダルを踏んでください。お車が動き出すおそれがあります。

知識

- クリアランスソナーが鳴っていても、RABは作動しないことがあります。
- 加速抑制中にアクセルペダルを踏み続けると、RABをキャンセルすることができます。
- RABによる停車中にアクセルペダルを踏んだとき、RABは作動しません。
- 次の場合は、RABが解除されます。
 - ー 車両が停車してから3秒が経過したとき
 - ー いずれかのドアを開けたとき
 - ー RAB・クリアランスソナー警告灯が点灯したとき
 - ー RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯したとき
- 障害物を検知できなくなったときは、RABがキャンセルされます。

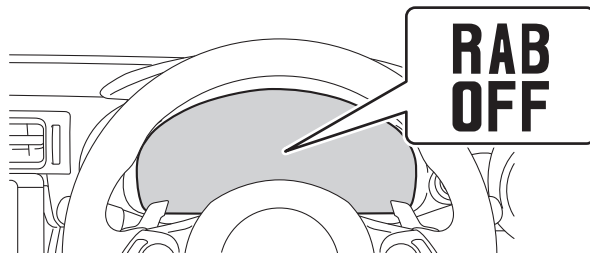
RABの一時停止

RABの作動後、セレクトレバーを“R”以外にするまで、および次のようなときには、RABが一時停止します。

- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- リヤバンパーのすぐ近くに物がある状態でセレクトレバーを“R”にしたとき
- RABのソナーに近い周波数の音を検知したとき
- TRCとVSC（VDC）を停止したとき
- TRACKモード中、プリクラッシュブレーキをOFFにしているとき

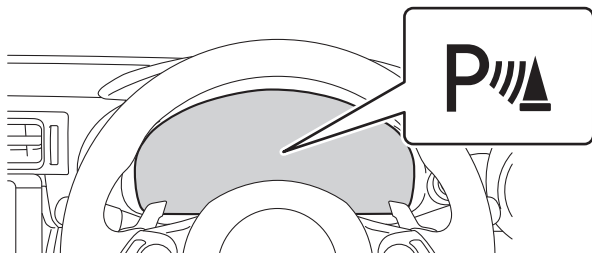
☞ P.179、210参照

このとき、RAB OFF表示灯／一時停止表示灯が点灯します。



RAB・クリアランスソナー警告灯

システムに異常があると点灯します。SUBARU販売店にご連絡ください。



RABをON/OFFにするとき

マルチインフォメーションディスプレイでRABのON/OFFを切り替えることができます。

☞P.417参照

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、後退時に後方の障害物を検知して表示と警報音で知らせるシステムです。

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にある。後退時には、ブレーキペダルを踏める状態で、必ず目視によって周辺状況を確認する。
- － クリアランスソナーの検知性能には限界があります。天候や周囲の状況、車両の状態により、警報音が遅れたり、作動しなかったりする場合があります。
- － クリアランスソナーは、歩行者や動物、動いているものを認識するように設計されていません。
- クリアランスソナーだけに頼った後退は、絶対にしない。
- － システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合、死亡事故に至るおそれがあります。

🏠 知識

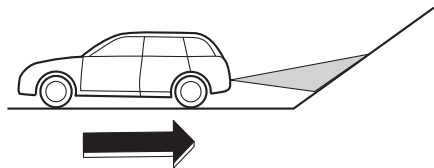
- クリアランスソナーは自車の真後ろに静止している車両や壁などを障害物として想定しています。次のようなものは、障害物として認識しないことがあります。
- － 歩行者
- － 動いているもの
- － 枝や遮断機など尖ったものや細いもの
- － 布や雪など音波を吸収するもの
- － 表面の角度が斜めになっているもの

🏠 知識

- － 車両より小さいもの
- － 車両よりも高い位置や、地面近くの低い位置にあるもの
- － 自車の中心から左右に外れた位置にあるもの
- － 地面に対して垂直でないもの
- － 車両の進行方向に対して直角でないもの
- － 凹凸のあるものや表面が波打っているもの
- セレクトレバーを“R”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーを“R”（マニュアル車）にしたとき、すでにリヤバンパーのすぐ近くにあるものは認識しないことがあります。
- ソナーセンサーの取り扱いをお守りください。
📖 P.196参照
- 次のときは、システムが正常に作動しないことがあります。
- － ソナーセンサー付近が極端に暑いとき、または寒いとき
- － 大雨などでソナーセンサーおよびソナーセンサー付近に大量の水がかかったとき
- － 霧や雪、強風、砂嵐など悪天候のとき
- － 他の車両のホーン、エンジン音、エアブレーキ音などの高周波音が近くで鳴っているとき
- － クリアランスソナーのソナーに近い周波数の音が近くで鳴っているとき
- 車両を改造したり、リヤバンパーに次のような部品を取り付けたりすると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。部品の取り付けなどが必要なときは、SUBARU販売店にご相談ください。
- － サイクルキャリア、バンパーガードなどのアタッチメントパーツ

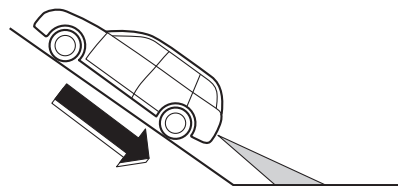
知識

- － フォグランプ、フェンダーポール、ラジオアンテナなどの部品
- － ホーンやスピーカーなどの高周波音を出す部品
- － 字光式ナンバープレートなど
- 次のような状態のときは、システムが地面や壁などを障害物として検知することがあります。
 - － 積載などにより、車高が極端に変わっているとき
 - － 後退方向に極端な上り坂があるとき

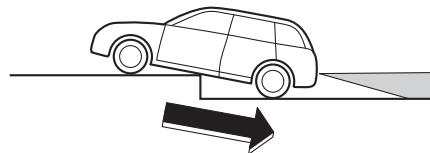


- － 後退方向に縁石があるとき
- － 草や砂利が多い道路や穴やわだちがある地面を後退しているとき
- － 狭いトンネルや狭い橋、狭い道路、狭いガレージなど、物や壁が車両に隣接した場所で後退しているとき
- － 極端な上り坂または下り坂を後退しているとき

知識



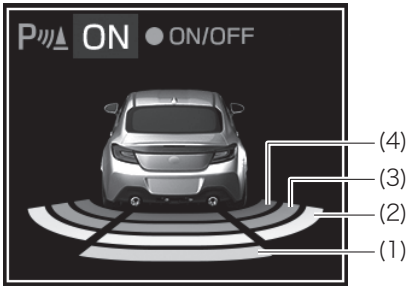
- － 段差を後退しているとき



- － 路面がぬれているとき

クリアランスソナーの作動

セレクトレバーを“R”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーを“R”（マニュアル車）に（メーターのシフトポジション表示が“R”に変化）し障害物を検知すると、障害物との距離の範囲がメーターに表示され、警報音が鳴ります。
警報音は障害物との距離によって中距離、接近、最接近の3段階に変化し、近づくほど間隔が短くなります。



	警報パターン	障害物との距離の範囲	障害物との距離の表示
(1)	遠距離警報	約110 cm～ 約150 cm	緑
(2)	中距離警報	約70 cm～ 約110 cm	黄+緑
(3)	接近警報	約50 cm～ 約70 cm	橙+黄+緑
(4)	最接近警報	約50 cm以下	赤+橙+黄+緑

 **知 識**

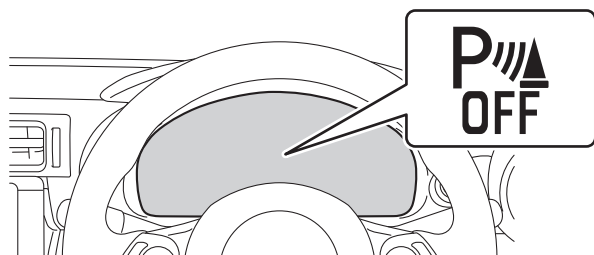
クリアランスソナーの音量を設定することができます。
🔊 P.418参照

クリアランスソナーの一時停止

次のようなときには、クリアランスソナーが一時停止します。

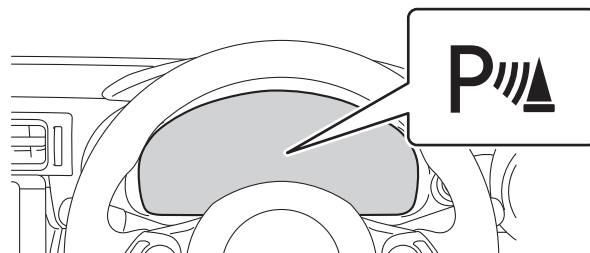
- ソナーセンサーに氷や雪、泥などが付着したとき
- クリアランスソナーのソナーに近い周波数の音を検知したとき

このとき、クリアランスソナー OFF表示灯が点灯します。



RAB・クリアランスソナー警告灯

システムに異常があると点灯します。SUBARU販売店にご連絡ください。



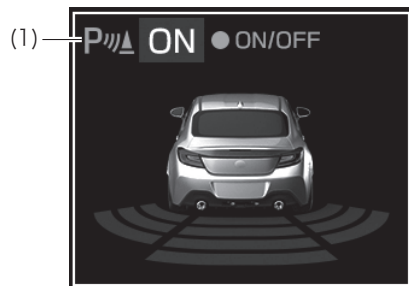
クリアランスソナーをON/OFFにするとき

マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーのON/OFFを切り替えることができます。

☞P.417参照

クリアランスソナーは、割り込み画面で、メーター操作スイッチの  を押して切り替えることもできます。

クリアランスソナーをOFFにすると、割り込み画面のアイコンの「ON」が「OFF」に変わります。



(1) クリアランスソナーのON/OFF

知 識

エンジンを始動すると、クリアランスソナーは自動的にONになります。

システム作動音一覧

ブザー（音）	状態	参照先
ピーーー	プリクラッシュブレーキ：2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞ P.207
	RAB：ブレーキが作動したとき※ ¹	☞ P.281
ピピーン	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☞ P.227、246、275
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ：1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☞ P.207
	プリクラッシュブレーキ：車間距離警報が作動したとき	
	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）、追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）によるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☞ P.230、249
	AT誤発進抑制制御が作動したとき※ ¹	☞ P.251
	AT誤後進抑制制御の後退飛び出し抑制が作動したとき※ ¹	☞ P.258
	RAB：加速抑制が作動したとき※ ¹	☞ P.281
ピピピッ	車線逸脱警報が作動したとき	☞ P.261
	ふらつき警報が作動したとき	☞ P.264
ピッ、ピッ、ピッ、ピピーン	プリクラッシュブレーキによる自車の停止後、ブレーキ制御が解除される直前	☞ P.207
	全車速追従機能付クルーズコントロールを使用時に、先行車の停止に伴う自車の停止後、ブレーキ制御が解除される直前※ ¹	☞ P.227
	RABによる自車の停止後、ブレーキ制御が解除される直前※ ¹	☞ P.281

ブザー（音）	状態	参照先
ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）をセット中に • 先行車を認識したとき※2 • 先行車を認識しなくなったとき※2 • 赤信号を認識したとき	🔗 P.218、231、237、250
	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）と定速クルーズコントロールを切り替えたとき	🔗 P.269
	EyeSightシステムが故障したとき	🔗 P.291
	EyeSightシステムが一時停止したとき	🔗 P.292
	RAB/クリアランスソナーが故障したとき	🔗 P.283、287
	RAB/クリアランスソナーが一時停止したとき	🔗 P.282、287
ポピッ	先行車発進お知らせが作動したとき※2	🔗 P.266
ポーンポーン…	後退速度リミッターが作動しているとき※1	🔗 P.259
ポッポッポッポッポッ・・・	クリアランスソナー：中距離警報	🔗 P.286
ポポポポポ・・・	クリアランスソナー：接近警報	
ポーーー	クリアランスソナー：最接近警報	

※1：作動音の有無はグレードやオプションにより異なります。

※2：先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）および先行車発進お知らせのON/OFFの設定を変更することができます。

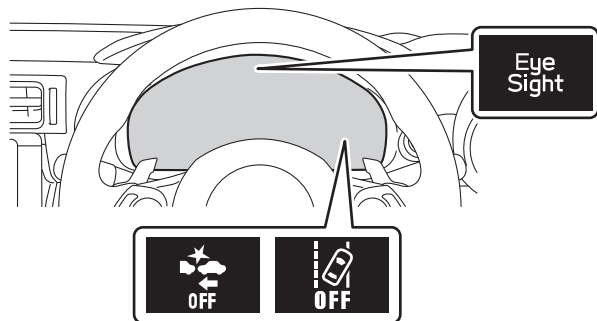
🔗 P.418参照

EyeSightシステムの故障および一時停止

EyeSightシステム（RAB、クリアランスソナーを含む）の異常を検知すると、メーター内の表示灯でお知らせします。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

ブザー（ピッ）が鳴り、（黄色）が点灯または点滅します。同時に、（黄色）と （黄色）が点灯します。また、割り込み画面を表示します。



表示画面	原因	処置
 販売店で点検を受けてください	EyeSightシステムの故障またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。	点検、調整などが必要です。 SUBARU 販売店にご相談ください。

注意

走行中に （黄色）とエンジン警告灯が同時に点灯したときは、高速走行を避け、直ちにSUBARU販売店で点検を受けてください。エンジンなどに異常がある場合、EyeSightシステムは使用できません。

知識

- （黄色）が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動しても （黄色）が点灯または点滅し続けるときは、EyeSightシステムの異常が考えられます。この場合、EyeSightシステムのすべての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、SUBARU販売店で点検を受けてください。
- （黄色）が点灯、または点滅しているときは、RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）およびクリアランスソナーは機能しません。

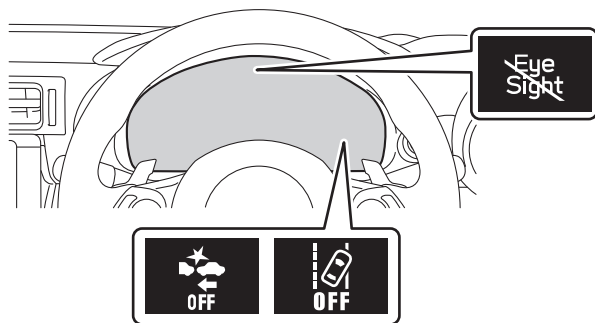
一時停止

ブザー（ピッ）が鳴り、（白色）が点灯します。同時に、

（黄色）および （黄色）が点灯します。

また、割り込み画面を表示します。

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的にEyeSightが復帰します。



表示画面	原因	処置
 一時停止 カメラ視界不良	ステレオカメラが前方を認識しにくい - フロントガラスの汚れ、曇り - 悪天候時 - 前方からの強い光	- フロントガラスをきれいにしてください。 - 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。状況が解消して時間がたっても復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。
 一時停止 カメラ温度範囲外	低温または高温時	EyeSightが使用可能な温度になると復帰します。室内が常温でも復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。
 一時停止	- EyeSight起動中のとき - 車両が極端に傾いていると判断したとき - エンジン始動後、ブリクラッシュ2次ブレーキが3回作動したとき - エンジンが停止したとき（オートマチック車） - 走行中にボンネットが開いたとき	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、SUBARU販売店で点検を受けてください。



知 識

 (白色) が点灯しているときは、次のような現象が発生します。

- 定速クルーズコントロールを除くすべてのEyeSightシステムの機能が使用できません。
- RAB（後退時ブレーキアシスト）（オートマチック車）が停止する場合があります。

その他の運転支援機能

SRVD（後側方警戒支援システム）※

SRVDは、隣接車線の後方から接近する車両や、後退時に左右から接近する車両の存在を知らせることにより、車線変更時や後退時の後側方確認をアシストするシステムです。

⚠ 警告

SRVDについて次のことをお守りください。守らないと思われけがや重大な事故につながるおそれがあります。

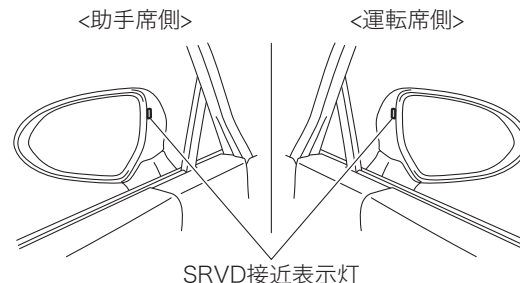
- 車線変更や後退時には必ず目視で周辺状況を確認する。
 - － 道路、天候、交通状況などにより、隣接車線に車両が存在する場合や、左右から接近する車両が存在する場合でも、SRVDが作動しなかったり、作動が遅れたりする場合があります。
- システムを過信しない。
 - － 安全な車線変更や後退の可否を判断したり、車両や障害物との接触を自動的に防ぐ機能ではありません。
 - － システムを過信すると最悪の場合、死亡事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するときは、必ずSRVDをOFFにしてください。SRVDが予期しない作動をする可能性があります。

SRVDの作動

ドアミラーのSRVD接近表示灯が点灯、点滅して運転者に危険を知らせます。



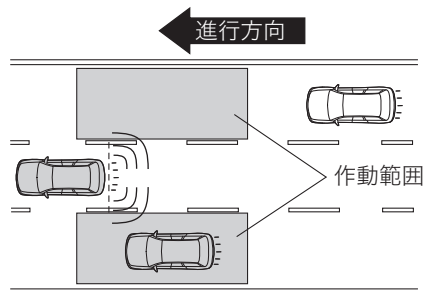
🏠 知識

- 強い日差しのもとでは、SRVD接近表示灯が見えにくいことがあります。
- 後方車両からのヘッドランプによって、SRVD接近表示灯が見えにくくなることがあります。
- ランプ類が点灯していて周囲が暗いとき、イルミネーションコントロールダイヤルに連動してSRVD接近表示灯が減光します（明るさを調整することはできません）。イルミネーションコントロールダイヤルを一番上（●印部分）に回すと減光はOFFになります。

👉 P.187参照

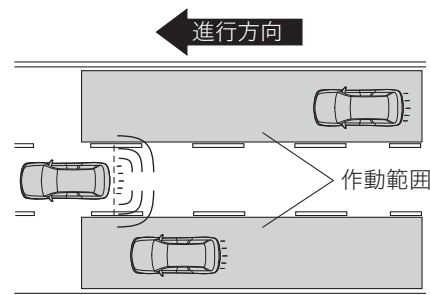
死角検知機能

車速約12 km/h以上で走行中、ピラー左右後方の死角にある車両を検知すると、SRVD接近表示灯が点灯します。運転者がSRVD接近表示灯の点灯した側にウィンカーのレバーを操作した場合は、SRVD接近表示灯が点滅して警告します。



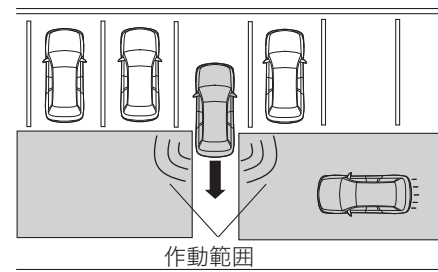
車線変更支援

車速約12 km/h以上で走行中、隣接する左右車線内に高速で接近する車両を検知すると、SRVD接近表示灯が点灯します。運転者がSRVD接近表示灯の点灯した側にウィンカーのレバーを操作した場合は、SRVD接近表示灯が点滅して警告します。



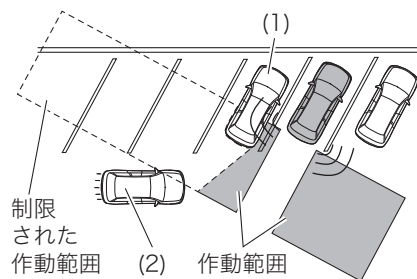
後退時支援

後退時に左右から接近してくる車両を検知すると、接近状態に応じてSRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ります。



■接近する車両を検知しにくいとき

後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限されます。



(1) 駐車している車両

(2) 接近する車両

⚠ 警告

周囲の駐車している車両によりSRVDの作動範囲が制限され、接近する車両の検知ができない場合や、遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において目視によって周辺状況を確認してください。

🏠 知識

- 後側方レーダーの検知性能には限界があります。次のような場合にはSRVDの検知性能が低下し、正常に作動しないことがあります。
 - － 後側方レーダー付近のリアバンパーが変形、損傷したとき
 - － リアバンパーの後側方レーダー付近に雪、氷、泥が付着しているとき
 - － 雨、雪、霧など悪天候のとき
 - － 雪道、水たまりなど、ぬれた路面を走行するとき

🏠 知識

- 次のような車両などに対しては、後側方レーダーが検知しないか、もしくは検知しにくいことがあります。
 - － 小型の二輪車、自転車、歩行者、道路上および道路端の構造物
 - － レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（車高の低い空荷のトレーラー、スポーツカーなど）
 - － 隣車線後方の検知エリアや、後退時の左右側方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両（接近車両はレーダーの検出データをもとにシステムが判断しています）
 - － 自車との速度差がかなり大きい車両
 - － 自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両
 - － 対向車
 - － 2車線隣にいる車両
 - － 自車よりもかなり遅い速度で隣車線を走行中に、急激に速度を上げて自車を追い越そうとする車両
- 次のような場合は、SRVD接近表示灯の点灯／点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
 - － 車両が、2車線隣の車線から隣車線に車線変更してきたとき
 - － 急勾配を走行している、または急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき
 - － 自車と隣車線の車両が、互いの車線の端を走行しているとき
 - － 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近しているとき
 - － 回転半径が小さいとき（急カーブや交差点を曲がるときなど）

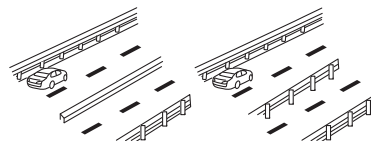
知識

- － 走行車線と隣接する車線間で高低差があるとき
- － SRVDをONにした直後
- － セレクトレバーを“R”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーを“R”（マニュアル車）に入れた直後
- － 荷室に非常に重い荷物を載せているとき
- 後退時、次のような場合はSRVD接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しないことがあります。
 - － 傾斜のある駐車スペースから出るとき
 - － 隣に大型車両が駐車しているとき
 - － 勾配がついた路面で後退しているとき
 - － 後退速度が速いとき
- 後退時において、駐車枠線が斜めに引かれた駐車スペースに駐車している場合は、次のような現象が発生する可能性があります。
 - － SRVD接近表示灯の点滅および警報音の警告が遅れるか、作動しない
 - － 車両前方を通過する車両を検知して、SRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴る
- 次のような場合には、2車線横の車両を検知することがあります。
 - － 自車が車線端に寄って走行しているとき
 - － 2車線横の車両が車線端に寄って走行しているとき
- 道路上および道路端に構造物（ガードレール、トンネル、側壁など）があるとき、SRVD接近表示灯が点灯することがあります。
 - － ガードレールやコンクリート壁などが並行している場合

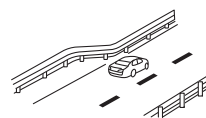
知識

- － ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ
- － トンネルの出入口やトンネル内の側壁、非常駐車帯や待避所

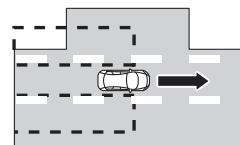
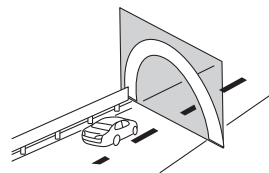
ガードレール、
コンクリート壁などが
並行している場合



ガードレールや
側壁の幅が
狭くなっているところ



トンネルの出入口やトンネル内
の側壁、非常駐車帯や待避所



- 後退している方向に建物や路壁などがあるとき、SRVD接近表示灯が点滅し、警報音が鳴ることがあります。

知識

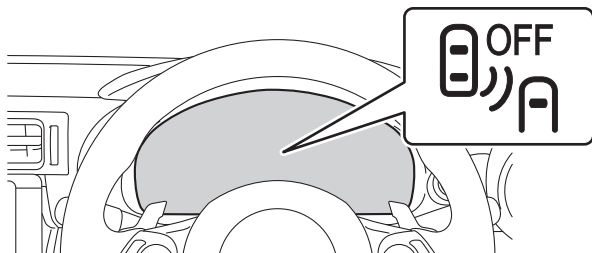
- 市街地の交差点を曲がるとき、多車線の交差点を曲がるときなどに、SRVD接近表示灯が点滅することがあります。
- 警報音の音量を設定できます。
☞P.418参照

SRVDの一時停止

SRVDが一時停止すると、SRVD OFF表示灯が点灯し、割り込み画面を表示します。

☞P.95参照

状況が改善されると正常復帰しますが、SRVD OFF表示灯が長時間点灯し続ける場合は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。



一時停止

極めて高温または低温の環境で使用したときや、バッテリー電圧の異常が発生したとき、または後側方レーダーの取り付け角度が著しく変化していると後側方レーダーが判断したときに表示します。

一時停止（レーダー検知不能）

後側方レーダーの検知性能が低下したときに表示します。

SRVDをOFFにするとき

メーターでSRVDをOFFに設定することができます。

☞P.417参照

SRVDをOFFにすると、SRVD OFF表示灯が点灯します。復帰したときは、左右のドアミラーのSRVD接近表示灯が数秒間点灯します。

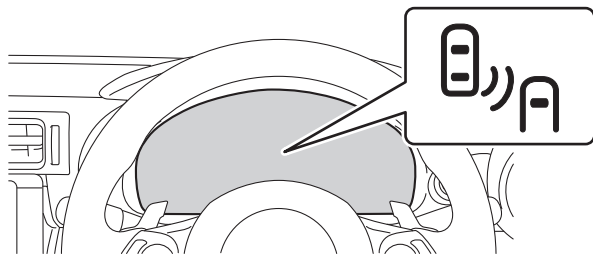
知識

- 次の場合は、SRVDをOFFにしてください。後側方レーダーの電波が遮られるため、システムが正常に作動しない可能性があります。
 - 車両などをけん引するとき
 - 車両後部に自転車またはスキー・スノーボード固定用のリヤキャリアなどを装着するとき
- プッシュエンジンスイッチをOFFにし、再度ONにした場合は、OFFにする前のSRVD ON/OFF状態が保持されます。

SRVD警告灯

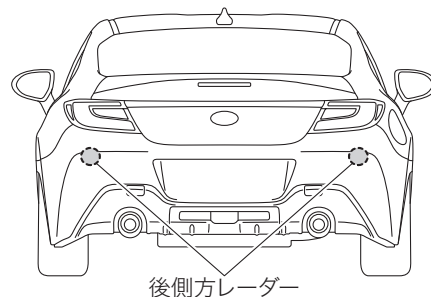
システムに異常が発生したときはSRVD警告灯が点灯し、割り込み画面を表示します。SUBARU販売店で点検を受けてください。

☞P.95参照



後側方レーダーの取り扱いについて

後側方レーダーはリヤバンパーの内側に左右ひとつずつ取り付けられています。



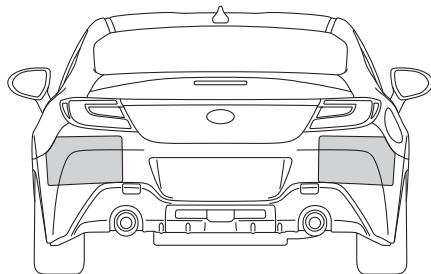
⚠ 注意

SRVDの正しい作動のため、次のことをお守りください。

- 後側方レーダー付近のバンパー表面は、いつもきれいにしておく。
- 後側方レーダー付近のバンパー表面にステッカーなどを貼り付けない。

⚠ 注意

－ 詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

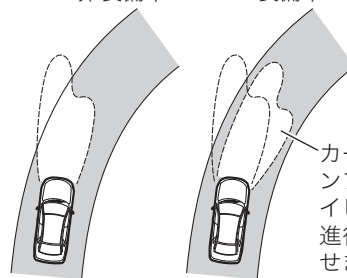


- 後側方レーダー付近のバンパーを改造しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーを塗装しない。
- 後側方レーダー付近のバンパーへの強い衝撃を与えない。
 - － 後側方レーダーの取り付け位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあるので強い衝撃を受けた際は、必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。
- 後側方レーダーを分解しない。

SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）✖

SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）は、車両の前進時にハンドルの操作や車速に合わせてヘッドランプの光軸を自動で調整し、コーナーや交差点で進行方向を照らして視認性を高める機能です。車速が約8 km/h以上のときに作動します。

SRH 非装備車 SRH 装備車



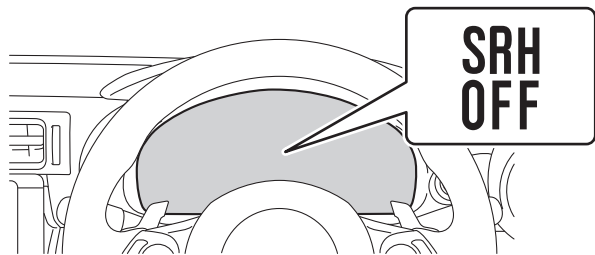
カーブに合わせてヘッドランプのロービームおよびハイビームの照射方向を変え、進行方向の視認性を向上させます。

SRHをOFFにするとき

メーターでSRHをOFFに設定することができます。

☞P.417参照

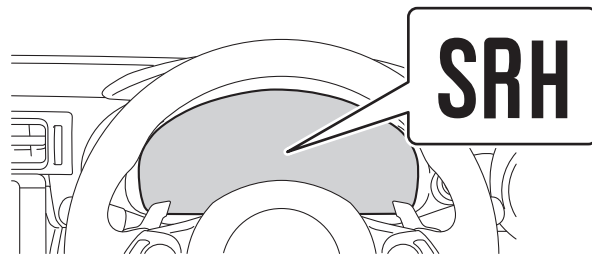
SRHをOFFにすると、SRH OFF表示灯が点灯します。



SRH警告灯

SRHに異常があるときは点灯し、割り込み画面を表示します。すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

☞P.95参照

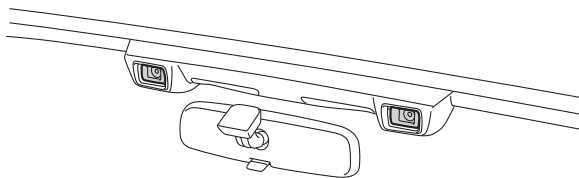


SRHのカスタマイズ

SUBARU販売店でSRHを作動なしに設定することができます。

ハイビームアシスト

ハイビームアシストは、フロントガラス上部に取り付けられたステレオカメラにより、対向車または先行車のライトや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。



⚠ 警告

- ハイビームアシストを過信しない。
ー 運転者は常に自らの責任で周囲の状況に応じてライティングスイッチを操作してください。

⚠ 注意

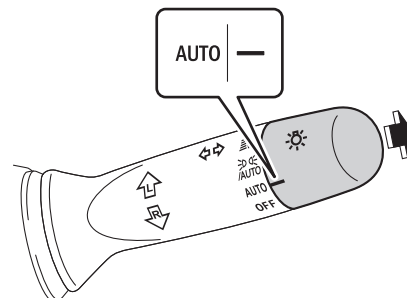
ハイビームアシストを正しく作動させるために、ステレオカメラの取り扱いをお守りください。

🔧 P.193参照

ハイビームアシストの使いかた

次の手順で機能がONになります。

1. ライティングスイッチをAUTOの位置にします。
2. ライティングスイッチのレバーを前方へ押し、ハイビームにします。オートライトによってヘッドランプが点灯し、ハイビームアシスト表示灯が点灯すると機能がONになります。



🏠 知識

🔧 AUTO 位置ではONになりません。

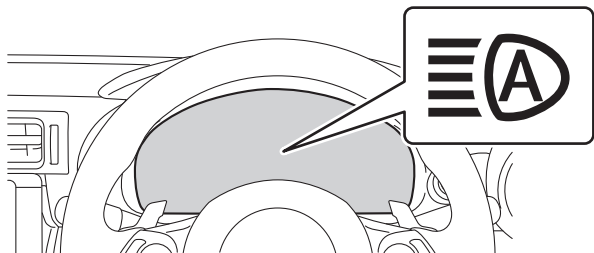
ハイビームアシストの作動

機能がONのとき、オートライトによってヘッドランプが点灯すると作動し、ハイビームアシスト表示灯（緑色）が点灯します。次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約30 km/h以上
- 先行車や対向車がない、またはランプを点灯していないなど、車両前方が暗いとき

次のいずれかの条件のときはロービームが点灯します。

- 車速が約20 km/h以下
- 自車前方に街灯が並んでいたり街中を走行中など、車両前方が明るいとき
- 対向車または先行車がランプを点灯している



知識

- 作動灯が点灯しない場合、次の操作を行ってください。
 - ー 安全な場所にお車を止め、一度プッシュエンジンスイッチをOFFにし、すべてのドアを施錠して1分以上経過してから再度プッシュエンジンスイッチをONにしてください。それでも作動灯が点灯しない場合、システムの故障が考えられますので、SUBARU販売店で点検を受けてください。
- EyeSightが故障または一時停止しているときは、ハイビームアシストは作動せずにロービームとなります。ハイビームにするときは手動で操作してください。
- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - ー 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ー 他車が前方を横切ったとき
 - ー 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わることがあります。
- 街灯や信号、広告などの照明、または標識、看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化することがあります。
 - ー 対向車または先行車のランプの明るさや色
 - ー 対向車または先行車のランプが泥や雪などで汚れて見えないうとき
 - ー 対向車または先行車の動きや向き

知 識

- － 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
- － 対向車または先行車が二輪車のとき
- － 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- － 乗車人数や荷物の量
- － ステレオカメラ認識範囲の制約による反応遅れ
- ハイビームアシストは、対向車のヘッドランプ、先行車のテールランプなどの光源、あるいは街灯などの明るさをステレオカメラが認識します。したがって、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両のランプは検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - － 悪天候時（霧、雪、砂嵐、大雨など）
 - － フロントガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - － フロントガラスにひび割れや破損があるとき
 - － 周囲にヘッドランプやテールランプなどに似た光があるとき
 - － 対向車または先行車が無灯火（電球切れなど）のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - － 急激な明るさの変化が連続するとき
 - － 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - － カーブが多い道路を走行しているとき
 - － 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき

知 識

- － コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- － 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- － パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- － エンジン始動直後

ハイビームアシストの解除

ハイビームアシストを解除するには、ライティングスイッチを  位置にしてロービームにするか、レバーを前に押して離し、ハイビームにします。

知 識

ハイビーム点灯中は、レバーを手前に引いて離し、ロービームにすることもできます。

ハイビームアシストのカスタマイズ

SUBARU販売店でハイビームアシストを作動なしに設定することができます。

6. 装備品の使いかた

エアコン

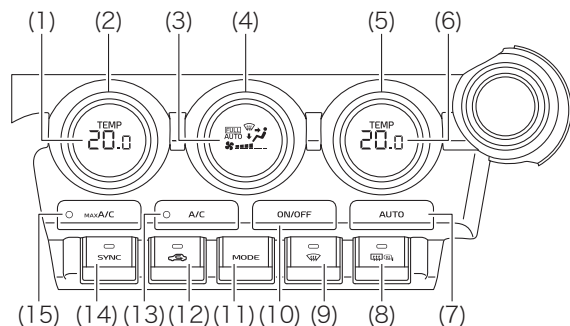
表示とスイッチ	308
エアコンの使いかた	309
吹き出し口	316
感知センサー	318
エアコンフィルター	318

室内装備

収納装備一覧	319
サンバイザー	323
トランク内装備	324
電源ソケット	325
USB電源	326
室内の照明	328
ステアリングスイッチ	330
フロアマット（ディーラーオプション）	330

エアコン

表示とスイッチ



(14) SYNCスイッチ（連動モード切り替えスイッチ）

(15) MAX A/Cスイッチ

(1) 温度表示（助手席）

(2) 温度調整ダイヤル（助手席）

(3) 風量・吹き出し口表示

(4) 風量調整（ファン）ダイヤル

(5) 温度調整ダイヤル（運転席）

(6) 温度表示（運転席）

(7) AUTOスイッチ

(8) リヤウインドウデフォグガー／ヒーテッドドアミラースイッチ

(9) デフロスタースイッチ

(10) ON/OFFスイッチ

(11) 吹き出し口切り替えスイッチ

(12) 内外気切り替えスイッチ

(13) A/Cスイッチ

エアコンの使いかた

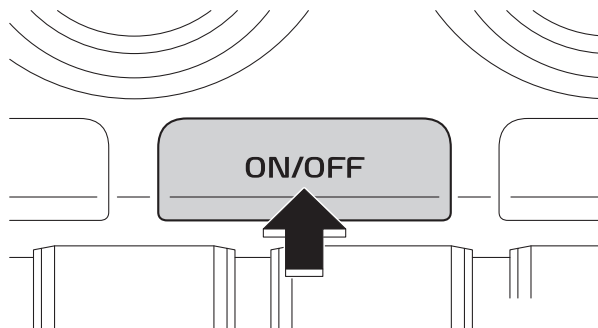
知識

エンジンがかかっているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。

ON/OFFのしかた

ON/OFFスイッチを押す

エアコン使用中、ON/OFFスイッチを押すとエアコンは止まり、設定温度などの表示が消えます。



知識

- 冬季などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しの外気導入になり、ファンは低速回転で作動します。

知識

- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- オートマチック車は、停車中にエアコンを使用しているとアイドリング回転が高くなります。クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- エアコンをOFFにしても、外気導入を使用していると走行風だけの空調ができます。
 - 走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチをONにしたときは、前回OFFにしたときの状態で作動します（MAX A/CがONのときを除く）。

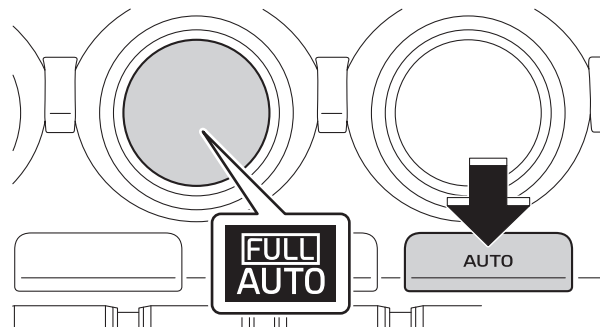
フルオートでの使いかた

1. AUTOスイッチを押す

吹き出し口、風量、冷房・除湿、内外気切り替えが自動で調整されます。

2. 温度を設定する

吹き出し口、風量、冷房・除湿、内外気を切り替えると、“FULL”の作動表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続し、“AUTO”の作動表示は消灯しません。吹き出し口、風量、冷房・除湿、内外気をすべて切り替えると、すべてがマニュアル作動となり、“AUTO”の作動表示が消灯します。

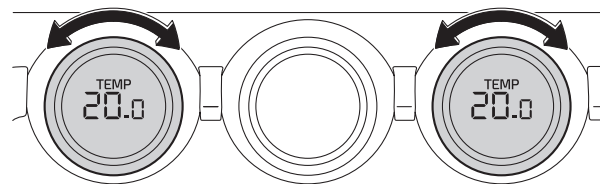


温度調整のしかた

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へまわし、下げるときは左へまわす

運転席側、助手席側の送風温度を別々に設定することができます。

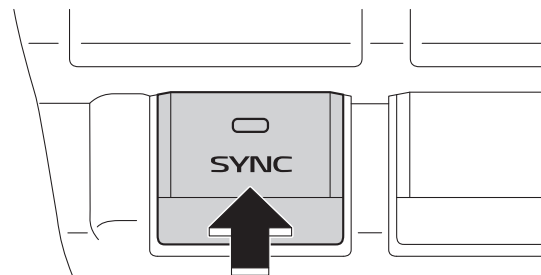
LOまたはHIに設定したときは、それぞれ最大冷房または最大暖房となります。



SYNCスイッチを押すと、連動モードがONになり作動表示灯が点灯します。

助手席側の設定温度が運転席側と同じ設定温度になります。

作動表示灯が点灯しているときにSYNCスイッチを押す、または助手席側の温度調整ダイヤルを操作すると、連動モードがOFFになり運転席側と助手席側の設定温度がそれぞれの設定温度に切り替わります。

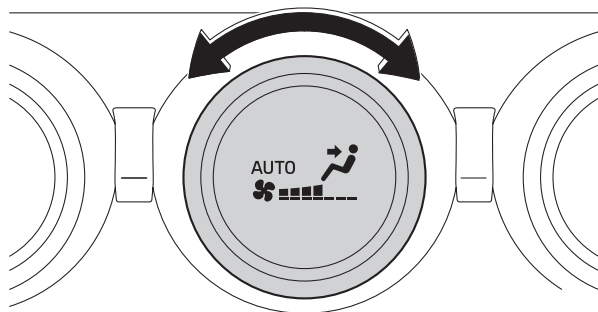


知識

運転席側と助手席側の設定温度の差が大きい場合、温度を調整しきれないことがあります。

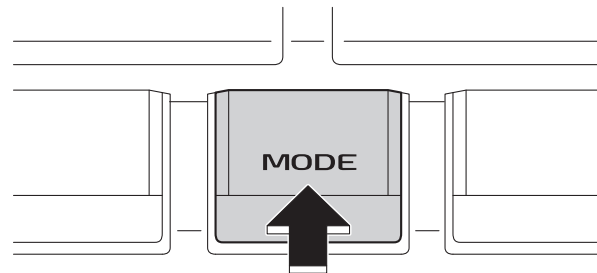
風量調整のしかた

風量を増やすときは風量調整ダイヤルを右へまわし、減らすときは左へまわす

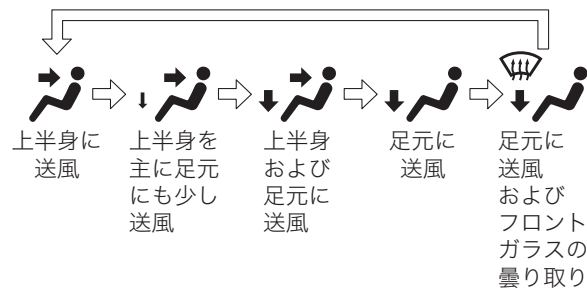


吹き出し口の切り替えかた

吹き出し口切り替えスイッチを押す



押すたびに次のように吹き出し口が切り替わります。



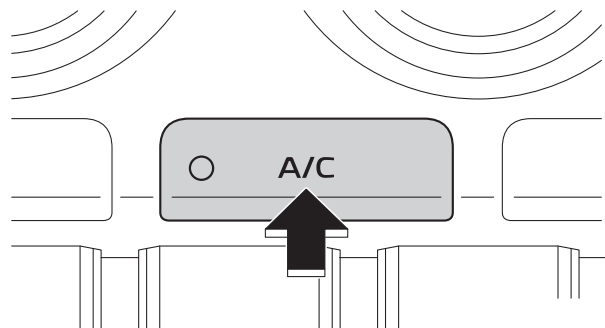
知識

- 降雪時はフロントガラスの凍結を防止するため🌨️で走行することをお奨めします。
- 🌨️を選択すると自動的に外気導入、除湿機能がONになる場合があります（内気循環を選択時は外気導入に切り替わずに、内気循環状態を維持します）。

冷房・除湿機能の使いかた

A/Cスイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。



知識

- 冷房・除湿機能はファンが作動していないときにスイッチを押しても作動しません。
- 次の場合、冷房・除湿機能が作動しないことがあります。
 - 室内の温度が低いとき
 - 外気温度が0℃付近まで下がったとき
- 冷房・除湿機能は装置の各部をオイルで潤滑にするためにも月に2、3回程度作動させてください。また、長時間作動させていない場合は、エンジンを低回転（またはアイドリング）の状態、数分間冷房または除湿暖房を行ってください。

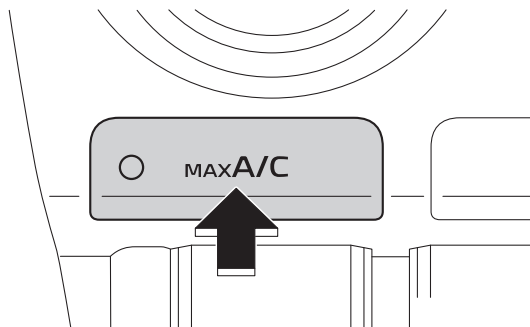
知識

- 冷えない場合、冷媒不足も考えられます。SUBARU販売店で点検を受けてください。

急速冷房のしかた

MAX A/Cスイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。スイッチをONにすると冷房・除湿機能ON、設定温度LO、風量最大、上半身に送風、内気循環に自動で切り替わります。



知識

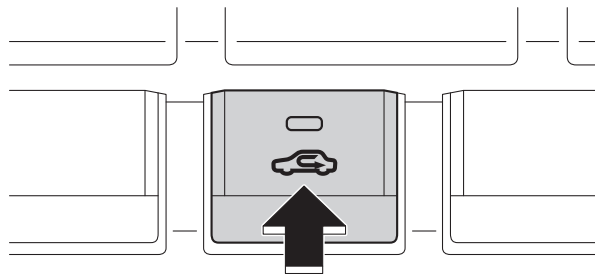
- MAX A/CをOFFにしたときは、MAX A/CをONにする前の設定に戻ります。
- エアコンやプッシュエンジンスイッチをOFFにすると、次にONにしたときはMAX A/CをONにする前の設定で作動します。

内気循環・外気導入の切り替えかた

外気を遮断したいときや、早く冷房したいとき、特に外気温が高いときに冷房の効きを高めたいときは、一時的に内気循環を使用してください。

内外気切り替えスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。



⚠ 注意

- ガラスが曇りやすくなるので、内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使用してください。
- 内気循環で使用する場合は、除湿機能を働かせて使用してください。

🏠 知識

外気導入を選択中、設定温度や状況によって内気も取り入れることがあります。

エアコンをOFFにしたとき

スイッチを押して内気循環にしていた場合は、内気循環の状態を保ちます。
それ以外の場合は外気導入に固定されます。

曇りや霜の取りかた

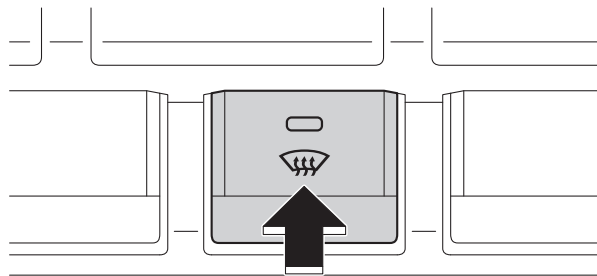
フロントガラス、フロントドアガラス

デフロスタースイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。

効果的に曇りを取るために、除湿機能ON、外気導入に自動で切り替わります。

再度デフロスタースイッチを押すとデフロスターをONする前の設定にもどります。



🏠 知識

足元にも送風したいときは吹き出し口を🌀に切り替えてください。

リヤウインドウ、ドアミラー

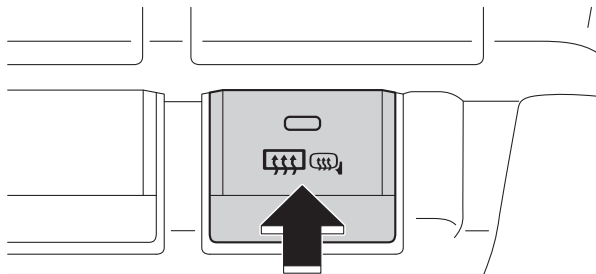
リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

■リヤウインドウデフォグガー／ヒートッドアミラーの使いかた

リヤウインドウデフォグガー／ヒートッドアミラースイッチを押す

ONのときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとヒートッドアミラーは、約15分で自動的にOFFになります。



⚠ 警告

ヒートッドアミラーが作動中は、ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意

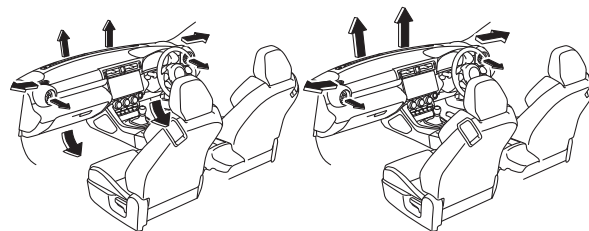
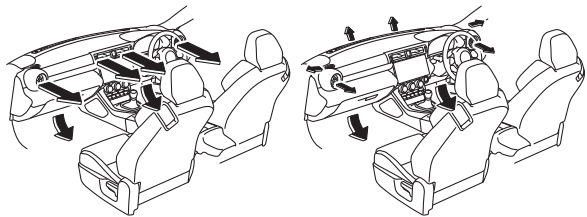
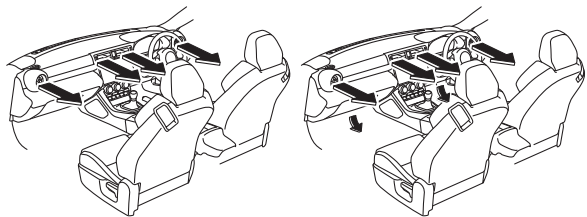
リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗剤を使わず、柔らかい布などで、電熱線に沿って軽く拭いてください。

🏠 知識

- 消費電力が大きいためエンジンをかけて使用してください。
- 連続作動に設定できます。
 - ー 連続作動に設定を変更した場合は、15分間作動、2分間停止を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
- 🔧 P.418参照
- 曇りが取れたら停止させてください。
 - ー エンジン作動中でも、連続作動を続けるとバッテリー上がりになります。
 - ー 雪を溶かすような使いかたはしないでください。
- バッテリー電圧が低下すると、作動を停止します。

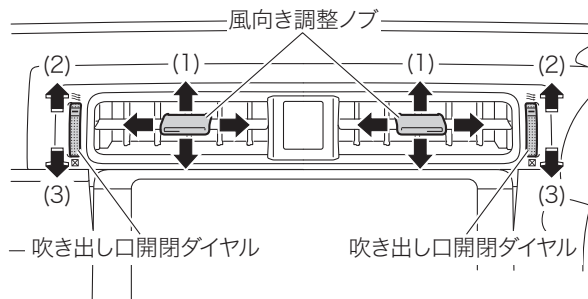
吹き出し口

吹き出し口を手動で選択すると図のように送風します。
左右の吹き出し口からは、常時送風します。
送風を止めるときは、吹き出し口を閉じてください。



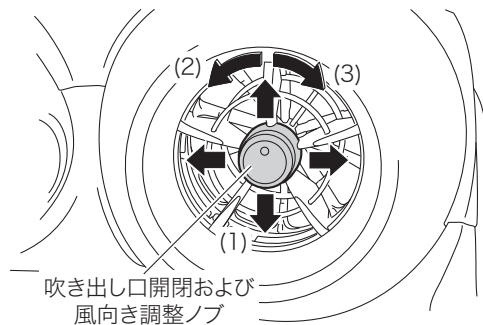
風向きの調整と吹き出し口の開閉

中央吹き出し口



- (1) 風向きを調整する
- (2) 吹き出し口を開ける
- (3) 吹き出し口を閉じる

左右吹き出し口



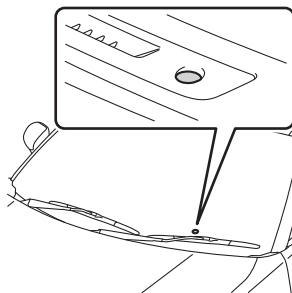
- (1) 風向きを調整する
- (2) 吹き出し口を開ける
- (3) 吹き出し口を閉じる

感知センサー

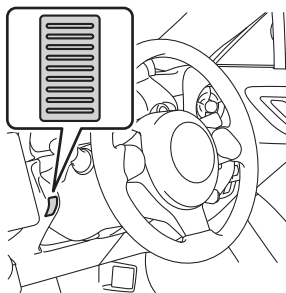
日差しの強さ、室内温度、外気温度を感知するセンサーが付いています。

外気温度センサーはフロントバンパー裏側にあります。

日射センサー



室内温度センサー



⚠ 注意

- 室内に装備されている日射センサーおよび室内温度センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、上に物を置いたりしないでください。
 - ー 温度制御にずれが発生する原因となります。

エアコンフィルター

快適にお使いいただくため、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

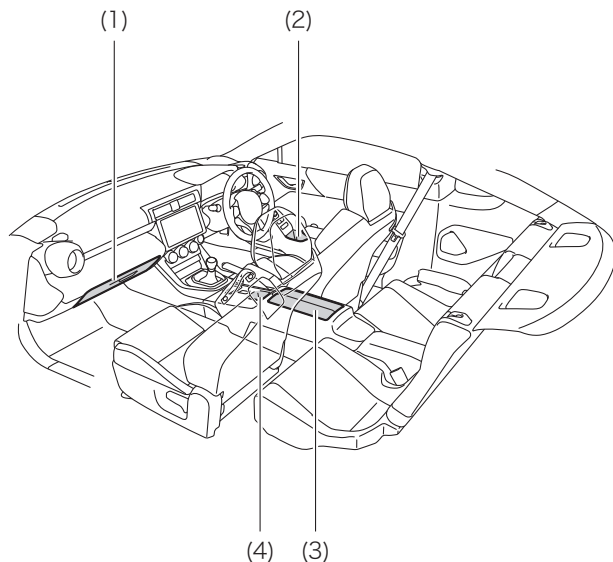
交換時期：12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

📖 P.359参照

室内装備

収納装備一覧

収納装備の位置



(1) グローブボックス

☞P.320参照

(2) ボトルホルダー

☞P.321参照

(3) コンソールボックス／カップホルダー・小物入れ

☞P.320、322参照

(4) カップホルダー・小物入れ

☞P.320参照

⚠ 注意

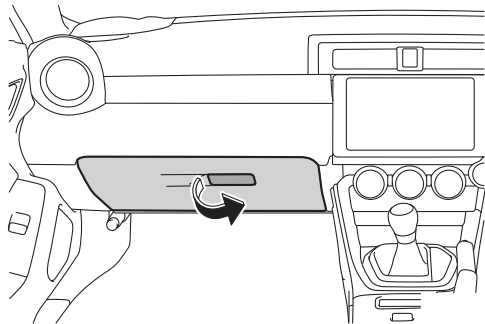
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引いて開ける

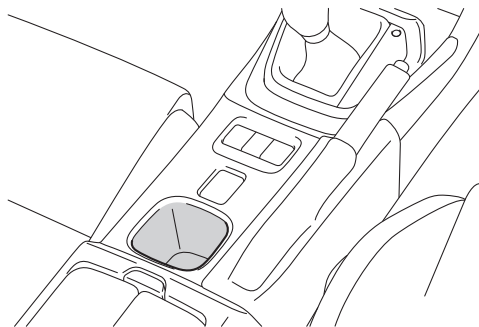


⚠ 注意

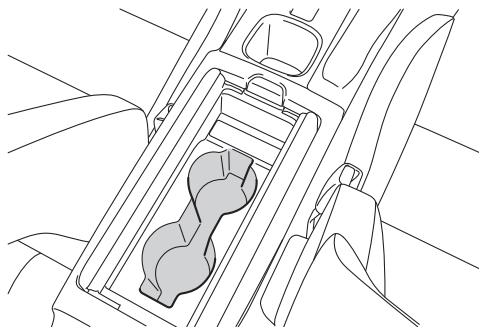
- 走行中はグローブボックスのフタを必ず閉じてください。
ー 急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー・小物入れ

センターコンソール（オートマチック車）

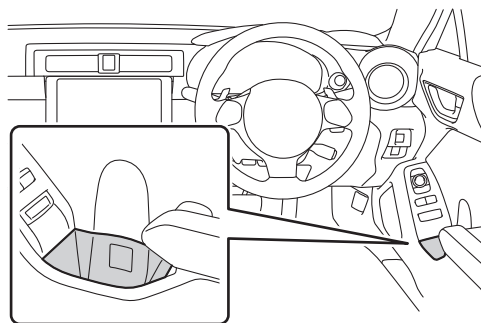


コンソールボックス



⚠ 注意

- やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
- ものを置くときは次の注意事項を守ってください。
急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - － 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
 - － 端よりも高くものを積み重ねないでください。
 - － 端からはみ出してものを置かないでください。

ボトルホルダー**⚠ 注意**

- ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

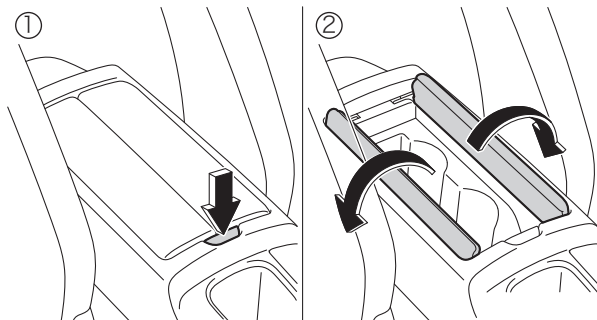
🏠 知識

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

コンソールボックス

開ける

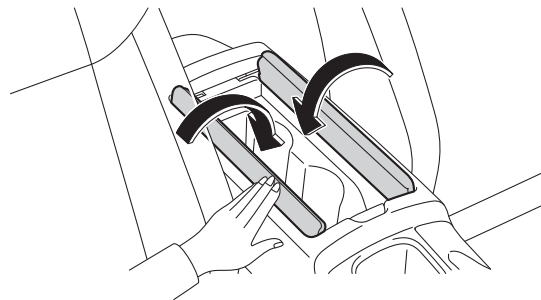
ボタンを押してふたを開ける



閉める

フタを中央へ押す

片側を操作すれば、反対側も連動して動きます。

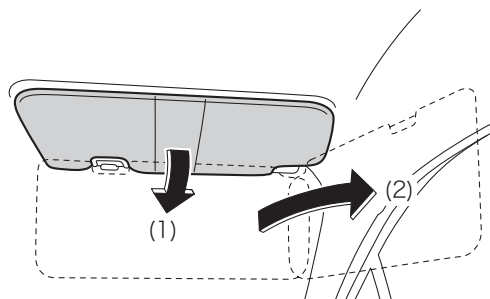


⚠ 注意

- 使用しないときはコンソールボックスを必ず閉じてください。
 - ー 急ブレーキ時などに、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンソールボックスのふたが開いている状態のときに、ふたのすき間にものを落とさないよう注意してください。

サンバイザー

運転席側にはチケットホルダーが付いています。

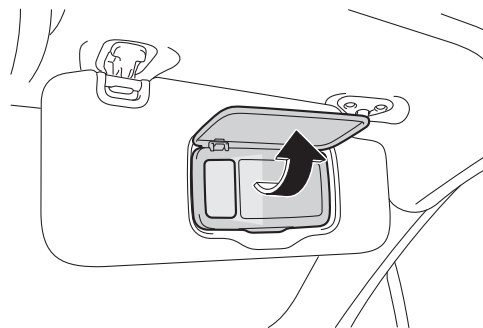


- (1) 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- (2) 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックから外し、横へまわす

バニティミラー

カバーを開けて使用する

バニティミラーランプ装着車：カバーを開けるとランプが点灯します。



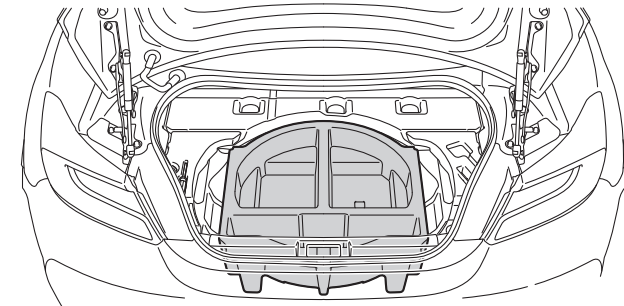
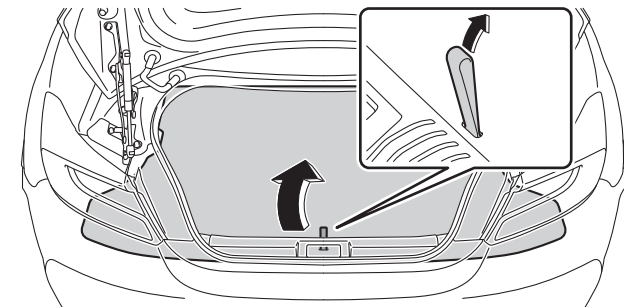
⚠ 注意

- 使用しないときはバニティミラーを必ず閉じてください。
- バッテリー上がりを防止するために、エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

トランク内装備

サブトランク

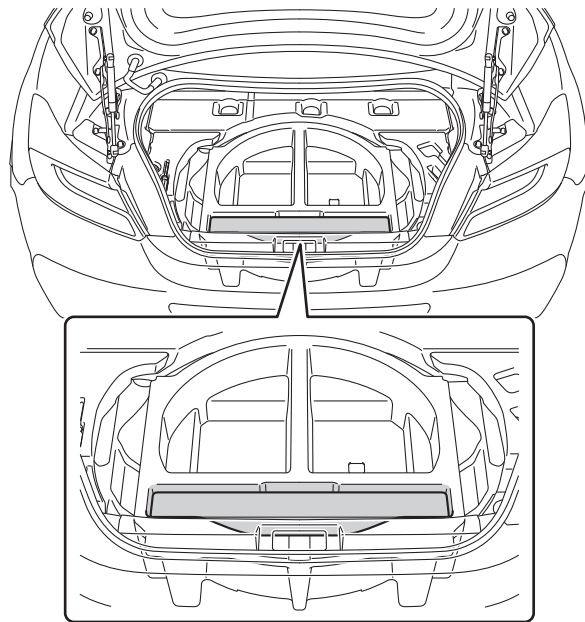
トランクマット装着車：トランクマットを持ち上げる



三角停止表示板収納スペース

三角停止表示板を収納することができます。

三角停止表示板は、SUBARU販売店で購入することができます。



⚠ 注意

三角停止表示板を収納するときは、確実に固定されていることを確認してください。

確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角停止表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

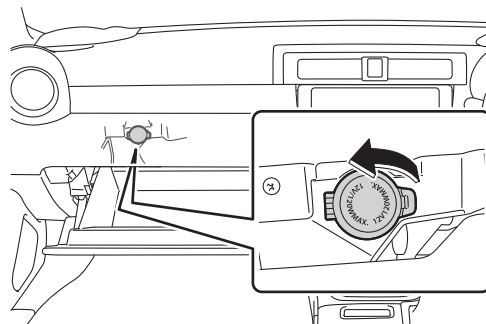
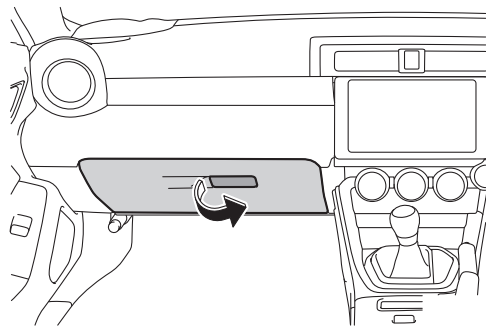
🏠 知識

三角停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

電源ソケット

DC12 V/10 A (消費電力120 W) 未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



⚠ 注意

- ヒューズが切れるのを防ぐために、DC12 V/10 A（消費電力120 W）以上の電気製品を使用しないでください。
- ショートや故障を防ぐために、ソケットに異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- バッテリー上がりを防止するために、エンジンが停止した状態でアクセサリソケットを長時間使用しないでください。

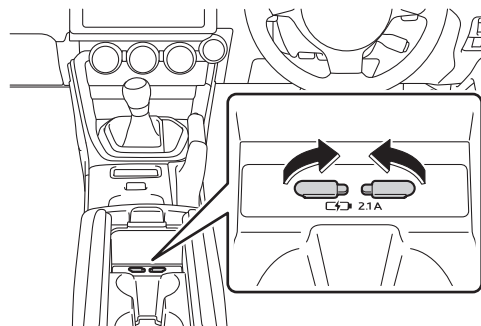
💡 知識

- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに使用することができます。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにするときは、モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品を外してください。接続したままにしておくと、プッシュエンジンスイッチを正常にOFFすることができなくなる場合があります。

USB電源

各端子ともにDC5 V/2.1 A（合計4.2 A）の電源としてお使いください。このUSB端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

フタを開けて使用する。



 注意

- 充電用USB端子の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
 - － 端子部に異物を入れないでください。
 - － 水や液体をかけないでください。
 - － 充電用USB端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。
 - － 強い力や衝撃を加えないでください。
 - － 分解や改造、取り外しをしないでください。
- 外部機器の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
 - － 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
 - － 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。
 - － センターコンソールボックスのフタを閉じるときは、外部機器のケーブルをはさまないように注意してください。
- バッテリー上がりを防止するために、エンジンを停止した状態で、充電用USB端子を長時間使用しないでください。

 知識

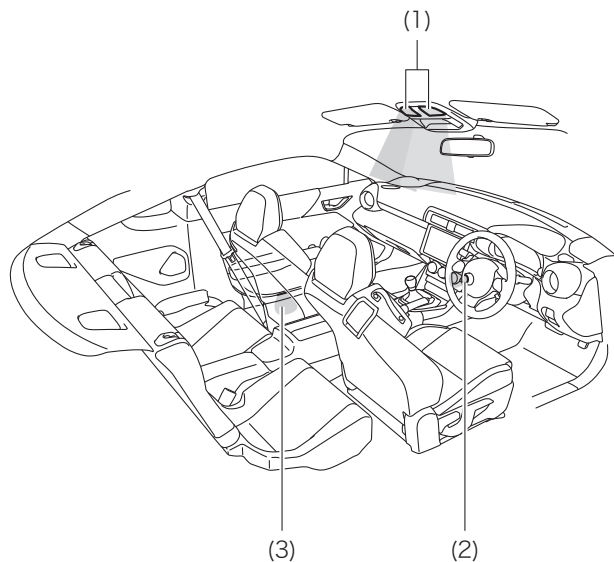
- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに使用することができます。
- 次のような状況では、充電用USB端子が正常に働かないおそれがあります。

 知識

- － 各端子ともにDC5 V/2.1 A（合計4.2 A）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- － パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- － 接続機器の電源がOFFのとき（機器により異なります）
- － 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき
- 一部の外部機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

室内の照明

室内灯の位置



(1) スポットマップランプ

☞P.328参照

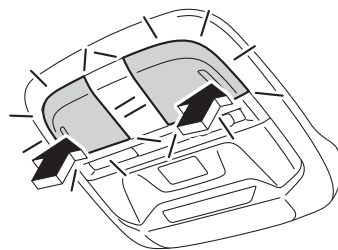
(2) プッシュエンジンスイッチ照明

(3) ドアカーテシーランプ※

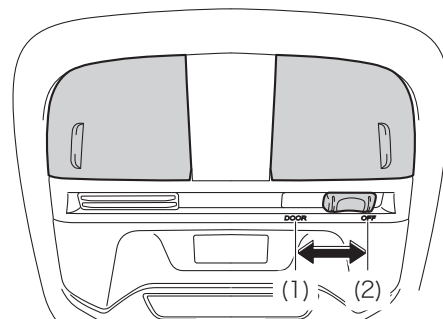
※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スポットマップランプ

ランプを点灯・消灯する。



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



(1) ドア連動ON

(2) ドア連動OFF

 注 意

バッテリー上がりを防止するために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

 知 識

- ドア連動がONのとき、アクセスキーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・プッシュエンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。
- 機能の一部は、設定を変更することができます。
☞P.418、420参照

バッテリー上がり防止機能

プッシュエンジンスイッチをOFFにしてから約20分経過すると、スイッチを操作しても室内灯は点灯しなくなります。点灯していた場合は、自動的に消灯します。

プッシュエンジンスイッチをOFFにしてからドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると、操作をしてから約20分後に点灯しなくなります。

ドアを開閉したり、解錠などの操作をしたりすると復帰します。

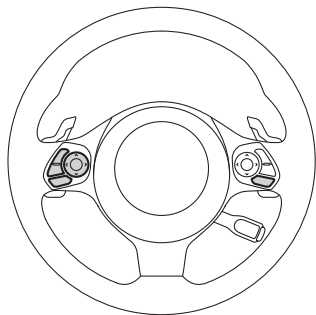
 知 識

- バッテリー上がり防止機能は、バッテリー上がりを完全に防ぐものではありません。ランプが点灯したまま長時間放置しないでください。
- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、この機能は作動しません。

ステアリングスイッチ

この車のステアリングスイッチに対応しているナビゲーションシステムで使うことができます。

装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。



⚠ 注意

事故を防ぐために運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

フロアマット（ディーラーオプション）

お車（年式）専用のものを必ず使用し、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

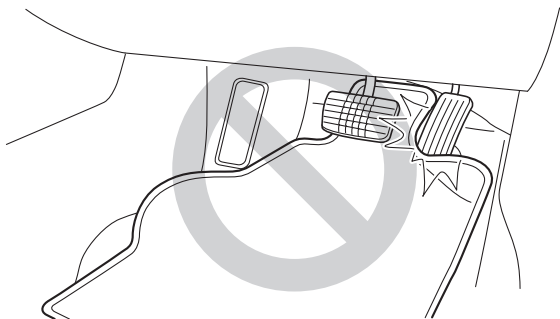
⚠ 警告

フロアマットについて、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転席にフロアマットを敷くときは次のことを必ずお守りください。
 - － スバル純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
 - － 運転席専用のフロアマットを使用してください。
 - － 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
 - － 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
 - － フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

⚠ 警告

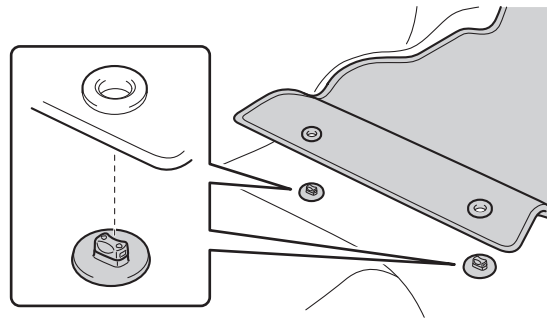
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行ってください。



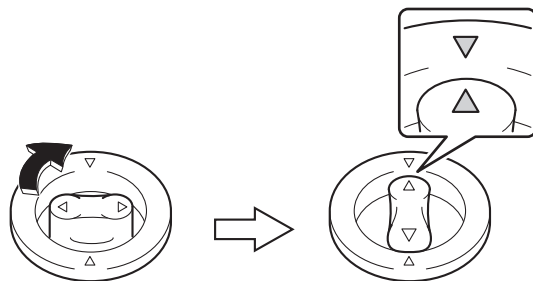
- エンジン停止およびセレクトレバーが“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーがニュートラル（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。

フロアマットの固定方法

1. 固定フック（クリップ）にフロアマットの取り付け穴をはめ込む



2. 固定フック（クリップ）上部レバーをまわして固定する
△マークを必ず合わせてください。





知 識

詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱説明書をご覧ください。

7. メンテナンス

お車の手入れ

日常の手入れ	334
外装の手入れ	335
内装の手入れ	338

車載工具

格納場所	342
------------	-----

エンジンルーム内の点検

ボンネット	343
ウォッシュャー液	345

タイヤ・ホイール

タイヤについて	347
タイヤの点検項目	347
タイヤ空気圧について	350
交換のしかた	351
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換	357
タイヤチェーンの装着	358

部品の交換

エアコンフィルターの交換	359
アクセスキーの電池交換	361
電球（バルブ）の交換	363
その他部品の交換が必要なとき	367

お車の手入れ

日常の手入れ

手入れのしかた

次のようなときは必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道などを走行した後（錆を促進させる要因となりますので車体の下まわり、足まわりを念入りに洗ってください）
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付着したとき
- 塗装面に異物が付着したとき

また、飛び石などにより塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

保管のしかた

お車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない場所
- 風通しがよい場所
- 鉄道線路から離れた場所
- 農薬などの化学薬品が飛散しない場所
- 木から離れた場所
- いたずらされにくい場所

長期間お車を使用しない場合には、パーキングブレーキの錆び固着防止のためパーキングブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。

- オートマチック車はセレクトレバーを“P”に入れます。
- マニュアル車はチェンジレバーを以下の位置に入れます。
平地、下り坂：“R”
上り坂：“1”

- 輪止め※（タイヤストッパー）をします。

※ 輪止めは車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

また、ワイパーを立てておいてください。ブレードラバーのくせ付きや汚れの付着を防止できます。



知 識

- 車内に可燃物（ライターやスプレー缶など）は放置しないでください。自然発火や爆発することがあります。
- 屋外にお車を止める際は、スバル純正ボディカバーの使用をお奨めします。

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 洗車をするときは、プッシュエンジンスイッチをOFFにする
- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプー（酸性・アルカリ性以外の、研磨剤の入っていないもの）を使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボディの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボディコート・ホイールコート・ガラスコートなどを施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはSUBARU販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

洗車をするときは、エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあります。危険です。

⚠ 注意

- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。SUBARU販売店にご相談ください。
 - － SRVD※
 - － RAB※
 - － クリアランスソナー
- ※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合は、直ちに洗車してください。
 - － 海岸地帯を走行したあと
 - － 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - － コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - － ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - － ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - － 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。
- サイドシルプレート※の保護フィルムは必ずはがしてください。状況によっては錆の原因になるおそれがあります。
 - ※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

- 足まわり、フェンダー内側、下まわりまたはバンパー、排気管などを洗うときはゴム手袋を着用してハンドブラシなどを使い、突起物で手などにけがをしないように注意してください。
- ランプは注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。
- ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。
- 高圧洗浄機を使用するときはノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近づけすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - － 駆動系部品
 - － ステアリング部品
 - － サスペンション部品
 - － ブレーキ部品
- 先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線などが損傷するおそれがあります。
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を30 cm以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

⚠ 注意

- ウィンドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。
エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 車両の下まわりは、高圧洗浄機で洗浄しないでください。
 - － エンジン部品、電気部品、ゴム部品などがあり、部品が破損するおそれがあります。
- フロントガラスにワックス、窓ガラス用はっ水剤が付かないように注意してください。
 - － 対向車のヘッドランプでガラスが乱反射して見えにくくなることがあります。
 - － ワイパーの拭き残しが生じる原因になります。

🏠 知識

- 油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗浄剤を使ってきれいに落としてください。
- ワイパーブレードラバーが汚れているときは、コーティングを傷めないよう、薄めた中性洗剤をスポンジに含ませ軽く拭き取ってください。
 - － 拭き取り後はワイパーブレードラバーが外れていないか点検してください。
- 自動洗車機を使うときは、ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- 自動洗車機を使うときは、自動洗車機のブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

🏠 知識

- 高圧洗浄機を使うときは、室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- アクセスキーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ー アクセスキーを車両から2 m以上離れた場所に保管する（アクセスキーの盗難に注意してください）
 - ー アクセスキーを節電モードに設定し、キーレスアクセス&ブッシュスタート機能の作動を停止する
- 🔊 **P.114**参照
- アルミホイール装着車：アルミホイールは中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- アルミホイール装着車：アルミホイールに洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- アルミホイール装着車：塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ー 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ー 硬いブラシを使用しない
 - ー 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない
- マット塗装ホイール装着車：マット塗装ホイールは通常のアルミホイールとお手入れ方法が異なります。詳しくはSUBARU販売店にお問い合わせください。

🏠 知識

- マット塗装ホイール装着車：洗車の際は、水洗いで汚れを落としてください。汚れがひどい場合は、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジ又は柔らかい布を用いて手洗いで汚れを落としてください。
- マット塗装ホイール装着車：マット塗装の損傷を防ぐために、次のことをお守りください。
 - ー 乾いた布やブラシ等で磨いたり、こすったりしない
 - ー コーティング剤や研磨剤入りの洗剤は使用しない
- バンパーは、研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。
- Bremboブレーキ装着車：ブレーキキャリパーの塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ー 洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
 - ー ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
 - ー 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。
- ブレーキシステムがぬれた状態のままで長時間駐車しておくことで錆によりブレーキパッドとブレーキディスクが固着することがあり、走行時に異音や振動がする場合がありますが、異常ではありません。
- 走行中にブレーキペダルを数回強く踏むことで、ブレーキディスクの表面が研磨され錆が取れて元に戻ります。
- 繰り返しペダルを踏み続けても、異音や振動が解消されない場合は、ブレーキの異常が考えられますので直ちにSUBARU販売店の点検を受けてください。

知 識

- 洗車後は1～2kmほど走行中に、ブレーキペダルを数回踏んでブレーキを乾かしてから駐車してください。
- 磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボディ部に取り付けることはできません。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約1 %に薄めてやわらかい布に含ませふき取る。
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る。

警 告

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
☞ **P.52参照**
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ー シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の洗剤・染色剤・漂白剤
 - ー シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の洗剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。
 - ー これらの部品にシリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。
- 床を水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボディが錆びるおそれがあります。
- フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ステレオカメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
☞P.193参照
- リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは、電熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、電熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

 注意

- リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは、電熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- インストルメントパネル表面に細かい砂粒などが入り込んで布で拭き取れないときは、鉄粉除去用粘土を水でぬらさず使用してください。
ブラシやスポンジなどを使用して無理に拭き取ろうとすると、表面を傷付けたりスポンジの破片が残ってしまうおそれがあります。

 知識

- カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。
洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。
- シートベルトは刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。
- メーターバイザーの色が移るおそれがあるため、メーターバイザーの上に物を置かないでください。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る。
ー ウール用の中性洗剤を水で約5 %に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る。
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる。

注意

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない。

知識

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く。
- 中性洗剤を水で約1 %に薄めてやわらかい布に含ませふき取る。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る。

ウルtrasエード®※シートの手入れをするには

月一回程度の定期的なお手入れを行うことをおすすめします。

※ ウルtrasエード®は東レ株式会社の登録商標です。

1. 布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体を拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度拭き取った布の汚れはすすいで十分に取り除いてからご使用ください。

2. 乾いたら柔らかいブラシなどで毛並みを整える

注意

ウルtrasエード®は、スエード調製品のため強いブラッシングはしないでください。

ー 毛羽立ち、毛羽落ちの原因になります。

知識

衣服などに毛羽が付着した場合は、柔らかいブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は、粘着テープを使用して取り除いてください。

液体汚れについて

- 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取ります。
- 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、柔らかいブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除きます。その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、次の手順で汚れを取り除いてください。

1. 布などに40℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽く拭く
毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。
2. 表面の毛羽が乱れた場合は、柔らかいブラシなどで軽くブラッシングする
3. 表面を完全に乾燥させる

注意

液体汚れを吸い取るときは、ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがシートにしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

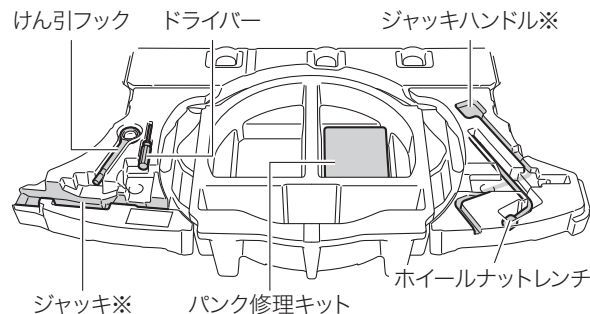
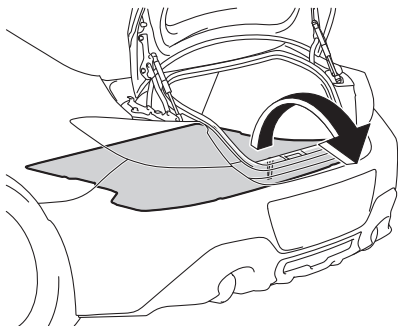
車載工具

格納場所

次の工具類が搭載されています。

- ドライバー（＋、－両方に使えます）
- ホイールナットレンチ
- けん引フック
- パンク修理キット

トランクマット装着車は、トランクマットを取り出します。



※ この車両には、ジャッキ、ジャッキハンドルが車載されていません。ジャッキ、ジャッキハンドルはSUBARU販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

知識

- 工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。使用後は元の場所に戻してください。
- ジャッキを使うときは、「交換のしかた」を参照してください。

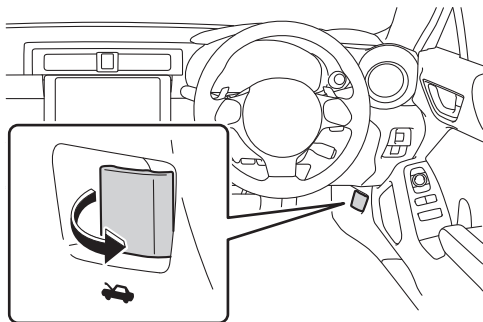
🔧 P.351 参照

エンジンルーム内の点検

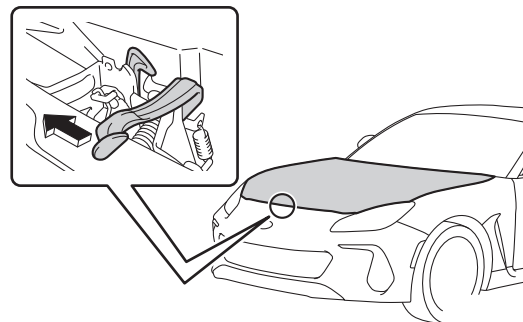
ボンネット

ボンネットを開けるには

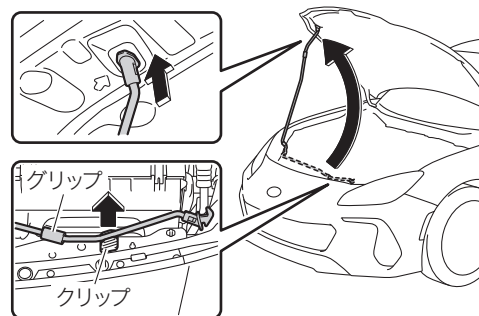
1. ボンネットオープナーレバーを引く
ボンネットが少し浮きあがります。



2. レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

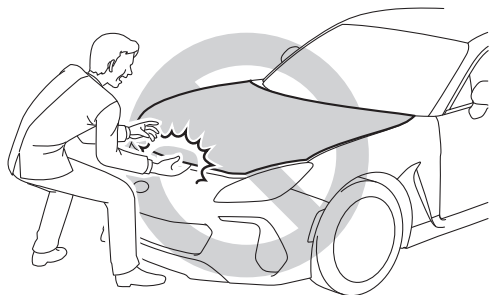


3. ボンネットステーをステー穴に挿し込む
ボンネットステーを持つときはグリップを持ってください。



⚠ 警告

- 走行前にボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ボンネットを開ける前にブッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⚠ 警告

- エンジンルーム点検後は、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていないと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。
- ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは、ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

- ボンネットを開けるときには、ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷付けるおそれがあります。
- 風の強いときには十分注意して開けてください。ボンネットが閉まることがあります。
- ボンネットにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

⚠ 注意

- ボンネットを閉めるときは、ボンネットをゆっくり降ろして、ボディに近くなったら（約20～30 cm）手を離します。
- 確実にロックされていることを確認してください。
- 体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

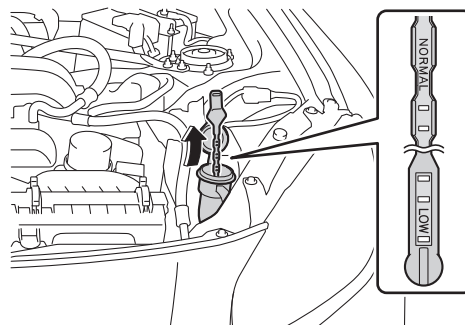
🏠 知識

バッテリー端子を外すと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子を外すときは、SUBARU 販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

補給をするには

液面がLOWの位置に近づいたらウォッシャー液を補給してください。



⚠ 警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあります。

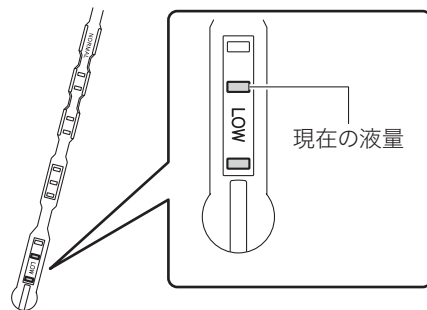
⚠ 注意

- ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。
- ウォッシャー液は必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

🏠 知識

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



タイヤ・ホイール

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤの位置交換（タイヤローテーション）を5,000 kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧
 - ー 空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

⚠ 警告

点検・交換時は必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 4輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ以外を使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 注意

- 異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - － 破裂などの修理できない損傷を与える
 - － 車両が横すべりする
 - － 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない
- 17インチ・18インチタイヤ装着車：低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことに注意してください。
 - － 適切なタイヤ空気圧で使用する。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。
 - － 段差や凹凸のある路面、路上に空いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避ける。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。
- 走行中に空気もれが起こったら走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。
- 段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
 - － タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。
- アルミホイール装着車：亀裂や変形など異常があるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

- 新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。ホイールバランスが適正でないと、特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障やタイヤの異常摩耗などの原因になります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、SUBARU販売店でホイールバランスを点検・調整してください。タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。
- ホイールアライメントとは車の安定性を保つために設定されている、路面や車体に対するタイヤの角度です。タイヤを縁石に強くぶつけたりするとホイールアライメントが狂い、車の安定性が損なわれたりタイヤが異常に摩耗したりすることがあります。タイヤを縁石などに強くぶつけたりした場合は、SUBARU販売店でホイールアライメントのチェックを行ってください。

🏠 知識

- タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。
👉P.414参照
- タイヤ・ホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、SUBARU販売店にご相談ください。

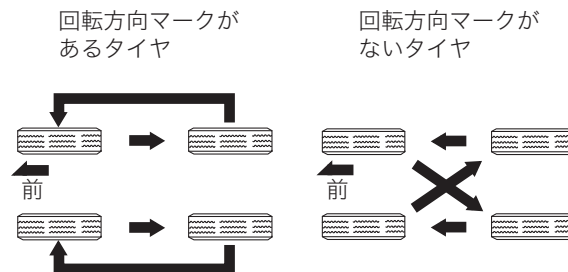
知識

- 17インチ・18インチタイヤ装着車：低扁平タイヤは、雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。
- 17インチ・18インチタイヤ装着車：低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2週間に1回（最低でも1ヶ月に1回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。
- タイヤを交換するときは、タイヤのバルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

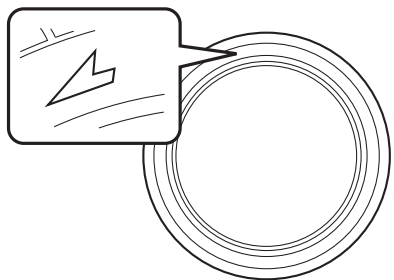
図で示すようにタイヤの位置交換（タイヤローテーション）を行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、スバルは5,000 kmごとのタイヤの位置交換（タイヤローテーション）をおすすめします。



回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。



タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。低扁平タイヤの場合、2週間に1回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。

☞P.414参照

⚠ 警告

タイヤの性能を発揮するために、適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂

⚠ 警告

- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

⚠ 注意

タイヤの空気圧を点検・調整したあとは、タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。バルブキャップを外していると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

🏠 知識

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、SUBARU販売店でタイヤの点検を受けてください。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
 - ー タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。

知識

- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

交換のしかた

この車両には、ジャッキが搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、スバル純正のジャッキを使用してください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

交換の前に

- 地面が硬く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はセレクトレバーを“P”に入れる
- マニュアル車はチェンジレバーを“R”に入れる
- エンジンを停止する

警告

ジャッキの使用について、ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。次のことをお守りください。

- ジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

⚠ 警告

- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

⚠ 注意

ジャッキアップするときは次のことを必ずお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取り外し以外の目的で使用しない
- 平坦で硬いところに駐車して作業する
- 輪止めを使用して車を固定する
- 車を持ち上げるときは、車からすべての乗員と荷物を降ろす
- 車体に振動を与えない
 - ー ジャッキが外れるおそれがあります。
- ジャッキアップポイントに正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ー ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっていると、ジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷付けるおそれがあります。

ガレージャッキなどを使用してジャッキアップする場合、SUBARU販売店にご相談ください。

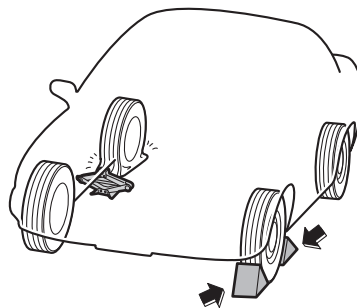
タイヤ交換

タイヤの取り外し

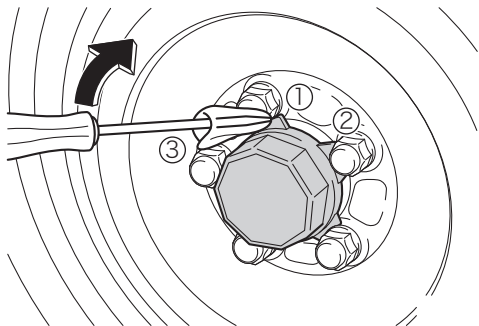
1. 車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め※をする

図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。

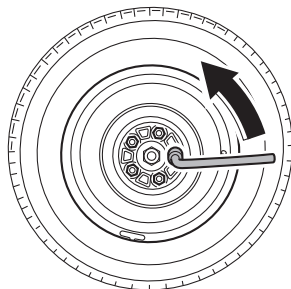
※ 輪止めは車載されておりませんので必要に応じて準備しておいてください。



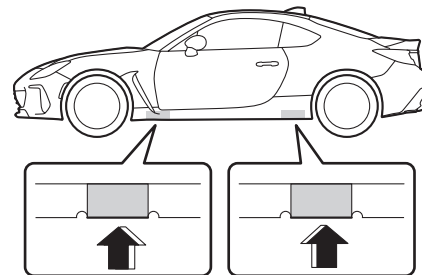
- 2.** スチールホイール装着車は、センターキャップを取り外す
 マイナスドライバーを使用して、図の番号順でセンターキャップを取り外す
 傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



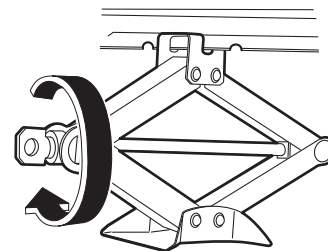
- 3.** ナットを少し（約1回転）ゆるめる



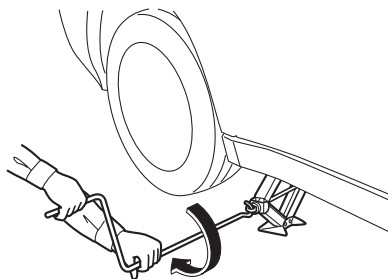
- 4.** 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置く



- 5.** ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキハンドル取り付け部を手で回す

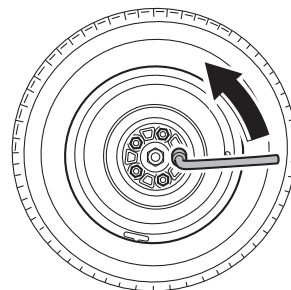


6. タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げる



7. ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷がつかないよう表面を上にする。



⚠ 警告

走行直後は、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。

ー 走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

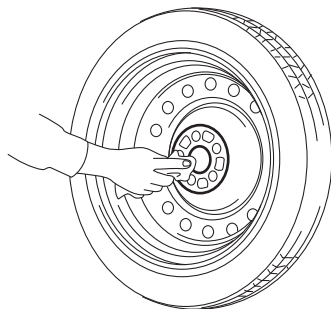
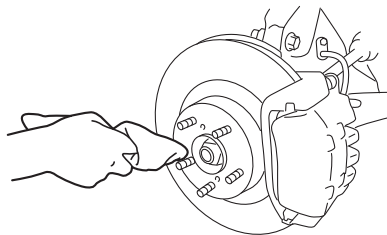
⚠ 注意

タイヤを交換するときは、ブレーキなどの他の部品にぶつけないように注意してください。万一ぶつけてしまった場合にはすみやかにSUBARU販売店へご連絡ください。

タイヤの取り付け

1. ホイール接触面の汚れをふき取る

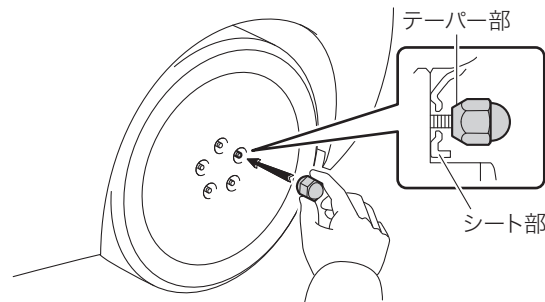
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤが外れるおそれがあります。



2. タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

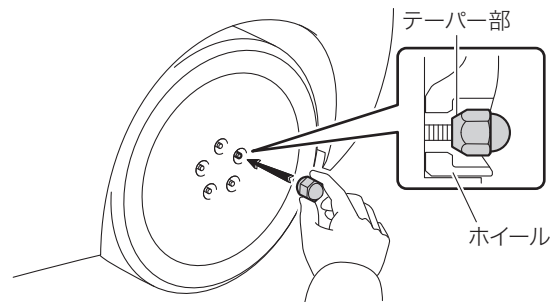
<スチールホイール装着車>

ナットのテーパ部がホイールシート部に軽くあたるまでまわす

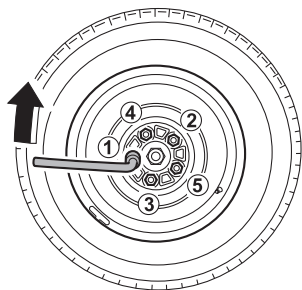


<アルミホイール装着車>

ナットのテーパ部がホイールに軽くあたるまでまわす



3. ジャッキハンドルを回し、車体を下げる
4. 図の番号順でナットを2, 3度しっかり締め付ける



レンチの柄の先端にかける力	締付トルク (参考)
400~500 N (40~50 kg)	120 N・m (12 kgf・m)

5. すべての工具・ジャッキを収納する

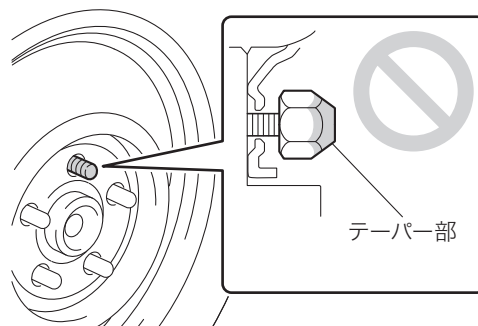
⚠ 警告

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ー ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- ホイールの交換後はすぐに120 N・m (12 kgf・m) の力でナットをしめてください。
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用してください。
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、SUBARU販売店で点検を受けてください。
- ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付けてください。
- ー テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまいます。

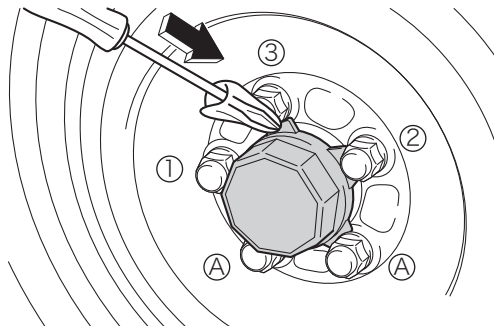


🏠 知識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
- ー 下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

知識

- 取り外したタイヤを積み重ねて保管する際は、ホイールの傷付きを防止するため、緩衝材などを挟んでください。
 - スチールホイールのセンターキャップを取り付けるときは、図のようにA部をナットに取り付けたあと、マイナスドライバーを使用して図の番号順でセンターキャップのツメを押し込んでください。（スチールホイール装着車）
- ー 傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）に交換するときは、4輪とも必ず指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

☞P.351、414参照

警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、駆動系の損傷や不安定な走行状態になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 4輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 空気圧を指定値に調整してください。
- 装着する冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）の最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しないでください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着する際は、必ず4輪とも装着してください。

タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

⚠ 注意

- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- スバル純正BRZ用タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
スバル純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。



知識

取り付け・取り外し・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後、約100 m走行したら締め直しを行う

部品の交換

エアコンフィルターの交換

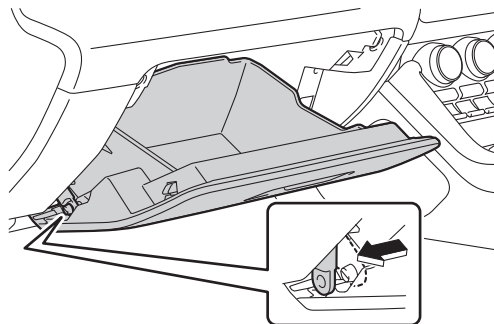
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換時期

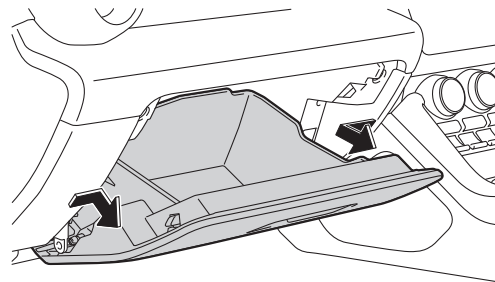
12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

交換のしかた

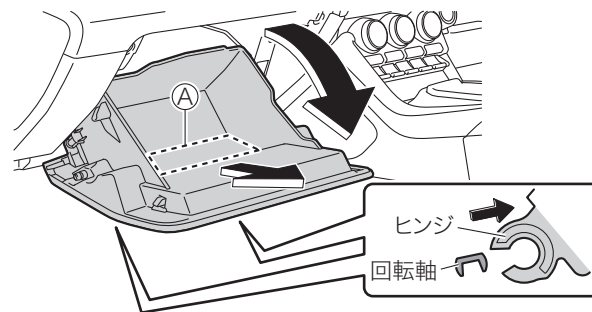
1. プッシュエンジンスイッチをOFFにする
2. グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンを外す



3. グローブボックス側面を内側に押し、手前へ引いて上部のツメを外す



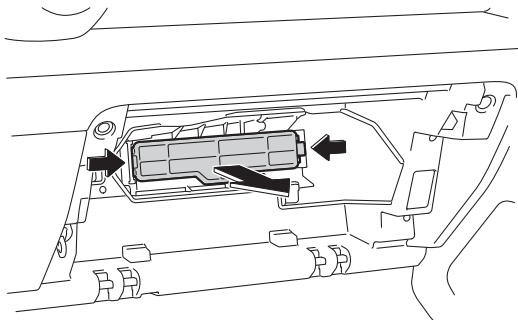
4. A面が水平になるまでグローブボックスをゆっくり開き、手前に引いて取り外す（そのまま軽く引くと外れます）



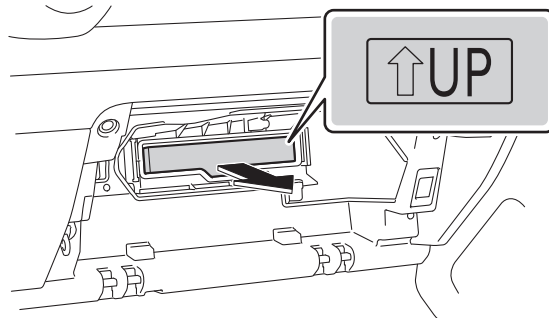
⚠ 注意

グローブボックスを無理に取り外そうとすると、回転軸やヒンジが変形し、グローブボックスが正しく閉まらなかったり、建て付けが悪くなったりするおそれがあります。

5. フィルターカバーを取り外す



6. フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する “↑UP”マークの矢印が上を向くように取り付けます。



7. 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

⚠ 注意

エアコンフィルターを引き出す際は、付着した異物をフィルター挿入部内に落とさないようにゆっくりと引き出してください。

🏠 知識

エアコンの風量が減少したときはフィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

アクセスキーの電池交換

キーレスアクセス&プッシュスタートシステムの作動や施錠・解錠の作動距離が不安定になった場合は電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

使用電池	ボタン電池CR2032
------	-------------

電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセスキーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

また端子部分などを曲げたり、水や油などでぬらしたり、ゴミなどの異物を入れると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

⚠ 注意

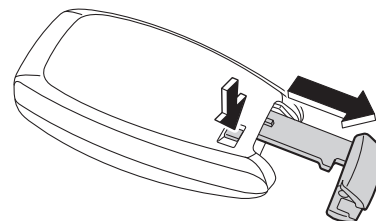
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意してください。

🏠 知識

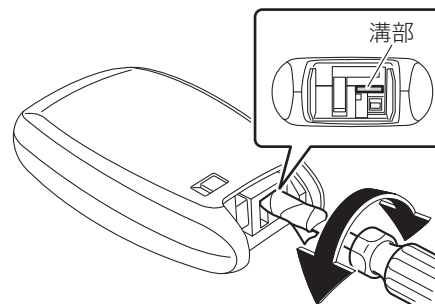
電池交換はSUBARU販売店に依頼することをお奨めします。

交換のしかた

1. ボタンを押し、メカニカルキーを抜く

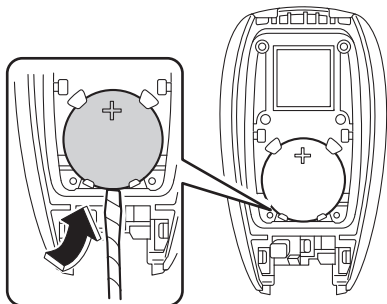


2. 溝部にマイナスドライバーの先端を差し込んでカバーを外す 傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に絶縁テープなどを巻いて保護してください。

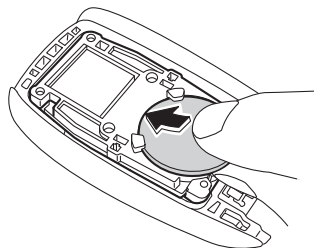


3. 消耗した電池を取り出す

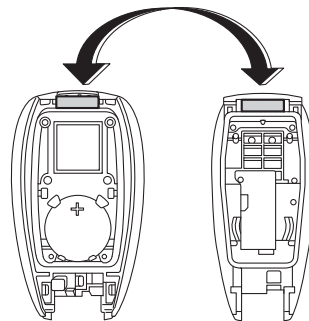
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に絶縁テープなどを巻いて保護してください。



4. 新しい電池の+極を上にして図のように挿入し、確実に取り付ける



5. 凹凸を合わせてカバーを確実に取り付ける



電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換することができます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、SUBARU販売店で交換することをおすすめします。

⚠ 警告

電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

⚠ 注意

- 電球を交換するときは、ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 故障や車両火災を防ぐために、電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

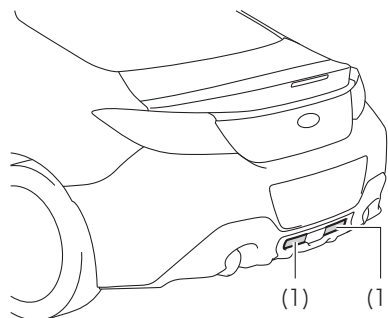
電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。

☞P.413参照

バルブ位置

リヤのバルブ位置



(1) バックランプ（後退灯）

SUBARU販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、SUBARU販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- ポジションランプ／デイトタイムランニングランプ（車幅灯／昼間走行灯）※
- フロントウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）
- サイドウインカー／ハザードランプ（補助方向指示器／非常点滅表示灯）
- リヤウインカー／ハザードランプ（方向指示器／非常点滅表示灯）
- ブレーキランプ（制動灯）
- テールランプ（尾灯）
- ライセンスランプ（番号灯）
- ハイマウントストップランプ（補助制動灯）
- ドアカーテシーランプ※
- スポットマップランプ
- バニティミラーランプ※
- トランクルームランプ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知 識

- レンズ内の水滴と曇りについて次のようなときは、SUBARU販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。
 - ー レンズ内側に大粒の水滴が付いている
 - ー ランプ内に水がたまっている
- 電球（バルブ）を交換するときは、この車両に指定されているスバル純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のスバル純正品以外は使用できない場合があります。



知 識

- バックランプ、ドアカーテシーランプ、スポットマップランプ、トランクルームランプ、バニティミラーランプ以外のランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、SUBARU販売店で交換してください。

交換のしかた

バックランプ（後退灯）

⚠ 注意

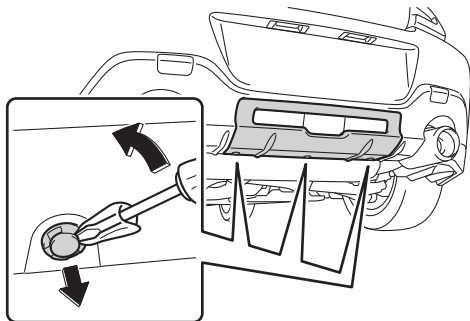
バックランプを交換するときはエンジンを停止して、十分に排気管および周辺部品が冷めてからにしてください。近くに排気管があるため、やけどをするおそれがあります。

🏠 知識

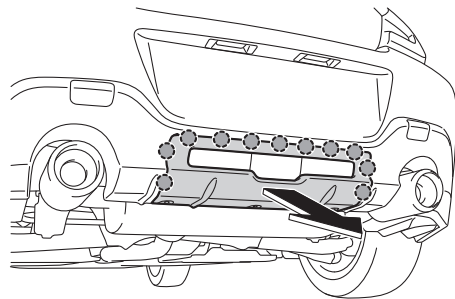
リヤバンパーに純正用品が取り付けられている場合は、用品に付属の取扱説明書を確認してください。

1. クリップを3ヶ所取り外す

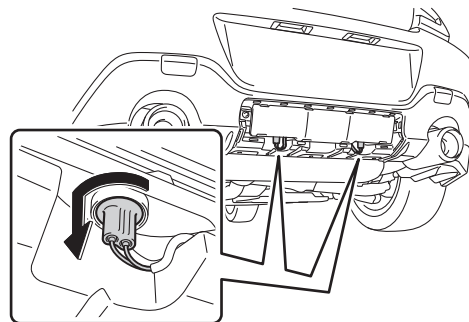
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



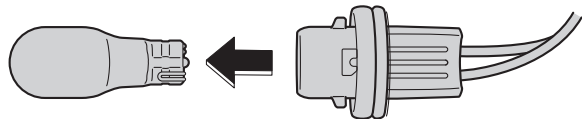
2. ツメを外して、カバーを取り外す



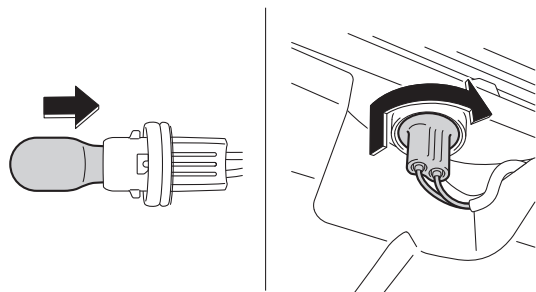
3. ソケット左にまわして取り外す



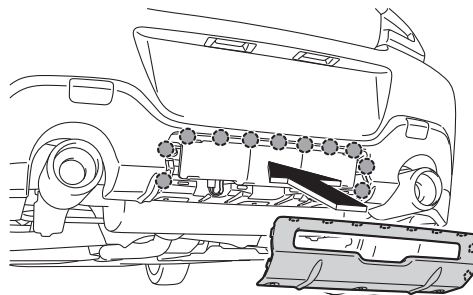
4. 電球を取り外す



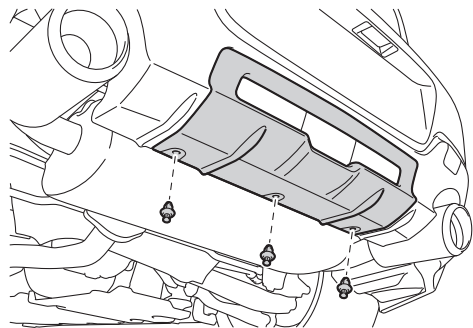
5. 新しい電球を取り付け、ソケットをランプ本体に挿し込み右にまわして取り付ける



6. ツメの位置を合わせ、カバーを取り付ける



7. クリップを3ヶ所取り付ける



その他部品の交換が必要なとき

部品の交換が必要なときは、次のことをお守りください。守らないとエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしない。
 - ー 車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- スバル純正品以外の部品などは装着しない。
 - ー エアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- 次のような修理や交換をする場合には必ずSUBARU販売店にご相談ください。エアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
 - ー ハンドルまわりやインストルメントパネル、センターコンソール付近を修理する場合。
 - ー オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合。
 - ー フロントスピーカー交換などフロントドアの改造を行う場合。
 - ー 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合。

⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしない。
- フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しない。
- センターピラー、リヤピラー、ドアなどのセンサー格納部を分解、修理しない。
 - ー 分解、修理が必要な場合はSUBARU販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用しない。
 - ー SUBARU販売店で交換してください。
- バンパー・ボンネット・サスペンション・エアロパーツ・ホイール、カウルなどの加工や純正品以外に交換しない。また、ナンバープレートベースなどのバンパーアクセサリ部品も純正品以外装着しない。
 - ー システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エアバッグシステムの部品・配線を取り外したり修理しない。また、電気テスターを使ってシステムの回路診断をしない。
 - ー 誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。必ずSUBARU販売店で点検を受けてください。

 警告

- エンジンが始動しているときにバンパー周辺部品に触れたり、よりかからない。
 - ー 予期せぬ作動でけがをしたり、部品が損傷してシステムが正常に作動しないおそれがあります。
- 車やエアバッグを廃棄するときは必ずSUBARU販売店にご相談ください。エアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。
- 純正品の取り付けはSUBARU販売店にご相談ください。

8. 万一の場合

対処のしかた

事故が起きたとき	370
故障時の対応方法と連絡先	371
踏切で動けなくなったとき	371
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき	372
路上で動けなくなったとき	373
水没して動けなくなったとき	373
雪やぬかるみにはまって動けなくなったとき	374
発炎筒	375
ハザードランプ（非常点滅表示灯）	376

パンクしたとき

応急用パンク修理	377
----------------	-----

故障したとき

セレクトレバーが動かないとき（オートマチック車）	387
フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき ...	388
アクセスキーが作動しないとき	389
バッテリーが上がったとき	391
ヒューズの点検・交換	393

けん引のとき

けん引について	397
けん引してもらうとき	397
他車をけん引するとき	401

オーバーヒートしたとき

対処のしかた	404
--------------	-----

対処のしかた

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

- 続発事故の防止につとめてください
他の交通の妨げにならないような安全な場所にお車を移動させ、エンジンを止めます。
- 負傷者の救護につとめてください
負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
- 警察へ届け出をしてください
事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。
- 相手方の確認とメモをおとりください
相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。
同時に事故状況もメモしておいてください。
- SUBARU販売店と保険会社へ連絡してください
ご購入されたSUBARU販売店とご加入の保険会社へ連絡をします。

エンジンが停止したとき

SRSエアバッグが作動する、または車両後方から大きな衝撃を受けると、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限に抑えます。エンジンを始動する必要がある場合は、一度プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにし、再始動してください。

注意

エンジンを始動する前に、燃料が漏れていないことを十分確認してください。地面にぬれた跡があるなど燃料漏れの可能性がある場合は、直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

故障時の対応方法と連絡先

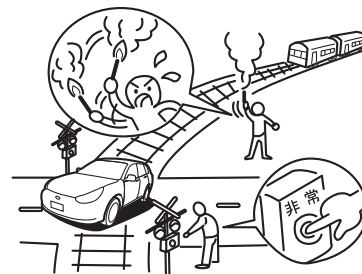
1. お車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
2. SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）に連絡し、ご相談ください。

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☞P.375参照



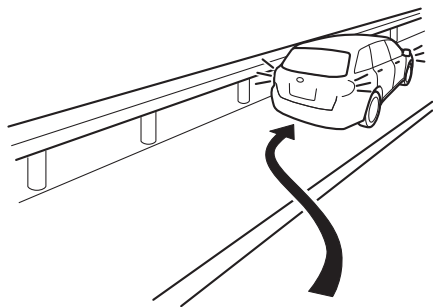
知識

プッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回している状態）、お車を動かすことはできません。

- オートマチック車：セレクトレバーが“P”または“N”以外ではスターターは回りません。
- マニュアル車：クラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

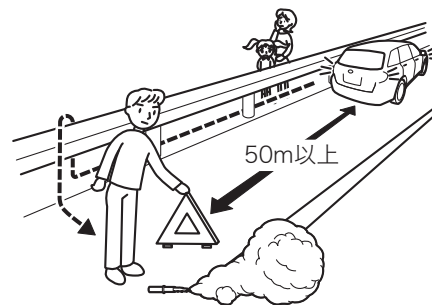
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

1. ハザードランプを点滅させ、お車を路肩など安全な場所に止めてください。

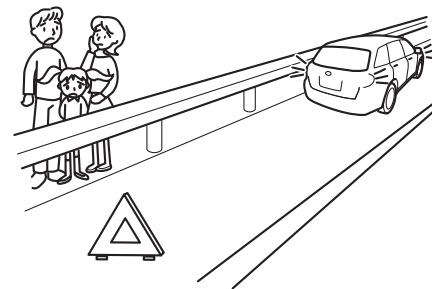


2. 同乗者をガードレールの外側などに避難させ、お車の50 m以上後方へ三角停止表示板と発炎筒を置くか、停止表示灯を使用してください。

☞P.375参照



3. 運転者もガードレールの外側などに避難してください。



4. 安全を確保した後、非常電話などで救援をたのみます。

知 識

- 三角停止表示板または停止表示灯の設置は法律で義務付けられています。



知 識

- 三角停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

1. あわてず、もう一度エンジンを始動してみてください。

☞P.152参照

2. エンジンが始動しないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。

移動するときはセレクトレバーを“N”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にします。

☞P.157、161参照

水没して動けなくなったとき

お車が水没するおそれがあるときは車内に留まるとたいへん危険です。落ち着いてシートベルトを外し、車外に脱出してください。

- ドアが開く場合は、すみやかにドアから脱出してください。
- ドアが開かない場合は、パワーウィンドウが作動すればドアガラスを開けて脱出してください。
- ドア、ドアガラスともに開かない場合は、車内外の水位が同程度になるまで待って、ドアを開けて脱出してください。

緊急脱出用ハンマーなどを使用するときは、ドアガラスまたはリヤガラスを割ってください。



知 識

- 車内外の水位に差があると、水圧によってドアを開けることができなくなります。
- フロントガラスには合わせガラスを使用しています。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーなどで割ることができません。
- 緊急脱出用ハンマーは車載されていませんので必要に応じて準備してください。

雪やぬかるみにはまって動けなくなったとき

雪やぬかるみ、砂地などにタイヤが埋まって空転したり、動けなくなったりした（スタックした）ときは、以下の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にする。
2. エンジンを停止する。
3. 後輪周辺の土や雪を取りのぞく。
4. 後輪の下に木や石もしくはフロアマットなどをあてがう。
5. エンジンを始動する。
6. セレクトレバーを確実に“D”または“R”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーを“1”または“R”（マニュアル車）にする。
7. パーキングブレーキを解除して、アクセルペダルをゆっくりと踏み、前進と後退を細かく繰り返す。

⚠ 警告

- 車の周囲に物や人がいないか確認する。
 - ー 発進、後退時の衝突を避けるため、周囲に他の車や人、物がないことを確認してください。脱出時に車が飛び出すおそれがあるので、特に注意してください。

⚠ 警告

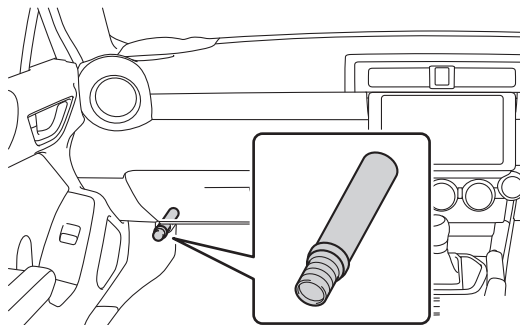
- 脱出の際に、車を手で押すなどの行為は絶対にしない。
 - ー 脱出時に車が飛び出すおそれがあり大変危険です。
- アクセルを強く踏み込まない。
 - ー アクセルを強く踏み込むと、タイヤが空転して、トランスミッションやその他の部品に損傷を受ける場合があります。また、摩擦で雪が解けるなどして状況が悪化します。

🏠 知識

- TRCをOFFにすると、脱出しやすい場合もあります。
🔧 P.179参照
- 1.～7.の方法で脱出が難しいときは、ロードサービス（SUBARU安心ほっとライン（巻末参照））に救出を依頼してください。

発炎筒

グローブボックス左下に発炎筒を備え付けています。
発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。

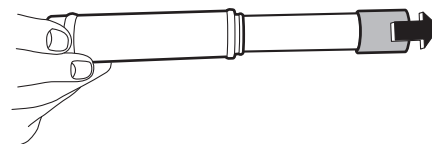


発炎筒の使いかた

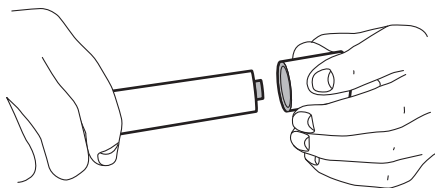
1. ケースをひねり、本体からケースを取り外します。



2. ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



3. 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



⚠ 警告

発炎筒を使用するときは次のことを必ずお守りください。
守らないとやけどなど重大な傷害、車両火災や事故などの原因につながるおそれがあります。

- 発炎筒をお子さまには触れさせない。
- 燃料など可燃物のそばで使わない。
- 筒先を顔や身体に向けたり、人に近づけたりしない。
- トンネルの中で使わない。
 - ー 煙で視界が悪くなり危険です。トンネルの中ではハザードランプを使用してください。

📞P.376参照

🏠 知識

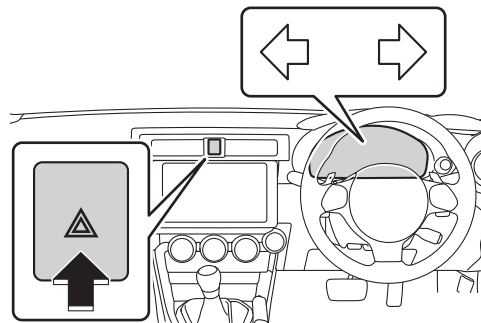
発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にSUBARU販売店でお求めください。

ハザードランプ（非常点滅表示灯）

プッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用することができます。

スイッチを押すと、すべてのウインカーが点滅します。

故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。



🏠 知識

長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パンクしたとき

応急用パンク修理

この車は応急用スペアタイヤを搭載しておりません。パンクの際は、車載のパンク修理キットを使用してください。パンク修理の際は、作業をスムーズにするため本取扱説明書をお読みになってから作業してください。

このパンク修理キットは応急修理を目的としています。修理後はすみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

パンク修理キットを使用する際は、次のことを必ずお守りください。守らないと思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

- パンク修理キットを使用したタイヤにはチェーンを装着しない。
- 安全な場所に停車し、交通の妨げにならないようにする。
- 車両が動かないようにパーキングブレーキをかける。
- ハザードランプを点灯させる。
- その場を離れない。

⚠ 注意

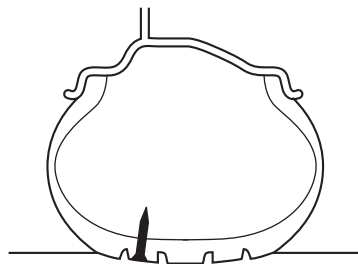
パンク修理キットを使用する際は、次のことに注意してください。

- 修理剤を誤って飲用した場合は、できるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診断を受ける。
- 修理剤が目や皮ふについた場合は、水でよく洗い流す。

⚠ 注意

- ー 異常を感じたら医師の診断を受けてください。
- お子さまが誤って修理剤に手を触れないよう注意する。
- パンク修理キットは、指定サイズのタイヤ専用のため指定サイズ以外のタイヤや他の用途には使用しない。
- ー タイヤの指定サイズは運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

パンク修理キットで、タイヤの接地部に直径4 mm未満の釘やネジなどが刺さった軽度のパンクが一時的に修理することができます。



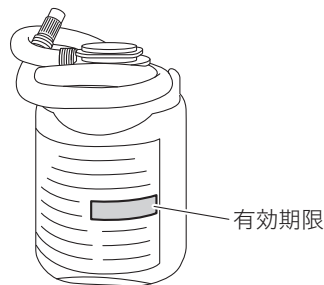
⚠ 注意

- タイヤにささった釘やネジを取り除かず応急修理を行う。
- ー 取り除いてしまうと、パンク修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。

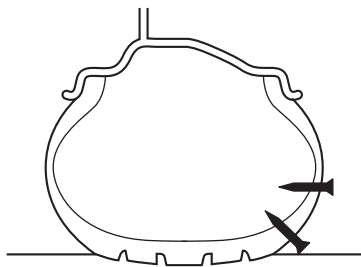
応急修理ができないとき

次の場合は、応急修理ができません。SUBARU販売店やSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などにご連絡ください。

- 修理剤の有効期限が過ぎているとき



- 接地部以外が損傷を受けパンクしているとき



- タイヤ側面に亀裂やへこみがあるとき

- タイヤが2本以上パンクしているとき（修理剤1本につき、修理できるタイヤは1本です）
- ほとんど空気が抜けている状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールやホイールのバルブが損傷しているとき
- 直径4 mm以上の釘などによってパンクしているとき
- 気温が-30℃以下のとき

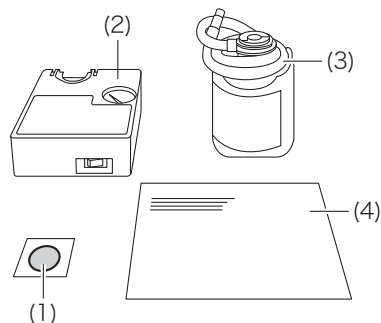


知識

- 修理剤には有効期限があります。有効期限の過ぎた修理剤は徐々に劣化し、パンクを補修する機能が落ちてくるため、適切に応急修理ができない可能性があります。有効期限が切れる前に交換してください。交換についてはSUBARU販売店にご相談ください。
- 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがあります。
- 氷点下で使用する場合は、ボトルを車内で温めてから使用することをお奨めします。

パンク修理キット

パンク修理キットはサブトランク内に格納されています。



- (1) 速度制限シール
- (2) コンプレッサー
- (3) 修理剤
- (4) クイックリファレンス

⚠ 警告

コンプレッサーを使用するときは次のことをお守りください。
車両火災や感電の原因になるおそれがあります。

- 使用する前に、電源コードに損傷がないことを確認する。
- ぬれた手で操作しない。
- 使用中に発火、発煙、異臭などの異常が発生した場合は、すぐに使用を中止する。
 - ー 電源コードを取り外した後、SUBARU販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

コンプレッサーを使用するときは、次のことをお守りください。
コンプレッサーの故障の原因となります。

- 10分以上連続して作動させない。
- 水をかけない。
 - ー 降雨時の作業では水がかからないよう作業してください。
- 砂地など砂ぼこりの多い場所で使用しない。
- 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止する。
 - ー 再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
- 分解・改造などはしない。
- 衝撃を与えない。

使用する前に

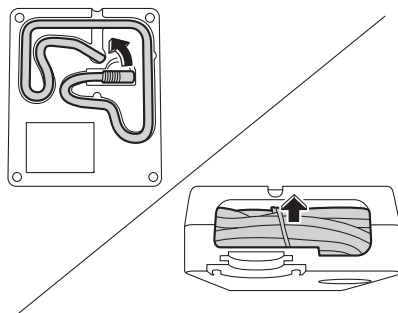
1. 地面が硬く平坦で、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを停止します。
2. ハザードランプを点滅させ、人や荷物を降ろし、三角停止表示板または停止表示灯を使用します。
3. パンクしたタイヤのバルブが下にくるように停車してください。
4. パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
5. トランクマット装着車は、トランクマットを取り外し、パンク修理キットを取り出します。

知識

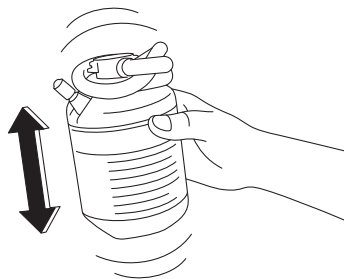
三角停止表示板または停止表示灯は必要に応じて準備してください。

修理のしかた

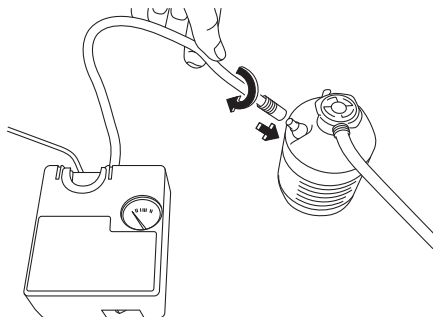
1. コンプレッサーの裏側からホースを、上部から電源コードを取り出します。



2. ボトルをよく振ってから、ホースを解きます。



3. コンプレッサーのホース先端部を、ボトルのバルブに確実に取り付けます。

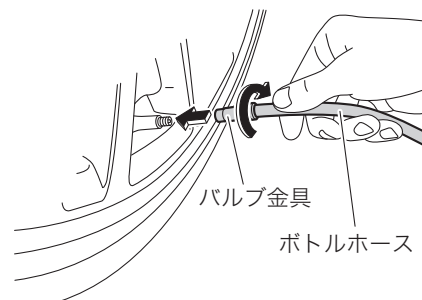


⚠ 注意

ボトルのバルブのねじ山をつぶさないように注意する。

4. 損傷したタイヤのバルブキャップを外します。

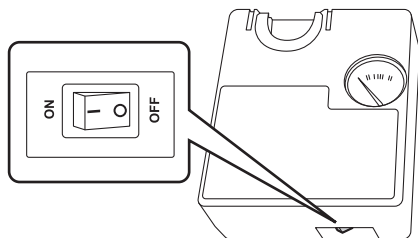
5. ボトルのホースを損傷したタイヤのバルブに確実に取り付けます。



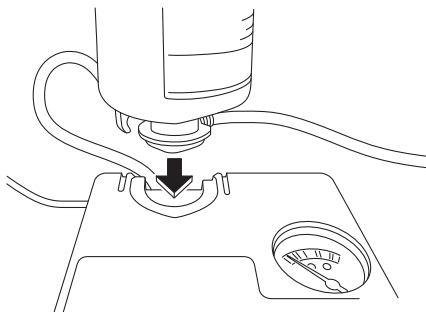
⚠ 注意

バルブへの取り付けがゆるいと修理剤が漏れるおそれがあります。

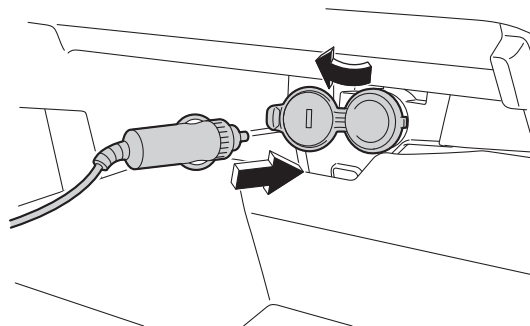
- 6.** コンプレッサーの電源スイッチがOFFの位置にあることを確認します。



- 7.** ボトルを逆さまにして、キャップの形状を合わせてコンプレッサーに取り付けます。

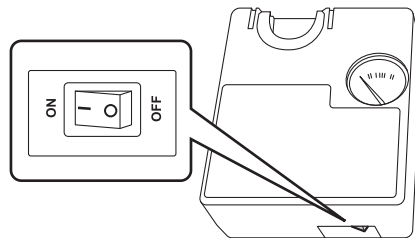


- 8.** コンプレッサーの電源コードのプラグをグローブボックス内の電源ソケットに確実に差し込みます。



- 9.** プッシュエンジンスイッチをACCにします。

- 10.** タイヤの側面に亀裂や傷、へこみがないことを確認し、コンプレッサーの電源スイッチをONにして修理剤と空気を注入します。



⚠ 注意

コンプレッサーを使用する際は、次のことをお守りください。

- コンプレッサーの電源は必ず電源ソケットから取る。
- 修理剤の注入中はタイヤの真横には立たない。

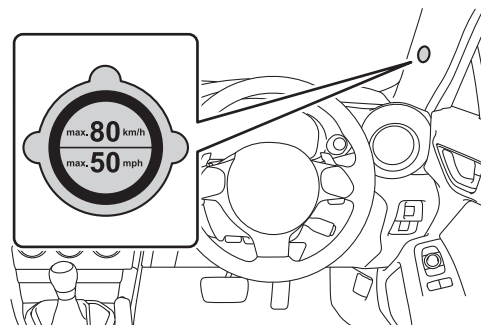
次の場合はパンク修理キットによる応急修理はできません。
SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などにご連絡ください。

- コンプレッサーの作動中、タイヤ側面に亀裂やへこみなどの損傷が見つかった場合
 - ー 直ちにコンプレッサーを停止してください。
- 10分間エアをいれてもタイヤの空気圧が緑色のゾーンにならない場合

🏠 知識

修理剤を注入しているとき、空気圧は一時的に300 kPa以上に高くなりますが、修理剤がすべて流れ込むと空気圧は下がります。

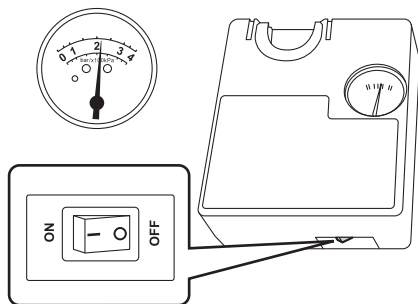
17. 速度制限（80 km/h）シールを取り出し、図の位置に速度制限シールを貼ります。



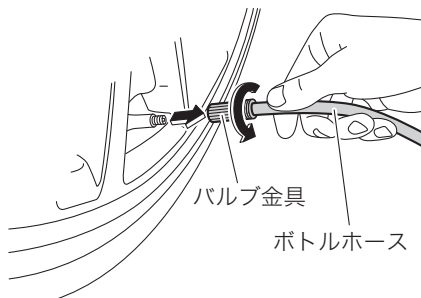
⚠ 注意

- 速度制限シールは、ハンドル中央部やダッシュボードには貼らない。
 - ー SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置に貼らないでください。

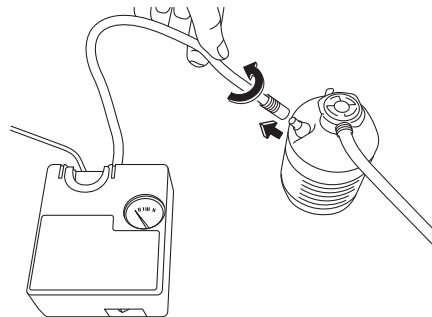
- 12.**タイヤの空気圧が緑色のゾーンになったら、コンプレッサーの電源スイッチをOFFにします。



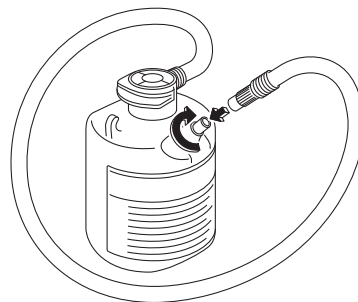
- 13.**ボトルのホースを損傷したタイヤから外し、バルブキャップを取り付けます。



- 14.**コンプレッサーのホースを、ボトルから外します。



- 15.**修理剤がこぼれないように、ボトルのホースを、素早くボトルのバルブにつないでください。



16.パンク修理キットを車両に搭載して直ちに走行します（10分間または5 km程度）。走行は法定速度を守って、80 km/h以下の速度で急ハンドルなどを避け、慎重に運転してください。

⚠ 注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止する。
 - － 修理剤の補修が完了していない場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。異常を感じたときは、SUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などにご連絡ください。
- パンク修理キットとボトルが動かないよう確実に固定する。

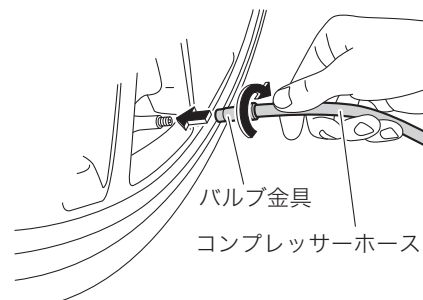
17.安全な場所にお車を止め、コンプレッサーに付属の空気圧計を使用してタイヤの空気圧を点検します。

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルで確認してください。

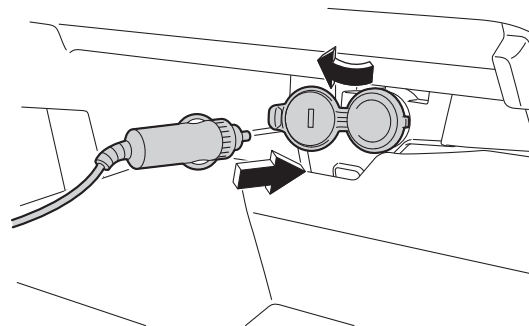
☞ P.414参照

18.応急修理したタイヤのバルブキャップを外します。

19.コンプレッサーのホースを、応急修理したタイヤのバルブに確実に取り付けます。

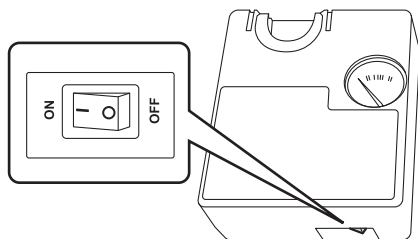


20.電源コードのプラグをグローブボックス内の電源ソケットに確実に差し込みます。



21.プッシュエンジンスイッチをACCにします。

- 22.**コンプレッサーの電源スイッチをONにして、数秒後にOFFにしてください。



- 23.**タイヤの空気圧が黄色のゾーンのときは、タイヤの指定空気圧まで空気を入れます。

☞P.414参照

タイヤの空気圧が赤色のゾーンのときは、修理剤による応急修理はできません。

運転を中止してSUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）にご連絡ください。

知識

寒冷時は修理完了までの時間、走行距離が長くなる場合があります。この場合、手順16.から23.の作業を繰り返してください。作業を繰り返しても空気圧が低下する場合は応急修理ができません。運転を中止してSUBARU販売店またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）にご連絡ください。

- 24.**応急修理後は、すみやかにSUBARU販売店で点検を受けてください。

注意

パンク修理キットで修理後は次のことをお守りください。

- 走行するときは法定速度を守り、80 km/h以下の速度で、急ハンドルなどを避け慎重に運転する。
- 応急修理したタイヤで200 km以上の距離を走行しない。

知識

- パンク修理キットを使用したときは、すみやかにタイヤおよびタイヤのバルブを新品に交換してください。
☞P.351参照
- ホイールに損傷のない場合は、付着した修理剤を除去することでホイールを再使用することができます。
- 使用したパンク修理キットは、修理剤、速度制限シールを交換してください。詳しくはSUBARU販売店にご相談ください。

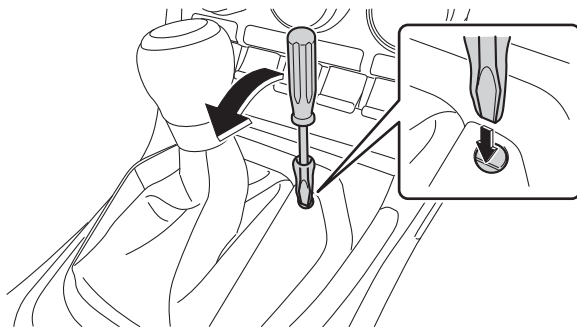
故障したとき

セレクトレバーが動かないとき （オートマチック車）

セレクトレバーを“P”から動かすことができないまたは“P”へ動かすことができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

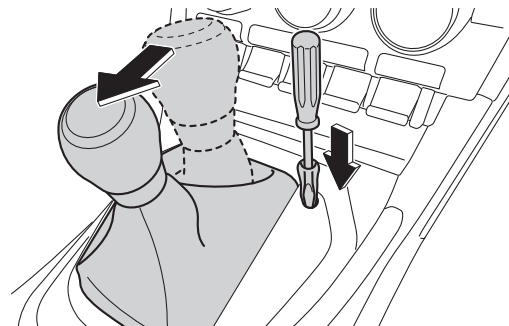
1. パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外す。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3. ブレーキペダルを踏みます。

4. シフトロック解除ボタンを押しながら、セレクトレバーを操作します。

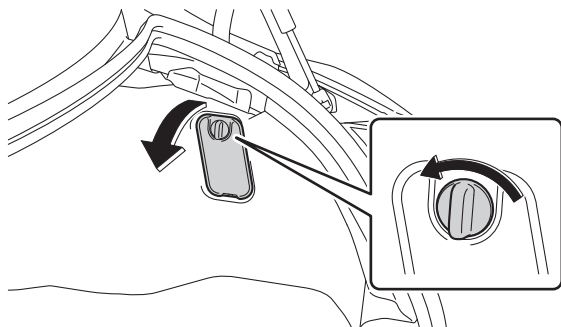


知 識

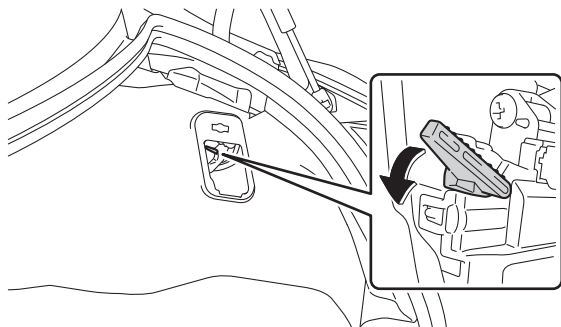
セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにSUBARU販売店にご連絡ください。

フューエルリッド（燃料給油口）が解錠できないとき

1. トランク内右側のカバーを取り外します。



2. レバーを下げると解錠します。



知識

- 解錠後は通常のフューエルリッド操作で開閉することができます。
- フューエルリッドの施錠装置が故障している場合は、解錠後に集中ドアロックスイッチで施錠することができない場合があります。すみやかにSUBARU販売店にご相談ください。

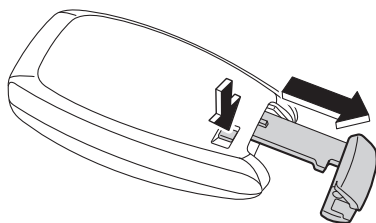
アクセスキーが作動しないとき

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

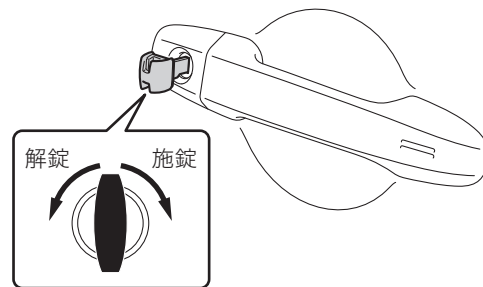
☞P.361参照

メカニカルキーによる施錠・解錠

ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。



メカニカルキーを確実に差し込んでお車の後ろ側に回すと解錠され、前側に回すと施錠されます。メカニカルキーは差し込み方向に指定のある内溝キーです。差し込めない場合は向きを改めて差し込んでください。



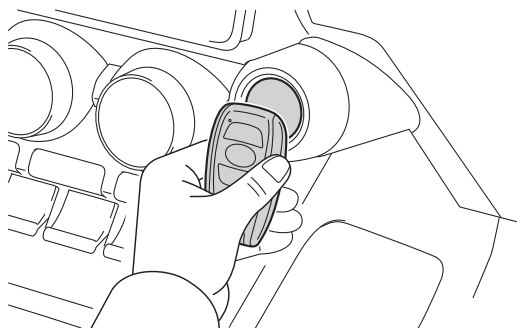
知 識

- 盗難警報装置が監視状態のときは警報が鳴ります。アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合はアクセスキーをブッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけてください。
☞P.390参照
- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。
- メカニカルキーは運転席ドアのみ施錠・解錠します。他のドアは連動しません。

アクセスキーが作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、およびキーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止していて、アクセスキーが作動しないときは、次の方法でエンジンを始動できます。

1. パーキングブレーキが確実にかかっていることを確認します。
2. セレクトレバーが“P”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーがニュートラル（マニュアル車）であることを確認します。
3. オートマチック車はブレーキペダルを、マニュアル車はクラッチペダルを踏みます。
4. アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。



5. アクセスキーと車両の通信が完了するとブザーが鳴ります。
（プッシュエンジンスイッチがONになります。キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止している場合は、ACCになります。）
6. オートマチック車はブレーキペダルを踏んだまま、マニュアル車はクラッチペダルを踏んだままブレーキペダルを踏んでプッシュエンジンスイッチを押します。

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけない。

－ アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 知識

- ACCからエンジンを始動せずにONにしたいときは、オートマチック車はブレーキペダルから足を離して、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します。
- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しないことがあります。

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンが始動しないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

対処のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

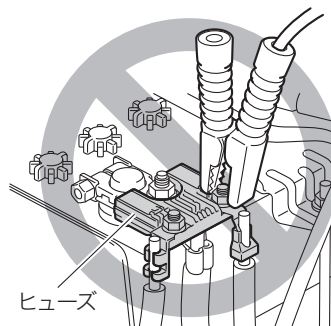
⚠ 警告

バッテリーが上がったときは次のことを必ずお守りください。守らないと重大な傷害につながるおそれがあります。

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認する。
 - バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことを守る。守らないと火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険、かつ電子機器やエンジン部品を傷める原因となる。
 - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。

⚠ 警告

- ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
- 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。
- ☞ P.392参照
- バッテリー⊕端子付近にあるヒューズなどには絶対にケーブルを接続しないでください。ヒューズなどが破損するおそれがあります。



- バッテリーに火気を近づけない。
 - バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火して爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、すべてのキャップを外し、通気のよい場所で充電する。
 - 発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸なので、目および身体につかないように気をつける。

⚠ 警告

- 万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。

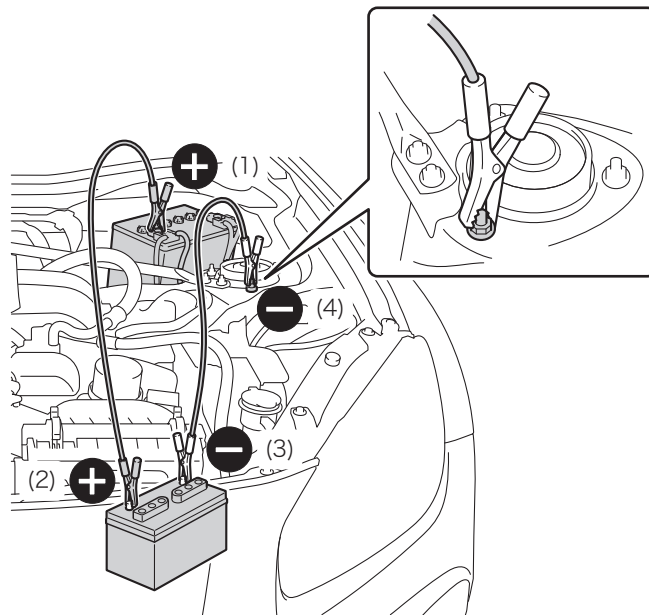
⚠ 注意

- ドアを閉めるときは、ドアガラスを内側に倒すように力を加えながらゆっくりと閉めてください。
ドア連動ドアガラス開閉機能が作動しないため、ドアガラスと車体が干渉して傷付き、ドアガラスが割れるおそれがあります。

ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ずお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続する。
- ケーブルをベルトなどの可動部品に接触させない。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さない。
- 電子機器が損傷するおそれがあります。

ブースターケーブルの接続手順



1. ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
2. 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
3. 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
4. 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体（バッテリーから離れたボルトなど）につなげます。(4)
5. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
6. 自車のエンジンを始動します。
7. ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外して、⊕端子のカバーを取り付けます。

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに電気装置が動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。

プッシュエンジンスイッチをOFFにし、ヒューズを確認してください。

ヒューズを交換した後はすみやかにSUBARU販売店で点検を受け、スペアヒューズを補充してください。



知 識

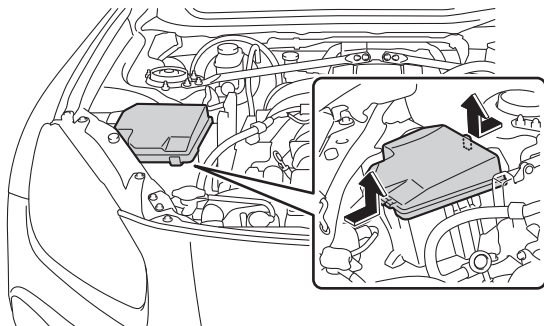
- ヒューズがわからないときや、作業に不安がある場合は、SUBARU販売店にご相談ください。
- ランプ類が点灯しないときは、電球が切れていることがあります。

🔧 P.363参照

ヒューズボックスの開けかた

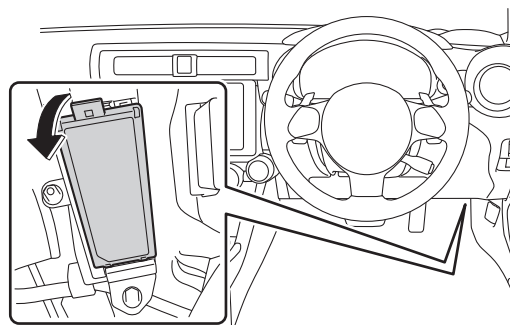
エンジンルーム

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。
ヒューズボックスカバーの裏面にヒューズの位置と容量が記載されています。



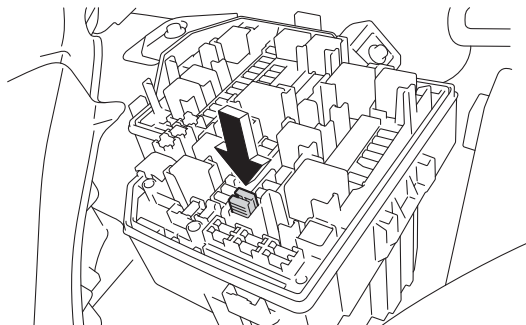
室内

ヒューズボックスカバーを取り外します。
ヒューズボックスカバーの表面にヒューズの位置と容量が記載されています。

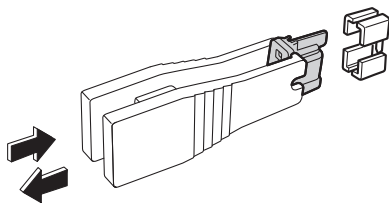


交換のしかた

1. ヒューズプラーをつまんでエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。

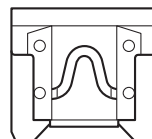


2. ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。

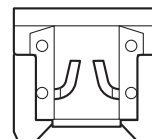


3. ヒューズを確認します。

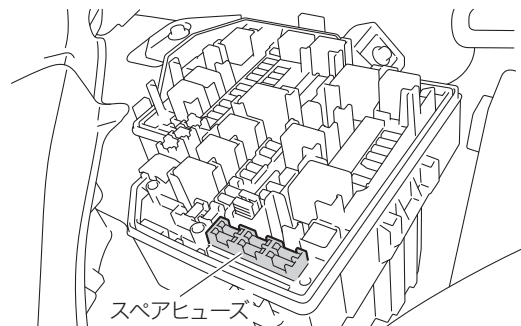
切れていない状態



切れている状態



4. ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックス内にあるスペア（7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個）のうち、同じ容量（アンペア数）のものと交換してください。



注 意

ヒューズを交換するときは必ず次のことをお守りください。

- 必ずブッシュエンジンスイッチをOFFにする。
 - － ONやACCの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換する。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わない。

知 識

ヒューズが切れていない場合や交換してもヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、SUBARU販売店で点検を受けてください。

けん引のとき

けん引について

お車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずSUBARU販売店、またはSUBARU安心ほっとライン（巻末参照）などに依頼してください。

けん引してもらうとき

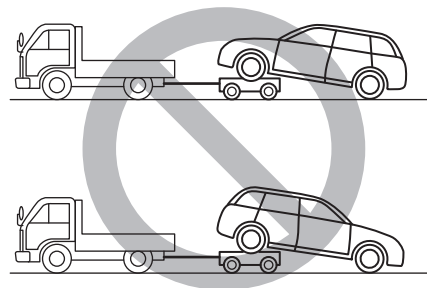
けん引方法の違い

次の方法でのけん引が可能です。

- 車載（4輪持ち上げ）
トランスミッションや駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープによるけん引
次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
 - ー 速度30 km/h以下で走行してください。
 - ー 走行距離は30 kmを超えないでください。

⚠ 注意

前輪のみを持ち上げてのけん引および後輪のみを持ち上げてのけん引は、絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

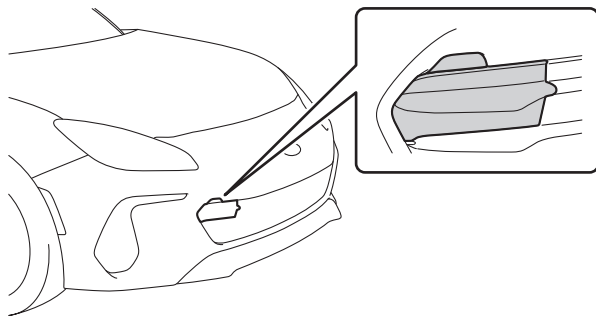


🏠 知識

キャリアカーに車両を載せたとき、車両が自動で光軸を調整している場合があります。照射方向が気になる場合はSUBARU販売店で点検を受けてください。

ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。

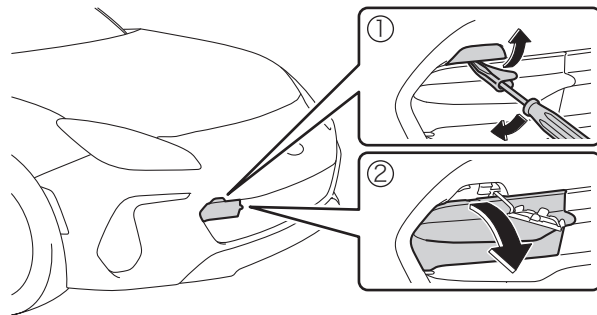


⚠ 注意

バンパーやけん引フックの変形を防ぐため、けん引フックに過度の負荷をかけないでください。

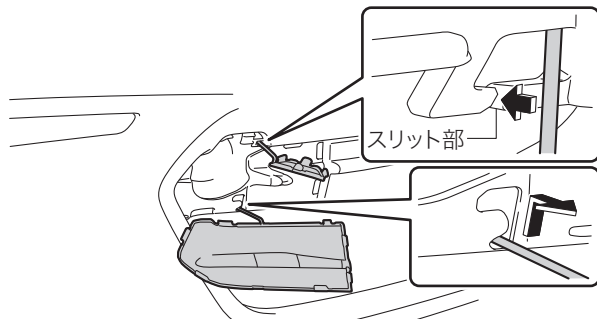
けん引フックの取り付けかた

1. バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理で上側のカバーを取り外したあと、下側のカバーを手で手前に引いて取り外します。



2. カバーをバンパーから取り外します。

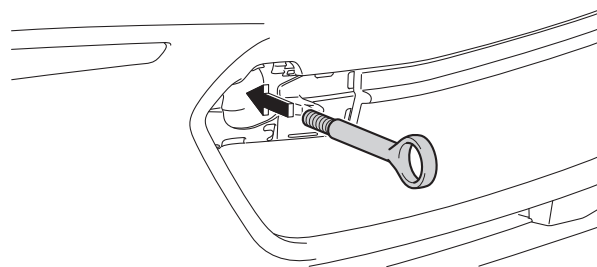
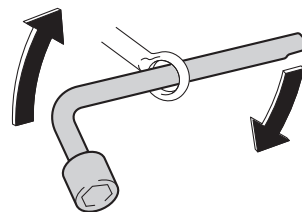
上側のカバーを取り外すときはスリット部に合わせて、車両後方へ押して取り外してください。

**⚠ 注意**

カバーを取り外す際に無理な力を加えないでください。変形したり破損したりするおそれがあります。

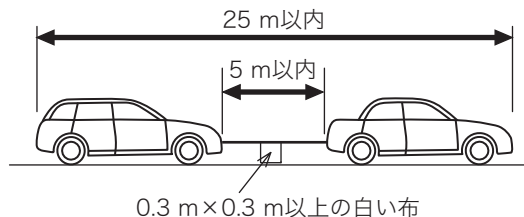
3. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞ P.342参照

**4. ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けます。**

けん引方法

1. ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3 m×0.3 m以上）をつけます。



2. プッシュエンジンスイッチをONにします。
3. セレクトレバーを“N”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にします。
4. パーキングブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、けん引している車のブレーキランプに注意してロープをたるませないようにしてください。

警告

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしない。
ー ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しない。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外す。

警告

- ー そのままにしておくと衝撃を受けたときSRSエアバッグが正常に作動しないことがあります。

注意

四輪接地でけん引してもらうときは次のことをお守りください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認する。
- セレクトレバーを“N”（オートマチック車）もしくはチェンジレバーをニュートラル（マニュアル車）にする。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼する。
ー ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転する。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が発生するため、十分注意して操作する。
ー パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
ー ブレーキブースターが働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
- パーキングブレーキを確実に解除する。
- トランスミッションおよび駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引する。

 注意

- 故障の内容によりけん引できない場合がある。

 知識

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷付きを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼り付けたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

 警告

他車をけん引するときは次のことを必ずお守りください。

- けん引フックはけん引時以外に使用しない。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外す。
 - そのままにしておくと、後面に衝撃を受けたときに燃料供給停止機能が正常に作動しないことがあります。

 注意

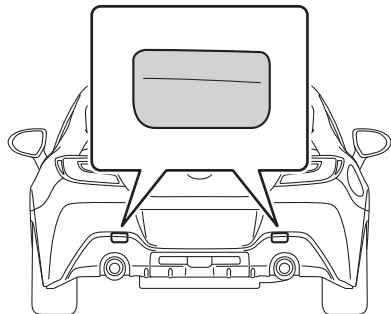
- バンパーやけん引フックの変形を防ぐため、けん引フックに過度の負荷をかけないでください。
 - SRVD装着車は、SRVDをOFFにする。
 - けん引車により、レーダー波が妨げられ、システムが正常に機能しません。
-  P.299参照

 知識

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷付きを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼り付けたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

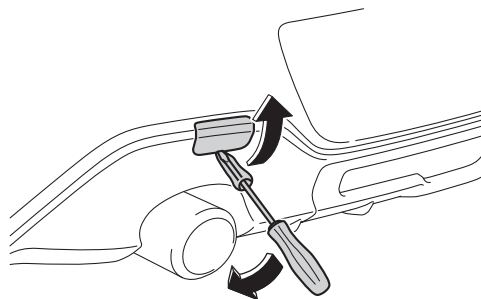
けん引フックの取り付け位置

リアバンパー両側の下にあります。

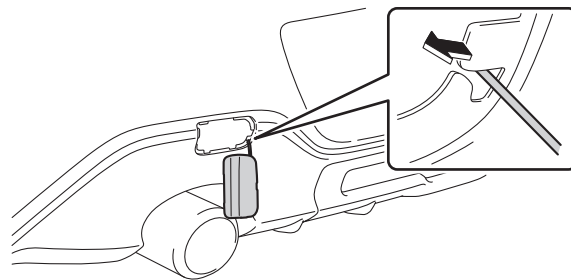


けん引フックの取り付けかた

1. バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外します。



2. カバーをバンパーから取り外します。

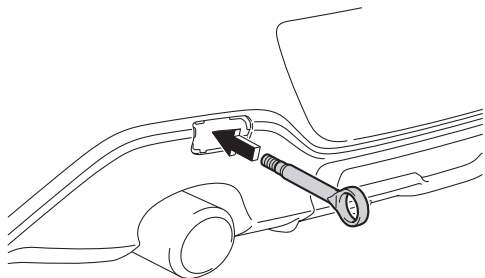
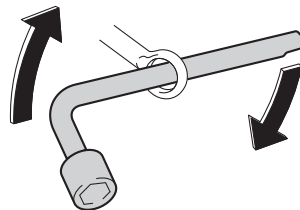


⚠ 注意

カバーを取り外す際に無理な力を加えないでください。変形したり破損したりするおそれがあります。

3. けん引フックを取り出し、取り付け部にねじ込みます。

☞ P.342参照

**4.** ホイールナットレンチなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けます。

オーバーヒートしたとき

対処のしかた

このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅または点灯したとき
- マルチインフォメーションディスプレイに“エンジン冷却水高温 販売店へ連絡してください”が表示されたとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

後続車に注意して安全な場所にお車を止めます。エンジンルームから水漏れ、蒸気の噴き出しがあるときは、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてSUBARU販売店にご連絡ください。

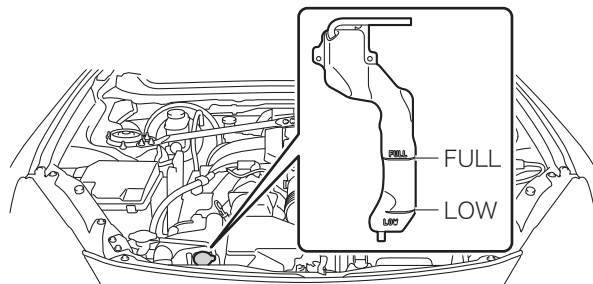
⚠ 警告

- 蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ー やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

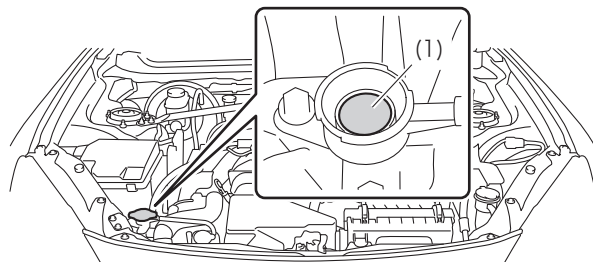
水漏れ、蒸気の噴き出しがないとき（水温警告灯が赤色）

1. エアコンを止め、エンジンを始動したままボンネットを開けて風通しをよくします。
2. 冷却ファンが回っている場合は水温警告灯が消灯し、時間が十分経過してからプッシュエンジンスイッチをOFFにします。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにプッシュエンジンスイッチをOFFにしてSUBARU販売店にご連絡ください。
3. エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。

4. リザーバートank内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、FULL位置まで補給します。



5. ラジエーターキャップを開け、冷却水を注入口の口元（イラストの（1）の位置）まで補給します



警告

- ラジエーターやリザーバタンクが熱いときはキャップを外さない。
- ー やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ー キャップを開けるときは、ラジエーターやリザーバタンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

注意

- 冷却水は、エンジンが熱いときに入れない。
- ー 急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

知識

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水を使用してください。

6. 早めに最寄りのSUBARU販売店で点検を受けてください。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

9. 仕様一覧

仕様一覧

サービスデータ	408
タイヤ・ホイール	414

カスタマイズ機能

カスタマイズ一覧	416
----------------	-----

仕様一覧

サービスデータ

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。
指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L] (参考値)
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	50

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ^{※1})	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20 SP ^{※2} SUBARU MOTOR OIL SP 0W-20 SUBARU MOTOR OIL SP 5W-30 SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-20 SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-30	4.8	5.0

※1: エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、車を水平な場所におき、エンジン始動前またはエンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。オイル量の確認は、レベルゲージの両面を見て油面の低い方で確認してください。
※2: 省燃費性に優れるオイルです。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
	オートマチック車	
スバルスーパークーラント		7.7
	マニュアル車	7.4

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
オートフルード WS	7.5

 注意

指定銘柄以外のオートマチックトランスミッションフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
マニュアルトランスミッションギヤオイルLV 75W	2.2

 注意

指定銘柄以外のマニュアルトランスミッションギヤオイルを使用すると、アイドリング音、チェンジレバーの操作感、燃費の悪化や、故障などの原因になるおそれがあります。

デファレンシャル

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
ディファレンシャルギヤオイルLX	1.15

クラッチ

クラッチフルード

指定銘柄
スバル純正ブレーキフルードまたは DOT 3 (銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと)

クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5
クラッチ切れ残り代※	20

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ブレーキ

ブレーキフルード

指定銘柄
スバル純正ブレーキフルードまたは DOT 3（銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと）

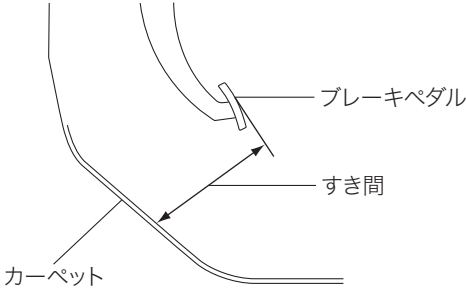
ブレーキパッド

項目			使用限度 [mm]
ディスクブレーキの パッドの摩耗限度	Bremboブレーキ非装着車		1.5
	Bremboブレーキ装着車	前輪	1.5
		後輪	2.35

ブレーキディスクの摩耗限度

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、SUBARU販売店にご相談ください。

ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5～1.5
踏み込んだときの床板とのすき間※ 	74

※ エンジン回転時に300 N（約30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力200 N（20 kgf）のときのノッチ※数	7～8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
1.5

電球 (バルブ) ※1

電球		W (ワット) 数
車外	バックランプ	16
	スポットマップランプ	8
車内	トランクルームランプ※2	5
	バニティミラーランプ※2	2
	ドアカーテシーランプ※2	5

※1: 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

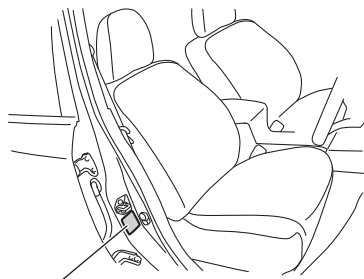
※2: 有無はグレードやオプションにより異なります。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZD8	FA24 (2.4 L ガソリン)	FR (後輪駆動)

タイヤ・ホイール

標準装着タイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。



空気圧ラベル

ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D (mm)	インセット量 (mm)
205/55R16 91V	16×6 1/2J	100	48
215/45R17 87W	17×7 1/2J	100	48
215/40R18 85Y	18×7 1/2J	100	48

タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa (kgf/cm ²)	
	前輪	後輪
205/55R16 91V	240 (2.4)	240 (2.4)
215/45R17 87W	240 (2.4)	240 (2.4)
215/40R18 85Y	240 (2.4)	240 (2.4)

タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの交換時期	ウエアインジケーターが現れたとき (タイヤの溝の深さが1.6 mm以下)

カスタマイズ機能

カスタマイズ一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてマルチインフォメーションディスプレイの操作により作動内容を変更することができます。また、SUBARU販売店で設定を変更できる機能もあります。

お客様がマルチインフォメーションディスプレイで変更可能な機能

マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1. メーター操作スイッチの  または  を押して  または  を選択する
2.  または  を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
3.  スイッチを押す

警告

カスタマイズ設定を行うときはエンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

カスタマイズを行うときはバッテリー上がりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

運転支援機能

次の項目の設定を変更することができます。

項目	設定
LDW（車線逸脱警報）	ON/OFF
PCB（プリクラッシュブレーキ）	ON/OFF
SRVD（後側方警戒支援システム）※1	ON/OFF
RAB（後退時ブレーキアシスト）※1	ON/OFF
 （クリアランスソナー）※2	ON/OFF
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）※1	ON/OFF

※1: 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。

※2: クリアランスソナー割り込み画面と連動。

設定

次の項目の設定を変更、または確認することができます。

項目			設定
EyeSight	先行車捕捉音		ON／OFF
	先行車発進（先行車発進お知らせ）		ON／OFF
	加速レベル（クルーズコントロール加速レベル）		Lv.1（エコ）
			Lv.2（コンフォート）
			Lv.3（スタンダード）
			Lv.4（ダイナミック）
	後退速度リミッター ※		高速
			中速
			低速
			OFF
警報音量			小
			中
			大
時計	表示形式		12H／24H
	時刻合わせ		時：分：AM／PM
	：00		はい／いいえ
画面設定	初期演出		ON／OFF
	GSI（シフトポジション表示）※		ON／OFF
	REV.（REVインジケーター）	インジケーター	ON／OFF
		回転数	＊＊00rpm
		ブザー	ON／OFF

項目			設定
車両設定	キーレスエントリーシステム	ブザー吹鳴	作動あり／作動なし
		非常点滅灯	作動あり／作動なし
		自動施錠時間	30秒
			60秒
			120秒
			作動なし
	リヤデフォグ	15分作動	
		連続作動	
	室内灯消灯時間	7.5秒	
		15秒	
		30秒	
	方向指示器ワンタッチ		ON／OFF
	言語		
English			
初期化			はい／いいえ

※ 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。

SUBARU販売店でのみ変更可能な機能

項目	機能の内容	設定	初期設定
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートライト	感度調整	-40％／-20％／0％／ +20％／+40％	0％
ハイビームアシスト	ハイビーム自動切り替えの作動	ON／OFF	ON
デイトタイムランニングランプ※	デイトタイムランニングランプの作動	作動あり／作動なし	作動あり
イルミネーション	プッシュエンジンスイッチOFF後の照明の点灯	作動あり／作動なし	作動あり
	解錠時の照明の点灯	作動あり／作動なし	作動あり
	接近時の照明の点灯	作動あり／作動なし	作動あり
	スポットマップランプの点灯	作動あり／作動なし	作動あり
ウェルカムライティング	ウェルカムライティングの作動時間（乗車時、降車時それぞれに設定可能）	OFF／10秒／20秒／ 30秒	30秒
ウインドウリモート開閉機能	アクセスキーでのパワーウィンドウ開閉	作動あり／作動なし	作動なし
キーレスアクセス／アクセスキー アロック	アンサーバックブザーの音量	OFF／1（小）～7（大）	5（標準）
	半ドア警告ブザー	作動あり／作動なし	作動あり
ワイパー連動ヘッドランプ	ワイパー連動ヘッドランプの作動	作動あり／作動なし	作動あり
エマージェンシーストップシグナル	エマージェンシーストップシグナルの作動	作動あり／作動なし	作動あり
オートディマーカーキャンセル	感度調整	OFF／1（弱）～5（強）	3（標準）
トランク	アクセスキーなしでのトランク開	ON／OFF	ON
トランク開機能	アクセスキーによるトランク開の作動	短押し／2回押し／長 押し（短）／長押し（長）	長押し（短）
アクセスキー	アクセスキーのボタン操作による施錠・解錠・トランク開	作動あり／作動なし	作動あり
アクティブサウンドコントロール※	アクティブサウンドコントロールの作動	作動あり／作動なし	作動あり

※ 設定の有無はグレードやオプションにより異なります。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

こんなときは

	アクセスキーで施錠・解錠ができない
	電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。車に近づいて再度操作してください。 ☞ P.109参照 車の周囲約1 m以内で何度か操作をしても開かない場合は、アクセスキーの電池の消耗あるいは故障が考えられます。SUBARU販売店にご相談ください。 ☞ P.361、389参照
	ハンドルが急に重くなった
	電動パワーステアリングの保護システムが作動していることが考えられます。 車庫入れなどでハンドル操作を何度も繰り返すと、保護システムが作動することがあります。このときハンドルが重くなりますが、故障ではありません。通常の操作力に戻るまで、しばらくハンドル操作を控えてください。

	エンジンが始動しない
	ブレーキペダル(オートマチック車)もしくはクラッチペダルとブレーキペダル(マニュアル車)の踏み込みが弱いことが考えられます。 マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されるまでペダルを踏み込み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 なお、エンジン始動前はブレーキペダルが重くなるがありますが、異常ではありません。 ☞ P.152参照
	ハンドルがロックされていることが考えられます。 ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを押してください。 ☞ P.152参照

	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）がセットできない
	ON-OFFスイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは  は点灯しません。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？ EyeSightシステムが一時停止状態のときは、メーターに  が点灯します。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
	READY表示灯が点灯していますか？ 全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）は、READY表示灯が点灯していないとセットできません。READY表示灯が点灯しているときセット操作をしてください。
	READY表示灯が点灯しない
	セットできる条件ですか？ READY 表示灯が点灯する条件については下記を参照してください。 ☞P.218、237、269参照

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスが汚れたり、曇ったりしていませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、先行車を認識しないことがあります。フロントガラスの汚れや曇りを取り除いてから再び使用してください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約110 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	上り下りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れることがあります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できないことがあります。

	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）中に、先行車がいらないのにブレーキ制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	先行車がいらないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	EyeSightシステムが一時停止から復帰しない
	雨天の中を、性能が悪化したワイパーのままや、フロントガラスに汚れが付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの汚れを取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドランプをあびていませんか？ この場合、EyeSightシステムが一時停止状態になります。
	低温または高温の場所に駐車していませんか？ この場合、ステレオカメラが使用可能な温度になるまで、EyeSightシステムが一時停止状態になります。
	フロントガラスに曇りや汚れがありませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、汚れや曇りを取り除いてから再び使用してください。

	ブレーキ踏み増し要求警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し要求警報は、先行車との距離や速度差などから、システムが踏み増し要と判断したときに作動するため、先行車のブレーキのかけかたによってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車がいなくなった後や、先行車との距離が離れた後の加速が遅いとき、または速いときがある
	自車や先行車の走行状態や周囲の道路状況によっては、システムの判断が遅くなる場合があります、加速するタイミングが遅く感じる可能性があります。
	クルーズコントロールはどの加速レベルを選択していますか？ 選択したモードによりクルーズコントロール※の特性が変わるため、加速が異なります。 ※ 全車追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール
	システムが赤信号を認識していませんか？ 赤信号を認識しているときは不要な加速を抑えることがあります。

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	クルーズコントロールを解除する操作をしていませんか？ 🔧 P.226、245、274参照
	全車速追従機能付クルーズコントロール（オートマチック車）または追従機能付クルーズコントロール（マニュアル車）を使用時にEyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？

	システムによるブレーキが作動すると音がする
	システムによるブレーキの作動音で異常ではありません。
	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	後退するときに、アクセルペダルを急に踏んでも後退飛び出し抑制が働かない
	通常の運転操作時に不必要な制限をしないように、踏み込み強さの判定値を高く設定しています。 ただし、後退飛び出し抑制が働かない場合でも、後退速度リミッター※により、急な加速を抑えます。 ※ 後退速度リミッターを作動あり（高速／中速／低速）に設定しているときのみ。
	 （黄色）が点灯していませんか？  （黄色）が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。プリクラッシュブレーキを ON にしてください。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？

	後退飛び出し抑制が勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか？ • アクセルペダルを深く踏んだ状態が約3秒以上継続した ーシステムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ ーシステムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？ 後退飛び出し抑制が作動中にEyeSightシステムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

	後退速度リミッターが効かない
	設定がOFFになっていませんか？または、後退速度リミッターの制限速度が速く設定されていませんか？ 後退速度リミッターの制限速度は、カスタマイズ操作で設定します。 OFFになっていたり、制限速度がお客様の通常の後退速度より速く設定されている場合は、設定を変更してください。
	 (黄色) が点灯していませんか？  (黄色) が点灯しているときは、AT誤後進抑制制御（後退飛び出し抑制、後退速度リミッター）は作動しません。メーターの設定項目でプリクラッシュブレーキをONにしてください。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？

	後退速度リミッターが作動中に勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしていませんか？ • アクセルペダルを深く踏んだ ーシステムが運転者に速く後退したい意思があると判定し、徐々に制御を解除します。 • ブレーキペダルを踏んだ ーシステムが運転者に減速したい意思があると判定し、制御を解除します。
	EyeSightシステムが一時停止状態になっていませんか？ 後退速度リミッターが作動中にEyeSightシステムが一時停止したときは、徐々に制御を解除します。

さくいん

あ

アイサイト (EyeSight)	190
アクセスキー	
警告音および警告表示	114
作動エリア	105、150
正常に作動しないとき	389
節電機能	113
電池交換	361
ドアの施錠・解錠	106
アクティブサウンドコントロール	173

い

イベントデータレコーダー (EDR)	42
イモビライザー	132
イルミネーションコントロールダイヤル	187

う

ウインカー (方向指示器)	167
ウインドウ	
パワーウインドウ	122
ウェルカムライティング	183
ウォッシャー	
液量の補給	345
スイッチ	188

え

エアコン	308
------------	-----

エアコンフィルターの交換	359
エアバッグ	
SRSエアバッグシステム	52
警告灯	65
エマージェンシーストップシグナル	176
エンジン	
オーバーヒートしたとき	404
始動・停止	150
ボンネット	343
エンジン警告灯	92
エンジンスイッチ	151
エンジンブレーキ	34

お

オートヘッドランプレベラー	
(自動光軸調整機構)	186
オートヘッドランプレベラー	
(自動光軸調整機構) 警告灯	93
オートライト	183
オートワイパー	188
オーバーヒート	404
オイルプレッシャー警告灯	92
応急用パンク修理	377
お子さまの安全	
誤操作防止	123
シートベルト	29
チャイルドシート	66
乗せるときの注意	28

オドメーター／トリップメーターディスプレー	78、81
-----------------------------	-------

か

カーテンエアバッグ	57
カスタマイズ機能	416
カップホルダー	320

き

キー	104
キーナンバープレート	25
電池交換	361
閉じ込み防止機能	120
キーレスアクセス&プッシュスタート	
暗証コード式キーレスエントリー	118
エンジンの始動・停止	150
機能の停止	111
警告音および警告表示	114、155
作動エリア	105
正常に作動しないとき	389
施錠・解錠	106

給油

給油するときには	38
燃料給油口 (フューエルリッド)	125

く

空気圧 (タイヤ)	414
曇り取り機能	314

デフロスター	314
ヒートドドアミラー	315
リヤウインドウデフォッガー	315
クルーズコントロール	212、232、268
スイッチ	199
グローブボックス	320

け

警告灯	21、91
警報装置	133
けん引のとき	397
けん引フック	342

こ

交換	
アクセスキーの電池	361
エアコンフィルター	359
タイヤ	351
電球 (バルブ)	363
ヒューズ	393
工具	342
高速道路、自動車専用道路で	
動けなくなったとき	372
後側方警戒支援システム (SRVD)	295
後退時ブレーキアシスト (RAB)	278
後退速度リミッター	259
後退灯 (バックランプ)	363
後退飛び出し抑制	258
故障したとき	387
アクセスキー	389

セレクトレバー	387
バッテリーが上がったとき	391
ヒューズ	393
フューエルリッド (燃料給油口)	388
故障診断コネクター	25
小物入れ	320
コンソールボックス	322

さ

サイドエアバッグ	57
サブランク	324
サンバイザー	323

し

シート	
シートの調整	137、139
正しい運転 (乗車) 姿勢	136
フロントシート	137
ヘッドレスト	137
リヤシート	142
シートヒーター	141
シートベルト	44
警報	48
シートベルトガイド	47
シートベルト警告灯	91
事故が起きたとき	370
室内灯	328
交換	363
スポットマップランプ	328
パニティミラーランプ	323

自動光軸調整機構	
(オートヘッドランプレベラー)	186
自動施錠	108
シフトロック	387
車間設定スイッチ	200
車線逸脱警報	261
ジャッキ	342
ジャッキハンドル	342
車幅灯 (ポジションランプ)	182
交換	363
集中ドアロックスイッチ	117
収納装備	319
信号認識機能	231、250

す

水温警告灯	93
スタッドレスタイヤ (冬用タイヤ)	357
ステアリング	144
ステアリングスイッチ	330
ステアリングスイッチ (EyeSight)	199
ステアリング制御警告灯	93
ステアリング連動ヘッドランプ (SRH)	301
ステアリングロック	152
スピードメーター	78
スポットマップランプ	328

せ

制動灯 (ブレーキランプ)	363
---------------	-----

セキュリティシステム	132
イモビライザー	132
盗難警報装置	133
表示灯	132、133
セレクトレバー	
レバーが動かないとき	387
先行車発進お知らせ	266
センサー	
感知センサー（エアコン）	318
ソナーセンサー	196
全車速追従機能付	
クルーズコントロール	212
前照灯（ヘッドランプ）	182
交換	363

そ

走行用前照灯（ハイビーム）	185
---------------	-----

た

タイヤ	
位置交換（タイヤローテーション）	349
応急用パンク修理	377
空気圧	414
交換	351
サイズ	414
チェーンの装着	358
日常点検	347
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）	357

タコメーター	78
--------	----

ち

チャージ警告灯	92
チャイルドシート	66
種類	66
適合性一覧	68
取り付けかた	73
昼間走行灯（デイトタイムランニングランプ）	185

つ

追従機能付クルーズコントロール	232
-----------------	-----

て

テールランプ（尾灯）	182
定速クルーズコントロール	268
デイトタイムランニングランプ（昼間走行灯）	185
手入れ	334
外装の手入れ	335
内装の手入れ	338
日常の手入れ	334
電球（バルブ）	
交換	363
電源ソケット	325
電池交換	
アクセスキー	361

と

ドア	121
----	-----

施錠・解錠	106、117、118
ロックノブ	117、119
ドアミラー	146
調整	146
盗難警報装置	133
トップテザーアンカレッジ	75
ドライバー	342
ドライブモードセレクト	171
トランク	128

に

ニーエアバッグ	55
---------	----

ね

燃費	85
燃料	
燃料給油口	125
容量	408
燃料残量警告灯	92

は

パーキングブレーキ	166
排気ガスの換気	27
ハイビーム（走行用前照灯）	185
ハイビームアシスト	303
ハイマウントストップランプ（補助制動灯）	363
ハザードランプ（非常点滅表示灯）	376
交換	363
発炎筒	375

バックランプ（後退灯）	363
バッテリー	
バッテリーが上がったとき	391
パドルシフトレバー	169
パニティミラー	323
バルブ（電球）	
交換	363
パワーウィンドウ	122
パンクしたとき	377
番号灯（ライセンスランプ）	182
交換	363
半ドア警告灯	91
ハンドル（ステアリング）	
ステアリング	144
ステアリングロック	152

ひ

非常点滅表示灯（ハザードランプ）	376
交換	363
尾灯（テールランプ）	182
交換	363
ヒューズ	393
点検・交換	395
表示灯	22、96
ヒルスタートアシスト	173

ふ

ブースターケーブル	392
プッシュエンジンスイッチ	151、152
フューエルリッド（燃料給油口）	125

解錠できないとき	388
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）	357
ふらつき警報	264
ブリクラッシュブレーキ	200
ブレーキアシスト	176
ブレーキオーバーライド	176
ブレーキ警告灯	91
ブレーキパッド	166
ブレーキ負圧系警告灯	91
ブレーキ踏み増し要求警報	230、249
ブレーキランプ（制動灯）	363
フロアマット	330

へ

ヘッドランプ（前照灯）	182
交換	363
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）	301
ヘッドレスト	137

ほ

ホーン	168
ホイール	
ホイールサイズ	414
ホイールナットレンチ	342
方向指示器（ウインカー）	167
ワンタッチ機能	167
ポジションランプ（車幅灯）	182
補助制動灯（ハイマウントストップランプ）	363

ボトルホルダー	321
ボンネット	343

ま

マスターウォーニング	94
マニュアルモード	169
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	82
SUBARU BRZ専用コンテンツ	86
ドライブインフォメーション	84

み

ミラー	
ドアミラー	146
パニティミラー	323
ルームミラー	145

め

メーター	78
メカニカルキー	
施錠・解錠	389
メンテナンス	334

ゆ

USB電源	326
-------	-----

ら

ライセンスランプ（番号灯）	182
ランプ	
ウインカー（方向指示器）	167
交換	363

室内灯	328
テールランプ（尾灯）	182
デイトタイムランニングランプ（昼間走行灯）	185
ハザードランプ（非常点滅表示灯）	376
ヘッドランプ（前照灯）	182
ポジションランプ（車幅灯）	182
ライセンスランプ（番号灯）	182

り

リザーバタンク	404
---------	-----

る

ルームミラー	145
ルームランプ	328

れ

冷却水 補給	404
-----------	-----

ろ

ロアアンカレッジ	74
ロックノブ	117、119

わ

ワイパー ワイパー & ウォッシャースイッチ	187
---------------------------	-----

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）	176
ABS警告灯	92
AT誤後進抑制制御	257
AT誤発進抑制制御	251
AT油温警告灯	93

E

EDR（イベントデータレコーダー）	42
EyeSight	190
EyeSight警告表示灯	94

L

LEDヘッドランプ警告灯	93
--------------	----

R

RAB（後退時ブレーキアシスト）	278
RAB・クリアランスソナー警告灯	94
+ RES	199
REVインジケータ	80

S

— SET	199
SRH（ステアリング連動ヘッドランプ）	301
SRH警告灯	92
SRSエアバッグ警告灯	92
SRSエアバッグシステム	52
SRVD（後側方警戒支援システム）	295

SRVD警告灯	93
---------	----

T

TRACKモード	179
TRC（トラクションコントロール）	176

U

USB電源	326
-------	-----

V

VSC（VDC）（ビークルスタビリティコントロール／ビークルダイナミクスコントロール）	176
VSC（VDC）警告灯	93

事故や故障などの緊急時は、SUBARU 安心ほっとラインへご連絡ください。

事故を起こしてしまった、タイヤがパンクした、バッテリーがあがってしまったなど、万一のトラブルの際に、専任のオペレーターが対応いたします。

SUBARU 安心ほっとライン

24時間365日受付



0120-78-2215

**ご意見、ご相談は、SUBARU 販売店・特約店または、
SUBARU お客様センター（SUBARU コール）へお問い合わせください。**

お問い合わせの際は、下記の情報を事前にご用意いただきますと円滑な対応が可能です。

車検証の情報（車台番号・登録番号・登録年月日）や車種名・グレード・走行距離・販売店名

SUBARU お客様センター

SUBARU コール



0120-052215

受付時間【平 日】 9:00～17:00 【土日祝】 9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARU お客様センターでは下記の内容を承っております。

(1) ご意見/ご感想 (2) ご案内 (カタログ、販売店、転居手続き 他) (3) お問い合わせ/ご相談

- ・内容確認と SUBARU のサービス・品質向上のために録音させていただいております。あらかじめご了承ください。
- ・故障や修理、純正部品に関するお問い合わせはご購入いただいた店舗、またはお近くの SUBARU 販売店へご連絡ください。

株式会社 SUBARU における個人情報の取扱いについては、SUBARU オフィシャル Web サイト（https://www.subaru.jp/privacy_policy/）に記載しております。

